

第二篇 攻 擊

通 則

攻撃主眼 第五十二 攻撃ノ主眼ハ敵ヲ包圍シテ之ヲ戰場ニ殲滅スルニ在リ
 歩七三〇六、
 二四六、五九一、
 綱六、九
 攻撃ニ任ズル軍隊ハ常ニ剛健ナル意志ヲ以テ専心敵ニ向ヒ勇進スルヲ要ス
第五十三 攻撃ノ重點ハ狀況特ニ地形ヲ判斷シ敵ノ弱點若クハ敵ノ苦痛トス
 ル方向ニ之ヲ指向スベシ
 我カ戰鬥力ノ發揮ニ便ニシテ敵ノ戰鬥力ノ發揮困難ナル方面特ニ翼、配備ノ
 間隙及兵團ノ接續部竝ニ素質劣レル部隊、敵ノ豫期セザル正面等ハ通常攻撃
 ノ重點ヲ指向スルニ適スルモノトス
第五十四 包圍ハ側面ニ用フル兵力大ナルト果敢ナル正面攻撃ニ依リ敵ヲ拘
 束シ他ヲ顧ミル違ナカラシムルトニ從ヒ其ノ成果益々大ナルモノトス而シテ
 包圍ニ任ズル部隊ハ企圖ヲ秘匿シ神速果敢ニ行動シ敵ヲシテ對應ノ處置ヲ講
 ズルヲ得ザラシメ且狀況ノ困難、敵情ノ不明等ニ介意スルコトナク一意任務
 ニ邁進セザルベカラズ
 同時ニ兩翼ヲ包圍スルカ又一翼ト背後トヲ包圍スルヲ得バ其ノ成果更ニ大
 ナリ故ニ狀況之ヲ許ス限リ斷乎放膽ナル包圍ヲ實行スルニ躊躇スベカラズ
 包圍ヲ行フニハ數縱隊ノ併進ニ依ルト後方部隊ノ加入ニ依ルトヲ問ハズ展開
 ニ先ダチ之ヲ準備スルヲ必要トス既ニ展開セル後ト雖モ地形有利ナルカ又ハ

包圍ノ効
果ト決行

兩翼包圍
一翼ト背
後包圍

包圍ノ實

施法 夜間其ノ他敵ノ目視ヲ避ケ得ル場合等狀況苟モ之ヲ許セバ部隊ノ移動ニ依リ
 包圍ヲ行フベシ
 包圍ノ實施ニ方リテハ敵ノ取ルベキ對抗手段即チ反對包圍、守勢據點ノ構成
 飛行機及戰車ノ戰闘參加等ヲ豫メ判斷シ機先ヲ制シテ之ヲ破摧シ逐々包圍圈
 ヲ壓縮シテ敵ヲ戰場ニ殲滅スルヲ要ス
 高級指揮官ノ部署ニ依ル包圍ノ外各級指揮官モ亦勉メテ局部的包圍ヲ實施ス
 ルヲ要ス
第五十五 正面攻撃ノ要ハ敵ヲ突破シ其ノ成果ヲ包圍ニ導クニ在リ之ガ爲特
 ニ重點方面ニ於ケル各部隊ノ戰闘正面ヲ收縮シ且縱長區分ヲ大ニシ成ルベク
 強大ナル戰車及砲兵火力等ヲ統合使用シ以テ先ヅ神速ニ且深ク敵陣ヲ突破ス
 ルヲ要ス
 正面攻撃ニ在リテモ各級指揮官ハ各種ノ手段ヲ盡クシ局部的包圍ヲ實施スル
 ヲ要ス
第五十六 狀況ニ依リ全力ヲ以テ敵ノ側面時トシテ背面ヲ攻撃スルコトアリ
 小ナル部隊ニ於テ特ニ然リ此ノ場合ニ於テハ極力我が企圖ヲ秘匿シ神速ニ行
 動シ兵力ノ如何ニ拘ラズ果敢ニ敵ヲ急襲シ速カニ目的ヲ達成スルコト緊要ナ
 リ
第五十七 戰闘開始ニ先ダチ敵機甲部隊ノ攻撃ヲ受クルニ方リテハ所要ノ兵
 力ヲ以テ速カニ反撃ヲ加ヘ爾後ニ於ケル本來ノ任務遂行ニ支障ナカラシムル
 コト緊要ナリ然レドモ既ニ本來ノ任務ニ向ヒ戰闘ヲ開始セルトキハ最小限ノ

包圍防害
排除

局部包圍

正面突破

側面及背
面攻撃

機甲部隊
攻撃ヲ反

軍ノ前進
區處
師團ノ前
進部署

兵力ヲ以テ之ニ對セシムルヲ通常トス
敵機甲部隊ニ對スル反擊ノ爲ニハ機ヲ失セズ熾盛ナル歩、砲兵火力ヲ集中シ
テ先ヅ其ノ基幹タル部隊ヲ破摧スルカ或ハ敵ヲ混亂ニ導キ各個擊破ヲ圖ルヲ
可トス狀況ニ依リ之ニ對シテ戰車ヲ使用スルヲ可トスルコトアリ
何レノ場合ニ於テモ敵ノ機甲部隊ト連繫シ飛行部隊攻撃シ來ルコト多キニ注
意スルヲ要ス

第一章 戰團ノ爲ノ前進

第五十八 軍ハ戰團ヲ豫期シテ前進スルニ方リ通常各師團ニ作戰地域ヲ配當
シ必要ナル軍ノ直屬部隊就中戰車、砲兵、飛行機等ヲ配屬シ若クハ各師團ヲ
シテ其ノ行動ヲ區處セシメ要スレバ第二線兵團ヲ控置シテ所望ノ目標ニ向ヒ
前進スルモノトス
第五十九 師團長ハ軍命令ニ基キ彼我一般ノ狀況特ニ豫想スル戰場附近ノ地
形、道路網等ノ關係ヲ判斷シ師團ノ目標ヲ定メ之ニ對スル前進ヲ部署ス
前進ノ部署ハ戰團指導ニ關スル考慮ニ基キテ之ヲ定メ機動容易ニシテ敵ニ對
シ適時態勢ノ優越ヲ期シ得ザルベカラズ之ガ爲兵力ノ運用ニ便ナル如ク通常
諸兵連合ノ數縱隊ニ區分シ前進スルモノトス而シテ地形廣闊ニシテ優勢ナル
敵機甲部隊、飛行機等ノ攻撃ヲ受クル虞特ニ大ナルトキハ之ガ反擊及爾後ノ
展開ニ便ナル如ク各縱隊(梯團)ノ長徑ヲ短縮シ之ヲ適宜ノ關係位置ニ配置シ
必要ナル對抗手段ヲ整ヘ緊密ナル連繫ヲ保チテ前進スルヲ可トス
夜暗ヲ利用シテ前進シ天明後戰團ヲ開始セントスル場合ニ於テモ亦前二項ニ

各縱隊ノ
進路、前
進地域、前
進目標
搜索任務

情報所
作I 四七

第六十 各縱隊ニ其ノ進路(前進地域)及前進ノ目標ヲ指示スルニ方リテハ豫
想スル戰場ニ於テ自ラ包圍ノ態勢ヲ成形シ得ル如ク考慮スルヲ要ス出發ニ方
リ道路網ノ關係ヲ許サザル場合ニ於テモ前進途中苟モ時機ヲ得バ速力ニ此
ノ處置ニ出ヅルヲ有利トス

第六十一 前進ニ方リ師團長ハ各種搜索機關ニ任務ヲ與フルノ外所要ニ應ジ
前衛、各縱隊等ニ搜索スベキ地域若クハ方面、地點等ヲ示シ且特ニ搜索ノ重
點及情報接手ノ所望時機、場所等ヲ明示シ以テ搜索實施ヲ統一スルヲ要ス
各縱隊ノ指揮官モ亦前項ニ準ジ其ノ搜索ヲ部署スルモノトス
師團砲、工兵指揮官ハ適時所要ノ斥候ヲ派遣シ師團砲、工兵等ノ使用ニ關シ
必要ナル情報ヲ收集シ且師團長ニ戰團指導ノ資料トナルベキ事項ヲ報告スル
ヲ要ス

戰車其ノ他臨時配屬セラレタル部隊ノ指揮官モ亦前項ニ準ジ行動スルモノト
ス

第六十二 前進ニ方リ師團長ハ情報ノ收集及各縱隊間ノ連絡ニ關シ規定ス之
ガ爲所要ニ應ジ情報所ヲ設クルヲ要ス此ノ際有線通信ハ敵ト衝突スル迄勉メ
テ其ノ使用ヲ節約シ當初ハ無線通信、各種ノ傳令、視號通信等ヲ利用スルヲ
可トス而シテ連絡スベキ時期及地點ニ關シ豫メ指示ヲ與フルトキハ連絡ノ實
施ヲ確實容易ナラシムルヲ得ベシ
前進間各縱隊間ノ連絡ハ往々豫期セザル原因ニ因リ斷絶スルコトアリ一部ノ

先遣部隊

縦隊分割

各縦隊ノ前進部署

師團長ノ進出

戦闘開始セラレタル際ニ於テ特ニ然リ斯クノ如キ場合ニ於テハ各縦隊ハ銳意手段ヲ盡クシ速カニ連絡ヲ恢復セザルベカラズ

第六十三 戦場附近ニ於ケル要點ヲ速カニ占領シ或ハ敵就中機甲部隊、砲兵等ノ進出又ハ敵ノ機動ヲ妨害スル爲メ交通路ヲ破壊シ或ハ敵ヲ行軍間ニ奇襲シテ混亂ヲ生セシムル等ノ目的ヲ以テ特ニ一部隊ヲ先遣スルヲ利トスルコト少カラズ遭遇戦ヲ豫期スル場合ニ於テ特ニ然リ然レドモ之ガ爲メ兵力分離ノ弊ニ陥ラザルノ考慮ヲ必要トス

第六十四 前進間師團長ハ通常先ヅ諸情報ヲ綜合シ概ネ戦場トナルベキ地域ヲ判定シ所要ニ應ジ新ニ縦隊ヲ分割シ若クハ兵力ノ区分ニ變更ヲ加フル等爾後ノ展開ニ便ナル態勢ニ移ラシムルヲ要ス遭遇戦ヲ豫期スル場合ニ於テ特ニ然リ

各縦隊ハ敵砲兵ノ射撃ヲ被ルノ顧慮アルニ至レバ損害ヲ輕減シ得ル如ク前進ノ部署ヲ定メ要スレバ所要ノ砲兵ヲシテ縦隊ノ前進ヲ掩護セシムルコトアリ然レドモ此ノ際軍隊ノ行動ヲ鈍重ニ陥ラシムルガ如キコトナキヲ要ス

第六十五 敵ト接觸ノ機近ヅクニ至レバ師團長ハ師團砲兵指揮官其ノ他所要ノ指揮官ヲ隨ヘテ狀況ノ許ス限リ敵方ニ近ク進出シ彼我ノ狀況特ニ地形ヲ觀察シ主力縦隊前衛及各縦隊等ニ所要ノ事項ヲ命令シテ行動ノ憑據ヲ與ヘ敵ニ對シ我ガ利益ヲ獲得スルコトヲ圖ルベシ此ノ際機ヲ失セズ師團砲兵指揮官、戦車指揮官等ヲシテ戦闘準備ニ著手セシメ又此等ノ指揮官ハ其ノ部隊ノ使用ニ關シ必要ナル意見ヲ具申スルヲ要ス

師團長ノ位置

輜重行李ノ運用

狀況不明時ノ前進要領

遭遇戦ノ要訣

我が豫期敵ノ不期

爾後師團長ハ成ルベク主要ナル交通路ノ近傍ニ於テ戦場ノ主要ナル方面ヲ觀察シ得ベキ地ニ位置シ機ヲ失セズ通信隊長ヲシテ通信網ノ構成ニ著手セシムルト共ニ爾後ノ戦況ニ應ズル準備ヲ爲サシムルヲ要ス遭遇戦ヲ豫期スル場合ニ於テ特ニ然リ

師團長ハ必要ナル輜重ニ適時前進スベキ地點ヲ示シ行李及殘餘ノ輜重ヲシテ爾後ノ使用ト警戒ノ便トヲ考慮シ直接戦闘ノ影響ヲ蒙ラザル地區ニ停止セシムベシ

第六十六 敵ト近接セルモ狀況明カナラズ爾後ノ前進ニ大ナル危険ヲ感ズルトキト雖モ極力搜索及警戒ノ手段ヲ講ジツツ前進ヲ繼續スルヲ要ス斯クノ如キ場合ニ於テハ不意ノ戦闘ヲ惹起スルモ直チニ之ニ對應シ得ル如ク戦闘準備ヲ整ヘ地區ヨリ地區ニ前進スルノ止ムヲ得ザルコトアリ此ノ際砲兵ヲシテ前進ヲ掩護セシムルヲ要スルトキハ師團砲兵ノ主力ハ爲シ得レバ統一シテ使用シ同時若クハ梯次ニ前進シ且所要ニ應ジ射撃ヲ實施スルモノトス然レドモ之ガ爲メ時間ヲ徒費セザル如ク處置スルコト特ニ緊要ナリ

第二章 遭遇戦

第六十七 遭遇戦ノ要訣ハ先制ニ在リ之ガ爲メ敵ニ先ダチテ戦闘ヲ準備シ有利ノ状態ニ軍隊ヲ展開シ戦闘ノ初動ヨリ戦勢ヲ支配スルコト緊要ナリ

第六十八 我が豫期ヲ以テ敵ノ不期ニ當ルハ先制獲得ノ第一要件ナリ之ガ爲メ師團長以下豫メ各種ノ處置ヲ講ジ適時適切ナル情報ヲ得ルコトニ勉ムルヲ要ス

斷乎タル
決心

敵ト接觸
時ノ師團
長ノ處置

包圍態勢
ニ指導

各級指揮
官ノ獨斷

搜索機關
ノ行動

第六十九 遭遇戦ニ在リテハ各種ノ手段ヲ盡クスト雖モ狀況明確ナラザルチ
 常態トシ且先ヲ獲得ノ好機ハ瞬時ニ經過スベキヲ以テ地形ヲ精密ニ觀察シ或
 ハ刻々變化スベキ敵情ニ關シ多クノ情報ヲ待チテ始メテ處置セントスルガ如
 キハ多クハ失敗ニ終ルモノトス故ニ各級指揮官ハ機ヲ失セズ其ノ企圖ヲ確定
 シ斷乎タル決意ヲ以テ迅速ニ處置セザルベカラズ

第七十 師團長ハ敵ト接觸ノ機近ヅクニ至レバ任務ニ基キ一般ノ狀況ヲ判斷
 シテ速カニ決戦ヲ求メントスル方面ヲ決定シ其ノ企圖ヲ部下指揮官特ニ先ヅ
 前衛司令官ニ明示シテ行動ノ憑據ヲ與ヘ且本隊ノ各部隊ヲシテ成ルベク速カ
 ニ戰場ニ到着セシムル如ク處置スベシ

師團長ハ機ヲ失セズ各縱隊(梯團)ニ適當ナル前進ノ方向ヲ指示シテ包圍ノ態
 勢ヲ成形セシムルヲ要ス而シテ包圍ニ任ズル部隊ノ兵力増大スルニ伴ヒ益々
 遠ク敵ノ側背ニ向ハシムルコト緊要ナリ

各級指揮官ハ獨斷專行ヲ要スル場合特ニ多キヲ以テ百方手段ヲ盡クシ上級指
 揮官ノ意圖ヲ満足セシムル如ク行動スルコト必要ナリ兵力ノ増大ト地形ノ錯
 綜トニ伴ヒ益々然リ

第七十一 飛行機、騎兵其ノ他搜索ニ任ズル部隊ハ各々其ノ任務ニ應ジ廣ク
 前方及側方ヲ搜索シテ敵情就中其ノ兵力ノ分配、到達地點及時刻等ヲ迅速ニ
 報告(通報)シ以テ指揮官特ニ師團長ヲシテ適時適切ナル部署ヲ爲シ得シムル
 ト共ニ我が行動ヲ秘匿スルコトニ勉ムベシ

前項ノ外騎兵ハ敵ニ先ダチ要地ヲ占領スルチ有利トスルコトアリ又屢々敵ノ

遭戰ニ
於ケル前
衛ノ動作

本隊砲兵
ノ用法

司令部、砲兵等ヲ奇襲シテ偉功ヲ奏スルコトアリ

第七十二 遭遇戦ニ於ケル前衛ノ行動ハ本隊ノ戰鬪ニ特ニ大ナル關係ヲ有ス
 故ニ前衛司令官ハ縱隊指揮官ノ企圖ニ基キ又要スレバ獨斷ヲ以テ前衛ヲ部署
 シ機ヲ失セズ戰鬪ノ初動ヲ有利ナラシムルコトニ勉ムベシ此ノ際戰鬪ノ支撐
 タルベキ要地ハ縱ヒ戰鬪ヲ惹起シ又ハ正面過廣トナルモ之ヲ占領スルニ躊躇
 スベカラズ又前衛ハ砲兵ノ爲情報ヲ收集シ且特ニ觀測ニ有利ナル地點ヲ占領
 スルチ必要トス

前衛ハ不意ニ敵ト衝突スルコト少カラズ此ノ場合ニ於テハ機先ヲ制シテ直チ
 ニ當面ノ敵ヲ攻撃シ戰場ノ要點ハ速カニ之ヲ占領シ上級指揮官ヲシテ決心ノ
 資料ト行動ノ自由トヲ得シムルコト緊要ナリ

前衛内ノ各級指揮官モ亦前二項ニ準ジ行動スルモノトス

前衛司令官ハ前衛砲兵ヲシテ迅速ニ陣地ヲ占領シ前衛歩兵ノ戰鬪ニ協同セシ
 メ若クハ敵ノ展開ヲ妨害シ先制ノ獲得ニ勉メシムルヲ要ス又配屬セラレタル
 戰車ヲシテ緊急ナル歩兵戰鬪ニ參加セシメ或ハ好機ニ乘ジ砲兵、司令部等ヲ
 奇襲セシム

第七十三 師團長ハ適時本隊砲兵ヲ挺進セシメ所要ニ應ジ速カニ前衛等ノ戰
 鬪ニ加入シ先制ノ獲得ヲ確實ナラシムルチ可トス又展開ニ先ダチ一部ノ砲兵
 チ爲シ得ル限り前方ニ派遣スルカ又ハ射程長大ナル砲兵ヲシテ速カニ陣地ヲ
 占領セシメ敵ヲシテ過早ニ展開スルノ止ムチ得ザルニ至ラシムルチ有利トス
 ルコトアリ

不期遭遇 戰ノ指揮
 敵兵我ニ 先ダチ展 開完了
 接敵後防 禦シアル ヲ知リタ
 遭戰ノ 命令

第七十六 師團長ハ不意ニ敵ト衝突セル場合ニ於テハ全局ノ判斷ニ基キ速カニ主動ノ地位ヲ獲得スルト共ニ決戰方面ヲ決定シ機ヲ失セズ各方面ニ惹起セル戰鬥ヲ統一スルヲ要ス此ノ際特ニ明確ナル方針ヲ定メ不期ノ戰況ニ牽カレルコトナク確實ニ各部隊ヲ掌握シ混雜ヲ豫防シ諸兵種協同ノ關係ヲ律シ必要ナル豫備隊ヲ控置シ且所要ノ方向ニ對シ警戒スルコト緊要ナリ斯クノ如キ場合ニ於テ指揮連絡ノ爲飛行機ヲ使用スルヲ得バ特ニ有利ナリ

第七十七 敵若シ我ニ先ダチ戰鬥準備ヲ完了スベキヲ察知セバ終始優勢ナル敵ト對戰スルノ不利ヲ免レンガ爲展開區域ノ選定ヲ適切ニシ且必要ナル兵力ヲ展開スル迄眞面目ノ戰鬥ヲ避クルヲ要ス此ノ際砲兵ハ攻撃前進ニ移リタル敵ノ歩兵若クハ我が歩兵ノ行動ヲ妨害スル敵ノ砲兵ヲ制壓シ以テ我が軍ノ展開ヲ掩護スルヲ要ス陣地ヲ適宜分散スルコトアリ

第七十八 警戒部隊敵ト接觸シ若クハ其ノ一部戰鬥ヲ開始スルニ至リ始メテ敵ノ既ニ防禦シアルヲ明カニシ得ルコトアリ

第七十九 師團長ハ戰鬥指導ノ方針ヲ定ムルヤ之ニ基キ各部隊ニ對シ決戰ヲ企圖スル方面ヲ明示シ攻擊ニ關スル命令ヲ與フ此ノ命令ニ示スベキ主要ナル事項通常左ノ如シ

逐次展開 統一展開
 意ノ攻 二對抗
 攻撃部署 ハ拙速
 隣接前進 縱隊ノ戰 斗若起

敵ノ機甲部隊ニ對スル顧慮多キ狀況ニ於テハ挺進スル我が砲兵等ノ掩護ニ關シ注意スルヲ要ス

第七十四 師團長ハ敵ノ弱點ヲ捕捉シ神速ニ之ヲ攻撃セントスルカ若クハ前衛等ノ既ニ獲得セル利益ヲ確保或ハ増大セントスルガ如キ場合ニ於テハ各縱隊及逐次到着スル本隊ノ各部隊ヲ直チニ戰鬥ニ加入セシムルヲ要ス然レドモ狀況之ヲ要セザルトキハ全隊ヲ統一シテ戰鬥ニ參與セシムルニ勉メザルベカラズ然ルトキハ師團長ハ通常諸隊ヲ展開セシメ歩戰砲等諸隊協同ノ關係ヲ律シ步兵ノ攻撃前進ヲ開始セシムルヲ可トス

第七十五 縱隊ノ側面ヨリ不意ニ敵ノ攻撃ヲ受クルコトアリ此ノ場合ニ於テハ其ノ附近ニ在ル指揮官ハ直チニ果敢ナル攻撃ヲ決行スベシ而シテ其ノ方面ニ在ル上級指揮官、各縱隊(梯團)長等ハ斷乎タル決意ヲ以テ機敏ナル行動ニ出ヅルト共ニ速力ニ其ノ上級指揮官ニ連絡シ當面ノ狀況ヲ報告スルヲ要ス此ノ際特ニ遲疑遠巡ヲ戒ムルト共ニ局部ノ狀況ニ眩惑セラレ全局ノ判斷ヲ誤ルコトナキヲ要ス

各級指揮官ノ攻撃部署ハ特ニ拙速ヲ尙ビ又過度ニ戰鬥正面ヲ擴大スルコトナク特ニ歩砲孤立ノ戰鬥ニ陥ルヲ戒メ且適時豫備隊ヲ控置シ逐次統制アル戰鬥ヲ指導スルコト緊要ナリ

隣接シテ前進中ノ縱隊ハ他縱隊方面ニ戰鬥ヲ惹起セバ勉メテ敵ヲ包圍スル如ク機ヲ失セズ戰鬥ニ參加スベシ但シ此ノ際從來ノ方向ニ對スル前進繼續ガ更ニ一層狀況ニ適スルニアラザルヤ先ヅ考察スルヲ要ス

攻擊目標
戰闘地域

步兵ノ爲ニハ第一線ニ出スベキ部隊、攻撃前進方向又ハ攻撃目標、狀況ニ依リ展開區域爲シ得レバ戰闘地域等

戰車ノ爲ニハ之ヲ步兵ニ配屬スルトキハ配屬スベキ兵力及時機要スレバ配屬期間等又師團長直轄スルトキハ攻撃目標若クハ協同スベキ部隊、戰車行動ノ要領、任務達成後ノ行動等

狀況ニ依リ單ニ達成スベキ目的ノミヲ示シテ行動セシムルコトアリ

砲兵ノ爲ニハ火力運用ノ準據トナルベキ大綱、陣地ト爲スベキ地域、步兵ニ配屬スベキ兵力及時機等

其ノ他騎兵、高射部隊、工兵、飛行機、通信部隊、豫備隊等ニ關スル所要ノ事項

諸隊ヲ統一シテ戰闘ニ參與セシムル場合ニ於テハ通常師團長ハ各部隊ノ展開及砲兵ノ戰闘準備ノ狀態ヲ考慮シ適時第一線步兵ニ對シ攻撃前進ヲ命ズ以上ノ命令ヲ下達スルニハ通常先ヅ各別ニ命令シ速力ニ展開ノ行動若クハ攻撃前進ノ運動ニ就カシメ次第ニ要スレバ合同ノ命令ヲ以テ全般ノ行動ヲ統一スルヲ可トス

第八十 攻撃目標ヲ指示スルニ方リテハ攻撃スベキ敵ノ外通常爾後攻撃前進スベキ方向ヲ示スモノトス

戰闘地域ヲ劃定スルニハ第一線各部隊ヲシテ所望ノ戰闘正面ヲ得シメ且其ノ前進方向ヲシテ師團長ノ企圖スル戰闘指導ノ方針ニ合致セシムルコト緊要ナリ

廣漠地
戰車ノ用
法

步兵直協
戰車

戰車ノ遠
方挺進
砲兵火力
運用ノ準

廣漠地等ニ於テ攻撃目標、戰闘地域ノ境界等ヲ的確ニ指示シ難キトキハ特ニ狀況ノ推移ニ應ジ逐次補綴修正ヲ行ハザルベカラザルコトアリ

第八十一 師團長ハ戰車ヲ重點方面ニ於ケル步兵ノ決戦ニ參加セシムルヲ通常トス然レドモ要點ヲ爭奪シ或ハ敵ノ展開ヲ混亂ニ陷レ或ハ砲兵、司令部ヲ急襲スル等苟モ戰勢ヲ左右スベキ好機ハ之ヲ捕捉スル爲有力ナル戰車ヲ挺進セシムルヲ有利トス

步兵ノ決戦ニ參加スル戰車ノ兵力大ナルトキハ直接協同スル戰車群及挺進スル戰車群ニ區分シテ使用スルコトアリ

敵戰車活動セル狀況ニ於テハ我が戰車ヲシテ先ヅ之ヲ擊破セシムルヲ要スルコト少カラズ此ノ際狀況ノ許ス限り砲兵、飛行機ヲシテ協力セシムルヲ有利トス

第八十二 戰車ヲシテ步兵ニ直接協同セシムル場合ニ於テハ適時敵ノ重火器等ヲ擊セシムルヲ通常トシ該戰車ハ其ノ攻撃目標ノ狀態、地形等ニ應ジ步兵ノ正面若クハ側方ヨリ之ヲ使用ス而シテ步兵ノ正面若クハ近ク側方ヨリ使用スル場合ニ於テハ該步兵ニ配屬シ通常步兵聯隊長以上ニ於テ自ラ之ヲ使用スルモノトス

有力ナル戰車ヲ遠ク挺進セシムルニ方リテハ之ガ支援ノ爲機動性ヲ附與セル他部隊ヲ配屬スルヲ有利トスルコトアリ

第八十三 砲兵ニ對シ火力運用ノ準據トナルベキ大綱ヲ示スニハ狀況ノ推移ヲ判斷シ且軍直轄砲兵ノ兵力及任務ニ稽ヘ師團長ノ企圖スル戰闘指導ノ方針

彈藥補充
展開命令
ヲ受ケタ
ル部隊
師團砲兵
指揮

瓦斯防護ノ爲輕易ナル防毒具ハ所要ニ應ジ之ヲ適時第一線部隊必要ノ人員ニ分配スルヲ要ス
第八十六 師團長ハ彈藥補充ノ爲輜重兵聯隊長ニ彈藥交付所ノ位置、彈藥ノ種類及數量要スレバ交付スベキ部隊、交付開始時刻其ノ他必要ノ事項ニ關シ命令スルト共ニ之ヲ各部隊ニ通報スルモノトス
第八十七 展開命令セラレタル第一線各部隊ハ各自所要ノ搜索及警戒法ヲ講シ地形、氣象等ヲ利用シ隊形ト運動トノ適切ナル應用ニ依リ成ルベク敵眼、敵火ヲ避ケ迅速ニ所命ノ方向ニ前進シ又ハ所命ノ展開區域ニ到ルモノトス此ノ際第一線部隊ノ指揮官ハ機ヲ失セズ自ラ前方ニ進出シ或ハ必要ナル搜索機關ヲ派遣シ敵情、地形ヲ搜索スルコト緊要ナリ
第八十八 師團砲兵指揮官ハ師團命令ニ依リ若クハ獨斷ヲ以テ機ヲ失セズ部下砲兵各部隊ニ任務ヲ與ヘ戰闘ヲ開始セシム之ガ爲主力ヲ以テ逐次戰場ニ現出スル敵ノ歩、砲兵ヲ壓倒シ以テ全局ニ於ケル先制獲得ノ基礎ヲ成スカ若クハ當初ヨリ歩兵直接協同ノ兵力ヲ大ニシテ歩、砲兵ノ協同ヲ緊密ナラシムル等戰機ニ適應スル如ク戰闘ヲ指導スルコト緊要ナリ
師團砲兵指揮官ハ前衛砲兵等ヲ其ノ指揮ニ復セラレタルトキハ成ルベク速力ニ之ヲ統一指揮スルヲ要スト雖モ連絡略成リ各部隊ヲ確實ニ掌握シ得ルニ至ル迄依然前任任務ヲ繼續セシムルヲ通常トス
師團砲兵指揮官ハ砲兵任務ノ飛行機ヲシテ所要ノ搜索ヲ行ハシムルト共ニ特ニ展開初期遠距離又ハ運動中ノ敵ヲ射撃スベキ砲兵ニ協同セシムルモノトス

據砲兵陣地
師團砲兵
工兵ノ用
法
消毒、制

ニ適應セシムルヲ要ス
陣地ト爲スベキ地域ハ進入容易ニシテ機ヲ失セズ砲兵ノ展開ヲ完了シ得ルヲ主トシ且勉メテ之ヲ敵ニ近接セシメ以テ同一陣地ヨリ主トシテ決戦ヲ企圖スル方面ニ適時最大威力ヲ發揮シ得ルヲ要ス
師團砲兵ハ成ルベク之ヲ統一シテ使用スルヲ可トスルモ正面廣大ナルカ地形蔭蔽隔絶シ特ニ各方面ニ於テ不期ノ戰闘ヲ惹起スルガ如キ場合ニ於テハ戰闘ノ初期ヨリ所要ノ砲兵ヲ第一線步兵部隊ニ配屬スルニ躊躇スベカラズ
師團砲兵指揮官ハ第一線步兵部隊ニ配屬セラレタル砲兵部隊ト連絡ヲ保持シ必要ニ應ジ此等部隊ヲ統一指揮シ得ル如ク準備スルヲ要ス
第八十四 師團長ハ機ヲ失セズ工兵ヲシテ師團主力就中砲兵ノ展開ヲ迅速ナラシメ且戰車、輕裝甲車等ノ行動ヲ容易ナラシムルト共ニ要スレバ敵機甲部隊ヲ阻止セシムルガ爲所要ノ作業ヲ行ハシメ又將來ニ於ケル砲兵ノ陣地變換等ヲ考慮シテ必要ナル偵察及作業ノ準備ヲ爲サシムルヲ要ス
工兵ノ大部ヲ前衛ニ配屬シアル場合ニ於テハ適時所要ノ兵力ヲ直轄トスルコト緊要ナリ
第八十五 展開ニ方リ消毒ニ任ズル部隊ハ之ヲ通常重點方面ニ在ル第一線部隊ニ配屬ス時トシテ第一線部隊ノ直後ニ跟隨セシメ適時之ガ使用法ヲ定ムルコトアリ
狀況ニ依リ各部隊ハ自ラ消毒作業ヲ行ヒ若クハ消毒部隊ノ作業ヲ補足シ得ル如ク所要ノ準備ヲ整フルコト必要ナリ

第一線部隊ノ行動

第八十九 第一線部隊ハ成ルベク長ク集結セル態勢ヲ以テ敵ニ近接スベシト雖モ敵砲兵ノ有效射撃ヲ被ル顧慮アルニ至レバ適宜疎開セル態勢ニ移リ爲シ得ル限リ敵火ノ損害ヲ減少シツツ前進ヲ繼續スルヲ要ス而シテ各部隊ハ行動ノ自由ヲ確保センガ爲當初十分ナル縦長ノ區分ヲ爲シ常ニ直チニ戰鬪ニ應ジ得ル態勢ニ在ルコト緊要ナリ

第一線部隊ハ攻撃前進ニ方リ戰勢浮動シテ未ダ定マラザルニ乘ジ巧ニ機動ヲ行ヒテ各々當面ノ敵ノ弱點ヲ衝キ之ヲ壓倒スルニ勉ムベシ若シ狀況特ニ地形、氣象等ノ關係ニ依リ不意ニ敵ト衝突セバ機先ヲ制シ直チニ之ヲ攻撃スベシ

第九十 豫備隊ハ通常決戰ヲ企圖スル方面ニ於テ爾後ノ使用ニ便ナル如ク第一線部隊ト適當ナル關係位置ヲ保チ上空及側背ノ警戒ニ任ジツツ通常地區ヨリ地區ニ前進スルモノトス而シテ第一線トノ距離ハ狀況特ニ地形ニ依リ異ナリト雖モ開豁地ニ在リテハ敵火ノ損害ヲ減少センガ爲之ヲ大ニシ蔭蔽地ニ在リテハ速力ニ第一線ヲ援助シ得ンガ爲之ヲ短縮スルコト多シ

指揮官若シ豫備隊ヲ以テ包圍ノ目的ヲ達成セントスルトキハ適宜第一線部隊ノ側方後ニ位置セシムルヲ要ス

第九十一 砲兵ハ攻撃前進ノ初期ニ在リテハ主トシテ敵砲兵及遠距離ヨリ射撃スル敵機關銃等ヲ射撃シ步兵ノ前進ヲ容易ナラシメ次テ其ノ主ナル火力ヲ專ラ敵ノ步兵ニ集中シテ直接我が步兵ヲ支援シ一部ノ火力ヲ以テ敵ノ砲兵ヲ制壓シ或ハ敵ノ後方部隊ノ増援ヲ妨害スルヲ要ス

狀況ニ依リテハ當初ヨリ主ナル火力ヲ敵ノ步兵ニ集中シ之ヲ壓倒スルヲ必要トス

豫備隊ノ使用

砲兵ノ戰

步兵ノ戰

第九十二 步兵ハ其ノ戰鬪ヲ開始スルヤ敵ノ猛火ヲ意トセズ火力ト運動トノ調和ニ依リ敵ヲ制壓シ我が戰車及砲兵トノ連絡ヲ適切ニシ巧ニ其ノ戰果ヲ利用シ絶エズ敵ニ近迫ス此ノ際地形、彼我火力ノ關係等ハ戰線ノ各部分一様ナラズシテ一部隊ハ他部隊ニ比シ容易ニ前進シ得ベキコト屢々ナリ斯クノ如キ場合ニ於テハ直チニ其ノ機會ト利益トヲ獲得スルコトニ勉ムルヲ要ス

一旦占有セル土地ハ尺寸ト雖モ之ヲ敵ニ委スベカラズ

第九十三 撤毒地域ハ速力ニ之ヲ搜索スルヲ要ス而シテ撤毒地域ニ遭遇セル部隊ハ自己ノ任務ニ支障ナキ範圍ニ於テ迂回スルヲ得バ便ナリト雖モ之ヲ許サザル場合ニ於テハ輕易ナル防毒具ヲ使用シテ通過シ所要ニ應ジ消毒ノ處置ヲ講ズルモノトス狀況之ヲ要スレバ縦ヒ防毒具ヲ缺クモ強行通過ヲ行フニ躊躇スベカラズ

撤毒ノ爲ニハ戰況、撤毒地域ノ狀態、使用スベキ資材等ヲ考慮シ消毒ノ目的實施ノ要領、時期、實施部隊、掩護部隊要スレバ爾後之ヲ利用スベキ部隊ノ行動等ニ關シ必要ナル事項ヲ命ズルモノトス而シテ消毒スルコトナク直チニ強行通過ヲ要スル場合ニ於テハ其ノ通過部隊、掩護部隊、被毒人馬資材ノ應急處置等ニ關シ必要ナル事項ヲ示スモノトス

第九十四 歩戰砲ノ協同ニ方リテハ戰車及砲兵ハ步兵ヲシテ其ノ任務ヲ達成セシムルヲ主眼トシ又步兵ハ機ヲ失セズ戰車及砲兵ノ戰果ヲ利用スル如ク明確ニ協同動作ノ要綱ヲ定メ刻々變化スル狀況ニ處シ獨斷協同機宜ヲ制スルニ

撤毒地域

歩戰砲ノ協同

更ニ歩砲兵ノ協同

遺憾ナカラシムルコト緊要ナリ
戰車ヲシテ歩兵ノ突撃ト略、同時ニ突進セシムル場合ニ於テハ陣地攻撃ノ要
領ニ準ジテ戰砲協同ノ關係ヲ規定、協定スルモノトス然レドモ戰車ノ歩兵線
前方ニ進出スル程度及歩兵線ト砲兵射擊地域トノ離隔ノ程度ハ共ニ増大スル
ヲ通常トス
戰車ヲシテ敵線深ク挺進セシムル場合若クハ速カニ敵ノ重火器等ヲ攻撃セン
ガ爲歩兵ニ先行シ敵中ニ突進セシムル場合ニ於テモ砲兵爲シ得レバ歩兵砲ハ
適時敵ノ對戰車火砲ヲ制壓シ或ハ發煙彈射擊ヲ行フ等必要ナル支援ヲ與フル
ト共ニ我が戰車ニ危害ヲ及サザル如ク注意スルヲ要ス
第九十五 歩、砲兵ノ協同ハ歩兵戰團ノ開始セラレタル以後ニ於テ特ニ重要
ナリ而シテ爾後我が歩兵ノ前進困難トナルニ從ヒ愈々其ノ度ヲ増シ而モ連絡
ノ保持益々困難トナルヲ以テ我が歩兵敵ノ歩兵火ヲ被ルニ先ダチ更ニ歩砲ノ
協定ヲ補綴シ相互ノ通報ヲ的確ニシ砲兵ハ有效ニ歩兵ヲ支援シ得ルヲ要ス之
カ爲所要ノ砲兵ハ第一線歩兵ニ近ク陣地ヲ變換シ萬難ヲ排シテ歩兵ノ要望ヲ
充足シ得ル如ク適時適所ニ火力ヲ發揚セザルベカラズ此ノ種砲兵ニシテ歩兵
直接協同ニ專任セシムベキ場合ニ於テハ第一線歩兵ノ指揮官ニ配屬スルヲ有
利トス此ノ際挺進セル砲兵ノ觀測者、歩兵ニ派遣セラレアル連絡者、飛行機
等ノ活動ハ火力ノ發揚ニ與ツテ大ナル力アルモノトス
彼我近接後ニ於テハ戰團激烈其ノ極ニ達シ戰線錯綜シテ歩砲間ノ連絡ニ斷絶
ヲ生ズルコト屢々ナリ故ニ歩、砲兵ノ指揮官ハ此ノ間ニ處シ克ク戰機ニ投ジ

突擊

飛行機地上部隊直協

歩兵ニ砲兵配屬

歩兵配屬砲兵用法

第九十六 敵ハ單ニ射撃ニ依リ之ヲ擊滅シ得ルモノニアラズ故ニ常ニ突撃ヲ
實施シ以テ最後ノ勝利ヲ期セザルベカラズ
突撃ノ機近ヅクニ至レバ歩兵ハ其ノ火力ヲ最高度ニ發揚シ豫備隊ハ所要ニ應
ジ第一線ニ近ク位置シ戰車ハ好機ニ投ジ歩兵ニ最モ危害ヲ加フル敵ヲ蹂躪シ
砲兵ハ手段ヲ盡クシテ彼我ノ狀況特ニ友軍歩兵最前線ノ位置ヲ確メ決勝點ニ
猛火ヲ集中シテ敵ヲ震駭セシムルヲ要ス
翼側ニ在ル騎兵ハ爲シ得レバ敵ノ側面又ハ背後等ヲ攻撃シテ師團ノ戰團ヲ有
利ナラシムルヲ要ス
第九十七 飛行機地上ノ戰團ニ直接協同スルニ方リテハ適時敵ノ重要ナル
部隊就中機甲部隊、包圍行動中ノ部隊、有力ナル砲兵、敵側ノ要點等ヲ攻撃
シ地上ノ戰團ヲ有利ナラシムルモノトス此ノ際飛行機ノ行動ヲシテ克ク戰
機ニ投セシムルト共ニ地上部隊ハ機ヲ失セズ其ノ戰果ヲ利用スルコト特ニ緊
要ナリ
第九十八 師團長ハ戰團ノ進捗ニ伴ヒ第一線歩兵ニ砲兵ヲ配屬スルニ方リ爲
シ得ル限り豫メ之ヲ當該歩、砲兵ノ指揮官ニ通告シ以テ配屬ニ先ダチ必要ナ
ル協定ヲ遂ケルノ餘裕ヲ得シムルヲ要ス
歩兵ニ配屬セラレタル砲兵ハ通常聯隊長以上ニ於テ之ヲ使用シ要スレバ更ニ
下級部隊ニ分屬ス而シテ此等ノ指揮官ハ速カニ砲兵ニ自己ノ企圖及戰況ヲ詳

砲兵歩兵
砲協同

敵ニ近迫
後ノ動作

對戰車戰
關一七八、一
紛戰

知セシメ其ノ達成スベキ目的ヲ示シテ適宜戰闘セシメ或ハ射撃スベキ目標及
其ノ目的ヲ示シテ戰闘セシムルモノトス
ル敵ノ機關銃、歩砲等ヲ撲滅スルニ努ムベシ此ノ際歩兵ノ指揮官ハ此等砲
兵ノ彈藥補充ニ關シ特ニ注意スルコト緊要ナリ

第九十九 前線ニ在ル歩兵敵前至近ノ距離ニ近迫スルヤ其ノ指揮官ハ彼我ノ
狀況特ニ歩、砲兵ノ射撃及戰車活動ノ效果其ノ他敵ニ對シ獲得シ得ベキ利益
ヲ看破シ機ヲ失セズ突撃ヲ決行スルヲ要ス此ノ際戰車ハ躍進シ砲兵ハ射程ヲ
延伸シテ我が突撃ニ對スル敵ノ妨害ヲ排除シ且敵ノ増援ヲ遮斷シ突撃ノ奏功
ヲ容易ナラシムルコト緊要ナリ

師團長以下後方ニ在ル指揮官モ亦全般ノ情勢ヲ判斷シ各種ノ手段ヲ盡クシテ
突撃ノ動機ヲ誘起セザルベカラズ
比隣部隊突撃ニ移リタルトキハ各部隊ハ機ヲ失セズ之ニ協力シ突撃ヲ實施ス
ベシ

敵ニ近迫セルモ突撃ヲ實施スルニ至ラズシテ日没トナリタル場合ニ於テハ薄
暮ヲ利用シテ突撃ヲ敢行スルニ勉ムベシ

第一百 戰闘間敵戰車ニ對シテハ全般ノ戰況、敵戰車ノ兵力及行動等ヲ考慮シ
防禦戰闘ノ部ニ於テ速アル對戰車戰闘ノ要領ニ準ジ特ニ熾盛ナル火力ヲ集中
シ速力ニ之ガ撃滅ヲ圖ルモノトス

第一百 突入ニ次テ紛戰トナルヤ各級指揮官以下機宜ニ適スル獨斷ヲ發揮シ

第一線部
隊敵兵擊
破時

戰闘經過
中夜ニ入
リタル場

最大ノ努力ヲ以テ任務ニ邁進スルト共ニ比隣前後相協同シテ敵ノ抵抗ヲ破摧
シ之ガ撃滅ヲ圖ルベシ此ノ際歩兵ハ戰車及砲兵ニ連絡シ我が最前線ノ位置、
支援ノ希望等ヲ通告シ戰車及砲兵ハ極力歩兵ノ突進ヲ支援スルヲ要ス
各級指揮官ハ豫備隊ヲ通常決戰ヲ企圖スル方面ニ於テ突撃ノ成功セル方向ニ
進メ適時第一線ノ獲タル戰果ヲ擴張シ要スレバ敵ノ逆襲ヲ擊退シ又ハ突撃部
隊ノ側面ヲ掩護シ以テ戰闘ノ成果ヲ完ウスルヲ要ス

飛行機ハ彼我第一線及敵後方ノ狀態特ニ有力ナル第二線部隊、戰車、砲兵等
ノ狀況ヲ明カニシ師團長及砲兵要スレバ第一線歩兵等ニ報告(通報)シテ爾後
ノ戰闘ヲ容易ナラシムルモノトス

第一百 第一線部隊ハ當面ノ敵ヲ擊破スルヤ直チニ之ヲ急追シ師團長ハ機ヲ
失セズ豫備隊等ヲ以テ包圍ヲ完成シ或ハ突破孔兩側ノ敵ヲ席卷シ又ハ地障ニ
壓倒シテ一舉ニ之ヲ殲滅スルヲ要ス何レノ場合ニ於テモ速力ニ敵ノ退路ヲ遮
斷スルノ著意ヲ必要トス

師團長包圍圈ヲ壓縮スルニ方リテハ各部隊ニ對シ要スレバ前進スベキ方向、
地域ヲ補綴修正シ或ハ所要ノ部隊ヲ轉用シテ更ニ之ヲ敵ノ側背ニ指向シ要ス
レバ一部ヲ以テ包圍圈外ノ敵ヲ攻撃セシムル等全般ノ狀況ニ鑑ミ適切ニ戰闘
ヲ指導スルヲ要ス

第一百 攻撃經過中途ニ夜ニ入ル場合ニ於テ尙攻撃ヲ續行スベキヤ或ハ翌拂
曉新ナル部署ノ下ニ攻撃ヲ再興スベキヤハ全般ノ狀況特ニ戰闘ノ現勢ニ基キ
決定スベキモノトス而シテ直チニ攻撃ヲ決行セザル狀況ニ於テハ各部隊ハ日

合

夜間利用
ノ機動

一般ノ要
領

没ト共ニ搜索、警戒ノ處置ヲ十分ニシ要スレバ縱長ノ配備ニ移リ以テ爾後ニ於ケル新ナル使用ト夜間ニ於ケル敵ノ企圖トニ備フルヲ緊要トス此ノ際戰車ハ通常後方ニ集結シ其ノ戰鬪力ヲ恢復スルト共ニ爾後ノ行動ヲ準備スルコト緊要ナリ

前項ノ如キ狀況ニ於テハ師團長ハ機ヲ失セズ其ノ企圖ヲ部下指揮官ニ示シテ爲シ得ル限リ速カニ所要ノ準備ヲ整ヘシメ各部隊ノ指揮官モ亦進ンテ師團長ノ決心ニ必要ナル資料ヲ報告スルニ勉ムルヲ要ス

第四百四 夜間機動ヲ行ヒ拂曉ヨリ敵ヲ攻撃スルヲ有利トスルコトアリ斯クノ如キ場合ニ於テハ爲シ得ル限リ晝間ヨリ諸般ノ準備ヲ整ヘテ搜索ヲ周到ニシ敵主力ノ動靜ニ注意シ夜ニ入ルヤ企圖ヲ秘匿シテ機動ヲ行ヒ適時兵力ヲ集結シテ攻撃ノ配置ヲ取り各部隊ヲシテ拂曉迄ニ必要ナル準備ヲ整ヘシメ斷乎タル決意ヲ以テ敵ヲ急襲スルヲ要ス

前項ノ攻撃ヲ行ハシガ爲ニハ常ニ部下軍隊ノ掌握ヲ確實ニシ敵ノ擾亂行動等ノ爲全般ノ計畫ニ蹉躓ヲ來スガ如キコトアルベカラズ

第三章 陣地攻撃

第一節 防禦陣地ヲ占領セル敵ニ對シテハ機動ニ依リ成ルベク陣地外ニ決戰ヲ求ムルヲ可トス故ニ高級指揮官ハ全般ノ狀況ニ鑑ミ敵陣地ヲ迂回スベキヤ或ハ之ヲ攻撃セザルベカラザルヤヲ考慮スルヲ要ス

陣地攻撃ニ在リテハ攻者ハ通常敵情、地形ヲ搜索シ攻撃ノ時期、方向及方法

開進ノ配

命令

開進配置
ニ就ク部

ヲ選ア爲ニ要スル時間ノ餘裕ヲ有スルヲ以テ豫メ綿密ナル計畫ヲ定メ且十分ナル準備ヲ整ヘ統一セル攻撃ヲ行フヲ要ス然レドモ時日ヲ遷延シ敵ヲシテ陣地ヲ強固ニシ或ハ新ニ兵力ヲ招致スルノ時間ヲ得シメザルニ著意スルコト亦必要ナリ

第三百六 師團長ハ通常先ヅ師團ヲ開進ノ配置ニ就カシムルモノトス

開進ノ配置ニ就カシムルニ方リテハ狀況特ニ我が軍ノ企圖、敵情、地形ニ稽ヘ攻撃準備ヲ容易ナラシメ且爾後ニ於ケル動作ノ自由ヲ確保スルト共ニ敵砲兵及飛行機ニ依ル損害ヲ減少シ地上及上空ノ敵ニ對シ遮蔽スルコト等ヲ考慮スルヲ要ス

師團長ハ開進ノ配置ニ關スル意圖ヲ確定スルヤ速カニ通信隊長ヲシテ必要ナル部隊間特ニ前方ニ派遣シアル部隊トノ連絡ヲ保持セシメ以テ情報収集ニ便ナラシムルト共ニ爾後ノ攻撃ニ關スル諸準備ニ遺憾ナカラシムルコト緊要ナリ

第三百七 師團ヲ開進ノ配置ニ就カシムル爲師團長ハ各縱隊、梯團ニ其ノ主力ノ占ムベキ地域ヲ示スト共ニ搜索及警戒ニ關シ必要ナル命令ヲ與フルモノトス此ノ際狀況之ヲ許セバ各縱隊ノ警戒部隊ノ行動ヲ統一スルヲ可トス又要スレバ本隊砲兵中所需ノ兵力ヲ以テ警戒部隊ヲ支援シ且師團主力ノ行動ヲ掩護セシメ又機ヲ失セズ全般ノ爲防空ノ處置ヲ講ズルコト必要ナリ

第三百八 開進ノ配置ニ就ク各部隊ハ敵ノ視察ヲ避ケ且敵砲兵、飛行機等ノ攻撃ニ依ル損害ヲ減少センガ爲地形ヲ利用シ要スレバ部隊ヲ分置シ止ムヲ得ザ

警戒陣地
ト主陣地
ノ攻略關
係
攻撃計畫
攻撃命令

警戒陣地ノ前後ニ於テハ各級指揮官ハ敵砲兵ノ射撃、部隊ノ行動等ニ依リ陣地ノ状態偵知ノ好機ヲ逸セザルコト緊要ナリ此ノ際飛行機、氣球及砲兵情報機關ハ特ニ其ノ價値ヲ發揮シ得ルモノトス

警戒陣地ノ攻撃ニ際シテハ主陣地帯前ニ於ケル敵ノ撤毒ヲ顧慮シ隨時之ヲ妨害シ得ルノ準備ヲ整フルヲ要ス

第百十 敵ノ警戒陣地ヲ攻撃スルコトナク攻撃ヲ準備スル場合ニ於テハ警戒陣地ヲ攻略シタル後更ニ所要ノ準備ヲ整ヘ主陣地帯ニ對スル攻撃ヲ實行スルヲ通常トスルモ状況之ヲ許セバ警戒陣地ノ攻略ニ引續キ主陣地帯ヲ攻撃スルヲ有利トス

第百十一 師團長ハ任務ニ基キ地形、敵陣地ノ強度特ニ障物及側防機能ノ状態、撤毒地域、彼我ノ兵力、素質及裝備、攻撃ニ使用シ得ベキ時日、準備彈藥數等ヲ考慮シ攻撃ノ方針ヲ定メ攻撃計畫ヲ策定ス

攻撃計畫ハ戰闘經過ニ應ズル軍隊ノ部署ヲ定メ其ノ行動ヲ律スルノ準繩タルモノニシテ攻撃準備ヨリ豫想スル戰闘ノ各期並ニ奏功後ノ戰闘指導ニ要スル準備等ニ至ル迄ノ重要事項ヲ包含セシムルヲ通常トス

第百十二 師團長攻撃計畫ヲ策定セバ之ニ基キ通常攻撃ニ關スル命令ヲ下シ各部隊ヲ攻撃準備ノ位置ニ就カシム此ノ命令ニ示スベキ主要ナル事項通常左ノ如シ

步兵ノ爲ニハ第一線ニ出スベキ部隊、展開區域、攻撃目標、戰闘地域、展開完了又ハ攻撃前進ノ時機、爾後ニ於ケル戰闘遂行ノ要領要スレバ使用

隊
警戒、
索
搜

レバ疎散ナル配置ヲ取ルモノトス

開進ノ配置ニ就ク爲要スレバ徒歩部隊ハ路外ヲ行動シ道路ヲ車輛部隊ニ譲ルベシ又行進交叉ハ勉メテ之ヲ避クベシト雖モ止ムヲ得ザル場合ニ於テハ特ニ混亂ヲ豫防スルコトニ注意スベシ

同一地ニ占位スル部隊ノ高級先任ノ指揮官ハ必要ナル警戒ヲ爲スト共ニ成ルベク廣正面ノ隊形ヲ以テ隱蔽シテ前方及側方ニ進出シ得ベキ多クノ進路ヲ偵察シ且所要ノ設備ヲ爲スヲ要ス

第百九 敵陣地ノ状態特ニ強度ハ攻撃計畫ニ大ナル影響ヲ與フルモノトス故ニ敵陣地及其ノ前後ニ於ケル地形ノ偵察ハ状況ノ許ス限り師團長ノ統一セル計畫ニ基キ各部隊協力シテ迅速ニ成果ヲ擧グルニ勉メザルベカラズ

搜索ハ攻略ヲ企圖スル敵陣地ノ全縱深ニ互リ極力細密ニ行フモノニシテ主陣地帯ノ位置ハ之ヲ確知スルコト緊要ナリ而シテ爲シ得レバ其ノ状態、兵力、配備特ニ砲兵ノ配置ヲ偵知スルニ勉メザルベカラズ

確實ナル敵情ハ敵ノ警戒部隊ヲ驅逐シタル後始メテ之ヲ知り得ルヲ通常トス故ニ前衛等ハ敵ノ小部隊ノ如キハ適時之ヲ驅逐シテ敵情ヲ搜索スルコトニ勉ムベシ此ノ際砲兵ノ觀測ニ有利ナル地點ヲ速カニ占領スルノ著意ヲ必要トス

敵若シ有力ナル部隊ヲ以テ警戒陣地ヲ占領セル場合ニ於テハ師團長ノ統一セル部署ヲ以テ先ヅ警戒陣地ヲ攻略シタル後主陣地帯ニ對スル搜索ヲ行フヲ要スルコト少カラズ

第一線展 開區域 攻擊目標 戰車ノ用

シ得ベキ彈藥ノ概數等 戰車ノ爲ニハ之ヲ步兵ニ配屬スルトキハ配屬スベキ兵力、時機要スレバ配屬期間、其ノ行動スル地域及時機ノ統制ニ關スル事項等又之ヲ師團長直轄スルトキハ待機及出發位置、出發時機、行動地域、攻擊目標、步兵ニ對スル協同法、任務達成後ノ行動等 砲兵ノ爲ニハ主要ナル各期ニ於ケル步兵直接協同ノ火力、其ノ他ノ火力及目的、陣地下爲スベキ地域、使用シ得ベキ彈藥ノ概數、效力射準備射擊及時機要スレバ攻撃準備射擊ノ要領等 工兵ノ爲ニハ戰闘各期ニ於ケル作業要スレバ完成時期、作業援助部隊、作業ノ掩護法、步兵其ノ他ニ配屬スベキ兵力及其ノ時機等 飛行機ノ爲ニハ戰闘各期ニ於ケル任務要スレバ使用スベキ時機及機數等其ノ他諸兵種特ニ歩戰砲ノ協同ニ關スル細部ノ事項、突擊準備特ニ障礙物破壞ニ關スル事項、豫備隊ノ行動、防空、連絡、瓦斯防護、補給ニ關スル事項等

戰車ノ用 第一百十四 戰車ハ步兵ノ爲最モ緊要トスル時機及地點若クハ敵ノ最モ苦痛ト

法 歩 九 二一七〇三 砲兵陣地 砲兵ノ用 法 二五、八三

スル時機及地點ニ對シ爲シ得ル限リ多數集結シ勉メテ同時ニ之ヲ使用スベキモノトス之ガ爲敵陣地最前線ノ奪取ニ方リ緊要ナル地點ニ於ケル障礙物ヲ破壊スルト共ニ直後ノ重火器ヲ攻撃セシメ或ハ陣地内ノ攻撃就中砲兵ノ協同適切ヲ期シ難キ地點ニ於ケル障礙物、重火器等ヲ蹂躪シテ步兵ノ突擊ヲ支援セシメ又要スレバ適時敵陣地深ク突進シ砲兵、司令部等ヲ急襲セシム狀況ニ依リ此等任務ノ若干ヲ連續遂行セシムルコト少カラズ此ノ際所要ニ充タザル戰車敵陣地深ク孤立突進スルハ通常效果ナキモノトス 戰車ノ兵力大ナルトキハ步兵ニ直接協同スル戰車群及挺進シテ縱深ニ於ケル戰闘ヲ擔任スル戰車群ニ區分シ重疊シテ使用スルコトアリ 戰車ハ通常之ニ課スベキ任務及地形ニ依リ其ノ行動スル區域ヲ定ム而シテ步兵ニ直接協同セシムル場合ニ於テハ多クハ其ノ正面ニ使用シ該正面ニ於ケル步兵ノ指揮官ニ配屬スルヲ通常トシ爾餘ノ場合ニ於テハ師團長直轄使用スルヲ通常トス

砲兵陣地 第一百十五 砲兵陣地ハ敵陣地ノ全縱深ニ互リ威力ヲ發揚シ得ル如ク狀況ノ許ス限リ敵ニ近ク配置スルコト必要ナリ而シテ最初ノ配置ハ砲ノ特性ニ應ジテ任務、彈藥補充ノ難易等ニ依リ定ムベシ此ノ際運動性小ナルモノハ勉メテ之ヲ前方ニ配置シ該陣地ニ於テ成ルベク長ク動作シ得シメ又步兵直接協同ノ砲兵ハ所要ニ應ジ容易ニ陣地變換ヲ爲シ得ル如ク考慮スルヲ要ス

砲兵ノ用 第一百十六 陣地攻撃ニ於テハ砲兵ハ爲シ得ル限リ周到ナル準備ヲ整ヘ統一指揮ノ利ヲ收ムルコト緊要ナリ然レドモ地形、戰闘正面等ノ關係ニ依リ全砲兵

砲八九

統一指揮ノ利ヲ收メ難キカ又ハ敵陣地内ノ攻撃ニ在リテ直接協同ニ專任セシムベキ場合ニ於テハ所要ノ砲兵ヲ第一線歩兵ノ指揮官ニ配屬スルヲ有利トス

敵陣地内ノ攻撃ニ於ケル砲兵ヲ突撃時ニ於ケル歩兵ヲ支援セシムルコトアリ又シメ時トシテ其ノ一部ヲ師團ニ配屬スルコトアリ

展開、攻撃準備

第百十七 展開ヲ命セラレタル各部隊ハ秩序ト連繫トヲ保チ所要ノ警戒ヲ爲シ且成ルベク遮蔽シツツ攻撃準備ノ位置ニ就クモノトス
展開シタル第一線部隊ハ状況ニ適合スル態勢ヲ以テ敵情、地形ヲ搜索シ直接協同スベキ戰車及砲兵ト必要ナル協定ヲ遂ケル等爲シ得ル限リ攻撃ノ諸準備ヲ爲スモノトス此ノ際歩兵大隊ノ展開シアルベキヤ否ヤハ状況ニ依ル而シテ全般ノ展開進歩スル迄成ルベク過早ノ戰鬪惹起ヲ避クベシト雖モ攻撃準備ノ位置ノ前方ニ在リテ觀測及爾後ノ攻撃進歩ノ爲ニ必要ナル地點ハ一部ヲ以テ之ヲ占領スルヲ有利トス
第百十八 戰車ハ所要ニ應ジ待機位置ニ進入スルト共ニ協同スベキ歩、砲兵ノ指揮官ト協定ヲ遂ゲ自己ノ行動ヲ計畫シ更ニ敵情、地形ノ搜索ヲ周密ナラシメ爾後ノ攻撃ヲ準備シ適時出發位置ニ就キ攻撃準備ヲ完了スルモノトス此ノ際戰車ハ極力其ノ行動ヲ秘匿センガ爲メテ夜暗ヲ利用スルヲ可トス行動ノ秘匿ノ爲メ砲兵、飛行機等ノ協力ヲ受クルヲ得バ有利ナリ
第百十九 師團砲兵指揮官ハ任務ニ基キ敵情、第一線歩兵及戰車ノ兵力、部

展開

工兵ノ攻撃準備

飛行部隊ノ戰鬪準備

協同ノ協定事項

署、行動、軍直轄砲兵ノ兵力及任務等ヲ考慮シ戰鬪ニ關スル計畫ヲ定メ之ニ基キ部下諸隊ニ任務ヲ與ヘ展開ヲ命ズ
第百二十 師團工兵指揮官ハ任務ニ基キ戰鬪各期ニ於ケル作業ノ計畫ヲ定メ主トシテ戰車、砲兵等ニ必要ナル通路ヲ設備シ又歩兵ト密接ニ連繫シテ突撃及敵陣地内ノ攻撃ニ必要ナル作業ヲ實施スルモノトス之ガ爲メ豫メ準備ヲ完全ナラシムルコト緊要ナリ
步兵ニ配屬セラレ若クハ協同スル工兵ノ指揮官ノ處置モ亦前項ニ準ズ
第百二十一 飛行部隊地上ノ戰鬪ニ直接協同スルニ方リ其ノ取ルベキ行動ハ狀況ニ依リ異ナリト雖モ通常敵ノ戰車、有力ナル砲兵、敵陣地ノ要點等ヲ攻撃シテ第一線部隊ノ戰鬪ヲ容易ナラシメ或ハ重要ナル第二線部隊、機甲部隊、交通ノ要點等ヲ攻撃シテ地上部隊ノ戰果擴張ヲ容易ナラシムルモノトス
第百二十二 歩戰砲ノ協同ノ爲ニハ周到的確ニ相互ノ關係ヲ定メ特ニ準備ヲ十分ナラシムルコト緊要ナリ
直接歩兵ノ正面ニ戰車ヲ使用スル場合ニ於テハ豫期スル戰況ニ應ジ通常左ノ事項中必要ノ件ヲ豫メ歩戰砲間ニ規定(協定)スルモノトス
戰車ヲ使用スベキ時機及攻撃目標
戰車ノ進出目標又ハ中間目標
戰車ノ行動(射撃)開始、戰車ノ出發位置、行動區域、歩兵線超越ノ時機及方法
歩兵ノ突入時ニ於ケル戰車及砲兵ノ協同法

戰車ノ敵陣地突入後ニ於ケル步兵線トノ關係及之ニ關聯シ步兵線ト砲兵射擊地域トノ離隔ノ程度

敵戰車ノ逆襲ニ對スル我が戰車ノ行動

各時期ニ於ケル戰車ノ行動ニ對シ歩、砲兵ノ與フベキ支援

一部隊ノ行動豫定ノ如クナラザル場合ノ處置

歩戰砲間ノ通信連絡竝ニ地點及目標指示ノ方法

任務達成後ニ於ケル戰車ノ行動等

有力ナル戰車ヲ縱深ニ使用スル場合ニ於テハ其ノ行動地域ヲ規定シ該戰車敵陣地ニ突入スルニ至レバ必要ノ砲兵ヲ以テ之ヲ支援シ爾餘ノ砲兵火力ハ要スレバ所要ノ期間他ノ地域ニ指向セシムルモノトス而シテ戰車ノ行動地域ニ對スル射擊ハ準備ヲ周到ニシ連絡ヲ密ニシ戰車ニ危害ヲ及サザルノ注意特ニ必要ナリ

第二百二十三 步戰砲及飛行部隊ノ協同戰闘ニ在リテハ高級指揮官ノ統一セル計畫ニ基キ特ニ準備ヲ周到ニシ此等部隊ノ行動ヲ適當ニ時間及地域ニ依リテ規定スルト共ニ確實ナル連絡法ヲ講シ各部隊モ亦相互ノ行動ヲ極力緊密ニ協調セシメテ一部ノ蹉躓ニ依リ全局ノ協同ヲ破壞セラレザル如ク勉メテ計畫的ニ戰闘ヲ遂行スルコト緊要ナリ

第二百二十四 敵主陣地帯ノ位置ヲ偵知スルニ至ラズシテ直チニ攻撃ヲ開始スルヲ要スルトキハ師團長ハ攻撃部署ヲ定ムルニ方リ爾後ニ於ケル兵力ノ運用ニ支障ヲ生ゼシメザル如ク融通性ヲ存シ且適宜砲兵及戰闘資材ヲ推進スル等

協同 步戰砲飛

敵主陣地 帶未偵知 場合

豫メ縱深ニ互ル攻撃準備ヲ整フルコト緊要ナリ

前線ノ敵ヲ擊攘シ敵主力ノ陣地其ノ後方ニ在ルコト判明シタル場合ニ於テハ爲シ得レバ敗敵ニ尾シテ前進シ一舉ニ敵陣地ヲ攻略スルヲ有利トス然レドモ敵主力適宜離隔シテ準備ヲ調整ヘアルトキハ諸隊ノ前進ヲ統制シ砲兵ヲ前方ニ招致シ相互ノ協同及連絡ヲ調整スル等新ナル攻撃準備ヲ整フルヲ通常トス

第二百二十五 夜暗ヲ利用シ敵ニ近接シテ攻撃準備ノ位置ニ就キ拂曉ヨリ攻撃ヲ實行スルヲ有利トスルコト屢々ナリ此ノ場合ニ於テハ爲シ得ル限リ晝間ヨリ搜索及諸準備ヲ行フト共ニ敵ニ對シ我が企圖ヲ秘匿スルニ勉メ特ニ夜間ニ於ケル敵ノ配備變更ヲ考慮シ絶エズ敵情搜索ヲ續行スルコト緊要ナリ而シテ拂曉占ムベキ攻撃準備ノ位置ハ敵情、地形、撒毒地域ノ有無等ヲ考慮シ勉メテ敵ニ近接セシムルヲ有利トスト雖モ豫期セザル戰闘ヲ惹起セシメザルノ著意ヲ必要トス而シテ敵前至近ノ距離ニ攻撃準備ノ位置ヲ設クル爲ニハ二夜以上ニ互リ部隊ヲ推進スルヲ要スルコトアリ

日没時ノ位置ヲ出發スベキ時刻ハ狀況ニ依ルト雖モ各部隊ヲシテ遅クモ拂曉迄ニ連絡ヲ確保シ所要ノ工事ヲ爲シ攻撃實行ノ諸準備ヲ完了シ得シムルヲ基礎トセザルベカラズ而シテ日没後ニ於ケル前進ヲ容易ナラシムル爲前進地域ニ於ケル要點ハ豫メ之ヲ占領シ置クヲ有利トス

戰車ハ成ルベク第一線ニ近ク其ノ出發位置ヲ設ケ必要ナル部隊ト連絡ヲ保チ爾後ノ攻撃準備ヲ整フルヲ要ス此ノ際過度ニ敵ニ近接シ我が企圖ヲ暴露スルガ如キコトナキヲ要ス

拂曉攻撃 ノ爲ノ展 開 歩六〇テ

黎明チ利
用スル突
撃ノ場合
歩六〇七

砲兵ハ成ルベク晝間ニ於テ拂曉以後ニ於ケル戰鬪ニ必要ナル諸準備ヲ整ヘ且夜暗チ利用シテ展開シ或ハ陣地ヲ前方ニ推進シ拂曉以後ニ於ケル歩兵トノ協同ニ遺憾ナカラシムルヲ要ス
工兵ハ地形特ニ敵ノ破壊作業ヲ偵察シ障礙ヲ排除シ進路ヲ補修、標示スル等ノ作業ニ任ズルモノトス
撤毒地域ノ制毒ハ夜間隱密ニ實施スルチ有利トス
第百二十六 拂曉ヨリ攻撃ヲ實行スルニ方リ攻撃準備ノ位置ヲ敵前至近ノ距離ニ設ケ黎明チ利用シ攻撃ヲ行フコトアリ此ノ場合ニ於テハ我が企圖ヲ秘匿シ敵ノ不意ニ乘ジ突撃スルコト極メテ緊要ナリ歩兵ノ行動竝ニ戰車、砲兵等ノ戰鬪參加ノ時機及方法ハ此ノ考慮ニ基キ決定スベキモノトス
黎明チ利用シ突撃スル場合ニ於テハ敵陣地内ノ戰鬪特ニ天明直後ノ戰鬪遂行ニ方リ歩戰砲ノ緊密ナル協同ニ遺憾ナキチ期スルチ要ス故ニ各部隊ノ部署及行動ハ爲シ得ル限り此ノ時期ニ應ズルニ便ナル如ク豫メ之ヲ定ムベキモノトス
攻撃準備ノ位置ハ爲シ得ル限り之ヲ敵陣地ニ近接セシメ以テ爾後ノ準備ヲ周到ナラシムルト共ニ不意且容易ニ突撃ヲ實施シ得ザルベカラズ而シテ若シ其ノ位置ヨリ直チニ突撃ノ爲ノ前進ヲ開始シ得ル如クナラシムルチ得バ最モ有利ナリ
戰車ハ通常第一線歩兵敵陣地突入後ノ戰鬪ニ於テ其ノ威力ヲ發揮スル如ク之ヲ使用スルチ有利トス狀況特ニ敵障礙物ノ狀態等ニ依リ戰車ノ一部若クハ全

敵陣地堅
固ナルト
キ

夜暗利用
ノ接敵要
領ノ歩四〇
三、五〇、六〇

部ヲシテ最初ヨリ歩兵ノ突撃ニ協同セシムルチ有利トスルコトアリ
砲兵ハ特ニ天明時ニ於テ遺憾ナク歩兵ニ協同シ得ル如ク諸準備ヲ整フルモノトス而シテ夜間射撃ニ準ジ豫メ十分ニ射撃準備ヲ整ヘ得ルトキハ黎明時射撃ヲ開始シ直接支援、阻止、砲兵制壓等ニ任ジ以テ歩兵ノ突撃ニ協同スルコト少カラズ此ノ場合ニ於テモ成ルベク長ク企圖ヲ秘匿センガ爲歩兵ノ敵陣地突入以前ニ於テ射撃ヲ開始スルハ勉メテ之ヲ避クルチ要ス
第百二十七 敵ノ陣地堅固ニシテ障礙物及側防機能等ヲ破壊スル爲特別ノ考慮ヲ要スル場合ニ於テハ特ニ攻撃準備ヲ周到ニシ計畫及實施ヲシテ漸次陣地戰ニ於ケル攻撃ノ要領ニ近似セシムルチ要ス
狀況ニ依リ逐次攻撃陣地ヲ構成シテ敵ニ近迫シ突撃ヲ遂行スルチ要スルコトアリト雖モ時日ヲ費シ敵ヲシテ兵力ヲ増加シ或ハ施設ヲ益、堅カラシムルノ不利アルチ以テ成ルベク之ヲ避クルチ要ス
第百二十八 拂曉(黎明)ヨリ攻撃スル爲攻撃準備ノ位置ヲ占領セントスルトキ或ハ堅固ナル敵陣地ニ對シ逐次攻撃陣地ヲ推進セントスルトキ等ニ在リテ軍隊夜暗チ利用シ敵ニ近接スル場合ニ於テハ各部隊ハ爲シ得ル限り晝間ヨリ諸準備ヲ整ヘ狀況ヲ許セバ勉メテ一舉ニ前進スベシ然レドモ敵ノ警戒嚴ナルカ若クハ我が企圖ヲ秘匿センガ爲必要ナルトキハ逐次小部隊ヲ奇襲的ニ躍進セシメ其ノ掩護下ニ主力ヲ推進スルコトアリ此ノ場合ニ於テハ所要ニ應ジ歩、砲兵ヲシテ我が近接ヲ妨害スル敵ヲ制壓スルノ準備ヲ整ヘシムルチ可トス

射擊前進
開始後ノ
行動

攻撃準備射撃ハ爲シ得ル限り不意且猛烈ニ之ヲ開始スベシ而シテ敵砲兵ニ對スル射撃ト其ノ他ノ目標ニ對スル射撃ト何レヲ先ヅ實施スベキヤハ狀況特ニ敵砲兵ニ關スル情報收集ノ程度ニ依ルト雖モ爲シ得レバ先ヅ敵砲兵ヲ制壓若クハ破壊シテ爾後ニ於ケル我が砲兵火力運用ノ自由ヲ獲得スルヲ可トシ障礙物及側防機能等ニ對スル破壊射撃間ニ於テモ所要ニ應ジ敵砲兵ノ制壓ヲ實施スルモノトス

攻撃準備射撃實施ノ程度ハ敵陣地ノ強度、準備彈藥數其ノ他各種ノ狀況ニ依リ差異アリト雖モ拂曉ヨリ攻撃スル場合ニ於テハ成ルベク射撃時間ヲ短縮シ步兵ヲシテ天明後長ク敵陣地前ニ停止スルガ如キコトナカラシムルヲ要ス

第三百三十三 第一線步兵攻撃前進開始後ニ於ケル行動ハ遭遇戰ノ場合ニ準ズト雖モ敵ニ近接スルニ從ヒ益々詳細ニ敵情特ニ障礙物、側防機能、撤毒地域等ノ狀態ヲ偵知シ諸兵種特ニ歩戰砲ノ協定ヲ補綴シ其ノ協同ヲ愈々緊密ナラシムルヲ要ス

第三百三十四 側防機能ハ豫メ砲兵等ヲ以テ破壊スルヲ可トスレモ其ノ困難ナルモノニ對シテハ步兵重火器、戰車、砲兵、工兵等ニ依リ適時ニ之ヲ制壓若クハ破壊スルノ處置ヲ講ズルヲ要ス

敵ノ側防機能ノ詳細ナル配置、障礙物ノ狀態等ハ我が步兵敵ノ步兵火網内ニ入リタル後始メテ確認シ得ルコト多キヲ以テ步兵ハ豫メ對應ノ準備ヲ盡クスト共ニ速力ニ之ヲ發見ニ勉メ機ヲ失セズ之ヲ處理シ又戰車、砲兵等ニ通報スルヲ要ス特ニ突撃ノ直前若クハ突撃開始後不意ニ現出スルコトアルベキ側防

砲兵射撃
開始歩兵
攻撃初期
ニ於ケル

夜間軍隊豫定ノ位置ニ到達セバ速力ニ陣地ヲ構築スベシ又砲兵ハ射撃ノ諸準備ヲ周到ニシ要スレバ第一線部隊突撃陣地ヲ占ムル迄ニ夜暗ヲ利用シテ適宜陣地ヲ進ムル等步兵ノ突撃支援ニ遺憾ナキヲ期スベシ

第三百二十九 陣地攻撃ニ在リテハ特ニ攻撃準備間及陣地前ニ於テ敵ノ組織的瓦斯使用ニ會スルコト少カラザルヲ以テ各部隊ハ豫メ之ヲ對應ノ處置ニ遺憾ナキヲ要ス

第二節 攻撃實施

第三百三十 攻撃ノ爲砲兵ノ射撃開始及步兵ノ攻撃前進ハ師團長之ヲ命ズ

第三百三十一 攻撃ノ初期ニ於テ師團砲兵ハ通常先ヅ軍直轄砲兵ト協力シ敵砲兵ヲ制壓爲シ得レバ破壊シテ步兵ノ前進ヲ容易ナラシメ此ノ間要スレバ障礙物、側防機能其ノ他ノ陣地設備ヲ破壊シ時トシテ指揮組織ノ崩壞、敵後方ニ於ケル交通遮斷若クハ擾亂ニ任ズ

我が步兵敵前近距離ニ攻撃準備ヲ整フルニ方リ未ダ敵砲兵ヲ制壓シアラザル狀況ニ於テハ步兵ノ攻撃前進開始ニ先ダチ特ニ敵砲兵ノ制壓爲シ得レバ破壊ヲ實施スルヲ有利トスルコトアリ

第三百三十二 狀況特ニ敵陣地ノ強度ニ依リ要スレバ攻撃準備射撃ヲ行フ此ノ射撃ハ步兵ノ攻撃前進ニ先ダチ我が砲兵ヲ以テ障礙物、側防機能及陣地設備ノ破壊、指揮組織ノ崩壞、敵砲兵ノ制壓爲シ得レバ破壊ヲ行フモノトス

攻撃準備射撃ハ通常軍司令官之ヲ統一シテ計畫シ且軍直轄砲兵及所要ノ師團砲兵ノ指揮ヲ統一ス時トシテ迫撃部隊ヲ參加セシムルコトアリ

砲兵射撃
開始歩兵
攻撃初期
ニ於ケル

夜間軍隊豫定ノ位置ニ到達セバ速力ニ陣地ヲ構築スベシ又砲兵ハ射撃ノ諸準備ヲ周到ニシ要スレバ第一線部隊突撃陣地ヲ占ムル迄ニ夜暗ヲ利用シテ適宜陣地ヲ進ムル等步兵ノ突撃支援ニ遺憾ナキヲ期スベシ

第三百二十九 陣地攻撃ニ在リテハ特ニ攻撃準備間及陣地前ニ於テ敵ノ組織的瓦斯使用ニ會スルコト少カラザルヲ以テ各部隊ハ豫メ之ヲ對應ノ處置ニ遺憾ナキヲ要ス

第二節 攻撃實施

第三百三十 攻撃ノ爲砲兵ノ射撃開始及步兵ノ攻撃前進ハ師團長之ヲ命ズ

第三百三十一 攻撃ノ初期ニ於テ師團砲兵ハ通常先ヅ軍直轄砲兵ト協力シ敵砲兵ヲ制壓爲シ得レバ破壊シテ步兵ノ前進ヲ容易ナラシメ此ノ間要スレバ障礙物、側防機能其ノ他ノ陣地設備ヲ破壊シ時トシテ指揮組織ノ崩壞、敵後方ニ於ケル交通遮斷若クハ擾亂ニ任ズ

我が步兵敵前近距離ニ攻撃準備ヲ整フルニ方リ未ダ敵砲兵ヲ制壓シアラザル狀況ニ於テハ步兵ノ攻撃前進開始ニ先ダチ特ニ敵砲兵ノ制壓爲シ得レバ破壊ヲ實施スルヲ有利トスルコトアリ

第三百三十二 狀況特ニ敵陣地ノ強度ニ依リ要スレバ攻撃準備射撃ヲ行フ此ノ射撃ハ步兵ノ攻撃前進ニ先ダチ我が砲兵ヲ以テ障礙物、側防機能及陣地設備ノ破壊、指揮組織ノ崩壞、敵砲兵ノ制壓爲シ得レバ破壊ヲ行フモノトス

攻撃準備射撃ハ通常軍司令官之ヲ統一シテ計畫シ且軍直轄砲兵及所要ノ師團砲兵ノ指揮ヲ統一ス時トシテ迫撃部隊ヲ參加セシムルコトアリ

突擊ノ爲
ノ火力

機關銃ニ對シテハ各種ノ手段ヲ盡クシ直チニ之ヲ制壓シ突擊ノ實施ニ萬遺憾
ナキヲ期セザレベカラズ
第三百三十五 突擊ノ爲ニハ適時熾盛ナル火力ヲ以テ敵ヲ制壓シ障礙物ヲ排除
シ側防機能ヲ制壓若クハ破壊シ且突擊ノ部署ヲシテ克ク狀況ニ適應セシムル
コト緊要ナリ
突擊ノ機近ヅクニ至レバ我が火力ヲ最高度ニ發揚シテ敵ヲ萎靡沈黙ニ陥ラシ
ムルヲ要ス之ガ爲師團長ハ所要ニ應ジ砲兵ニ新ナル任務ヲ課シ歩、砲兵ノ各
部隊ハ各種ノ方法ヲ盡クシテ重要ナル地點ニ於ケル火力ノ優越ヲ期セザルベ
カラズ

障礙破壊
ノ時期方
法

第三百三十六 障礙物破壊ノ時機、方法及破壊口ノ數ハ我が企圖ニ基キ障礙物
ノ狀態、第一線歩兵ノ部署、戰車ノ有無、砲兵力就中準備彈藥數等ヲ考慮シ
テ之ヲ定ムベキモノトス
障礙物破壊ノ爲戰車ヲ以テスルハ地形及戰車ノ兵力之ヲ許セバ實施最モ容易
ナリ又砲兵及歩兵重火器ヲ以テスルハ觀測之ヲ許セバ實施容易ナリト雖モ多
數ノ火砲(火器)特ニ彈藥ヲ必要トス故ニ所要ノ戰車ナキ正而ニ於テハ歩、工
兵ヲ以テスル破壊作業ニ依リ又ハ之ト火砲(火器)トヲ併用スルモノトス後者
ノ場合砲兵ヲシテ少數ノ破壊口ヲ完成セシムベキヤ或ハ多數ノ破壊口ヲ概成
セシメ歩、工兵ノ作業ヲ以テ之ヲ補足セシムベキヤ等ハ狀況ニ依ル而シテ數
線ノ障礙物ニ對シテハ第一線ノ破壊ハ通常歩、工兵ヲシテ之ニ任セシムルテ
可トス

各部隊突
擊部署

突擊誘起

突擊時ニ
於ケル歩
砲協同

歩、工兵ヲ以テ障礙物ヲ破壊スル場合ニ於テハ此ノ動作ヲ妨害スベキ敵特ニ
機關銃ニ對シ適切ナル掩護ノ方法ヲ講ズルヲ要ス此ノ際爲シ得レバ煙ヲ利用
スルヲ可トス
歩兵ノ攻撃前進間砲兵等ヲ以テ障礙物ヲ破壊セシムル場合ニ於テハ突擊前歩
兵ヲシテ之ガ完了ヲ待テ爲長時間敵前近クニ於テ停止スルノ止ムナキニ至ラ
シメザルヲ要ス
第三百三十七 各部隊ノ突擊部署ハ當時ニ於ケル軍隊ノ配置、突入スベキ敵陣
地、障礙物及側防機能ノ狀態等諸般ノ狀況ヲ考慮シ之ヲ定ムルモノトス此ノ
際各級指揮官ハ各、適切ナル突擊掩護ノ處置ヲ講シ突擊トノ關係ヲ緊密ナラ
シムルヲ要ス
第三百三十八 突擊ノ諸準備進歩スルヤ上級指揮官ハ狀況特ニ彼我ノ狀態ヲ克
ク觀察シテ部下ヲ指導シ突擊ノ實施ヲシテ統一アラシムルニ勉メ且各種ノ手
段ヲ講シテ突擊ヲ誘起スルコト緊要ナリ又上級指揮官ハ第一線部隊突擊ヲ敢
行セバ直チニ其ノ成果ヲ利用スルコトニ勉ムベシ
第三百三十九 突擊ノ機迫ルヤ突擊支援ノ爲砲兵ハ敵ノ第一線及後方要點ニ熾
盛ナル火力ヲ指向シテ其ノ火網及指揮組織ヲ破壊擾亂シ歩兵モ亦火力ヲ最高
度ニ發揚シ砲兵火力ト相俟テ敵ヲ壓倒震駭シ此ノ間其ノ第一線歩兵ハ極力
敵ニ近迫シ砲兵ノ射程延伸ト共ニ最後ノ砲彈ニ膚接シテ突入スベシ此ノ際敵
ノ手榴彈、毒煙等ニ會スルモ躊躇スルコトナク突進スルヲ要ス
砲兵ノ突擊支援射撃ハ其ノ方法特ニ射擊時間、中止、射程延伸等ヲシテ一定

砲兵

敵陣内、
戰闘歩
二八、二五七、
歩兵

ヲ要スルニ至ルベキモ有ユル好機ヲ捉ヘ迅速ニ突進スルヲ要ス
 第四百一十一 突撃ニ次テ敵陣地内ニ對スル逐次ノ攻略トナルヤ戰闘ノ状態ハ
 著シク紛糾シ各級指揮官ノ獨斷ヲ要スルコト特大ナリ
 敵陣地ニ突入セル歩兵ハ火戰ト白兵戰トヲ併セ行ヒ死力ヲ盡シテ一意所命
 ノ目標ニ向ヒ突進スベシ此ノ間絶エズ敵ノ逆襲ヲ顧慮スルヲ要ス敵陣地ノ一
 部頑強ニ抵抗スルトキハ當面ノ部隊ハ之ガ攻略ニ勉ムベシト雖モ其ノ他ノ部
 隊ハ之ニ牽制セラレルコトナク一意其ノ前面ノ敵ヲ驅逐シテ前進スルモノト
 ス此ノ際歩兵大隊長ハ所要ニ應ジ豫メ編成セル掃蕩隊ヲ以テ堅固ナル構築物
 ニ據レル殘敵ヲ掃蕩セシムルヲ要スルコトアリ而シテ突破孔兩側敵線ノ席卷
 ハ此ノ目的ノ爲近ク續行スル後方部隊ニ委スルヲ要ス
 歩兵ノ指揮官ハ適時豫備隊ヲ突撃ノ成功セル方面ニ進メテ第一線ノ獲タル戰
 果ヲ擴張シ或ハ前線ニ使用シテ敵ノ逆襲ヲ擊退シ要スレバ突撃部隊ノ側面ヲ
 掩護シ以テ戰闘ノ成果ヲ完ウスベシ
 歩兵ニ直接協同スベキ戰車ハ歩兵トノ連繫ヲ緊密ニシ機ヲ失セズ歩兵ニ危害
 ナルヲ與フル敵ヲ蹂躪スルモノトス
 砲兵ハ歩兵ノ戰闘ニ協同スル爲極力歩兵トノ連絡ノ維持恢復ニ勉メ逐次敵陣
 地ノ要部ヲ猛射シ一部ヲ以テ敵砲兵ヲ制壓シ且敵ノ逆襲ヲ阻止スルモノトス
 之ガ爲必要ノ砲兵ハ適時其ノ陣地ヲ前方ニ變換スベシ而シテ新陣地ニ到着セ
 ル砲兵ハ速カニ附近ノ歩兵ノ指揮官ト連絡シテ其ノ攻撃ニ協同シ又舊陣地ニ
 在ル砲兵ハ前任務ヲ續行シ特ニ敵砲兵ノ制壓及後方部隊ノ阻止ニ任ズルモノ

戰車ノ協
同

配屬工兵
ノ協同

砲兵ノ援
助期待シ
難キ場合

ノ形式ニ陥ラシムルコトナク常ニ敵ノ不意ニ乘ジ突撃ヲ開始シ得ル如クナラ
 シムルヲ要ス而シテ射程延伸ノ時機ハ歩、砲兵相互間ニ豫メ時刻ヲ以テ規定
 シ且明確ナル記號等ニ依リ之ガ實施ヲ整齊ナラシムルコト特ニ緊要ナリ
 狀況ニ依リ第一線歩兵隨時突撃ヲ實施シ砲兵之ニ即應シ歩兵ヲ目視シツツ射
 撃シ且適時射程ヲ延伸スルヲ有利トスルコト亦少カラズ
 何レノ場合ニ於テモ砲兵ハ歩兵ノ行動ヲ確認シ其ノ射撃ヲ之ト密ニ協調セシ
 ムルコト緊要ナリ
 射程ヲ延伸シタル砲兵ハ第一線歩兵ニ危害ヲ及サザル限り成ルベク近ク其ノ
 前方ニ在ル敵ニ射撃ヲ移シ所要ニ應ジ敵ノ逆襲ヲ破摧シ或ハ増援ヲ遮斷スベ
 シ
 最初ノ突撃ニ戰車ヲ直接參加セシムル正面ニ於テハ戰車ハ通常敵ノ最前線附
 近ノ障碍物、重火器、側防機能等ヲ破壞蹂躪シ砲兵ハ戰車進出セバ主トシテ
 後方ノ目標ニ射撃ヲ指向シ戰車及砲兵相俟チテ歩兵ノ突撃支援ニ遺憾ナキヲ
 期スルモノトス
 歩兵ニ配屬セラレタル工兵ハ突撃ニ方リ適時障碍物ヲ破壊シ或ハ不意ニ活動
 スル敵ノ側防機能ヲ制壓シ歩兵ノ突撃ヲ容易ナラシムベシ
 突撃ニ際シ所要ニ應ジ煙幕ヲ構成スルヲ有利トスルコトアリ
 第四百一十 突撃支援ノ爲十分ナル砲兵ノ援助ヲ期待シ得ザルコト少カラズ此
 ノ場合ニ於テモ歩兵ハ自ラ各種火器ノ威力ヲ最高度ニ發揚シ敵ヲ壓倒シツツ
 敵陣地ニ近迫シ突撃ヲ決行スベシ此ノ際敵火ノ状態ニ依リ一進一止肉薄スル

工兵 トス
工兵ハ敵陣地内ニ於ケル歩兵ノ攻撃ヲ援助シ或ハ砲兵及戰車ノ進出ヲ容易ナ
ラシメ要スレバ殘敵、地雷ノ掃蕩及奪取セル地區ヲ強固ナラシムル爲ノ工事
等ヲ行フモノトス
飛行機 飛行機ハ彼我ノ狀況ヲ明カニシテ敵ノ後方部隊ノ移動ニ注意シ速カニ其ノ
企圖ヲ偵知シテ各級指揮官ノ戰闘指導ニ資シ且適時彼我ノ最前線及敵後方部
隊ノ位置ヲ砲兵ニ通報スルコト特ニ緊要ナリ又地上部隊ハ友軍飛行機ニ對シ
適時其ノ位置ヲ標示スルヲ要ス
追撃準備 第四百四十二 敵陣地内ニ於ケル攻撃進展シ軍隊攻撃目標ノ後端ニ進出シ得ル
ヲ豫察セバ師團長ハ機ヲ失セズ追撃ヲ實施シ得ル如ク戰闘ヲ指導スルコト緊
要ナリ
第四百四十三 黎明ヲ利用シ突撃ヲ實施スルニ方リ攻撃準備位置ヲ出發スル時
機ハ狀況特ニ我ガ企圖、爾後ノ前進要領、黎明ノ長短、攻撃準備位置ヲ敵陣
地トノ距離等ニ依リ異ナルモ黎明ノ初期ニ之ヲ選定シ遲キニ失セザルヲ要
ス
第一線歩兵敵陣地ニ突入シ其ノ最前線ヲ奪取セバ各級指揮官ハ爲シ得ル限り
黎明ヲ利用シ戰果ノ擴張ヲ圖ルト共ニ部下ノ掌握ヲ確實ニシ天明後ノ戰闘遂
行ニ遺憾ナカラシムルコト緊要ナリ
戰車ヲシテ最初ヨリ歩兵ノ突撃ヲ支援セシムル場合ニ於テハ歩兵ノ突入開始
迄ニ其ノ第一線ヲ超越シ得ル如ク出發位置ヲ發シ通常障碍物ノ破壊、第一線

突撃頓挫 八百四十四 突撃中途ニ頓挫セル場合ニ於テモ第一線部隊ハ百方手段ヲ盡
歩二九、三五 シテ速カニ其ノ原因ヲ排除シ突撃ヲ反復スベシ縱ヒ後方部隊ナキト雖モ
八、六〇三 幹部ト兵トノ勇氣ニ依リ既ニ占有セル地點ヲ確保シ猛烈ナル射撃ヲ爲シ氣勢
ヲ恢復シテ更ニ突撃ヲ復行シ極力其ノ目的ヲ達スルコトニ勉ムベシ此ノ際諸
兵種ヲ擧ゲテ勇敢ニ歩兵ニ協同シ敵ノ守兵ヲ壓倒シ或ハ逆襲シ來ル敵ヲ阻止
シ或ハ突撃路ヲ開設シ側防機能ヲ制壓スル等歩兵ニ突撃復行ノ動機ヲ與ヘ其
ノ實施ヲ緊密ニ支援セザルベカラズ
第四百四十五 既ニ獲得セル戰果ヲ擴張シ又ハ戰勢ノ挽回ヲ圖ル爲夜暗ヲ利用
シテ部署ヲ變更シ若クハ夜間一部ヲ以テ敵陣地ノ要點ヲ奪取シ拂曉ト共ニ有
利ナル形勢ニ於テ戰闘ヲ開始シ若クハ之ヲ進捗セシムルヲ可トスルコトアリ
第四章 夜間攻撃
第四百四十六 夜間ハ軍隊ノ協同動作及指揮ノ統一困難ニシテ動モスレバ錯誤
ヲ生ジ易シト雖モ企圖ヲ秘匿シ損害ヲ避ケ飛行機、戰車等ヨリ受クル各種ノ
妨害ヲ減シ又彈藥ヲ缺クモ戰闘力ヲ發揮シ得ルノ利ヲ有ス而シテ精銳ニシテ
夜間ノ行動ニ習熟セル軍隊ハ能ク其ノ害ヲ除キテ利ヲ收メ特ニ寡兵ヲ以テ衆
敵ニ對シ攻撃ノ奏功ヲ期シ得ルモノナリ

大部隊、
小部隊ノ
攻撃

夜間攻撃
ノ兵種、
歩六

夜間攻撃
ノ部署、
時刻

夜間攻撃
目標、歩
六四、六九

大部隊ニ在リテハ晝間得タル成果ヲ完全ナラシムル爲攻撃ヲ續行シ或ハ其ノ一部ヲ以テ敵陣地ニ於ケル若干ノ要點ヲ奪取シテ翌日ノ攻撃ヲ容易ナラシムル爲夜間攻撃ヲ行ヒ小部隊ニ在リテハ晝間、夜暗ニ乘ジテ敵ヲ奇襲スルコトアリ
狀況之ヲ要スレバ大部隊ヲ以テ夜間攻撃ヲ敢行シ又時トシテ敵ヲ欺騙シ或ハ我が行動ヲ秘匿スル等ノ爲一部ノ夜間攻撃ヲ實行スルコトアリ
第四百十七 夜間攻撃ハ主トシテ歩兵ノ任ズル所ナリ然レドモ狀況ニ依リ砲兵其ノ他ノ兵種ヲシテ之ニ協力セシムルコトアリ
第四百十八 夜間攻撃ノ部署ハ巧妙複雑ヲ避ケ實行ノ確實ナルヲ要ス而シテ軍隊ヲシテ攻撃地區ノ地形及敵陣地ノ狀態ニ通曉シ準備ヲ周到ナラシムルハ攻撃奏功ノ爲必要缺クベカラザル要件トス
第四百十九 夜間攻撃ヲ實施スベキ時刻ハ一般ノ狀況特ニ我が軍ノ目的ニ依リ變化スルモ克ク敵ノ狀態ヲ洞察シ警戒ノ虞ニ乗ジ得ル如ク選定スルコト緊要ナリ而シテ夜ニ入ルト共ニ直チニ之ヲ開始スルトキハ其ノ效果ヲ直チニ利用シテ攻撃先ヲ制シ得ベク又黎明ニ近ク之ヲ行フトキハ其ノ效果ヲ直チニ利用シテ攻撃ノ成果ヲ著大ナラシメ得ルコトアリ
第四百五十 夜間ノ攻撃目標ハ攻撃ノ目的ニ基キ狀況特ニ敵陣地ノ狀態等ニ應ジ選定スベキモノナリト雖モ其ノ縱深ハ晝間ニ比シ通常限定セラルルモノトス
攻撃目標ヲ指示スルニハ特ニ進出スベキ地線若クハ地點ヲ明示スルコト緊要

對瓦斯

夜間攻撃
計畫、命
令、指示
事項

大部隊ノ攻撃ニ在リテハ各部隊ニ特ニ明確ナル各個ノ攻撃目標ヲ指定スルヲ要ス而シテ第一線各部隊ノ協同動作ハ通常之ニ配當スル目標ノ選定、攻撃時刻ノ決定等ニ依リテ期シ得ル範圍ニ止ルモノトス
第四百五十一 夜間攻撃ニ在リテハ指揮官ハ精細ナル計畫ヲ定メ成ルベク晝間ニ於テ各部隊ノ指揮官ヲ集メ之ニ命令ヲ下シ以テ諸準備ヲ爲サシムベシ此ノ命令ニハ特ニ歩兵各部隊ノ攻撃目標、前進地域若クハ進路、相互ノ連絡及識別法、攻撃奏功後ノ處置等ヲ明示スベシ又遠距離ヨリ行動スル場合若クハ運動困難ナル地形ニ在リテハ各部隊ノ行動ヲ規正スル爲中間到着地點、時刻等ヲ指示ス可トス
夜間攻撃ニ方リテハ瓦斯ニ對スル警戒ヲ嚴ニシ撤毒地域ニ對シテハ適時迂回若クハ制毒等ノ處置ヲ講ズルヲ要ス
鐵條網、重火器等ニ側防機能等ヲ迅速ニ破壊若クハ制壓スルヲ必要トシ且他ニ適當ノ手段ナキトキ等ニ於テ企圖秘匿上支障ナケレバ戰車ヲ使用スルコトアリ此ノ場合ニ於テハ小部隊毎ニ歩兵ニ分屬シ其ノ任務ヲ勉メテ單一ナラシムルモノトス
砲兵ヲシテ歩兵ノ攻撃ニ協力セシムル場合ニ於テハ師團長ハ砲兵ノ任務特ニ歩、砲兵ノ協同ニ必要ナル事項其ノ他所要ニ應ジ射撃スベキ目標又ハ地域、時機等ヲ明示スルモノトス
狀況特ニ之ヲ要スレバ各部隊ノ指揮官ハ縱ヒ晝間十分ナル準備ヲ爲サザル場

歩兵ノ部
署 歩 九、六、九
敵陣突入
地點

夜間突擊
攻撃奏效
ノ要訣

合ニ於テモ尙諸種ノ手段ヲ盡クシテ攻撃ヲ遂行セザルベカラズ
夜間攻撃ニ於テハ狀況豫定ノ如ク進展セザル場合ノ對策ヲ考究シ豫メ必要ナル指揮官ニ指示シ置クヲ可トスルコトアリ
第百五十二 夜間攻撃ニ任ズル歩兵ハ通常第一線ト豫備隊トニ區分ス而シテ
縦深深ク敵陣地ヲ奪取セントスルトキハ二線ノ攻撃部隊ヲ設クルコト少カラ
ズ此ノ場合ニ於テモ所要ニ應ジ豫備隊ヲ設クルモノトス
夜間ニ於テ第一線部隊ノ突入スベキ地點ハ攻撃ノ目的ニ依リ差異アルモ通常
敵ノ守備就中障礙物薄弱ナルカ又ハ我ニ近接シテテ攻撃容易ナル部分ニ之
ヲ選定スルヲ可トス而シテ敵陣地ノ突出部ニ對シテハ其ノ背後ヲ攻撃シ該地
區ノ守兵ノ退路ヲ遮斷スル如ク陣地ノ凹部ニ對シテハ其ノ背後ヲ攻撃シ該地
リ又敵陣地ノ間隙ヲ突破シ敵ヲ背後ヨリ攻撃スルヲ可トスルコトアリ此等ノ
場合ニ於テハ特ニ友軍相互ノ衝突ヲ避クル爲細心ノ注意ヲ加フルヲ要ス
豫メ障礙物ノ破壊ヲ必要トスルトキ之ガ時機及方法ヲ如何ニ選定スベキヤハ
狀況ニ依ル
第百五十三 夜間攻撃ニ任ズル歩兵ハ準備ヲ周到ニシ且不注意ニ敵ニ肉薄シ白
兵ヲ揮ヒ一舉ニ決戦ヲ求ムルヲ要ス
夜間攻撃ニ任ズル歩兵敵ニ近接セバ決戦ニ必要ナル兵力ヲ第一線ニ備ヘ且各
部隊ヲシテ勉メテ集結セシムルヲ必要トス而シテ豫備隊ハ成ルベク第一線ニ
近接セシムベシト雖モ過早ニ戰鬪ノ渦中ニ投セザル如ク注意スルヲ要ス
夜間ノ突擊ハ至近ノ距離ヨリ之ヲ始メ各級指揮官ハ確實ニ部下ヲ掌握シ神速

二線攻撃
部隊ヲ設
クル場合
歩 五、〇、一、六
五、六
夜間火器
ノ威力利
用 歩 六、五、七

猛烈ニ其ノ攻撃目標ニ向ヒ突進スベシ突撃功ヲ奏シ所命ノ地線若クハ地點ニ
進出セバ各部隊ハ殘存セル敵ヲ掃蕩スルト共ニ迅速ニ秩序ヲ恢復シ警戒ヲ嚴
ニシ要スレバ所要ノ作業ヲ行ヒ以テ敵ノ恢復攻撃ニ備ヘ且隣接部隊トノ連絡
ヲ圖リ敵トノ接觸ヲ確保シ爾後ノ行動ヲ準備スベシ
第百五十四 二線ノ攻撃部隊ヲ設クル場合ニ於テ第一線攻撃部隊所命ノ地線
若クハ地點ヲ奪取セバ速力ニ秩序ヲ恢復シ警戒ヲ嚴ニシテ敵ノ逆襲ニ備ヘ又
第二線攻撃部隊ハ適宜集結シテ第一線攻撃部隊ニ續行シ該部隊豫定ノ目標ヲ
奪取スルヲ機ヲ失セズ勉メテ其ノ側方ヨリ超越シ所命ノ目標ニ向ヒ前進スル
モノトス此ノ際友軍ノ相擊、部隊ノ混淆等夜間ノ錯誤ヲ避クルコトニ關シ萬
全ヲ期セザルベカラズ
第百五十五 夜間火器ノ威力ヲ利用シ攻撃ヲ強行スルヲ要スル場合ニ於テハ
砲兵ハ通常攻撃セントスル敵陣地ノ制壓及敵ノ第一線ト後方部隊トノ遮斷ヲ
行ヒ要スレバ我が攻撃ヲ妨害スベシト豫想スル敵ノ制壓ニ任ジ步兵ハ其ノ重
火器ヲ以テ敵ノ自動火器、照明機關等ヲ破壊若クハ制壓シ又逆襲部隊ヲ阻止
スル等敵陣地ト他方面トノ遮斷ヲ行フモノトス而シテ攻撃奏功セシ地點ヲ確
保スル爲射擊スル場合ニ於テハ砲兵ハ步兵ト緊密ニ連絡シ敵ノ逆襲ヲ阻止ス
ベキ要點ニ對シ適時射擊ヲ行フモノトス
火器ノ使用ハ我が企圖ヲ暴露シ且動モスレバ齟齬ヲ生ジ友軍ニ危害ヲ與フル
ノ虞アルヲ以テ協同スベキ歩、砲兵ノ指揮官ハ晝間ニ於テ會同シ現地ニ就キ
歩兵ノ行動、之ニ伴フ砲兵射擊、之ト步兵重火器射擊トノ關係、攻撃奏功セ

一部隊ノ行動、砲兵射撃
 後ノ攻撃動作
 防禦ノ主眼
 防禦ノ方

シ地點ヲ確保スル爲ノ射撃等必要ノ事項ニ關シ周到ナル協定ヲ遂ゲ且各部隊ハ畫間ヨリ十分ナル準備ヲ整ヘ戰鬪ニ方リテハ各部隊間ノ連絡ヲ特ニ緊密ニシテ遺漏ナキヲ期セザルベカラズ
 第百五十六 夜間攻撃ノ奏功ヲ容易ナラシムル目的ヲ以テ一部隊ノ行動若クハ砲兵ノ射撃其ノ他照明等ニ依リ敵ノ注意ヲ他方面ニ牽制セントスル如キ處置ハ却ツテ敵ノ注意ヲ喚起シ全般ノ計畫ヲ齟齬セシムルノ因ヲ成スコトアルヲ以テ特ニ慎重ナル考慮ト精密ナル準備トヲ緊要トス
 第百五十七 夜間攻撃功ヲ奏セバ通常拂曉以後ノ戰鬪ヲ有利ナラシムル爲歩兵ノ指揮官ハ部隊ノ掌握ヲ確實ニシ重火器其ノ他配屬セラレタル諸隊ヲ適時推進シ關係部隊トノ連絡ヲ確實ニシ逐次畫間ノ態勢ニ移リ又師團長ハ速カニ全般ノ狀況ヲ判斷シテ必要ナル部隊ヲ第一線歩兵ニ配屬シ砲兵及豫備隊ヲ推進スル等爾後ノ戰鬪遂行ニ關シ遺憾ナキヲ期セザルベカラズ此ノ間各級指揮官ハ速カニ敵情ヲ搜索スルコト緊要ナリ

第三篇 防禦

第百五十八 防禦ノ主眼ハ地形ノ利用、工事ノ施設、戰鬪準備ノ周到等物質的の利益ニ依リ兵力ノ劣勢ヲ補ヒ且火力及逆襲ヲ併用シテ敵ノ攻撃ヲ破摧スルニ在リ
 第百五十九 防禦ニ在リテハ一箇ノ陣地帯主陣地帯ト稱スヲ最モ堅固ナラシメ該地帯

式ノ主動ヲ避ケ主動ナレ
 敵情察知
 我が企圖
 秘匿ノ記
 本篇ノ記
 陣地偵察
 一步二六二

ノ前方ニ於テ敵ノ攻撃ヲ破摧スルヲ本旨トス
 第百六十 防禦者ハ動モスレバ全ク受動ニ陥リ行動ノ自由ヲ失フニ至リ易シ故ニ各級指揮官ハ特ニ堅確ナル意志ヲ以テ勉メテ主動的ニ企圖ヲ遂行シ苟モ乘ズベキ罅隙ヲ發見セバ機ヲ失セズ之ヲ利用スルヲ要ス之ガ爲要スレバ配備ヲ變更シ又既ニ築設シタル工事モ之ヲ棄ツルニ躊躇スベカラズ
 第百六十一 防禦ニ在リテハ敵情就中其ノ企圖ヲ速カニ察知スルト共ニ我が企圖ヲ秘匿スルコト極メテ緊要ナリ故ニ各級指揮官以下諸種ノ手段ヲ盡クシテ此ノ要求ヲ充足セザルベカラズ
 第百六十二 本篇ニ於テハ著シク優勢ナル敵ニ對シ防禦スル場合ヲ主トシテ記述シ又攻勢ヲ企圖スル場合ノ防禦ニ關シテハ特異ノ事項ヲ附記ス
 第一章 防禦陣地及陣地占領
 第百六十三 師團長防禦ヲ爲スニ決セバ敵ノ遠近ニ應ジ通常騎兵或ハ其ノ他ノ部隊ヲシテ前方ノ要線ヲ占メ搜索及警戒ニ任セシメ其ノ掩護下ニ陣地ヲ占領スルモノトス之ガ爲先ヅ自ラ陣地ノ偵察ヲ行フト共ニ師團砲、工兵指揮官及其ノ他ノ機關ヲシテ所要ノ偵察ヲ遂ゲシメ且築城材料ノ整備ヲ爲サシム此ノ間師團長ハ諸隊ヲシテ爾後ノ陣地占領ニ便ニシテ敵眼特ニ空中搜索ニ對シ遮蔽シ得ル如ク位置セシムルモノトス狀況ニ依リ行軍ノ態勢ヨリ直チニ諸隊ヲ豫定陣地ニ向ヒ分進セシムルコトアリ此ノ際機ヲ失セズ防空ノ處置ヲ講ズルコト緊要ナリ
 陣地ノ偵察ハ主トシテ主陣地帯一般ノ狀態特ニ豫想スル敵ノ主攻撃方面並ニ

防禦計畫
歩六二

主陣地ニ
具備スベ
キ性能

我が主力ヲ配置セントスル方面ノ地形、地區ノ區分、戰車及砲兵ノ用法、歩砲兵火力配置ノ關係、豫備隊ノ位置等所要ノ事項ニ就キ之ヲ行フモノニシテ其ノ精粗ハ使用シ得ベキ時間ノ多少ニ依リ異ナルモノトス

師團砲、工兵指揮官ハ自己及部下ノ偵察ニ基キ必要ナル意見ヲ師團長ニ具申スルヲ要ス爾餘ノ師團配屬部隊ノ指揮官モ亦之ニ準ズ

陣地偵察ノ動作ハ敵ニ我ガ陣地判斷ノ憑據ヲ與ヘ易キモノナルヲ以テ各級指揮官ハ特ニ其ノ秘匿ニ留意セザルベカラズ

百六十四 師團長ハ任務、敵情、地形、防禦設備ノ爲使用シ得ベキ時日ノ長短等ニ基キ防禦ノ方針ヲ定メ防禦計畫ヲ策定ス

防禦計畫ニ於テハ戰鬪指導ノ要領、主陣地帯ノ位置、陣地占領ノ爲軍隊ノ部署要スレバ部下指揮官ノ位置、觀測所ノ配當、搜索及警戒ノ處置、隣接部隊トノ連繫、陣地前ニ在ル部隊ノ行動、逆襲、防空、連絡、瓦斯防護、交通設備、陣地ノ構築、彈藥及諸資材ノ整備等ニ就キ所要ノ事項ヲ決定スルモノトス

防禦計畫ノ精粗ハ時間ノ餘裕ヲ有スル程度ニ依リ差異アリト雖モ狀況ニ適合セシムルヲ主眼トシ要スレバ爾後之ヲ補修スルモノトス

百六十五 主陣地帯ハ歩兵ノ抵抗地帯、主力砲兵ノ陣地及其ノ他ノ諸設備ヨリ成ルモノニシテ良好ク地形ニ適合シ歩兵ノ抵抗地帯ト砲兵陣地トノ關係ヲ良好ナラシメ我が歩、砲兵ノ火力ヲ該地帯ノ前方ニ最モ有效ニ協調發揮シ得ルコト緊要ナリ而シテ敵ノ火力發揚ヲ困難ナラシメ特ニ陣地ノ主要ナル部分

敵陣地前
ノ地形

歩兵ノ火
力配置
歩六三、六

チ成ルベク敵ノ地上觀測及戰車ノ攻撃ヨリ免レ得ル地域ニ選定スルヲ得バ有利ナリ而シテ敵ノ戰車ニ對スル顧慮大ナルトキハ勉メテ天然ノ障礙物ヲ利用スル如ク抵抗地帯ノ位置ヲ選定スルト共ニ敵歩戰砲ノ協同戰鬪ヲ困難ナラシムル地形ノ利用ニ著意スルヲ要ス

百六十六 陣地前ノ地形ハ通常開豁ニシテ遠キ射界ヲ有スルヲ利アリトス然レドモ狀況ニ依リテハ其ノ一部ニ於テ短小ナル歩兵ノ射界ヲ以テ満足セザルベカラザルコトアリ高地ヲ占領スルニ方リ最前線ヲ後方ニ配置スルガ如キ場合ニ於テハ敵方ニ面セル斜面ヲ陣地ノ他部特ニ砲兵ニ依リ射撃シ得ルコト緊要ナリ

主陣地帯ノ地形ハ戰鬪ノ支撐タルニ適スル地域ヲ含ミ部隊ノ縱深配備ニ適シ良好ナル監視及觀測所ヲ有シ對戰車防禦ニ便ニシテ瓦斯滯留ノ虞少ク其ノ内及背後ノ交通自在ニシテ敵眼ニ遮蔽シアルヲ可トス

陣地ノ翼ハ地形上敵ノ包圍ニ對シ堅固ナルヲ得バ有利ナリ然ラザル場合ニ於テハ部隊ノ配置、工事等ニ依リ之ヲ補フヲ要ス

陣地ノ各部ハ悉ク所望ノ價值ヲ有スルコト稀ナリ故ニ兵力ノ部署、工事等ニ依リ之ヲ補ハザルベカラズ

百六十七 歩兵ノ火力配置ノ要領ハ其ノ抵抗地帯ノ前方ニ於テ各種歩兵火器ヲ以テ濃密ナル火網ヲ構成シ且火網外ノ要點及陣地帯内部ヲモ所要ニ應ジ有效ニ火制シ得ル如ク設備スルニ在リ

敵歩兵ニ對スル砲兵ノ火力配置ノ要領ハ警戒陣地ノ前方ヨリ主陣地帯ノ直前

砲兵ノ火力配置
 二互ル地域ニ其ノ火力ノ大部ヲ指向シ特ニ主陣地帯歩兵火網ノ直前及同火網内部ニ於テ濃密ナラシメ且主陣地帯内部ニ對シテモ所要ニ應ジ火力ヲ指向シ得ル如クスルモノトス而シテ豫期スル敵ノ主攻撃方面及我が逆襲ヲ豫想スル地域ニ於テ其ノ火力ヲ濃密ナラシムルヲ要ス又隣接兵團ノ作戰地域内特ニ之トノ接續部附近ニモ所要ノ火力ヲ指向シ得ル如クスルコト必要ナリ

防禦地區ノ區分
 第百六十八 陣地ハ防禦ノ方針ニ基キ地形ト指揮ノ便否トヲ考慮シテ之ヲ若干ノ地區ニ分チ各地區ニハ歩兵ヲ主トスル適應ノ部隊ヲ配置スルモノトス地區ノ數及之ニ備フベキ兵力ハ狀況ニ依リテ差異アリ例ヘバ豫期スル敵ノ主攻撃方面又ハ射界不良ナル地區ニハ其ノ兵力ヲ大ニシ陣地内ノ交通困難ナルトキハ地區ノ數ヲ增加スルガ如シ

狀況ニ依リ各地區占領部隊ヲシテ自ラ陣地前ヲ側防シ又ハ敵ノ戰車ヲ射撃セシムル等ノ目的ヲ以テ之ニ若干ノ砲兵ヲ又所要ニ應ジ一部ノ工兵ヲ配屬ス各地區占領部隊ノ戰鬪地域ハ陣地ノ境界、前地ノ區分、搜索及警戒ノ擔任ヲ明カナラシムル如ク抵抗地帯ノ後端附近ヨリ警戒陣地ノ前方ニ互リ劃定スルヲ通常トシ廣闊ナル地形ニ在リテハ標識ヲ設置スル等ノ處置ヲ必要トスルコトアリ

第百六十九 警戒部隊ハ各地區毎ニ出シ敵情ヲ搜索シ且主陣地帯ヲ掩蔽スルモノトス時宜ニ依リ其ノ全部若クハ一部ヲ以テ敵ノ攻撃ヲ遲滯セシムル等前進陣地占領部隊ニ準ズル任務ヲ附課スルコトアリ

師團長ハ警戒部隊ノ占ムベキ陣地概略ノ位置ヲ示シ要スレバ兵力ヲ指定シ又

警戒陣地
 其ノ動作ヲ統一ス而シテ警戒陣地ノ撤退特ニ其ノ時機ニ關シテハ豫メ明確ナル命令ヲ與フベシ

兵力
 警戒陣地ハ我が砲兵ノ支援シ得ル距離ニ設ケ狀況ニ依リ機關銃ヲ以テ支援シ得ル距離ニ接近セシム而シテ成ルベク良好ニ遮蔽セラレ敵ノ搜索ヲ妨害シ我が搜索ノ據點タルニ適スル如ク選定スルヲ要ス

配置
 警戒部隊ノ兵力ハ狀況特ニ任務、地形等ニ依リ異ナルモ勉メテ之ヲ小ナラシムルヲ可トス時トシテ警戒陣地ノ一部若クハ全部ヲ省略スルコトアリ

戰車ノ用法
 第百七十 戰車ハ通常之ヲ逆襲ニ使用ス之ガ爲當初師團長ノ直轄トシテ控置シ使用方面決定セバ成ルベク速カニ該方面ノ第一線部隊ニ配屬スルヲ通常トス

砲兵ノ配
 第百七十一 砲兵ハ所望ノ如ク火力ヲ運用シ得ルヲ主トシ成ルベク之ヲ縱深戰車ハ未ダ之ヲ使用セザル間ニ在リテハ豫想スル使用方面、地形、敵砲火ノ關係等ヲ考慮シテ其ノ位置ヲ定メ意圖ヲ明示シテ爾後ノ進出及諸兵種ノ協同等ニ關スル諸準備ヲ周到ナラシムルモノトス

逆襲ノ爲戰車ヲ使用スルニ方リテハ目標ヲ示シ神速短切ナル攻撃ヲ行ハシムルヲ通常トス若シ優勢ナル敵戰車ト對戦スベキ狀況ニ於テハ友軍對戰車火力トノ協調ヲ特ニ緊密ニシ敵戰車ノ不利ナル狀態ニ乗ズルヲ有利トス

狀況ニ依リ敵ノ攻撃準備間戰車ヲ以テ之ヲ急襲擾亂セシムルコトアリ

置
觀測所ノ
位置
高射部隊
ノ配置
工兵ノ用
法

ニ配置シ其ノ任務ニ應ジ敵ヲ遠距離ニ支ヘ又ハ最後ノ時期ニ至ル迄其ノ位置ヲ變ズルコトナク步兵ニ協同シ得テ敵砲火ノ損害ヲ避ケ緊要ノ時期ニ於テ十分ナル威力ヲ發揚スルニ遺憾ナカラシムルヲ要ス
敵ノ近接運動及攻撃準備ヲ妨害スル目的ヲ以テ當初主陣地帯ノ前方ニ一部ノ砲兵ヲ配置スルコトアリ
狀況ニ依リ砲兵ヲ步兵ノ抵抗地帯内ニ配置セザルベカラザルトキハ特ニ抵抗地帯直前及内部ノ戰鬪竝ニ逆襲ニ方リ動作ノ自由ヲ失ハザル如ク注意スルヲ要ス
觀測所ノ位置ハ步兵ノ抵抗地帯ノ後方ニシテ所望ノ地域ヲ觀測シ得ル地點ニ選アテ得バ最も可ナリト雖モ若シ適當ノ位置ヲ發見シ得ザルトキハ之ヲ步兵ノ抵抗地帯内ニ置キ或ハ之ガ爲テ特ニ抵抗地帯ノ一部ヲ前方ニ出スノ止ムヲ得ザルコトアリ其ノ他夜間又ハ濃霧、塵煙等ノ爲觀測困難ナル場合ニ於テモ任務ノ達成ニ支障ナカラシメンガ爲要スレバ觀測所ヲ主陣地帯前方ノ要點ニ配置シ所要ノ步兵ヲ以テ之ガ掩護ニ任セシムルコトアリ
第百七十二 高射部隊ハ師團ノ態勢、地形、敵飛行機ノ行動、戰況等ヲ考慮シ上空ニ對シ掩護若クハ秘匿ヲ最モ必要トスル部隊、場所、時期等ヲ定メ之ニ應ジテ其ノ配置ヲ決定スルモノトス
第百七十三 工兵ハ陣地要部ノ設備、障礙ノ施設、陣地内及後方ノ交通設備、陣地前交通網ノ破壞若クハ阻絶、築城材料ノ整備等ノ中主トシテ技術的能力ヲ必要トスル作業ヲ擔任スルモノトス

通信連絡
設備 歩六
三六、六九
豫備隊ノ
位置
對戰車防
禦 歩六三

第百七十四 師團長ハ成ルベク速カニ通信隊長ニ通信施設ノ要綱ヲ示シ以テ前方ニ派遣セラレアル部隊等トノ連絡ヲ保持シ情報收集ニ便ナラシムルト共ニ主陣地帯ノ通信施設ニ著手セシムルコト緊要ナリ
各關係指揮官相互ノ間及之ト監視、觀測機關トノ間ニ連絡ノ施設ヲ完備シ且戰鬪激烈ナル時期ニ在リテモ連絡ノ杜絶セザル如ク之ヲ防護スルコト特ニ緊要ナリ
第百七十五 豫備隊ノ位置ハ我が企圖、兵力、敵情、地形等ヲ考慮シ豫期スル戰況ニ應ジテ防禦ノ目的ヲ達成スルニ便ナル如ク之ヲ定メ適宜疎開シ所要ノ工事ヲ施スモノトス
第百七十六 敵ノ戰車ハ極力之ヲ陣地前ニ破摧スルコトニ勉ムベシ然レドモ陣地内ニ於テモ之ニ對應スルノ處置ニ就キ遺憾ナキヲ期セザルベカラズ之ガ爲對戰車防禦ノ施設ハ陣地前緣附近ノミナラズ陣地内ノ要點ニモ之ヲ必要トシ勉メテ天然ノ障礙物ヲ利用スルト共ニ巧ニ對戰車火砲ヲ配置シ其ノ不足ヲ人工ノ障礙物ニ依リ補フモノトス
對戰車施設ハ前方ノ地形戰車ノ近接ニ便ナルニ從ヒ其ノ程度ヲ嚴ナラシムルヲ要ス又敵ノ步兵ヲ其ノ協同スル戰車及砲火ヨリ分離セシムル爲豫メ隱蔽セシル側防機能、係蹄地帯等所要ノ施設ヲ爲スコト緊要ナリ此等諸施設ハ極力之ヲ秘匿セザルベカラズ
砲兵ハ特ニ敵戰車阻止ノ射擊及敵ノ戰車隨伴砲制壓ノ準備ヲ整ヘ戰車ヲ遮蔽セントスル敵ノ煙ノ爲其ノ射擊ヲ妨害セラレザル如ク考慮スルヲ要ス陣地前

對瓦斯防護 步六四

防禦命令 步六三

線附近ニ於テ對戰車射撃ノ爲野(山)砲ヲ專任セシムルハ通常他ニ手段ナキト
 キニ限ルモノトス
 後方部隊ニ屬スル對戰車火砲ハ其ノ附近ニ於テ友軍ニ危害ヲ及サザルコトヲ
 考慮シ射撃準備ヲ爲スモノトス陣地内ニ位置スル各種火砲モ亦自衛ノ爲此ノ
 著意アルヲ要ス
 敵戰車ノ攻撃目標トナリ易キ我が歩兵重火器ニハ適切ナル偽裝ヲ施シ砲兵、
 司令部等ハ其ノ位置ノ選定ヲ適切ナラシムルト共ニ適宜自衛ノ處置ヲ講ジ要
 スレバ掩護隊ヲ附スルモノトス
第七十七 師團長ハ敵ノ瓦斯使用ヲ豫察スベキ狀況ニ於テハ氣象、地形等
 ナ考慮シ適宜防護資材ヲ分配シ豫備資材及消毒部隊ヲ適當ノ地點ニ配置シテ
 臨機迅速ニ使用シ得ル如ク準備シ要スレバ消毒部隊ヲ最初ヨリ必要ナル方面
 ノ部隊ニ配屬スルモノトス又狀況ニ依リ各部隊ノ氣象及瓦斯勤務ヲ統制スル
 コトアリ
 各級指揮官ハ瓦斯防護資材ノ分配及防護施設ヲ適切ニシ若シ豫メ消毒部隊ヲ
 屬セラレタルトキハ豫備資材ト共ニ必要ノ時機迄之ヲ控置スルヲ通常トス狀
 況ニ依リ瓦斯勤務員ヲ集結シテ使用シ或ハ臨機消毒部隊ヲ編成シテ使用スル
 コトアリ
 陣地ノ一局部甚ダシク汚毒セラレ止ムヲ得ズ配備ノ小變更ヲ要スル場合ニ於
 テ全般ノ防禦機能ニ缺陷ナカラシメンガ爲ニハ豫メ計畫シ置クヲ可トス
第七十八 師團長防禦計畫ヲ策定セバ之ニ基キ防禦ニ關スル命令ヲ下シ各
 部隊ヲシテ陣地ヲ占領セシム而シテ此ノ命令ニ示スベキ主要ナル事項通常左
 ノ如シ

前進陣地

敵情監視 施設

地區占領部隊ノ爲ニハ其ノ兵力、編組、抵抗地帯ノ前線、戰鬪地域、警戒
 部隊ニ關スル事項要スレバ他兵種トノ協同、側防ノ關係等
 砲兵ノ爲ニハ各時期ニ於テ所望ノ方面若クハ場所ニ配置スベキ火力及其ノ
 目的、陣地ト爲スベキ地域、使用シ得ベキ彈藥ノ概數、效力射準備射撃
 ノ時機、歩兵トノ協同ニ關スル事項要スレバ戰鬪初期ニ於ケル任務等
 工兵ノ爲ニハ實施スベキ作業ノ種類、程度、完成時期等
 其ノ他防禦計畫ニ從ヒ豫備隊、戰車、騎兵、高射部隊、消毒部隊、飛行機、
 通信部隊等ニ關シ必要ノ事項ヲ示スモノトス
第七十九 前地ニ於ケル要點ノ過早ニ敵手ニ歸スルヲ妨グ或ハ敵ヲシテ其
 ノ展開方向ヲ誤ラシメ或ハ敵ノ近接ヲ困難ナラシムル等ノ目的ヲ以テ陣地前
 方ニ一時前進陣地ヲ占領スルコトアリ其ノ兵力、編組ハ目的、地形等ニ依リ
 差異アルモ必要ノ最小限ニ止メ指揮官ノ選定ニハ慎重ナル考慮ヲ拂ヒ特ニ明
 確ナル任務ヲ附與スルヲ要ス
 前進陣地ノ撤退ニ關シテハ之ガ占領ヲ命ジタル指揮官ハ豫メ其ノ時機、收容
 ノ方法等ヲ規定シ且關係部隊ニ之ヲ明示シ以テ敵ノ追躡シテ本陣地ニ近接ス
 ルヲ妨グ且豫期セザル戰鬪ノ惹起ヲ避ケ得ル如ク準備スルコト緊要ナリ
第八十 不斷ノ敵情監視ハ防禦ニ於テ特ニ緊要ナリ之ガ爲師團長ハ自ら所
 要ノ機關ヲ配置シ豫メ必要ノ施設ヲ爲サシムルノ外要スレバ各部隊ノ監視ニ

陣地編成	師團工兵	砲兵	步兵直協	師團砲兵
------	------	----	------	------

ヲ占領シ所要ノ工事ヲ施シ且常ニ主陣地帯トノ連絡施設ヲ爲スモノトス
 警戒部隊ノ抵抗ノ程度及撤退ノ方法ハ主陣地帯ノ戰鬪ニ大ナル影響アルヲ以
 テ地區指揮官ハ豫メ之ニ關シ的確ナル命令ヲ與フルコト緊要ナリ
 第百八十三 師團砲兵指揮官ハ師團命令ニ基キ戰鬪ニ關スル計畫ヲ定メ部
 諸隊ヲ部署シテ陣地ヲ占領シ且戰鬪ノ諸準備ヲ完成セシム
 防禦ニ在リテハ戰況ニ應ジ運用スベキ火力ヲ當初成ルベク大ナラシムルコト
 緊要ナリ而シテ我が歩兵ニ直接協同スルヲ要スル時期ニ至レバ之ニ用フル火
 力ヲ十分ナラシムルヲ要ス
 步兵ニ直接協同スベキ砲兵ノ指揮官ハ豫メ協同スベキ地區ノ指揮官ト連絡シ
 步兵陣地ノ狀況就中第一線ノ位置、歩兵ノ火力配置、戰鬪指導ニ關スル地區
 指揮官ノ企圖ヲ知得シ之ニ基キ先ヅ自己ノ戰鬪ニ關スル計畫ノ要旨就中協同
 スベキ歩兵ニ關係アル火力ノ配置及目的、射擊實施ノ要領、陣地特ニ歩兵ノ
 抵抗地帯内ニ配置スベキ觀測所ノ位置等ヲ通報シ狀況ノ推移ニ應ジ逐次協定
 ナ完全ナラシムルモノトス逆襲準備ニ關シ特ニ然リトス
 第百八十四 師團工兵指揮官ハ師團命令ニ基キ作業ノ種類及量、使用シ得ベ
 キ材料、時間ノ關係等ヲ考慮シ作業ニ關スル計畫ヲ定メ且關係部隊ト密接ニ
 協同シテ狀況ニ適合スル如ク作業ヲ實施スルモノトス又逆襲ヲ考慮シ所要ノ
 準備ヲ爲スヲ要ス
 第百八十五 陣地ノ編成ハ防禦ノ方針ニ基キ狀況特ニ地形ニ應ジ火力ノ發揚
 及逆襲ノ實施ニ便ナラシムルコト緊要ニシテ時間及材料ノ許ス限り十分ナル

六三	與二警戒部隊	地區ノ豫	備隊	抵抗地帯	地區占領	官地區指揮	地區指揮
----	--------	------	----	------	------	-------	------

關シ全般ヲ統一スルコトアリ此ノ際戰況ノ進展、煙ノ使用、氣象ノ變化等ニ
 依リ缺陷ヲ生セシメザルノ著意ヲ必要トス
 第百八十一 地區指揮官ハ師團命令ニ基キ部下諸隊ヲ部署シ陣地ノ編成ヲ完
 備シ且搜索及警戒ノ處置ヲ講ズ
 地區占領部隊ハ其ノ歩兵ヲ通常警戒部隊、第一線部隊及豫備隊ニ區分ス而シ
 テ第一線部隊ハ歩兵ノ抵抗地帯ニ於ケル防禦ノ主體ヲ爲スモノトス
 抵抗地帯ハ通常第一線歩兵大隊之ヲ占領ス而シテ大隊陣地ハ獨立シテ之ヲ保
 持シ得ル如ク設備シ濃密ナル火網ヲ編成シ陣地前ノ要點ニハ通常火力ヲ急襲
 的ニ集中シ得ル如ク準備スルモノトス又各大隊ノ間隔及前地ハ互ニ有效ニ側
 防シ得ル如クス之ガ爲要スレバ其ノ間隔ニ一部隊ヲ配置スルコトアリ
 地形ノ關係ニ依リ抵抗地帯ノ前方ニ良ク秘匿シ且掩護セラレタル自働火器ヲ
 配置シ陣地ノ正面ヲ側防セシムルヲ特ニ有利トスルコトアリ
 地區ノ豫備隊ハ其ノ地區ノ防禦ヲ完カラシムル爲主トシテ逆襲ニ使用セラル
 ルモノニシテ其ノ位置ハ地形ト第一線部隊ノ配置トヲ考慮シ最モ有利ニ逆襲
 ナ實施シ得ル如ク之ヲ選定シ適宜疎開シ且所要ノ工事ヲ施シ置クコト緊要ナ
 リ
 地區指揮官ハ陣地占領ニ方リ逆襲ノ計畫ヲ定メ所要ノ準備ヲ爲スモノトス
 第百八十二 地區指揮官ハ警戒部隊ニ任務ヲ與ヘ其ノ位置及行動ヲ律ス狀況
 ニ依リ第一線部隊ヲ警戒部隊ニ配置セシメ之ヲ統一スルコトアリ
 警戒部隊配置ノ要領ハ其ノ任務、兵力、地形等ニ依リ變化スト雖モ通常要點

陣地ノ設

陣地秘匿

工事ヲ施スベキモトス時間ノ餘裕ナキ場合ニ於テハ各部隊ハ先ヅ速カニ火力配置ヲ完全ナラシムルヲ要ス
 陣地ノ設備ニ方リテハ第一ニ要點ヲ堅固ナラシムルガ爲先ヅ射撃、視察、連絡及障得ノ設備ヲ施シテ交通、掩護、瓦斯防護等ノ設備ヲ行ヒ時間ヲ得ルニ從ヒ逐次之ヲ縱深ニ及スモノトス又工事ハ必要ノ程度少キ方面ニ在リテモ之ヲ忽セニスベカラズ
 交通設備ハ縱方向ノミナラズ横方向ニモ亦之ヲ設ケ陣地内ノ行動ヲ安全ニシ且連絡ヲ容易ナラシムルト共ニ偽工事ト相俟テ陣地要點ノ所在ヲ敵ニ察知セラレザル如クスルヲ要ス
第八十六 師團長ハ陣地ノ秘匿ニ關シ必要ナル處置ヲ講ジ嚴ニ其ノ實施ヲ監督スルヲ要ス
 陣地秘匿ノ目的ヲ達成センガ爲ニハ警戒部隊等ヲ配置シ又敵飛行機驅逐ノ處置ヲ講ズルノ外各級指揮官ハ工事ノ開始ニ先ダチ通常所要ノ偽裝ヲ行ヒ又交通ノ痕跡ヲ消滅シ或ハ之ヲ増加シテ欺騙シ工事ヲ地形ニ適合セシメ守兵ノ行動ニ注意シ特ニ砲兵、重火器等ニ在リテハ適時移動ヲ行ヒ以テ陣地ノ要點及配備ヲ判別シ難カラシムルコト緊要ナリ
 陣地ヲ秘匿センガ爲晝間ハ準備ノミニ止メ夜ニ入り陣地ノ占領及工事ニ著手スルヲ利トスルコトアリ
 偽裝、偽工事等ニ依リ敵ヲ欺テ我が兵力、配備等ヲ誤認セシメンガ爲荷モ時間、兵力、材料等ノ許ス限リ其ノ施設ヲ完全ナラシムルヲ可トス之ガ爲各級

陣地後方交通設備

彈藥整備

防禦正面增大ノ配

指揮官適宜之ヲ實施スルノ外特ニ敵ヲシテ抵抗地帶前線ノ判定ヲ誤ラシメ或ハ眞陣地ヲ誤認シ其ノ攻撃方向ヲ誤ラシムル等ノ目的ヲ以テ師團長ノ統一セラル企畫ニ基キ偽工事ヲ設ケルヲ可トスルコトアリ
 偽工事ヲ設ケルニ際シテハ之ニ對スル敵火ノ爲友軍ニ危害ヲ及サザルコトニ注意スルヲ要ス
 我が陣地ヲ敵方及上方ヨリ視察若クハ撮影スルハ陣地秘匿ノ状態及之ニ應ズル處置ヲ知ル爲重要ナル手段ナリ
第八十七 陣地ノ設備ニ方リ師團長ハ成ルベク速カニ陣地ノ後方ニ於ケル交通路ヲ補修又ハ新設シ以テ軍隊ノ移動、軍需品ノ補給等ニ便ナラシムルコト緊要ナリ
第八十八 多數ノ彈藥ヲ整備スルハ防禦ニ於テ特ニ緊要ナリ而シテ彈藥ノ集積ニハ多クノ輸送力及時間ヲ要スルヲ以テ綿密ナル計畫ヲ立テ速カニ之ニ著手シ勉メテ敵火ニ對シ安全ナル如ク集積シ且戰鬪激烈ノ時期ニ於テモ圓滑ニ補充シ得ル如ク處置スルヲ要ス
第八十九 防禦正面兵力ニ比シ増大スルニ從ヒ第一線部隊ノ陣地ハ之ヲ獨立性アル據點ニ編成シ據點ノ間隔ヲ適宜増大シ該間隔ハ地形及偽工事等ノ巧ナル利用ト兩側部隊ノ側防トニ依リ敵ノ突破ヲ防止スルモノトス
 防禦正面兵力ニ比シ益々増大シ敵ノ突破ニ對シ全正面ニ互ル各據點間隔ノ防禦困難ナル狀況ニ於テハ侵入スル敵ニ對シ第二線ニ控置スル兵力ヲ以テ果敢ナル逆襲ヲ行ヒ之ヲ擊攘スルモノトス之ガ爲控置スル兵力ハ勉メテ之ヲ大ニ

攻勢ヲ企
圖スル防
禦

シ據點ノ數及兵力ハ成ルベク之ヲ節約スルト共ニ爲シ得ル限り堅固ニ施設シ且獨立性ヲ大ナラシムルコト緊要ナリ
各據點ノ兵力ハ負擔セシムベキ任務ニ應ジ通常歩兵一大隊以上ヲ必要トシ據點間隔及比隣據點ノ側防、陣地補強等ノ關係ヲ考慮シ所要ノ砲、工兵等ヲ加フルモノトス
主力砲兵ヲシテ陣地ヲ占領セシムベキヤ或ハ其ノ一部若クハ大部ヲ控置スベキヤハ狀況ニ依ル何レノ場合ニ於テモ砲兵ヲ孤立セシムルコトナク對戰車及對空防禦ノ準備ヲ十分ニシ且必要ノ豫備陣地ヲ設クルコト緊要ナリ狀況ニ依リ一部若クハ大部ノ砲兵ヲ最初ヨリ各據點ノ掩護下ニ位置セシムルヲ可トスルコトアリ
警戒陣地ハ之ヲ一連ニ設クルコトナク主トシテ敵ノ急襲ヲ偵知シ得ルヲ度トシ最小限ノ兵力ニ依リ監視網ヲ構成スルヲ通常トス
行李、輜重ハ狀況ニ依リ第一線部隊ニ近ク分置シ或ハ地障ノ掩護下ニ位置セシムルコトアリ
第百九十 攻勢ヲ企圖スル防禦ニ在リテハ其ノ陣地ハ我が兵力ニ適合スルト共ニ有利ニ攻勢ヲ轉ジ得ル如ク之ヲ選定シ工事ノ築設、連絡ノ施設、軍隊ノ配置等ヲ適當ナラシメ以テ守備ニ充ツベキ兵力ヲ成ルベク節約シ攻勢ノ爲自由ニ使用シ得ル兵力ヲ大ナラシムルモノトス而シテ豫備隊ハ成ルベク攻者ノ外翼又ハ側面ヲ包圍スルニ便ナラシムル如ク陣地ノ翼側等ニ配置スルヲ有利トス

一地固守
ノ防禦

第百九十一 一地ヲ固守セントスル防禦ニ在リテハ成ルベク敵ノ攻撃ヲ阻碍スベキ地形ヲ利用シ且諸種ノ障礙ヲ設置シ各方面ニ對シ陣地ヲ設備シ全力ヲ盡クシテ之ヲ死守スルモノトス而シテ苟モ逆襲ノ好機ヲ得バ斷然之ヲ決行スルヲ要ス

第二章 防禦戰闘

飛行機前
方派遣騎
兵等ノ行
動

第百九十二 飛行機、騎兵、陣地前ニ派遣セラレタル各部隊、第一線部隊等ハ當面ノ狀況就中敵ノ兵力區分、到達地點、後續部隊ノ有無及狀態、攻撃準備ノ程度等ヲ適時報告シ上級指揮官ノ戰闘指導ニ資スルコト緊要ナリ而シテ其ノ搜索ハ晝夜ヲ問ハズ之ヲ繼續スベキモノトス
前方ニ在ル騎兵敵ノ近接ニ伴ヒ陣地前ニ行動スル能ハザルニ至レバ師團命令ニ基キ前進部隊若クハ警戒部隊ト密接ナル連繫ヲ保持シツツ陣地ノ翼側ニ移リ敵情特ニ包圍又ハ迂回行動ヲ搜索シ翼側ヲ警戒シ且爾後ノ行動ヲ準備スルヲ要ス

第百九十三 機宜ニ適スル砲兵ノ射撃開始ハ防禦戰闘ニ於テ特ニ緊要ニシテ師團長ハ之ニ關シ命令スベキモノトス

砲兵ノ射
撃開始ト
初期ノ動
作

師團長敵ノ現出ニ先ダチ豫メ砲兵ヲシテ效力射準備射撃ヲ行ハシムル場合ニ於テハ我が企圖ノ秘匿ニ注意シ且前方ニ在ル友軍ニ危害ヲ及サザル如ク處置スルヲ要ス
敵ノ近接ニ方リテハ砲兵就中長射程砲ハ交通路上ノ要點ニ對シ適時射撃ヲ行ヒ其ノ他所要ノ砲兵ヲ以テ敵ノ行動ヲ妨害スル爲射撃ヲ行フモノトス此ノ際

警戒部隊ノ動作

過早ニ主力砲兵ノ位置ヲ暴露セザル爲之ニ用フル兵力ハ勉メテ制限シ要スレバ其ノ陣地ヲ變換シテ射撃セシムルヲ可トス
敵ノ攻撃準備ニ方リ一般ノ狀況特ニ防禦ノ目的ニ鑑ミ沈黙ノ要ナキ場合ニ於テ砲兵ハ有利ナル目標等ニ對シ適時射撃ヲ行フモノトス
前項ノ場合ニ於テ軍直轄砲兵ハ敵ノ準備未ダ完カラザルニ乘ジ機先ヲ制シテ先ヅ敵砲兵ヲ射撃シ師團砲兵モ亦爲シ得レバ之ニ協力スルモノトス然レドモ敵砲兵著シク優勢ナルトキハ砲兵特ニ師團砲兵ノ主力ヲシテ初期ニ於ケル對砲兵戰ヲ避ケシムルコトアリ
第百九十四 敵兵我ニ近接スルヤ警戒部隊ハ成ルベク長ク要點ヲ保持シテ敵ノ搜索ヲ妨害シ極力敵情ヲ搜索シ其ノ攻撃ニ關スル企圖ヲ偵知スルニ勉ムベシ之ガ爲敵ノ小部隊、斥候等ニ對シテハ勉メテ積極的ニ行動スルヲ要ス而シテ敵ノ眞面目ナル攻撃ニ對シ如何ナル程度ニ抵抗ヲ持續スベキヤハ受ケタル任務ニ依ルモノトス
警戒部隊ニ協力スベキ砲兵ハ師團命令ニ基キ之ト密接ニ連絡ヲ保持シ其ノ戰闘ヲ支援スルヲ要ス
警戒部隊ハ撤退ニ際シ抵抗地帯ノ前方ニ配置セラレル監視部隊ト連繫シ爾後ニ於ケル敵ノ行動ヲ偵知スル手段ヲ講ジ且主陣地帯ヲ占領スル我が部隊ノ射撃ヲ妨ゲザル如ク行動スルヲ要ス
第百九十五 陣地各部ノ狀況ニ應ジ好機ニ於テ守兵ヲ陣地ニ就カシムルハ地區ニ於ケル各指揮官ノ責任ニシテ各部隊ハ常ニ機ヲ失セズ陣地ニ就キ得ルノ

守兵就陣

戰闘經過ニ伴フ歩砲兵戰闘

準備ヲ缺カザルヲ要ス
第百九十六 敵歩兵攻撃前進ヲ起スヤ砲兵ハ適時火力ヲ之ニ集中シ其ノ前進ヲ阻止スベシ而シテ此ノ間所要ニ應ジ一部ノ砲兵ヲ以テ敵砲兵ヲ射撃シ且要スレバ敵後方ニ對スル射撃ニ任ズルモノトス
敵兵近接スルヤ砲兵ノ射撃ト相俟テ步兵モ亦所要ニ應ジ重火器ヲ以テ有利ナル目標若クハ豫メ準備セル要點ニ火力ヲ集中シ次テ敵兵我が步兵火網内ニ侵入スルヤ益々歩、砲兵ノ協調ヲ緊密ニシ各種火器ノ特性ヲ發揮シテ敵ヲ壓倒シ敵兵漸次近接スルニ從ヒ步兵ハ益々沈著シテ火力ヲ最高度ニ發揚シ特ニ側防火器ノ威力ヲ發揮シ又砲兵ハ之ニ對シ其ノ主力ヲ以テ猛火ヲ集中シ我が陣地前ニ於テ敵ヲ破摧スベシ
敵若シ毒煙ヲ使用シ又ハ煙幕ニ蔽ハレテ近迫シ來ル場合ニ於テハ側方ヨリ射撃シ或ハ豫メ準備セル要點ニ火力ヲ集中スル等各種ノ手段ヲ盡クシ少クモ最近距離ニ於テハ猛烈ナル火力ヲ瞬時ニ發揚シ敵ヲ破摧スベシ此ノ際敵ノ發煙ヲ妨害スルノ著意ヲ必要トス
敵兵我が陣地ニ近迫スルニ方リ縱ヒ少數ノ砲兵ト雖モ新ナル陣地ヨリ不意ニ乘ジ射撃スルトキハ其ノ效果特大ナルモノトス
第百九十七 工兵ハ防禦戰闘ノ經過中益々工事ヲ堅固ニシ特ニ障礙物ノ補修、對戰車防禦ノ爲地雷地域ノ設置等ニ任ズ
第百九十八 敵ノ戰車ニ對シテハ速力ニ其ノ使用方面ヲ偵知シ要スレバ機ヲ失セズ該方面ニ對戰車火炮、對戰車地雷時トシテ一部ノ野(山)砲等ヲ増加ス

工兵ノ任務ノ任

敵ノ戰車ニ對スル

處置

之ガ爲後方部隊所屬ノ對戰車火炮ヲ一時前方ニ使用スルコトアリ
砲兵ハ優勢ナル戰車群ヲ發見セバ其ノ待機中ナルト前進中ナルトニ拘ラズ狀
況之ヲ許ス限リ有效ナル火力ヲ集中シ速カニ之ヲ破壞スルヲ要ス
對戰車專任火炮ハ其ノ有效射程内ニ戰車現出セバ所屬部隊ノ正面ニ來ルト否
トヲ問ハズ直チニ之ヲ射撃スルモノトス爾餘ノ對戰車威力アル火炮(砲兵ヲ
含マズ)ハ所屬部隊ノ正面ニ來ル戰車ニ對シテハ狀況之ヲ許ス限リ獨斷射撃
ヲ指向シ所屬部隊以外ノ正面ニ來ルモノニ對シテハ狀況ニ依リ該所屬指揮官
射撃ヲ命ズルモノトス
至近距離ニ迫ル戰車ニ對シテハ對戰車威力少キ重火器ト雖モ一般ノ狀況之ヲ
許セバ所屬指揮官ノ命令若クハ該隊長ノ獨斷ニ依リ一時對戰車射撃ヲ行ヒ又
狀況之ヲ許シ且必要ナル場合ニ於テハ輕機關銃及小銃ト雖モ視望孔ニ對スル
射撃ヲ行ヒ又各隊ハ肉薄攻撃ヲ決行ス
戰車我ガ陣地内ニ侵入セバ準備シアル火炮ハ友軍ニ危害ヲ及サザル如ク直チ
ニ之ヲ射撃スベシ他ノ砲兵モ亦自衛上必要ナルトキハ適宜射撃スルモノトス
此ノ際友軍ニ危害ヲ及サザルヲ要ス
對戰車射撃ニ任セザル各種火器ハ極力敵歩兵ヲ射撃シ戰車ニ追隨スル能ハザ
ラシムルコト極メテ緊要ナリ此ノ際所要ニ應ジ我が對戰車火炮ヲ射撃スル敵
砲兵ヲ制壓スルコト亦緊要ナリ
飛行部隊
地上戰隊

百九十九 飛行部隊地上ノ戰隊ニ直接協同スルニ方リテハ所要ニ應ジ敵ノ
攻撃準備ヲ破摧シ或ハ重要ナル第二線部隊、機甲部隊、有力ナル砲兵要スレ

參加
逆襲 步
二〇〇、二七一、
六二九

敵兵肉迫
時 歩六三〇

敵兵我が
陣内侵入
步二七二、二七三

敵ノ攻撃
頓挫及過
失ニ對ス

バ敵主力方面ノ前線ニ於ケル重要目標ヲ攻撃スルモノトス
第二〇〇 敵ノ攻撃我が陣地前ニ於テ頓挫シタルトキハ該地區ノ指揮官ハ彼我
全般ノ狀況ヲ判斷シ師團長ノ爾後ノ戰鬪指導ヲ考慮シ逆襲ヲ行ヒ敵ヲ撃滅ス
ベシ此ノ際要スレバ一部ノ守兵ヲ陣地ニ殘置シ火力ヲ以テ協力セシムルト共
ニ陣地ヲ確保セシムルヲ要スルコトアリ又比隣部隊ハ當面ノ狀況ニ應ジ射撃
又ハ逆襲ヲ以テ之ニ協力シ砲兵ハ機ヲ失セズ歩兵ノ逆襲ニ協力スベキモノト
ス
第二〇一 敵兵遂ニ我が陣地ニ肉薄セバ陣地ノ守兵ハ有ラン限リノ火器ヲ使
用シ其ノ威力ヲ最大限ニ發揚シ敵ヲ震駭セシメ敵兵呎尺ノ地ニ來ルトキ銃劍
ヲ揮ヒテ奮闘シ之ヲ撃滅スベシ
砲兵ハ縱ヒ至大ノ損害ヲ被ルモ意トスルコトナク最モ便ナル位置ニ火炮ヲ移
シ猛烈ナル射撃ニ依リ歩兵ニ協力スベシ
第二〇二 敵兵若シ我が陣地内ニ侵入セバ該地區ノ指揮官ハ直チニ其ノ有ユ
ル火力ヲ集中シテ之ヲ混亂ニ陥レ機ヲ失セズ豫備隊等ヲ使用シ果敢ナル逆襲
ヲ行ヒ砲兵ハ敵ノ第一線ト後方部隊トヲ遮斷シ以テ敵ヲ撃滅スベシ此ノ逆襲
ハ敵ノ不意ニ乘ジ成ルベク側背ニ向ヒ急襲的ニ實施スルヲ有利トス此ノ際後
方ニ在ル部隊長ノ獨斷ヲ要スルコト少カラズ
第二〇三 師團長ハ縱ヒ攻勢ヲ企圖シアラザル場合ニ於テモ當面ノ狀況
ヲ精細ニ觀察シ敵ノ攻撃頓挫シタルトキ或ハ敵過失ヲ犯シタルトキ或ハ我が
第一線部隊ノ逆襲成果ヲ有利ニ擴張シ得ルトキ等好機ヲ發見セバ主力ヲ擧ゲ

ル逆襲

攻勢移轉
歩歩一〇

攻勢移轉
指導及部

攻勢移轉
ノ時機

攻勢移轉
ノ實施

テ攻撃ヲ決行スベシ此ノ場合ニ於テハ目的ヲ明確ニシ之ニ向ヒ各部隊ヲシテ協同戰闘セシムルト共ニ目的達成後舊陣地ニ復歸スベキ場合ニ於テハ豫メ其ノ方法ヲ考案スルヲ要ス

攻勢移轉及攻勢移轉後ニ於ケル師團長ノ戰闘指導並ニ攻撃動作ニ移リタル部隊ノ行動ハ攻撃ニ於ケル原則ヲ適用スルモノトス

攻勢移轉ノ爲適時戰闘指導ノ方針及之ニ基ク部署就中諸兵種協同ノ要領ヲ定メ諸準備ヲ周到ナラシムルヲ要ス之ガ爲豫メ各部隊ヲシテ部署ノ變更、歩戰砲ノ協同等ニ關シ諸準備ヲ整ヘシムルノ著意ヲ必要トス

攻勢移轉ハ諸準備ヲ整ヘ好機ヲ作爲シテ一舉急襲的ニ敢行スルヲ有利トス然レドモ準備ノ完成ニ腐心シ或ハ既定ノ計畫ニ拘泥シ戰機ヲ逸スルガ如キコトナキヲ要ス

攻勢移轉ノ時機ハ通常豫メ計畫スベキモノナリト雖モ戰闘ノ經過中敵ノ攻撃頓挫シタルトキ或ハ敵ノ過失ヲ發見シタルトキ等ニ於テハ巧ニ之ニ乘ズルコト緊要ナリ

攻勢移轉ハ敵ノ主力ヲ我が陣地ノ正面ニ拘束シ有力ナル部隊ヲ以テ其ノ側背若クハ翼側ニ向ヒ包圍ヲ行フヲ最モ有利トス然レドモ狀況特ニ地形、側方依托ノ關係等ニ依リ陣地前ニ於テ敵ニ損害ヲ與ヘタル時機ヲ利用シ正面ヨリ攻勢ニ轉ズルヲ利トスルコト亦少カラズ何レノ場合ニ於テモ攻勢ノ支撐タルベキ地域ハ之ヲ確保シテ主力ノ攻勢ヲ容易ナラシメ攻勢ノ進展ニ伴

テ緊要ナリ

攻勢移轉ハ敵ノ主力ヲ我が陣地ノ正面ニ拘束シ有力ナル部隊ヲ以テ其ノ側背若クハ翼側ニ向ヒ包圍ヲ行フヲ最モ有利トス然レドモ狀況特ニ地形、側方依托ノ關係等ニ依リ陣地前ニ於テ敵ニ損害ヲ與ヘタル時機ヲ利用シ正面ヨリ攻勢ニ轉ズルヲ利トスルコト亦少カラズ何レノ場合ニ於テモ攻勢ノ支撐タルベキ地域ハ之ヲ確保シテ主力ノ攻勢ヲ容易ナラシメ攻勢ノ進展ニ伴

夜間防禦
ノ要領
歩六八—六

夜間防禦
戰闘

七適時攻撃ニ轉セシムルヲ有利トスルコト少カラズ

夜間防禦者ハ特ニ警戒ヲ嚴ニシ搜索ヲ周到ニシ且前地ヲ照明スル等諸種ノ手段ヲ盡クシテ敵ノ近接ヲ戒ムルト共ニ敵ノ企圖遂行ヲ妨害スルヲ要ス

狀況特ニ地形ニ依リ前地ニ於ケル要點ヲ豫メ占領シアルトキハ敵ノ攻撃企圖ヲ妨害スル爲有利ナルコトアリ

夜間攻撃ヲ受クル際シ新ニ軍隊ヲ部署セントスルトキハ多クハ混雜ニ終ルモノトス故ニ各級指揮官ハ所要ニ應ジ第一線ヲ増加シ配備ノ間隙ヲ閉塞シ豫備隊ヲ前線ニ近接セシメ要スレバ之ヲ分置シ速カニ前線ヲ増援シ得ベキ處置ヲ施スヲ要ス

陣地ノ守兵ハ豫メ夜間射撃ノ設備ヲ爲シ砲兵ハ特ニ歩兵ト緊密ナル協定ヲ遂グテ以テ機ニ投ズル射撃ノ實施ニ支障ナカラシムルヲ要ス

敵兵我が陣地ニ近接シテ工事ヲ爲スカ又ハ其ノ準備ノ爲行動シアリテ偵知セバ第一線部隊ハ小部隊ノ出撃其ノ他各種ノ手段ニ依リ之ヲ妨害シ又敵兵我が陣地ニ近接シテ偵知セバ之ヲ擊退スベシ

夜間防禦ニ在リテハ適時比隣部隊ノ協同ト後方部隊ノ援助トヲ期シ得ザルガ故ニ各部隊ハ特ニ斷乎タル決意ヲ以テ各々其ノ位置ヲ固守シ砲兵ハ歩兵ト密接ニ連絡シ必要ニ應ジテ射撃ヲ實施シ最前線ノ守兵ハ敵兵我が陣地ニ近接シ來ルヤ之ニ猛烈ナル射撃ヲ加ヘ或ハ手榴彈ヲ投ジ其ノ隊伍ノ動搖スル瞬間ニ於テ銃劍ヲ揮ヒ之ヲ擊滅スベシ此ノ際一小部隊ト雖モ敵ノ側背

ヲ擊滅スベシ此ノ際一小部隊ト雖モ敵ノ側背

官 各級指揮

チ攻撃スルニ勉ムルヲ要ス
敵兵我が陣地内ニ侵入セバ該地區ノ指揮官ハ直チニ逆襲ヲ決行シ之ガ恢復ニ
勉ムベシ
第二百十 夜間ノ防禦ニ在リテハ戰闘ハ通常各局所ニ惹起スルヲ以テ各級指
揮官ハ冷靜ニ戰況ヲ判斷シ鞏固ナル意志ヲ以テ戰闘ヲ指導シ要スレバ適時其
ノ豫備隊ヲ第一線ニ増加シ若クハ之ヲ逆襲ニ使用スル等各種ノ手段ヲ盡クシ
テ陣地ノ保持ヲ完ウスルヲ要ス

第四篇 追擊及退却

第一章 追擊

追擊ノ果敢斷行
歩三〇、二
五九、六六四

第二百十一 戰勝ノ效果ヲ完全ナラシムルノ途ハ猛烈果敢ナル追擊ヲ實行ス
ルニ在リ然レドモ戰勝後ニ於ケル各部隊一般ノ狀態ハ動モスレバ眼前ノ成功
ニ満足シ果敢ナル追擊ヲ躊躇シ遂ニ功ヲ一篋ニ虧クノ弊ニ陥リ易シ故ニ各級
指揮官ハ極メテ鞏固ナル意志ヲ以テ追擊ヲ斷行スルヲ要ス
戰闘後ハ勝者ノ疲勞固ヨリ大ナリト雖モ敗者ハ體力、氣力共ニ疲憊殆ド極度
ニ達スルモノナリ故ニ勝者ハ部隊ノ損傷、整頓等ニ拘束セラレルコトナク疲
勞ノ累積、補給ノ至難等ヲ克服シ一意追擊ヲ敢行シ以テ最終ノ勝利ヲ完ウス
ベシ此ノ際各級指揮官ハ部下ニ對シ過劇ノ動作ヲ要求スルコトヲ辭スベカラ
ズ然ラザレバ再ビ多大ノ犠牲ヲ拂ヒ敵ヲ攻撃スルノ止ムヲ得ザルニ至ルモノ
トス

追擊ノ主眼

第二百十二 追擊ノ主眼ハ速力ニ敵ヲ捕捉シテ之ヲ殲滅スルニ在リ之ガ爲廣
ク且深ク敵方ニ突進シテ退路ヲ遮斷シ諸方面ヨリ敵ヲ包圍シ若クハ之ヲ背後
連絡線以外ニ壓迫シ又ハ其ノ欲セザル地點ニ於テ之ヲ捕ヘ以テ敵ヲ擊滅スル
ヲ要ス

敵退却ノ虞アルト

第二百十三 敵兵退却ノ虞アルトキハ諸種ノ手段ヲ盡クシテ敵情ヲ搜索シ以
テ敵ヲ逸セザルヲ要ス之ガ爲飛行機ハ特ニ敵線内部及其ノ後方ノ狀況ヲ搜索
シ速力ニ敵ノ企圖ヲ看破シ前線ニ在ル各級指揮官ハ益々敵ト接觸ヲ密ニシ之
ヲ捕捉スルノ用意ヲ嚴ニシ縱ヒ戰況一時交綏シアル場合ニ於テモ斷乎トシテ

追擊戰闘要領

第二百十四 敵ヲ擊退スルヤ歩兵ハ速力ニ追擊前進ニ移リ飽ク迄敵ニ肉薄シ
其ノ主力ヲシテ脱逸ノ機會ナカラシムルヲ要ス之ガ爲敵ノ一部ノ抵抗ニ依リ
ベカラズ
敵兵退却ヲ行ハントスルニ方リテハ故ラニ一部隊ヲ以テ我ニ向ヒ逆襲シ其ノ
機ニ乗ジテ戰場ノ離脱ヲ圖ルコトアリ夜間又ハ濃霧ノ際ニ於テ特ニ然リ斯ク
ノ如キ場合ニ於テハ逆襲ニ牽カレテ追擊ノ好機ヲ逸スルガ如キコトナキヲ要
ス又敵ハ煙幕、瓦斯等ヲ利用シ退却ヲ庇掩セントスルコトアルニ注意セザル
ベカラズ

抑留セラルルコトナク我が大部ハ速カニ其ノ側方又ハ間隙ニ突進スルコトニ
 勉ムベシ
 戰車ハ其ノ特性ヲ發揮シテ猛進シ退路上ノ要點ニ殺到シテ敵ノ退却ヲ遮斷ス
 ルヲ要ス地形之ヲ許サザル場合ニ於テハ敵ノ砲兵、司令部等ニ追及シ之ヲ蹂
 躪スルヲ有利トス
 騎兵ハ迅速果敢ニ突進シ特ニ敵ノ側背若クハ間隙ニ向ヒ行動シテ其ノ退路ヲ
 遮斷スルヲ要ス又適時敵情ヲ搜索シ師團長ノ追擊指導ニ資スルノ著意ナカル
 ベカラズ
 砲兵ハ退却スル敵ノ主ナル部分特ニ蟬集シテ通過スベキ退路上ノ要點ニ火力
 ナ集中シテ其ノ退却ヲ遮斷シ或ハ尙頑強ニ抵抗スル敵ヲ壓倒シ以テ之ヲ潰亂
 ニ陥ラシムベシ而シテ砲兵ハ歩兵ノ前進ニ伴ヒ勉メテ前方ニ陣地ヲ變換シ緊
 密ニ協同スルヲ要ス此ノ場合ニ於テハ勉メテ多クノ砲兵ヲ第一線歩兵ノ指揮
 官ニ配屬スルヲ有利トス
 工兵ハ速方ニ進路上ノ障礙ヲ排除シテ追擊中ノ各部隊特ニ砲兵ノ前進ヲ容易
 ナラシムルヲ要ス之ガ爲工兵ノ指揮官ハ狀況ヲ判斷シ所要ノ器材ヲ準備シ且
 成ルベク速カニ將校ヲ先遣シテ偵察ヲ爲サシムベシ
 消毒部隊ハ通常重點方面ニ於テ勉メテ前方ニ進出シ機ヲ失セズ消毒作業ニ任
 ズルモノトス
 飛行機ハ敵ノ退却狀態及停止地點ヲ搜索シ良ク砲兵ニ協同シ所要ニ應ジ追擊
 中ノ各部隊間ノ連絡ニ任ズルモノトス

通信部隊 各部隊間特ニ最前方ニ在リテ追擊ニ任ズル部隊ト主力トノ連絡ニ
 關シ機ヲ失セズ處置スルコト緊要ナリ
 第二百十五 師團長ハ軍司令官ノ企圖若クハ自己ノ任務ニ基キ追擊目標ヲ選
 定スルモノトス
 追擊目標ハ敵軍退却ノ動機及其ノ狀態、退却開始ノ時機、我が補給能力、友
 軍トノ關係、地形特ニ交通網ノ狀態等ヲ判斷シ容易ニ敵ヲ捕捉シ得ル場合ノ
 外勉メテ遠キ地點ニ之ヲ選定スルモノトス
 第二百十六 師團長ハ比較的集結シ且進出ニ便ナル部隊ヲ以テ速カニ追擊隊
 ナ編成シ追擊ニ任セシメ既ニ追擊中ニ在ル各部隊ヲシテ秩序ヲ整ヘ更ニ前進
 スルノ準備ヲ爲サシメ機ヲ失セズ縱隊ヲ區分シテ追擊ヲ決行スルヲ要ス狀況
 ニ依リ師團長ハ追擊中ノ第一線部隊ニ追擊地域ヲ指定シ且所要ニ應ジ軍隊區
 分ヲ變更シ敵ヲ急追セシムルヲ可トスルコトアリ何レノ場合ニ於テモ敵ヲ包
 圍シ或ハ其ノ退路ヲ遮斷スル如ク快速ノ部隊、輕裝セル歩、工兵等ヲ使用ス
 ルニ勉メザルベカラズ此ノ際所在ノ輸送機關ヲ利用スルノ著意ヲ必要トス
 追擊隊ニハ特ニ多クノ砲兵ヲ配屬スルヲ有利トシ且十分ナル彈藥ヲ携行セシ
 ムルコト緊要ナリ此ノ際自動車編制ノ長射程砲ニ氣球ヲ附シ使用スルヲ有利
 トス
 第二百十七 飛行部隊地上ノ追擊ニ直接協同スルニ方リテハ機ヲ失セズ敗敵
 ノ主力ヲ攻撃シテ之ヲ潰亂ニ陥ラシメ或ハ交通路上ノ要點ヲ破壞シテ退路ヲ
 遮斷スルヲ通常トス狀況ニ依リ敵ノ新企圖ヲ挫折セシムル如ク更ニ後方ノ重

飛行隊地
 上追擊ニ
 直協

追擊部署

通信部隊
 追擊目標

夜間ノ追撃 歩 一、六五

彈藥補充 下 追撃

要目標ヲ攻撃スルコトアリ
 夜間ト雖モ極力追撃ヲ敢行スルヲ要ス
 夜間ハ動モスレバ追撃ノ機ヲ逸スルヲ以テ各級指揮官ハ常ニ敵トノ接觸ヲ密ナラシメ狀況ニ依リ一部ノ部隊ヲ以テ夜襲ヲ行ヒ俘虜ヲ捕獲シ或ハ間諜ヲ利用スル等ノ手段ヲ盡クシテ敵ノ企圖ヲ偵知セザルベカラズ
 夜間敵ノ退却ヲ察知セバ各級指揮官ハ直チニ敵ノ殘置部隊ヲ擊破シ追撃ヲ決行スベシ此ノ際一小部隊ト雖モ放膽ナル行動ニ依リ敵線深ク突進スルコトヲ得バ敵ヲシテ甚ダシク混亂ニ陥ラシメ偉功ヲ奏シ得ルモノトス
 夜間追撃ノ爲師團長ハ機ヲ失セズ軍隊ヲ部署スルコト特ニ緊要ニシテ各進路ニ所要ノ部隊ヲ配當シ敵ヲ急追セシムルヲ要ス而シテ敵ノ抵抗ニ會シ戰鬪ヲ惹起スルコト緊要ナリ
 夜間ノ追撃ニ方リ指揮官ハ部隊ノ掌握及連絡ニ勉ムルコト特ニ緊要ナリ
 第二十九 彈藥補充ノ適否ハ追撃能力ニ大ナル影響ヲ與フルモノナリ故ニ師團長ハ輜重ヲ適切ニ運用シ機ヲ失セズ彈藥ヲ前送セシメテ補給ノ圓滑ヲ圖リ輜重ハ全力ヲ盡クシテ需要ヲ充足シ追撃ノ成果ヲ完ウスルニ遺憾ナカラシムベシ
 各部隊ノ指揮官モ亦爲シ得ル限り彈藥補充ニ努力スルヲ要ス砲兵ニ在リテ特ニ然リ

追撃指導

退却戰鬪ノ指導 部署

退却目標

燃料、瓦斯防護資材等ノ補充ニ關シテモ亦前二項ニ準ズルモノトス
 第二十二 師團長ハ追撃間知リ得タル狀況ニ基キ機ヲ失セズ敵ノ弱點ニ乗ズル如ク追撃ヲ指導シ要スレバ部署ノ變更ヲ行ヒ追撃ノ成果ヲ擴大スルヲ要ス縦ヒ一時敵ト接觸ヲ失フコトアルモ不屈不撓飽ク迄追撃ヲ續行シ之ヲ捕捉セザルベカラズ
 第二章 退却
 第二十一 退却戰鬪指導ノ主眼ハ速力ニ敵ト離隔スルニ在リ之ガ爲師團長退却ニ決セバ速力ニ後方ノ整理ヲ完了シ成ルベク數縱隊トナリテ併進スベキ部署ヲ定メ明確ニ各縱隊ノ行進目標、退却地域若クハ道路、退却開始時機、退却順序、收容隊、收容陣地、退路警戒ノ處置等ヲ示シテ退却ニ就カシメ以テ先ヅ敵トノ離脱ヲ圖リ退却ノ實行ヲ確認シタル後適當ナル地點ニ先行シテ退却シ來ル部隊ヲ掌握シ更ニ爾後ノ處置ヲ爲スモノトス
 各部隊ノ指揮官モ亦前項ニ準ジ退却戰鬪ヲ指導スルモノトス
 退却ニ方リテハ敵就中機甲部隊ノ迂回及空輸挺進隊ノ現出ニ注意シ敵ノ瓦斯使用、別働隊、住民等ニ對シテモ亦顧慮スルヲ必要トス
 第二十二 師團長ハ軍司令官ノ企圖若クハ自己ノ任務ニ基キ部隊ヲ確實ニ掌握シテ新位置ニ就カシメ得ル如ク退却目標ヲ選定スルヲ要ス狀況ニ依リ中間ニ逐次目標ヲ指示スルコトアリ
 退却目標ハ爾後ノ企圖ニ基キ敵情特ニ豫想スル追撃ノ方法、友軍トノ關係、地形特ニ交通網ノ狀態等ヲ考慮シ退却スル各縱隊ヲシテ少クモ其ノ態勢ヲ整

退却開始
時機
收容陣地
歩六七

退却動作
ノ秘匿

戰場離脱

頓スル餘裕ヲ得シムル如ク適宜戰場ヨリ離隔セル位置ニ之ヲ選定スルモノトス
第二百二十三 退却開始ノ時機ハ彼我ノ狀況、我が企圖、地形等ニ依リ之ヲ決定スベシト雖モ狀況之ヲ許ス限リ夜暗ヲ利用スルヲ要ス
第二百二十四 師團ノ收容陣地ハ一般ノ狀況ヲ考慮シテ之ヲ選ビ以テ退却スル部隊ヲシテ其ノ掩護下ニ秩序ヲ整ヘ且出發シ得シメザルベカラズ狀況特ニ戰鬪正面、地形等ノ關係ニ依リ各地區ノ部隊毎ニ收容陣地ヲ設ケシメ師團長之ヲ統制スルコトアリ
夜間退却ニ於テ收容陣地ヲ設クベキヤ否ヤハ當時ノ狀況ニ依ル
收容隊ニハ成ルベク新銳ノ兵力ヲ用ヒ晝間ニ在リテハ特ニ多クノ砲兵ヲ附スベシ而シテ此ノ收容隊ヲ以テ後衛ト爲スヲ得バ有利ナリ
第二百二十五 退却ノ諸準備ハ兵力大ニシテ戰況進捗ノ度大ナルニ從ヒ困難ノ度ヲ加フルモノトス而シテ一度之ヲ敵ニ察知セラレンカ爾後ノ行動ヲ至難ナラシムルヲ以テ各級指揮官ハ極力企圖ヲ秘匿シ且最モ急速ニ準備ヲ完了スルヲ要ス地上及上空ヨリスル敵ノ視察ニ對シ我が軍ノ狀態ニ就キ從來ト異ナリタル感ヲ與ヘザルハ企圖秘匿ノ爲特ニ緊要ナリ時トシテ通信ノ實施、工事ノ施設等ヲ以テ巧ニ敵ヲ欺騙スルヲ有利トスルコトアリ
第二百二十六 戰場ヲ離脱スル爲ニハ成ルベク全線同時ニ撤退ヲ行フヲ有利トス然レドモ戰況、地形等ノ關係ニ依リ某部隊ヲシテ比較的長ク敵ヲ抗拒セシムルヲ要スルコトアリ

第一線部
隊ノ收容

第一線部
隊ノ退却

退却ト騎
兵

退却ト高
射砲隊

退却ト工
兵

砲兵ノ主力ハ收容隊既ニ其ノ陣地ニ就キ第一線ヲ收容シ得ルニ至レバ適時退却ニ就カシムルモノトス
敵ノ壓迫急ナルカ或ハ輕舉暴進シ來ル場合ニ於テハ之ニ反撃ヲ加ヘ敵トノ離脱ヲ容易ナラシムルヲ要スルコトアリ此ノ際戰車ヲ使用スルヲ得バ有利ナリ
第二百二十七 第一線各部隊ハ要スレバ縱長ニ於ケル自己ノ兵力ヲ以テ前線ヲ收容スベシ其ノ陣地ハ爲シ得レバ退路ノ側方ニ選ビ其ノ火力ニ依リ敵ノ急迫ヲ妨グルヲ可トス狀況ニ依リ逆襲ヲ行ヒ以テ前線ノ退却ヲ容易ナラシムルヲ要スルコトアリ
第一線ノ歩兵ハ先ヅ現在ノ隊形ヲ以テ正面ト直角ノ方向ニ退却シ前項ノ收容隊掩護ノ下ニ逐次兵力ヲ集結シツツ所命ノ地ニ到ルモノトス此ノ際砲兵ハ損害ヲ顧ミルコトナク我が歩兵ニ最モ危害ヲ與フル敵ヲ射撃スルヲ要ス特ニ我が歩兵敵ニ擊退セラレタルトキニ於ケル砲兵ノ犠牲的行動ハ其ノ效果顯著ナルモノトス
第二百二十八 騎兵ハ敵ノ追擊狀態ヲ搜索スルト共ニ主トシテ側方及背後ヲ警戒シテ退却スル部隊ノ爲不慮ノ危險ヲ豫防シ且戰況ニ依リテハ友軍ヲ危地ヨリ救出スル爲果敢ナル行動ヲ爲スヲ要ス
高射砲隊ハ退却スル部隊ニ先行シ退路上ノ要點及其ノ近傍ノ友軍ヲ掩護シ或ハ先ヅ收容陣地附近ニ於ケル部隊ノ集結ヲ掩護スルモノトス
工兵ハ交通路ヲ遮斷シテ敵ノ前進ヲ妨害シ且我が退路ノ保全等ニ任ズ之ガ爲自動車ヲ利用スルヲ得便ナリ

飛行機ハ速カニ敵ノ追撃状態就中迂回部隊、機甲部隊、空輸挺進隊等ノ有無ヲ搜索シ且重要ナル部隊間ノ連絡ニ任ズ

第二十九 飛行部隊地上ノ退却ニ直接協同スルニ方リテハ我が軍ニ最モ危険ナル敵若クハ敵ノ主力ヲ攻撃シテ地上部隊ノ行動ヲ容易ナラシムルヲ通常トス

第二十三 夜間退却ヲ行フニ方リテハ敵ニ覺知セラレザル如ク豫メ晝間ニ於テ爲シ得ル限リ準備ヲ整ヘ特ニ適時後方ノ整理ヲ了シ以テ夜暗ニ於ケル退却ノ實施ヲシテ溢滞ナカラシムルヲ要ス

夜間退却ノ準備及實施ヲ秘匿センガ爲敵ニ近キ場合ニ於テハ通常各部隊ヲシテ敵ニ現狀變化ノ感ヲ起サシメザル如ク第一線ノ諸要點ニ僅少ノ部隊ヲ殘置シ以テ主力ノ退却ヲ掩護セシムルヲ要ス時トシテ我が企圖ヲ秘匿シ或ハ敵ヲ欺騙スル爲一部ノ部隊ヲ以テ敵ヲ夜襲セシムルヲ可トスルコトアリ

第一線ヲ撤退セル部隊ハ近ク戰線ノ後方ニ集結セシメ速カニ之ヲ掌握ヲ確實ニシ漸次所命ノ退却路上ニ移リ行軍縱隊ヲ編成セシムルヲ有利トス退却地域ノ配當ハ此ノ考慮ヲ以テ定ムルコト緊要ナリ

第二十一 夜間退却ニ方リ殘置スル部隊ノ退却時機ハ狀況特ニ退却ノ難易、爾後ノ企圖等ヲ考慮シ通常師團長之ヲ命ズルモノトス

殘置部隊ハ敵ノ急追ヲ受ケ狀況之ヲ要スレバ果敢ナル反撃ヲ加ヘテ敵ヲ擾亂シ其ノ機ニ乘ジ離脱ヲ圖ルヲ要ス斯クノ如キ場合ニ於テハ指揮官以下一兵ニ至ル迄特ニ沈著且剛膽ナル行動ヲ必要トス

退却翌拂曉ニ互ルガ如キ場合ニ於テハ要スレバ殘置部隊ノ爲特ニ收容隊ヲ設ケルモノトス此ノ際成ルベク行動輕捷ナル部隊ヲ使用スルヲ可トス

第二十二 退却ニ方リ指揮官ハ適時通信網撤去ノ準備ヲ爲シ又一部ノ通信網ハ其ノ所用終リタル後戰鬪部隊ノ退却ト同時ニ撤去セシムルモノトス

第二十三 收容隊ヲ以テ後衛ト爲スヲ得ザル場合ニ於テハ別ニ後衛ヲ設ケ收容隊ヲ收容セシムルヲ通常トス

退却スル部隊收容隊ヲ援助センガ爲妄リニ敵ニ正面スルトキハ却ツテ危殆ニ陥リ爲ニ敵トノ離脱ヲ困難ナラシムルニ至ルモノトス

第二十四 師團長ハ通常各縦隊特ニ其ノ後衛ノ行動ヲ統一シ相互ニ密接ナル連繫ヲ保持シ敵ノ乘ズベキ間隙ヲ生セシメザルコト緊要ナリ

退却間各級指揮官ハ爲シ得ル限リ敵トノ離隔ヲ大ニシ以テ行動ノ自由ヲ獲得スルコトニ勉ムベシ之ガ爲特ニ行軍行程ヲ増大スベキ諸般ノ處置ヲ講ズルヲ要ス

退却間小部隊ヲ以テ敵ヲ奇襲シ其ノ追撃ヲ遲滞セシムルヲ可トスルコトアリ

第五篇 持久戦

第二十五 時間ノ餘裕ヲ得ントスル場合、敵ヲ牽制抑留セントスル場合等ニ於テハ通常決戦ヲ避ケ持久戦ヲ行フ

持久戦ニ在リテハ守勢ニ立ツコト多シト雖モ攻勢ヲ取ルニアラザレバ目的ヲ行フ場合

持久戰
戰手段

攻撃
持久戰

防禦
持久戰

達成シ得ザル場合亦少カラズ
 第二三三六 持久戰ノ爲軍隊ノ部署及戰闘ノ指導ハ目的、持久時日ノ長短
 地形、敵ノ行動等ニ依リ大ナル差異アリト雖モ勉メテ爾後ニ於ケル行動ノ自
 由ヲ保持シ且成ルベク決戦ニ陥ラザルノ著意ヲ必要トス之ガ爲シ得レバ十
 分ノ豫備隊ヲ控置シ成ルベク多數ノ砲兵、重火器等ヲ巧ニ使用スルヲ可トス
 而シテ軍隊其ノ受ケタル任務ニ基キ攻勢ヲ取ル場合ニ於テハ全力ヲ盡クシテ指示セラレタ
 ル地域若クハ陣地ヲ保持スルヲ要ス
 第二三三七 持久戰ノ爲攻撃ヲ行フ場合ニ於テハ上級指揮官ハ攻撃目標ヲ
 制限シ軍隊ヲシテ地區ヨリ地區ニ前進セシムル等適宜其ノ行動ヲ控制スルヲ
 要スルコトアリ又此ノ場合ニ於テハ第一線ノ各部隊ヲシテ通常兵力ニ比シ廣
 キ正面ニ展開セシムルモノトス
 第二三三八 持久戰ノ爲防禦ヲ行フ場合ニ於テ一時敵ノ前進ヲ遲滞セシメ
 ントスルトキハ狀況ノ許ス限リ砲兵、重火器等ヲ使用シ步兵ノ大部ヲシテ戰
 闘ニ參加セシメザルヲ可トス而シテ一陣地ニ於テ敵ヲ拒止スベキ時日長キニ
 互ルニ從ヒ歩兵ノ大部若クハ全部ヲ使用セザルベカラザルニ至ルモノトス
 數箇ノ陣地ニ於テ逐次抵抗シ持久ノ目的ヲ達成スルヲ可トスル場合ニ於テハ
 指揮官ハ爾後ノ企圖ヲ偵察シ有力ナル部隊ヲ配置シ後方ヲ整理シ爾後占領ヲ
 企圖スル陣地及退路ノ偵察ヲ爲サシムル等ノ諸準備ヲ爲スヲ緊要トス此ノ際
 後方ノ陣地ニ豫メ所要ノ部隊ヲ配置スルヲ有利トスルコトアリ

我が
兵力
企圖
ノ秘

機械化
部隊

機械化
部隊
增加
配屬
機械化
騎兵

縦守勢ニ立チアル場合ニ於テモ苟モ好機ヲ看破セバ直チニ敏速果敢ナル攻
 撃ヲ行ヒ任務ノ達成ヲ圖ルノ著意ヲ必要トス
 第二三三九 敵ヲシテ我が兵力、企圖ヲ察知スルヲ得ザラシメ若クハ之ヲ
 誤認セシムルコトハ持久戰ニ於テ特ニ緊要ナリ之ガ爲僞工事等ヲ設ケ或ハ陽
 動ヲ行ヒ或ハ蔭蔽地ニ於ケル兵力ヲ節約シ開豁地ニ於テ之ヲ大ニシ或ハ砲兵
 ナ分散配置シ或ハ猛烈ナル積極的行動ヲ爲ス等敵ヲシテ判斷ノ憑據ヲ得シメ
 ザルト共ニ所要ニ應ジ巧ニ揚言ヲ流布シ或ハ宣傳ヲ爲ス等ノ著意ヲ必要トス
 之ガ爲時トシテ軍隊ノ部署複雑トナリ或ハ軍隊ノ努力増大スルコトアルハ之
 ナ忍バザルベカラズ

第六篇 諸兵連合ノ機械化部隊及大ナル騎兵部隊ノ戰闘

通則

第二四一 諸兵連合ノ機械化部隊本篇中單ニ機械及大ナル騎兵部隊本篇中單ニ騎
 ノ戰闘ハ各々其ノ特性ニ應ジ第一乃至第五篇ニ準ズルノ外本篇ニ據ルモノト
 ス
 第二四二 機械化(騎兵)部隊ニハ其ノ戰闘力ヲ増大スル爲一時步兵、戰
 車、騎兵、砲兵、高射部隊、飛行機、消毒部隊、補給修理機關其ノ他必要ノ
 部隊ヲ増加又ハ配屬セラレコトアリ
 第二四三 機械化(騎兵)部隊ハ其ノ任務ヲ勉メテ攻勢的ニ解決スルヲ要

兵)部隊 戦闘要領 戰場ノ選 情報ヲ得 要ルコト緊 用掌握ト運

ス而シテ其ノ要訣ハ偉大ナル機動力ト獨特ノ戰闘力トヲ利用シ機先ヲ制シテ
敵ヲ急襲スルニ在リ之ガ爲常ニ主動ノ地位ニ立チ克ク企圖ヲ秘匿シ機動ヲ放
膽且迅速ニシ困難ナル地形、氣象、夜暗等ヲモ巧ニ克服利用シテ所望ノ地點
ニ進出シ一舉ニ其ノ戰闘力ヲ發揚シ目的ヲ達成スルコト緊要ナリ又必要ニ際
シテハ困難ナル地形ニ在リテモ長時間徒歩シテ行動スルノ覺悟ナカルベカラ
ズ
第二四十三 機械化(騎兵)部隊ノ決戦ハ爲シ得ル限リ其ノ特性ヲ發揮シ得
ル地形ニ於テ之ヲ求ムル如ク戰場ヲ選定スルヲ有利トス即チ快速ナル戰場機
動力ヲ發揮スルト共ニ特ニ戰車ヲ主體トセル部隊ニ在リテハ其ノ集結セル威
力ヲ最高度ニ發揚シ得ベキ地形ニ著意シ以テ極力自主的ニ戰闘ヲ指導スルコ
ト緊要ナリ
第二四十四 機械化(騎兵)部隊ノ戰闘ニ於テハ狀況ノ推移迅速ニシテ好機
ハ瞬時ニ去ルコト多シ故ニ指揮官ハ適時情報ヲ得ル如ク豫メ必要ノ手段ヲ講
ズルト共ニ常ニ自ラ一般ノ狀況ヲ觀察シ其ノ結果ト諸情報トニ基キ迅速ニ決
心シ機敏ニ部署スルコト極メテ緊要ナリ
敵ノ戰闘準備就中其ノ對戰車戰闘組織未ダ整ハザルニ乘ジ迅速ニ攻撃ヲ決行
スルハ特ニ戰車ヲ主體トセル部隊ニ於テ其ノ特色ヲ發揮スル所以ナリ
第二四十五 機械化(騎兵)部隊ノ指揮官ハ部下ノ掌握ヲ確實ニシ輕快自在
ニ之ヲ運用シ隨時好機ニ投ジ其ノ全戰闘力ヲ發揮セシムルコト緊要ナリ
故ニ指揮官ハ常ニ其ノ機動力異ナル各部隊ノ離散ヲ戒メ周到ナル連絡保持ノ

戰闘主體 戰車用法 戰車主體 部隊歩兵 豫備隊ノ 編組及位 配屬飛行

手段ヲ講ジ又部下部隊ハ常ニ進ンテ上級指揮官ノ掌握下ニ入ル如ク注意スル
ヲ要ス
第二四十六 機械化(騎兵)部隊ニ於ケル諸兵種ノ協同ハ其ノ部隊ノ編組及
當時ノ狀況ニ應ジ戰闘ノ主體タル歩兵、戰車若クハ騎兵ヲシテ其ノ任務ヲ達
成セシムルヲ主眼トシテ之ヲ行ヒ機動力異ナル各部隊ノ戰闘力ヲ巧ニ統合發
揮スルヲ要ス
第二四十七 戰車ハ通常機械化(騎兵)部隊長之ヲ直轄使用シ其ノ輕快ナル
運動性ヲ利用シテ迅速果敢ニ行動シ好機ヲ捉ヘ集結セル威力ヲ以テ敵ノ弱點
ヲ奇(急)襲セシムルヲ有利トス狀況ニ依リ其ノ一部ヲ歩(騎)兵ニ配屬スルコ
トアリ
第二四十八 戰車ヲ主體トセル機械化部隊ノ歩兵ハ戰車ヲ支援シテ其ノ攻
撃ヲ容易ナラシムルト共ニ戰車ノ收メタル戰果ノ確保擴張ニ任ズルヲ通常ト
ス狀況ニ依リ攻撃正面ノ一部ヲ擔任シ或ハ敵ヲ攻撃シテ之ヲ牽制シ或ハ夜間
攻撃ヲ行フ等諸般ノ任務ニ服スルコトアリ
第二四十九 豫備隊ハ通常歩(騎)兵ヲ主體トシテ之ヲ設ク狀況ニ依リ必要
ノ戰車ヲ加ヘ時トシテ戰車ヲ主體トスルコトアリ
豫備隊ノ位置ハ用途ヲ考慮シ爾後ノ使用ニ便ナル如ク之ヲ定ムベシト雖モ位
置ノ變換容易ナルヲ以テ當初ニ於テハ地上及上空ヨリスル過早ノ損害ヲ避ク
ルト共ニ企圖ヲ秘匿シ得ル如ク考慮スルヲ要ス
第二五十 機械化(騎兵)部隊飛行機ヲ配屬セラレタル場合ニ於テハ特ニ之

機用法 奇襲的動 對空警戒 挺進部隊 戰闘力發 揮ノ爲各 種ノ編成 臨機編成 機械化部 隊ノ自動 車

トノ連絡及飛行場ノ掩護ニ關シ留意スルコト緊要ナリ
第二百五十一 機械化(騎兵)部隊ハ好機ニ乗ジ所要ノ部隊ヲ以テ敵ノ砲兵、
司令部等ヲ奇襲スルヲ有利トスルコト少カラズ又敵ノ機甲(騎兵)部隊ニ對ス
ル戰闘ニ於テハ空車、段列若クハ手馬ヲ奇襲シ又ハ之ヲ射撃シ其ノ活動力ヲ
減殺スルノ著意ヲ必要トス
第二百五十二 機械化(騎兵)部隊ハ各種ノ行動間敵飛行機ノ攻撃ヲ受クルコ
ト多キヲ以テ特ニ警戒ヲ嚴ニシ對空射撃ノ準備ヲ十分ニシ地形、氣象、夜暗
等ノ利用及隊形ノ選定ヲ適切ニシ以テ無益ノ損害ヲ防止スルコト緊要ナリ
第二百五十三 軍ノ作戰ヲ容易ナラシムル爲一部隊ヲ選抜シ特殊ノ任務ヲ課
シ遠ク敵ノ後方ニ挺進シ獨立シテ行動セシムルコトアリ
挺進部隊ノ派遣ニ方リテハ特ニ任務ヲ明確ニシ隊長ノ人選、兵力、編組、裝
備、派遣ノ時機等ヲ適切ナラシムルコト緊要ナリ
第二百五十四 機械化(騎兵)部隊ニ在リテハ常ニ其ノ偉大ナル戰闘力ヲ發揮
センガ爲諸資材特ニ車輛ノ整備、馬力ノ保存、燃料及彈藥ノ補充等ニ關シ各
種ノ手段ヲ盡クシテ遺憾ナキヲ期セザルベカラズ
第二百五十五 臨機編成セル機械化部隊ニ於テ其ノ自動車部隊ハ搭乘スベキ
各兵種ノ中隊(中隊ニ準ズル)ニ至ル迄之ヲ分屬シ其ノ意圖ノ如ク使用セシムルヲ
通常トス
自動車部隊ノ配屬ヲ受ケタル中隊長等ハ之ヲ直轄使用スルヲ可トスト雖モ要
スレバ更ニ搭乘スベキ小(分)隊等ニ至ル迄分屬スルニ躊躇スベカラズ

前進一般 ノ要領 前進部署 地形及機 動力ノ利

自動車部隊ノ各級指揮官直接其ノ部下部隊ヲ指揮セザル場合ニ於テハ通常軍
隊區分ニ依ル所屬指揮官ヲ輔佐シ自動車ノ整備、補給等ノ諸任務ニ服シ又必
要ニ應ジ空車ヲ指揮スルモノトス
第一章 戰闘ノ爲ノ前進
第二百五十六 機械化(騎兵)部隊敵ト近接シ衝突ヲ豫想スルニ至レバ搜索及
警戒ヲ周密ナラシメ適時有利ノ態勢ヲ成形スル如ク漸次縱長ヲ短縮シ諸隊ノ
掌握ヲ益々確實ニシ隊形及速度ノ選定ヲ適切ニシ巧ニ地形ヲ利用シ敵火ノ許
ス限リ乘車(馬)シテ機動ヲ行フモノトス此ノ際要スレバ砲兵、重火器等ヲ許
テ主力ノ行動ヲ掩護セシムルコトアリ又一部隊特ニ戰車ヲ急進セシムルコトアリ
ニ敵ノ小部隊ヲ驅逐シ或ハ敵主力ノ前進若クハ展開ヲ妨害セシムルコトアリ
第二百五十七 機械化(騎兵)部隊ハ前進ニ方リ其ノ隊形、警戒、對空防禦、
下車(馬)地點、空車(手馬)ノ處置、之トノ連絡法等ヲ適切ニ定メ其ノ實行ヲ
整齊ナラシムルヲ要ス
敵ト近接シ不意ニ衝突スルノ虞大ナルトキハ戰闘準備ヲ整へ地區ヨリ地區ニ
躍進スルコト少カラズ
同一進路ヲ前進スル戰車部隊ト其ノ他ノ部隊ト何レヲ前方ニ配置スベキヤ又
乘車部隊ト馬部隊ト何レヲ前方ニ配置スベキヤハ狀況ニ依ル
第二章 攻撃
第二百五十八 機械化(騎兵)部隊ノ戰闘ニ方リテハ地形ト機動力トヲ利用シ
放膽ナル包圍ヲ敢行シ若クハ敵ノ側背ニ向ヒ急襲スルヲ有利トス之ガ爲特ニ

用、包圍ノ敢行
輕快發刺タル戰闘
優勢ナル機甲部隊
戰闘ニ對スル
騎兵部隊
機甲部隊

一部隊ヲシテ敵ヲ牽制セシメ或ハ不利ナル方向ニ誘致セシムルヲ有利トスル
コトアリ既ニ展開シタル後ニ在リテモ狀況之ヲ許ス限リ豫備隊等ノ機動力ヲ
利用シ敵ヲ包圍スルヲ可トス何レノ場合ニ於テモ一部隊ヲ以テ敵ノ背後ヲ遮
斷セシムルノ著意ヲ必要トス
敵若シ我ヲ包圍セバ狀況ニ依リ行動迅速ナル部隊ヲ使用シテ其ノ包圍翼ヲ更
ニ外側ヨリ包圍シ或ハ穿貫的攻撃力ヲ發揮シテ包圍ノ樞軸ヲ擊破シ以テ敵ヲ
退路外ニ壓迫スルヲ可トス
第二百五十九 機械化(騎兵)部隊ハ戰闘ニ方リ爲シ得ル限リ優越セル態勢ト
機動ノ自由トヲ保持シ輕快發刺タル戰闘ヲ指導シ敵ヲ壓倒スルヲ要ス此ノ際
勉メテ乘車(馬)ノ儘展開シ好機ニ臨ミテハ縱ヒ損害ヲ受クルモ乘車(馬)前進
ヲ敢行シ又既ニ徒歩シタル後ニ於テモ所要ニ應ジ再ビ乘車(馬)シテ更ニ機動
ヲ敢行スル等遺憾ナク其ノ特性ヲ發揮スルコト緊要ナリ然レドモ乘車行動ニ
適セザル地形ニ於テ下車ヲ躊躇シ戰機ヲ逸スルカ如キコトアルヲ許サズ
第二百六十 機械化部隊優勢ナル敵ノ機甲部隊ヲ攻撃スルニ方リテハ速力ニ
敵情ヲ明カニシ主動ノ地位ヲ確保シツツ明斷果決速力ニ敵ノ基幹タル部隊ニ
決戦ヲ求メテ之ヲ擊破スルヲ有利トス此ノ際勉メテ敵ノ意表ニ出テ不利ナル
態勢ニ乘ズルノ著意ヲ必要トス之カ爲各種ノ手段ヲ盡クシ敵ノ態勢ヲ惑亂シ
以テ其ノ優勢ヲ發揮シ得ザラシムルヲ有利トスルコト屢々ナリ
第二百六十一 騎兵部隊敵ノ機甲部隊ヲ攻撃スルニ方リテハ敵ノ行動困難ナ
ル地形ニ於テ決戦ヲ求メ或ハ敵ヲ展開セシメタル後急遽地形ト機動力トヲ利

ノ攻撃法
機動力劣
レ敵ヲ
攻撃
夜間機動
ニ依ル拂
曉攻撃
廣正面ノ
敵陣攻撃

用シテ其ノ側背ヲ攻撃スル等自己ノ特色ヲ利用スルニ勉ムベシ此ノ際地形ノ
利用、對戰車火器ノ適切ナル配置等ニ依リ敵戰車(裝甲車)ノ跳梁ヲ防止スル
ト共ニ我が砲兵ノ猛烈ナル火力ニ依リ速力ニ敵ノ乘車部隊ヲ壓倒シ遠距離ヨ
リ徒歩スルニ至ラシムルノ著意ヲ必要トス
第二百六十二 機械化(騎兵)部隊機動力劣レル敵部隊ニ對スル攻撃ニ方リテ
ハ敵兵力優勢ナル場合ニ於テモ放膽機敏端倪スベカラザル行動ニ依リテ之ヲ
奇襲シ或ハ不利ナル情勢ニ陥ラシメテ之ヲ急襲スルヲ可トス而シテ敵既ニ整
然タル戰闘態勢ニ移ルニ至レバ寧ロ機動ヲ行ヒテ敵ノ弱點ヲ攻撃スルヲ可ト
ス此ノ際我が部隊自ラ混亂ニ陥ラザル如ク攻撃ノ要領、敵トノ離脱、爾後ノ
集結等ニ關スル事項ヲ明確ニ定メ置クコト緊要ナリ
第二百六十三 機械化(騎兵)部隊夜間機動ヲ行ヒ拂曉ヨリ敵ヲ奇襲セシ
トスル場合ニ於テハ特ニ方向ノ維持、不慮ノ障礙排除、企圖ノ秘匿等ニ關シ
周到ナル準備ヲ整ヘ整齊且靜肅ニ行動シ速力ニ所望ノ地點ニ到達スルコト緊
要ナリ而シテ拂曉前豫定ノ集結位置ニ到ルヤ更ニ敵情ヲ確ムルト共ニ特ニ各
部隊ヲ確實ニ掌握シテ的確ナル任務ヲ附與シ奇襲的ニ攻撃セシムルヲ可トス
此ノ際敵情明瞭ナラザルトキハ攻撃目標ヲ敵ノ死命ヲ制スベキ要點ニ選定ス
ルヲ可トス
第二百六十四 機械化(騎兵)部隊廣正面ニ陣地ヲ占領セル敵ヲ正面ヨリ攻撃
スル場合ニ於テハ適宜主力ヲ集結シテ之ヲ突破スルト共ニ豫メ前線突破後ニ
於ケル敵主力トノ決戦ヲ考慮シテ之ニ備ヘ且勉メテ迅速果敢ニ敵陣地内ノ戰

防禦一般
 第二百六十八 機械化(騎兵)部隊ノ防禦ニ於テハ敵ヲ欺騙シテ過早ニ展開セシメ或ハ敵ノ攻撃ヲ不利ナル方向ニ誘致シ或ハ巧ニ配備ヲ變更シテ敵ノ不意ニ乘ズル等機動力ヲ利用シ其ノ特性ヲ發揮シ爲シ得ル限り主動的ニ戰鬥ヲ指
 第二百六十九 機械化(騎兵)部隊ノ陣地占領ノ要領ハ防禦ノ目的、敵情、擔任正面ノ大小、地形等ニ依リ大ナル差異アリ而シテ機動ノ餘地大ナル地形ニ在リテハ第一線部隊ヲシテ通常獨立性アル若干ノ據點ヲ占領セシメ其ノ兵力ノ節約ヲ圖リ爾餘ノ兵力ヲ後方ニ配置シ以テ機動及反撃ノ自由ヲ確保シ適時ノ節制ニ敵ヲ破摧スルヲ可トス此ノ際戰車ノ大部若クハ全部ハ之ヲ集結シ敵ヲ反撃スル爲メ使用スルヲ通常トス
 第二百七十 機械化(騎兵)部隊ハ戰車ヲ使用スルヲ要スルトキハ勉メテ我カ砲兵及他ノ對戰車火器ノ有效射程内ニ於テ密ニ之ト協同シ且成ルベク敵ノ支援火力ノ及ビ難キ地域ニ於テ反撃スルヲ有利トス
 第二百七十一 機械化(騎兵)部隊追撃ニ方リテハ任務ニ基キ機動力ヲ發揮シ速力ニ戰略上ノ要點ニ向ヒ大規模ノ追撃ヲ斷行シ或ハ遠ク迂回シテ敵ヲ背後ヨリ攻撃シ若クハ退路ヲ遮斷スルヲ要ス
 第二百七十二 機械化(騎兵)部隊追撃間敵ノ抵抗ヲ受クルニ方リテハ機動ニ

防禦配備
 第二百六十九 機械化(騎兵)部隊ノ陣地占領ノ要領ハ防禦ノ目的、敵情、擔任正面ノ大小、地形等ニ依リ大ナル差異アリ而シテ機動ノ餘地大ナル地形ニ在リテハ第一線部隊ヲシテ通常獨立性アル若干ノ據點ヲ占領セシメ其ノ兵力ノ節約ヲ圖リ爾餘ノ兵力ヲ後方ニ配置シ以テ機動及反撃ノ自由ヲ確保シ適時ノ節制ニ敵ヲ破摧スルヲ可トス此ノ際戰車ノ大部若クハ全部ハ之ヲ集結シ敵ヲ反撃スル爲メ使用スルヲ通常トス
 第二百七十 機械化(騎兵)部隊ハ戰車ヲ使用スルヲ要スルトキハ勉メテ我カ砲兵及他ノ對戰車火器ノ有效射程内ニ於テ密ニ之ト協同シ且成ルベク敵ノ支援火力ノ及ビ難キ地域ニ於テ反撃スルヲ有利トス
 第二百七十一 機械化(騎兵)部隊追撃ニ方リテハ任務ニ基キ機動力ヲ發揮シ速力ニ戰略上ノ要點ニ向ヒ大規模ノ追撃ヲ斷行シ或ハ遠ク迂回シテ敵ヲ背後ヨリ攻撃シ若クハ退路ヲ遮斷スルヲ要ス
 第二百七十二 機械化(騎兵)部隊追撃間敵ノ抵抗ヲ受クルニ方リテハ機動ニ

追撃間ノ
 第二百七十二 機械化(騎兵)部隊追撃間敵ノ抵抗ヲ受クルニ方リテハ機動ニ

防禦配備
 第二百六十九 機械化(騎兵)部隊ノ陣地占領ノ要領ハ防禦ノ目的、敵情、擔任正面ノ大小、地形等ニ依リ大ナル差異アリ而シテ機動ノ餘地大ナル地形ニ在リテハ第一線部隊ヲシテ通常獨立性アル若干ノ據點ヲ占領セシメ其ノ兵力ノ節約ヲ圖リ爾餘ノ兵力ヲ後方ニ配置シ以テ機動及反撃ノ自由ヲ確保シ適時ノ節制ニ敵ヲ破摧スルヲ可トス此ノ際戰車ノ大部若クハ全部ハ之ヲ集結シ敵ヲ反撃スル爲メ使用スルヲ通常トス
 第二百七十 機械化(騎兵)部隊ハ戰車ヲ使用スルヲ要スルトキハ勉メテ我カ砲兵及他ノ對戰車火器ノ有效射程内ニ於テ密ニ之ト協同シ且成ルベク敵ノ支援火力ノ及ビ難キ地域ニ於テ反撃スルヲ有利トス
 第二百七十一 機械化(騎兵)部隊追撃ニ方リテハ任務ニ基キ機動力ヲ發揮シ速力ニ戰略上ノ要點ニ向ヒ大規模ノ追撃ヲ斷行シ或ハ遠ク迂回シテ敵ヲ背後ヨリ攻撃シ若クハ退路ヲ遮斷スルヲ要ス
 第二百七十二 機械化(騎兵)部隊追撃間敵ノ抵抗ヲ受クルニ方リテハ機動ニ

抵抗反撃 依リ之ヲ退却セシムルカ或ハ直チニ之ヲ突破蹂躪スル等ノ手段ニ依リ特ニ速カニ所望ノ目標ニ到達スルニ勉メザルベカラズ

退却一般ノ要領 第二十七三 機械化(騎兵)部隊ノ退却ニ於テハ適時後方ヲ整理シ退路上ニ於ケル行動ノ自由ヲ確保シタル後機動力ヲ利用シ勉メテ一舉ニ戰場ヲ離脱スルヲ可トス而シテ全軍ノ危急ニ方リテハ縱ヒ全滅ヲ賭スルモ果敢ナル行動ニ出テテ敵ノ企圖ヲ挫折シ或ハ其ノ前進ヲ阻止シ以テ主力ヲシテ危地ヨリ脱セシムルヲ要ス

一部ノ先遣 第二十七四 機械化(騎兵)部隊ノ退却ニ方リテハ退路ニ對スル敵ノ破壞企圖ヲ防遏センガ爲一部ヲ要點ニ先遣スルヲ要スルコト少カラズ又敵機甲部隊ノ追撃ニ對シテハ適時主要道路ノ要點ヲ破壞スルヲ有利トス

一部ノ配屬 殘置部隊ニハ要スレバ一部ノ戰車ヲ屬シ以テ敵トノ離脱ヲ容易ナラシムルコトアリ

陣地戰ノ特質 第二十七五 數帶ニ設備セラレタル堅固ナル陣地ノ攻防此ノ戰地戰ノ要ニ在リテハ多種且多量ノ戰鬪資材ヲ要シ戰鬪ノ狀態モ自ラ複雜トナルモノトス

第七篇 陣地戰及對陣 第一章 陣地戰

戰鬪原則 第二十七六 陣地戰ニ於ケル戰鬪ノ原則ハ其ノ根本ニ於テ運動戰ト異ナルモノナシト雖モ特ニ敵陣地ノ施設、戰鬪資材等ニ應ジ戰鬪ノ計畫及實施ヲ一層組織的ナラシムルヲ要ス然レドモ計畫ニ拘泥シテ錯綜スル戰況ニ處シ戰機ヲ逸スルガ如キコトナキヲ要ス

戰鬪方式ト資材 第二十七七 陣地戰ニ在リテハ狀況ヲ明察シテ機ニ應ジ戰鬪方式ヲ更新シ又戰鬪資材ニ改善ヲ加ヘ或ハ此等ヲ創意シテ敵ノ意表ニ出ヅルコト特ニ緊要ナリ

陣地戰ト瓦斯 第二十七八 陣地戰ニ在リテハ敵ハ瓦斯ヲ大規模ニ使用スルコトアルヲ以テ之ニ對スル搜索、警戒及防護ニ關シ特ニ周到ナル處置ヲ講ズルヲ要ス

急襲突破 第二十七九 攻撃ニ方リテハ十分ナル準備ヲ整ヘ敵ヲ急襲シテ一舉ニ其ノ陣地ノ全深ヲ突破スベキモノト然レドモ我が軍ノ兵力就中戰車、砲兵、飛行機其ノ他戰鬪資材ノ整否竝ニ敵情特ニ敵陣地ノ狀態ニ依リ逐次ニ攻略セザルベカラザルベカラズ

急襲ハ攻撃奏功ノ要件ナリ故ニ我が企圖ヲ極力秘匿シ周到ナル準備ヲ整ヘ其ノ實施ヲ猛烈迅速ニシテ間斷ナカラシメ以テ敵ヲシテ對應ノ違ナカラシメザルベカラズ

主攻擊正面 第二十八 主攻擊正面ハ戰略上ノ關係及一般ノ地形ヲ考慮スルノ外特ニ敵ノ陣地ノ強度、配備及兵團ノ素質、我が軍ノ攻撃準備ノ難易、戰鬪力發揮ノ

便否就中攻擊各期ニ於ケル歩戰砲協同ノ難易等ヲ較量シ勉メテ迅速ニ突破ヲ完了シ得ベキ方面ニ選定セラルルモノトス

第二百八十一 主攻擊正面ニ於ケル第一線師團ハ通常敵陣地全深ノ突破ヲ終始ス之ガ爲所要ノ戰車、砲兵、工兵、飛行機其ノ他特種ノ部隊、戰鬪資材等ヲ配屬セラレ且比較的狹小ナル作戰地域ヲ與ヘラルルモノトス

第二百八十二 第二線師團ハ第一線師團突破ノ成果ヲ擴大スル爲使用セラレルヲ通常トス

第二百八十三 主攻擊正面以外ノ部分ニ於ケル友軍ノ積極的協力ハ常ニ緊要缺クベカラザルモノトス而シテ其ノ實施好機ニ投シ且果敢ナルニ從ヒ益敵ヲ該方面ニ牽制シ著シク主攻擊正面ニ於ケル戰鬪ヲ容易ナラシメ得ベシ

第二百八十四 本節第一款以下ニ於テハ主トシテ敵ト近ク相對峙スル狀態ヨリ急襲ヲ以テ一舉ニ敵陣地ヲ突破セントスル場合ニ就キ記述ス

前項以外ノ場合ニ於テハ運動戰ノ要領ニ依リ敵陣地ニ近接シ次テ本節ニ準ジ攻撃ヲ實施スルモノトス

第一款 攻撃準備

第二百八十四 師團長ノ攻撃計畫ハ概テ運動戰ノ場合ニ準ズルモノ一層詳密ニ之ヲ定メ攻撃準備間ニ於ケル各兵種ノ行動、企圖秘匿ニ關スル事項、戰鬪資材ノ輸送及集積、輸送材料ノ整備、防空、連絡、瓦斯防護、交通、衛生、各種補給業務等ニ關シテモ亦詳細ニ企畫スルヲ要ス

第二百八十五 攻撃ノ爲ニハ概テ左ノ事項ニ就キ搜索ヲ行フモノトス

各陣地帯ノ狀況特ニ主ナル抵抗ヲ企圖スル陣地帯、其ノ支撐點、障礙物、

側防機能

陣地ノ配備特ニ兵團ノ接際部及其ノ變化ノ狀態

指揮官ノ位置、監視所、信號所

砲兵陣地、觀測所、彈藥集積所、砲兵ノ移動、飛行場

瓦斯使用

陣地後方ノ狀況、通信網、道路ニ關スル諸作業及其ノ使用景況、宿營地、倉庫ノ位置、鐵道ノ設備及其ノ運行狀態等

搜索ハ爾後絶エズ之ヲ繼續シ補修スベキモノトス而シテ此等ノ諸情報ハ空中窺真等ト共ニ適時之ヲ攻撃部隊ニ交付スルヲ要ス又各攻撃部隊ノ戰鬪地域ニ應ズル大梯尺ノ圖ヲ作製シ下級指揮官ニ至ル迄配布スルヲ可トス

第二百八十六 攻撃準備ハ極力之ヲ敵ニ秘匿セザルベカラズ之ガ爲各部隊ノ動作ニ變化ヲ呈シ或ハ通信ノ實施ヲ著シク頻繁ナラシメ或ハ遠力ニ空中搜索ヲ活潑ナラシムルガ如キハ嚴ニ之ヲ戒ムルヲ要ス又新ニ實施スル諸工事ハ我ガ企圖ヲ暴露スルノ不利アルヲ以テ成ルベク既設工事ヲ利用シ且遮蔽ノ手段ヲ講ズルト共ニ敵ノ注意ヲ巧ニ他方面ニ牽クノ著意ヲ必要トス

攻撃準備ノ進展ニ伴ヒ第一線師團ノ後方ハ增加兵團ノ來著特ニ砲兵ノ展開、莫大ナル戰鬪資材ノ輸送、諸倉庫等ノ増設、列車運轉回數ノ增加等ニ依リ著シク活氣ヲ呈スルニ至ルベキヲ以テ地形、氣象及夜暗ノ利用、巧妙ナル偽裝、高射部隊ノ運用等ニ依リ敵ノ實施スル諸搜索特ニ其ノ空中搜索ニ對シ之ヲ秘匿スルコト緊要ナリ此ノ間我が飛行機ハ敵情搜索ヲ繼續スルノ外所要ニ應ジ

攻撃準備ノ秘匿

作戰地域
變更ト
新加入師
團

我が陣地及其ノ後方地區ヲ攝影シ視察ノ結果ト對照シテ敵ノ注意ヲ喚起スル
モノナキヤチ點檢スルチ有利トス
有線通信ニ在リテモ敵ニ窃聽セラレザル爲窃聽地域内ニ在ル電話網ヲ後方ノ
モノト全ク分離スル等ノ注意ヲ必要トス
第二師團ヲ第一線ニ加入シ又所要ノ砲兵其ノ他ノ部隊ヲ主攻撃正面ニ増加セ
ラレルモノトス
新第一線ニ加入スベキ師團長ハ關係部隊ト交代チ行フニ先ダチ自ラ新作戰
地域ニ先行シ或ハ所要ノ機關ヲ先遣シテ偵察チ行ヒ部下諸隊ノ配備チ定メ速
カニ攻撃準備ニ著手スルト共ニ交代ノ時期及方法等ニ就キ關係部隊ト綿密チ
ル協定チ遂ゲルチ要ス作戰地域ヲ變更セラレタル第一線師團長モ亦之ニ準ジ
處置スルモノトス
各部隊ノ指揮官ノ處置モ亦前項ニ準ズ
第二師團ノ砲兵特ニ増加砲兵ノ展開ニ關シテハ周密ナル計畫及準備チ必
要トス而シテ急襲ノ目的ヲ達センガ爲高級指揮官ハ豫定陣地掩蔽ノ度ト進入
ニ要スル作業ノ程度トチ考慮シ適當ニ進入ノ時機ヲ決定スルチ要ス
攻撃ノ爲陣地變換チ要スル砲兵及新ニ増加セラレタル砲兵ハ師團長等ノ企圖
ニ基キ成ルベク速力ニ豫定陣地ニ於ケル諸準備特ニ測地、連絡、彈藥ノ集積
等チ完カラシムルチ要ス
效力射準備射撃チ行フチ要スルトキハ企圖ノ秘匿ニ關シ周到ナル注意ヲ必要

攻撃目標
到著目標
中間目標
縱長區分
ヲ大ニス
戰車使用
要領一ニ
砲兵ノ準
備一ニ
砲兵陣地
選定ト陣
地變換ハ

トス
第二師團長ハ敵ノ主ナル抵抗チ企圖スベシト判斷スル陣地帯ニ攻
撃目標ヲ定メ且一舉ニ突破セントスル全陣地ノ後方要線ニ其ノ到達目標ヲ選
定スルモノトス而シテ攻撃實行間ニ於ケル我が歩兵ノ敵陣地局部的抵抗ノ打
破又ハ困難ナル局地ノ通過等チ考慮シ要スレバ認識シ易キ逐次ノ線上ニ中間
目標ヲ定メテ歩戰砲飛等諸隊ノ協同チ調整スルモノトス
第二師團長ハ突破チ完全ニ遂行シ得ンガ爲特ニ縱長區分チ大ニシ最
後迄十分ナル戰鬪力ヲ保持シ得ル如クスルチ要ス而シテ此ノ際敵ノ主ナル抵
抗チ企圖スベシト判斷スル陣地帯ニ對スル準備ハ特ニ之チ完全ナラシムルコ
ト緊要ナリ
第二師團長ハ戰車ノ使用ニ方リテハ特ニ多數集結シ敵チ急襲スルコト緊要
ナリ而シテ歩、砲兵要スレバ更ニ飛行機トノ關係チ考慮シ全深ニ互ル詳密チ
ル戰鬪計畫ヲ定メ遺憾ナク其ノ戰鬪力ヲ發揮シ得ザルベカラズ
第二師團長ハ砲兵ハ攻撃準備間要スレバ我が準備行動チ妨害スル敵チ射撃
シテ之ガ掩護ニ任ズルト共ニ爾後最モ有效ニ攻撃準備射撃チ實施シ得ル如ク
又歩兵ノ攻撃開始後主力ヲ以テ第一線部隊ノ遭遇スル逐次ノ抵抗チ打破シ一
部チ以テ敵砲兵ノ制壓及指揮組織ノ崩壞等ニ任ズル如ク準備スルチ要ス
第二師團長ハ砲兵ハ敵ノ主ナル抵抗チ企圖スベシト判斷スル陣地帯ノ縱深
ニ對シ成ルベク同一陣地ヨリ射撃チ繼續シ得ル如ク勉メテ敵ニ近ク其ノ陣地
ヲ選定スルチ緊要トス然レドモ全砲兵ノ爲斯クノ如キ陣地ヲ得ルコト困難ナ

三、二

工兵ノ任
務一三〇

攻撃發起
ノ位置

命令
攻撃實施
豫習

ルヲ以テ所要ノ砲兵ハ攻撃進捗ニ伴ヒ陣地變換ヲ行ハザルベカラズ而シテ其
ノ時機ハ攻者ノ爲最モ危險ナルヲ以テ師團長ハ之ヲ統一スルト共ニ陣地變換
及彈藥補充ノ爲所要ノ部隊ヲシテ援助セシムルコト必要ナリ
師團砲兵指揮官ハ師團長ノ企圖ニ基キ豫メ綿密ナル陣地變換ノ計畫ヲ定ムル
モノトス此ノ際彈藥前送ノ準備及進入路ノ改修等ニ關シ遺憾ナカラシムルコ
ト特ニ緊要ナリ

第二九十四 工兵ハ攻撃準備間砲兵ノ展開、兵團ノ移動、補給等ノ爲必要
ナル交通設備、指揮及視察等ノ施設、攻撃ノ爲必要ナル資材ノ整備及配給等
ニ任シ且突撃、敵陣地内ノ戰鬪及陣地帶通過ノ爲必要ナル作業ニ關シ準備ヲ
整フルヲ要ス

第二九五 師團長ハ通常歩兵ノ攻撃開始前夜ニ於テ攻撃ニ任ズル第一線
部隊ヲ攻撃發起ノ位置ニ就カシム此ノ位置ハ狀況特ニ地形ニ依リ差異アルモ
爾後ノ攻撃進捗ヲ容易ナラシムル爲成ルベク敵ニ近接シアルヲ可トス

第二九十六 攻撃實施ノ命令ハ嚴ニ之ガ漏洩ヲ戒ムルコト緊要ナリ之ガ爲
勉メテ攻撃實施ノ直前ニ於テ下達スルヲ要ス

第二九十七 各種ノ防禦設備ニ對スル攻撃法ヲ適切且遺漏ナカラシムル爲
狀況ヲ許ス限リ戰線ノ後方ニ此等敵陣地ノ主要部ヲ摸造シ該陣地ノ攻撃ニ
任ズベキ部隊ヲシテ豫メ攻撃動作ヲ演練セシムルヲ有利トス創意ニ基ク攻撃
資材、戰法等ヲ用ヒントスル場合ニ於テ特ニ然リ

第二款 攻撃實施

攻撃準備
射撃歩兵
攻撃前進

攻撃實施
間ノ歩兵

中間目標
到達時ノ
協同

獲得
セザル

第二九十八 攻撃準備射撃及歩兵ノ攻撃前進開始ノ時機ハ軍司令官之ヲ定
ムルモノトス

攻撃準備射撃ノ實施ニ方リ射撃ヲ斷續シ或ハ之ヲ他ニ轉移スル等ノ手段ヲ復
行スルトキハ敵ヲシテ屢々我が歩兵ノ攻撃前進開始ノ時機ヲ誤認セシメ得ル
コトアリ

攻撃準備射撃ノ時期ニ於テハ敵ハ通常全砲兵ヲ舉ゲテ我が第一線及後方地區
ニ於ケル要點、砲兵等ニ對シ猛烈ナル射撃ヲ行フベキヲ以テ我が歩兵ハ工事
及地形ヲ利用シテ損害ヲ避ケ攻撃前進開始ノ時機ヲ待ツモノトス

第一線歩兵ノ攻撃前進及之ニ伴フ砲兵ノ射撃ハ攻撃準備射撃ニ連續シテ全線
同時ニ開始スルヲ通常トス

第二九十九 攻撃實施間第一線歩兵ハ攻撃目標ノ後端ニ向ヒ一意攻撃前進
ヲ遂行スルモノトス然レドモ敵ノ支撐點等堅固ナル陣地ノ要部ニ遭遇スル歩
兵ハ地形ヲ利用シ敵火ノ狀態ヲ考慮シ其ノ側方又ハ背後ヨリ之ヲ攻略スルヲ
有利トスルコト多シ

第三百 第一線歩兵中間目標ニ達スルヤ速カニ砲兵ニ彼我ノ狀況ヲ通報シ且
戰車トノ連絡ヲ確實ニシ要スレバ飛行機ニ對シ其ノ位置ヲ標示ス又砲兵ハ彼
我第一線ノ狀況ヲ確認シ歩兵ヲ支援スルニ遺憾ナキヲ要ス此ノ際飛行機ハ彼
ガ第一線歩兵ノ位置ヲ觀察シ要スレバ歩兵ニ之ガ標示ヲ要求シ機ヲ失セズ之
ヲ砲兵其ノ他必要ナル部隊ニ通報スルヲ要ス

第三百一 攻撃實施間獲得セザル戰果ハ極力之ヲ擴張スルヲ要ス之ガ爲各級指

戰果擴張

第一線部隊ノ交代

主抵抗地帯ヲ占領シタルトキノ指導

揮官ハ戰鬪ノ經過ヲ豫想シ戰果擴張ノ方法ヲ豫定スルト共ニ豫期セザル方面ニ於ケル成功ヲモ直チニ利用シ得ル如ク軍隊ヲ部署セザルベカラズ

戰果擴張ノ爲ニハ正面ノ各部隊ハ一意所命ノ方向ニ攻撃前進シ此ノ間通常後方部隊ヲ以テ横方向ニ向ヒ敵陣地ヲ包圍シテ之ヲ攻略ス斯クノ如クシテ逐次破孔ヲ擴大スルモノトス

戰果擴張ノ爲歩兵ニ配屬セラレタル戰車及砲兵ハ特ニ有效ニ使用セラルルモノニシテ工兵ハ此等ノ推進及彈藥前送ノ爲交通路ノ補修ヲ迅速ナラシムルコト緊要ナリ戰果擴張ノ爲飛行部隊ノ地上戰鬪參加ハ敵ヲ壓倒シ友軍ノ志氣ヲ鼓舞シ大ナル效果ヲ發揮スルモノトス

變換セントスル場合ニ於テハ該部隊ノ交代ヲ行フヲ要スルコトアリ而シテ超越交代ヲ行フニ方リテハ通常先ヅ後方部隊ヲ被交代部隊ノ後方ニ展開シ次テ之ヲ超越シテ前進セシムルモノトス此ノ際被交代部隊ハ爲シ得レバ射撃ヲ以テ超越前進スル部隊ヲ掩護シ後速力ニ隊伍ヲ整頓シ上級指揮官ノ命ニ依リテテ超前進スル部隊ヲ掩護シ後速力ニ隊伍ヲ整頓シ上級指揮官ノ命ニ依リテテ

第三百三 敵ノ主ナル抵抗ヲ企圖セル陣地帯ヲ奪取セバ到達目標ニ向ヒ果敢ナル攻撃ヲ續行シ敵ヲシテ後方陣地帯ニ據ルヲ得ザラシメ以テ全陣地ノ突破ヲ完成スルヲ要ス

敵ハ我が攻撃ヲ行間我が歩、砲兵ノ協同十分ナラザルト部隊ノ混亂セルトニ乘シ大規模ノ逆襲ヲ行ヒ或ハ更ニ後方陣地帯ニ於テ頑強ナル抵抗ヲ試ムルコトアリ故ニ師團長ハ極力敵ノ企圖ヲ破摧スルニ勉メ止ムヲ得ザレバ適時第一線部隊ニ其ノ占領スベキ地線ヲ示シ且速力ニ爾後ノ攻撃準備ヲ完了スル如ク諸隊ヲ部署スルヲ要ス

第一線ノ各指揮官ハ全局ニ著眼シテ其ノ行動ヲ律シ速力ニ部下軍隊ヲ確實ニ掌握スルト共ニ比隣部隊特ニ戰車、砲兵トノ連繫ヲ緊密ニシ猛烈ニ敵ヲ急追シ若クハ爾後ノ攻撃ヲ準備スベシ

戰車、砲兵及後方部隊ハ萬難ヲ排シテ速力ニ前方ニ進出シ第一線部隊ノ行動ニ協力スベシ此ノ際工兵ハ戰車、砲兵ノ前進ノ爲機宜ニ適スル援助ヲ爲スコト必要ナリ

飛行機ハ最も機敏ニ敵情特ニ後方陣地帯附近ニ於ケル敵ノ企圖及其ノ後方ノ狀況ヲ搜索シ且友軍相互ノ連絡ヲ圖ルヲ要ス

以上ノ如クシテ終ニ敵ノ全陣地ヲ突破シ敵ヲ築城地帯外ニ壓倒スルモノトス

第三百四 最も堅固ナル敵陣地ノ要部ヲ奪取セントスル場合ニ於テハ地中攻撃ヲ併セ行ハザルベカラザルコトアリ而シテ地中攻撃ヲ行フベキヤ否ヤハ通常軍司令官之ヲ決定スルモノトス

地中攻撃ハ之ト連繫シテ攻撃スベキ地上部隊ノ行動適切ナルニ依リ始メテ其ノ目的ヲ達成シ得ルモノトス之ガ爲師團長ハ通常地中攻撃ヲ實施スベキ地區ノ指揮官ニ所要ノ工兵、器材等ヲ配屬シ地上及地中ノ戰鬪ヲ統一セシムルヲ要ス但シ地中ノ作業ハ師團工兵指揮官ヲシテ之ヲ區處セシムルモノトス

地中攻撃進捗シ爆破ヲ行フノ時機ニ至レバ地上部隊ハ豫メ所要ノ準備ヲ整ヘ

地中攻撃

トアリ故ニ師團長ハ極力敵ノ企圖ヲ破摧スルニ勉メ止ムヲ得ザレバ適時第一線部隊ニ其ノ占領スベキ地線ヲ示シ且速力ニ爾後ノ攻撃準備ヲ完了スル如ク諸隊ヲ部署スルヲ要ス

第一線ノ各指揮官ハ全局ニ著眼シテ其ノ行動ヲ律シ速力ニ部下軍隊ヲ確實ニ掌握スルト共ニ比隣部隊特ニ戰車、砲兵トノ連繫ヲ緊密ニシ猛烈ニ敵ヲ急追シ若クハ爾後ノ攻撃ヲ準備スベシ

戰車、砲兵及後方部隊ハ萬難ヲ排シテ速力ニ前方ニ進出シ第一線部隊ノ行動ニ協力スベシ此ノ際工兵ハ戰車、砲兵ノ前進ノ爲機宜ニ適スル援助ヲ爲スコト必要ナリ

飛行機ハ最も機敏ニ敵情特ニ後方陣地帯附近ニ於ケル敵ノ企圖及其ノ後方ノ狀況ヲ搜索シ且友軍相互ノ連絡ヲ圖ルヲ要ス

以上ノ如クシテ終ニ敵ノ全陣地ヲ突破シ敵ヲ築城地帯外ニ壓倒スルモノトス

第三百四 最も堅固ナル敵陣地ノ要部ヲ奪取セントスル場合ニ於テハ地中攻撃ヲ併セ行ハザルベカラザルコトアリ而シテ地中攻撃ヲ行フベキヤ否ヤハ通常軍司令官之ヲ決定スルモノトス

地中攻撃ハ之ト連繫シテ攻撃スベキ地上部隊ノ行動適切ナルニ依リ始メテ其ノ目的ヲ達成シ得ルモノトス之ガ爲師團長ハ通常地中攻撃ヲ實施スベキ地區ノ指揮官ニ所要ノ工兵、器材等ヲ配屬シ地上及地中ノ戰鬪ヲ統一セシムルヲ要ス但シ地中ノ作業ハ師團工兵指揮官ヲシテ之ヲ區處セシムルモノトス

地中攻撃進捗シ爆破ヲ行フノ時機ニ至レバ地上部隊ハ豫メ所要ノ準備ヲ整ヘ

主陣地帶
ヲ骨幹ト
スル設備
後方陣地
斜交陣地
攻撃豫知
ト準備
防禦陣地
編成要領

爆發ノ瞬時ヲ利用シテ突撃ヲ敢行シ敵陣地ヲ奪取スルヲ要ス
第二節 防禦
要旨
第三百五 陣地戰ニ於ケル防禦ニ在リテハ主陣地帶ヲ全陣地ノ骨幹トシ之ニ全力ヲ傾注シテ防禦ノ目的ヲ達成スルモノトス而シテ主陣地帶掩護ノ爲警戒陣地ヲ又軍司令官ノ豫備陣地トシテ通常後方陣地帶ヲ設ケ要スレバ主陣地帶ト後方陣地帶トノ間ニ斜交陣地ヲ設備スルモノトス
後方陣地帶ハ軍司令官ノ統一部署ニ基キ防禦方面ノ要度、構築ノ爲使用シ得ル資材、時日ノ多寡等ニ應ジ設備スルモノトス而シテ主陣地帶トノ距離ハ狀況特ニ地形ニ依リ變化スト雖モ敵ヲシテ主陣地帶ノ攻略後砲兵大部ノ推進ヲ行フコトナク直チニ攻撃シ能ハザラシムル如ク定ムルヲ要ス
斜交陣地ハ陣地正面中危險ノ顧慮大ナル方面ニ於テ其ノ兩翼ヲ前後二陣地帶ニ依リシテ之ヲ設ケルモノトス
第三百六 敵ト近ク對峙セル場合ニ於テ敵ノ攻撃ヲ豫知スルニ至レバ軍司令官ハ一般ノ狀況ニ稽ヘ機ヲ逸セズ豫想スル敵ノ主攻撃方面ニ對シ砲兵其ノ他所要ノ兵力ヲ増加シ必要ノ戰闘資材特ニ彈藥ヲ集積スルモノトス
第一款 防禦陣地及陣地占領
第三百七 主陣地帶編成ノ要領ハ運動戰ノ場合ニ準ズルモ特ニ諸種ノ技術的設備ヲ加ヘ以テ各部ノ獨立性ヲ増大シ陣地内ニ於テモ韌強ナル戰闘ヲ行ヒ得ル如ク設備スルヲ緊要トス

陣地編成
順序強度
交通網ノ
破壞ト其
準備
第一線師
團長ノ防
禦
砲兵ノ準
備

警戒陣地、後方陣地帶及斜交陣地モ亦各々其ノ目的ニ應ジ前項ニ準ジ編成スベキモノトス
警戒陣地ノ位置ハ主陣地帶ニ在ル砲兵ノ支援ヲ受ケ得ルヲ度トシ成ルベク前方ニ之ヲ選定スルヲ通常トス
各陣地帶ハ狀況ノ變化ニ應ジ決戰ヲ指導シ得ル如ク編成スルコトニ勉ムベシ
第三百八 陣地編成ノ順序及工事ノ強度ハ狀況ニ適合セシメザルベカラズ而シテ緊要ノ度大ナル工事ヨリ完成シ得ンガ爲ニハ逐次某期限ヲ劃シテ作業ノ實施ヲ規正スルヲ可トス
第三百九 狀況ニ依リ陣地ノ前方ニ大規模ナル交通網ノ破壞ヲ行ヒ又陣地内ニ於テ敵特ニ戰車、砲兵等ノ進出、戰闘資材特ニ彈藥ノ前送等ヲ妨害スル目的ヲ以テ所要ノ地點ニ破壞ヲ準備スルヲ必要トス
第三百十 第一線師團ハ通常主陣地帶及警戒陣地ノ防禦ニ任ズルモノトス警戒部隊ノ主要ナル任務ハ敵情ヲ搜索シ敵ノ搜索ヲ妨害シ且敵ノ急襲ニ對シ主陣地帶ニ於ケル戰闘準備ヲ完成スルノ餘裕ヲ與フルニ在リ而シテ敵ノ眞面目ノ攻撃ニ際シ砲兵ト協力シ其ノ動作ヲ擾亂シ以テ主陣地帶ニ於ケル戰闘ヲ有利ナラシムルヲ適當トスルコト少カラズ
師團長ハ警戒陣地ノ位置ヲ概示シ警戒部隊ノ任務及兵力ヲ決定シ且其ノ動作ヲ統一スルモノトス
第三百十一 砲兵ハ敵ノ攻撃準備間ニ於テ其ノ準備ヲ妨害スル爲敵ノ砲兵、司令部、歩兵ノ占領地域、戰車ノ集地、交通路、宿營地等ニ對シ射撃ヲ行

情報收集
敵情偵知

又好機ニ乘シ攻撃準備破摧射撃ヲ實施シ且敵步兵ノ攻撃前進開始後ニ於テハ其ノ主力ヲ以テ之ガ阻止ニ任ズル如ク準備スルヲ要ス
 攻撃準備破摧射撃ハ敵ノ攻撃準備進歩シ之ニ最モ大ナル打擊ヲ與ヘ得ル時機ニ於テ急襲的ニ開始シ敵ノ準備ヲ破摧シ特ニ攻撃歩兵ヲ震駭シ以テ其ノ企圖ヲ挫折セシムルモノトス之ガ爲敵ノ占領確實ナル地域又ハ推定セル待機地域等ニ對シ射撃ヲ指向スルヲ要ス而シテ該射撃一般ノ計畫ハ通常軍司令官之ヲ統一スルモノトス

第三百十二 情報ノ收集適切ナルハ防禦ニ於テ急襲ヲ免レ且主動的ニ企圖ヲ遂行スル爲重要ナルヲ以テ總テノ手段ヲ盡クシ絶エズ此ノ要求ヲ充足スルコト緊要ナリ而シテ防禦ニ於テ敵情ニ關シ偵知スベキ事項概ネ左ノ如シ
 兵力並ニ部署特ニ主攻方面、攻撃開始ノ時機及其ノ取ルベキ攻撃方法
 砲種、砲數、放列陣地、觀測所、彈藥集積所
 戰車ノ種類、兵力、使用方面特ニ其ノ集合地及行動
 飛行場、飛行機活動ノ狀態
 瓦斯使用
 交通、通信ノ施設及狀態、宿營地特ニ司令部ノ位置、倉庫、敵ノ後方ニ於ケル軍隊行動ノ狀態
 新企圖ノ徵候ト看做スベキ諸作業等
 敵情ノ變化ヲ比較研究スルトキハ敵ノ企圖ニ關スル確實ナル證據ヲ得ルモノトス之ガ爲空中窺偵ヲ利用スルコト緊要ナリ

連絡、觀測及監視
設備

第三百十三 連絡、觀測及監視ノ施設ハ統一セル計畫ノ下ニ之ヲ行フコト緊要ナリ
 通信網ハ爲シ得ル限り用途ニ依リテ之ヲ區別シ臨時モ通信ヲ杜絶セシメザル爲各種ノ手段ヲ講ズルト共ニ敵ノ窺信ニ對シ注意スルコト緊要ナリ
 陣地前ノ監視ハ監視及觀測所ノ適當ナル配置ニ依リ間隙ナカラシムルヲ要ス之ガ爲各部隊ニ適當ニ擔任區域ヲ配當スルモノトス而シテ監視及觀測所ハ視界成ルベク大ナル如ク之ヲ主陣地上及其ノ後方ニ縱深ニ配置シ要スレバ主陣地帶ノ前方必要ナル地點ニ配置シ陣地内ニ在ルモノハ特ニ敵砲火ノ下ニ於テモ尙安全ニ監視ヲ繼續シ得ル如ク堅固ナル設備ヲ必要トス
 照明機關ハ夜間ニ於ケル敵ノ企圖特ニ其ノ攻撃及障礙物破壞ノ動作ヲ監視スル爲之ヲ使用ス師團長ハ所要ニ應ジテ統一スルモノトス
 照明機關ノ位置ハ其ノ所望區域ヲ照明スルニ便ニシテ且敵彈ニ對スル掩護確實ナルヲ要ス若シ掩護十分ナラザルトキハ屢々其ノ位置ヲ變換スルコトニ留意スベシ

第三百十四 交通ノ設備及整理ハ防禦ニ在リテ特ニ必要ナリ師團長ハ軍司令官ノ計畫ニ基キ交通網ノ設備ヲ統一シ交通統制ノ規定ヲ設ク之ガ實行ヲ監督スルヲ要ス
 交通及補給ノ爲地形、氣象及工事ノ利用ヲ完全ニシ常ニ我が行動ニ注意シ以テ苟モ企圖ヲ敵ニ察知セラレルガ如キコトアルベカラズ

第二款 防禦戰圖

砲兵ノ射
擊飛行機
ノ活動機
ノ準備機
破摧射擊

戰闘經過
中ノ動作

陣内戰闘
一〇三

第三百十五 敵攻撃準備ヲ開始スルヤ砲兵ハ適時交通遮斷及擾亂ノ爲射撃ヲ行ヒ飛行機ハ敵ノ第一線及後方地帯ヲ細密ニ搜索シ機ヲ失セズ其ノ企圖ヲ判斷スルノ資料ヲ獲得スルヲ要ス
第三百十六 攻撃準備破摧射撃ヲ實施スベキヤ否ヤハ我が準備ノ程度特ニ準備彈藥ノ多寡及敵ノ攻撃準備ノ状態等ヲ考慮シテ軍司令官之ヲ決定スルモノトス
攻撃準備破摧射撃ハ敵ノ攻撃開始ノ直前ニ於テ之ヲ實施スルヲ通常トス然レドモ敵ノ攻撃開始時機ヲ豫メ偵知シ得ザル場合ニ於テハ時トシテ敵攻撃準備射撃ヲ開始スルヤ直チニ攻撃準備破摧射撃ヲ實施スルコトアリ此ノ際敵ハ屢々我が砲兵陣地搜索ノ爲射撃ヲ開始スルコトアルヲ以テ過早ニ我が陣地ヲ敵ニ暴露スルノ不利ニ陥ラザル如ク注意スルヲ要ス
第三百十七 敵兵我が警戒陣地ノ攻撃ヲ開始セル以後ニ於ケル防禦戰闘ノ實施ハ運動戰ノ場合ニ準ズルモ特ニ細密ナル計畫ニ基キ防禦各機能ヲ最モ組織的ニ活動セシメ物質的威力ヲ發揮シテ敵ノ攻撃威力ヲ主陣地帶前方ニ於テ破摧スベキモノトス
第三百十八 敵兵我が主陣地帶ノ一部ニ侵入セバ該地區ヲ守備スル指揮官ハ豫メ考察セル所ニ從ヒ逆襲ヲ決行シ陣地ヲ恢復スルヲ要ス
敵兵若シ深ク我が陣地内ニ侵入セバ第一線各部隊ハ破孔ノ兩側ヲ確保シテ其ノ擴大ヲ防止シ以テ我が逆襲ノ機ヲ得シムルヲ要ス而シテ逆襲ハ豫メ整ヘタル準備ト統一セル指揮トヲ以テ之ヲ敢行スベシ此ノ際逆襲ノ機ヲ失シ敵ヲシ

地中攻撃
ニ對抗

對陣ノ現
出

對陣ニ於
ケル陣地
編成

陣地強度
增加

對陣間諸
設備

ヲ獲タル成果ヲ擴大セシメ或ハ其ノ占據セル地區ノ保持ヲ確實ナラシムルコトナキヲ要ス
第三百十九 敵ノ地中攻撃ニ對シテハ常ニ細心ノ注意ヲ拂ヒ若シ之ヲ豫期シ或ハ察知スルトキハ機ヲ失セズ之ガ對抗ノ處置ヲ講ズルヲ要ス
第二章 對陣
第三百二十 彼我兩軍各々陣地ヲ編成シテ相對峙シ爾後ノ作戰ヲ準備スル場合ニ於テハ對陣狀態ヲ現出ス本章ニ於テハ主トシテ戰闘勝敗ノ決ヲ見ルニ至ラズシテ相對峙スル場合ノ對陣ニ就キ記述ス
第三百二十一 對陣間ニ於ケル陣地ハ畜ニ防禦ニ適スルノミナラズ將來ノ攻勢ニ便ナルヲ要ス
對陣ニ移ラントスルニ際シテハ高級指揮官ハ爾後ノ作戰ヲ考慮シテ速カニ方針ヲ確立シ機ヲ失セズ必要ナル戰線ノ整理及配置ノ變更ヲ行フ即チ所要ニ應ジ局部的攻撃ヲ行ヒテ要地ヲ奪取シ或ハ戰線ノ一部ヲ後退シテ有利ナル位置ヲ占メ且狀況ノ變化ニ對應シ得ル如ク成ルベク速カニ縱長ノ配備ヲ取り爾後諸般ノ施設ヲ完整シ益々戰闘力ヲ充實スルモノトス
第三百二十二 對陣狀態ニ入ルヤ師團長ハ軍司令官ノ企圖ニ基キ其ノ防禦計畫ヲ定メ豫想スル對陣期間ノ長短ニ應ジ各種ノ築城材料ヲ使用シ漸次其ノ陣地ノ強度ヲ增加ス
第三百二十三 對陣間ニ在リテハ掩蔽、棲息、給水、照明、煖房、瓦斯防護等ノ設備、交通路ノ新設若クハ補修、砲兵ノ進出設備等各種ノ設備ヲ完全ナ

山地戰ノ部署

第三十三 山地ハ交通不便ナル爲ニ比隣部隊ノ機ニ應ズル協同動作ヲ期待シ難ク且兵力適時ノ移動困難ナリ故ニ軍隊ヲ部署スルニ方リテハ適宜獨立性ヲ附與スルコト緊要ナリ又戰闘ニ方リテハ各級指揮官ノ獨斷ヲ要スル

山地戰ノ特性

第三百二十九 山地ハ其ノ廣サ、比高ノ大小、斜面ノ形狀、地質、植物ノ狀態、氣象ノ交感等ニ依リ戰術上ノ價值ヲ異ニスト雖モ一般ニ展開區域狹ク交通不便ニシテ運動容易ナラズ且補給ノ圓滑ヲ缺クヲ以テ大部隊ノ指揮ヲ困難ナラシム然レドモ兵力及運動ヲ敵ニ秘スルコトヲ得又寡兵ヲ以テ衆敵ヲ扼止スルコトヲ得

第八篇 特殊ノ地形ニ於ケル戰闘

第一章 山地ノ戰闘

長期對陣ノ注意

前項ノ攻撃ニ方リ有力ナル砲兵ヲ使用スル場合ニ於テハ砲兵ハ當該部分ニ對シ猛烈ナル射撃ヲ集中スルノミナラズ敵ノ來援ヲ阻止シテ之ヲ孤立セシムル爲射撃ヲ以テ包圍スルヲ有利トス
第三百二十八 對陣長期ニ互ルトキハ各級指揮官ハ絶エズ軍隊ノ志氣ヲ振作シ軍紀ヲ嚴肅ニシ其ノ戰鬪力ヲ増進スルニ努力スルコト緊要ナリ而シテ敵ハ此ノ間宣傳其ノ他有エル手段ヲ以テ我が軍ノ團結ヲ弛解セシムルニ勉ムベキヲ以テ特ニ各級指揮官ハ之ニ對應スルノ手段ヲ講ズルヲ要ス

對陣間ノ警備訓練ノ關係

ラシムルヲ要ス而シテ此等ノ作業ハ特ニ工兵ノ技術ニ待ツベキモノ多シ
第三百二十四 對陣間ニ在リテハ常ニ戰備ヲ嚴ニシ特ニ敵ノ急襲ニ對シ機ヲ失セズ對抗處置ヲ取リ得ル狀態ニ在ルコト最モ緊要ナリ然レドモ警備ヲ害セザル範圍ニ於テ陣地ノ改修及休養ニ勉メ爾後ノ攻勢ヲ準備スルヲ要ス之ガ爲陣地ニハ直接守備ニ要スル兵力ヲ配置シ爾餘ノ部隊ハ後方ニ在リテ休養セシムルト共ニ所要ノ訓練ヲ爲サシメ其ノ軍隊區分ハ循環交代ニ便ナラシムルモノトス
第一線部隊ノ配備ハ當時ノ狀況、晝夜ノ別等ニ應ズル如ク巧ニ之ヲ定メ且適宜變更シ敵ヲシテ乘ズルノ罅隙ナカラシムルコト緊要ナリ
對陣間ニ在リテハ各級指揮官ハ各種ノ手段ヲ盡クシテ敵ノ急襲ヲ豫防シ且敵情特ニ其ノ企圖ヲ偵知スルヲ要ス
第三百二十五 直接陣地ノ守備ニ任ズル部隊ト後方ニ在ル部隊トノ交代時期ハ往々敵ニ乘セラルルノ虞アルヲ以テ其ノ時期ヲ一定セザルヲ可トシ師團長適宜之ヲ統一シテ實施セシムルト共ニ交代部隊モ亦十分ノ戒心ヲ要ス
第三百二十六 師團長ハ警報ニ際スル各部隊ノ處置及對陣間ニ於ケル諸勤務ヲ規定スルモノトス而シテ敵ニ對シ嚴ニ之ガ漏洩ヲ戒ムルト共ニ所要ニ應ジ之ヲ變更シテ敵ニ乘ズベキ罅隙ヲ與ヘザルノ著意必要ナリ
第三百二十七 對陣間ニ在リテハ情報ノ獲得或ハ敵ノ戰鬪準備及休息妨害等ノ目的ヲ以テ局部的攻撃ヲ行フコトアリ又特ニ我が陣地帶一部ノ變更就中要點ノ奪取ヲ要スル場合等ニ於テハ此ノ種攻撃ヲ強行スルモノトス

守備部隊ノ後方部隊ノ交代

守備部隊ノ後方部隊ノ交代時期ハ往々敵ニ乘セラルルノ虞アルヲ以テ其ノ時期ヲ一定セザルヲ可トシ師團長適宜之ヲ統一シテ實施セシムルト共ニ交代部隊モ亦十分ノ戒心ヲ要ス
第三百二十六 師團長ハ警報ニ際スル各部隊ノ處置及對陣間ニ於ケル諸勤務ヲ規定スルモノトス而シテ敵ニ對シ嚴ニ之ガ漏洩ヲ戒ムルト共ニ所要ニ應ジ之ヲ變更シテ敵ニ乘ズベキ罅隙ヲ與ヘザルノ著意必要ナリ
第三百二十七 對陣間ニ在リテハ情報ノ獲得或ハ敵ノ戰鬪準備及休息妨害等ノ目的ヲ以テ局部的攻撃ヲ行フコトアリ又特ニ我が陣地帶一部ノ變更就中要點ノ奪取ヲ要スル場合等ニ於テハ此ノ種攻撃ヲ強行スルモノトス

高所占領
ノ利
兵特ニ山砲、榴彈砲其ノ他重火器等ヲ利用シテ道路及斜面ヲ射撃セシムルヲ要ス而シテ一部隊ト雖モ最高所ヲ占ムルトキハ敵ノ動作ヲ觀察スルコト易ク其ノ志氣ヲ挫折セシムルノ利アリ

交通網設
部隊ノ連絡ニ勉ムルコトハ山地ノ戰鬥ニ於テ特ニ緊要ナリ而シテ有線通信ノ利用ハ往々著シク制限セラレ無線通信及視號通信ニ依ル連絡ノ價值特ニ大ナルモノトス

山地戰鬥
迂回
第三十三
リ其ノ目的ヲ達成スルニ在リテハ直接敵ヲ攻撃スルト共ニ迂回ニ依リ敵ヲ牽制シ主力ヲ以テ大規模ノ迂回ヲ行フニ躊躇スベカラズ

迂回ノ成果ハ迂回部隊ノ果敢ナル行動ニ待ツモノ甚大ナルヲ以テ該部隊ハ明斷以テ放膽ナル行動ヲ敢行スルコト緊要ナリ而シテ攻撃精神旺盛シ訓練精到ナル軍隊ハ至難ナル地形ト雖モ克服ク之ヲ踏破シテ敵ノ意表ニ出テ偉功ヲ奏シ得ルモノトス

第三十三
態等ニ依リ通常數縱隊ヲ以テ前進スルモノトス然レドモ兵力分離ノ弊ニ陥ラザルノ注意ヲ緊要トス而シテ各縱隊間ノ連絡及協同ハ常ニ困難ナルヲ以テ徒ラニ他方面ニ留意スルコトナク一意自己ノ正面ニ於ケル敵ヲ擊破シテ全局ノ

各時機ニ
於ケル戰鬥
山地ノ攻擊ニ在リテハ騎兵ハ速度ヲ利用シ敵ノ備ナキ方面ヨリ進出シテ主力ノ攻擊ニ協力スルヲ可トス

第三十四
密ニ敵ニ近接シ成ルベク死角ヲ利用シテ一舉ニ敵陣地ノ支撐點及緊要ナル鞍部ヲ奪取スルコトニ勉ムベシ此ノ際所要ノ砲兵及歩兵砲等ハ巧ニ地形ヲ利用シテ側方ヨリ射撃シ得ル如ク陣地ヲ占領シ敵陣地就中其ノ要點及側防機能ヲ猛射シ以テ歩兵ノ攻擊ニ密接ナル援助ヲ與ヘ又其ノ射撃間歩兵ハ極力突擊發起ノ位置ヲ敵ニ近接セシムルコト緊要ナリ

突擊部隊斜面ヲ攀ヅルカ或ハ山頂占領ノ際敵ハ火力ヲ集中シ或ハ逆襲ヲ試ムルコトアリ故ニ一部隊特ニ重火器ヲ以テ後方高地ヨリ之ヲ援助セシムルト共ニ後方部隊ヲ適宜前線ニ近接セシメ又砲兵ハ過早ニ射程延伸ヲ行フコトナク山頂及反對斜面ノ敵ヲ制壓スルコト緊要ナリ

敵ニ大ナル損害ヲ與ヘ得ルノ時機ハ通常敵ヲ山頂ヨリ驅逐シ得タル瞬間ニ在リ此ノ際ニ於ケル歩、砲兵ノ猛烈ナル追撃射撃ハ特ニ緊要ナリ故ニ砲兵及重火器等ハ萬難ヲ排シ一部ト雖モ速力ニ追撃射撃ニ便ナル地點ニ進出スルヲ要ス

狀況ニ依リ防者ハ其ノ主ナル抵抗線ヲ山頂ノ後方ニ選定シ逆襲ヲ企圖スルコト

山地進出
直後ノ戰

山地追擊

山地防禦
要領

トアリ斯クノ如キ場合ニ於テ攻撃部隊山頂ニ達セバ機ヲ失セズ砲兵及重火器等ヲ進出セシメ以テ之ヲ確保スルト共ニ前進ノ爲所要ノ準備ヲ整フルヲ要ス
トシテ山地進出後ニ於ケル戰鬪ヲ考慮シ各隊ノ兵力、編組及其ノ行動ヲ定ム而シテ各隊ハ全般ノ情勢ヲ判斷シテ相互ニ他ノ進出ヲ容易ナラシムル如ク行動シ師團長ハ敵ニ各個擊破ノ機會ヲ與ヘザルコトニ留意スルヲ要ス
騎兵及飛行機ハ速力ニ敵情ヲ搜索シ先ヅ必要ナル部隊ニ之ヲ通報シ騎兵ニ在リテハ極力敵ノ行動ヲ妨害シ全般ノ戰鬪ヲ有利ナラシムルヲ要ス
第三百三十六 山地ノ追擊ニ方リ各部隊敵ニ尾シテ突進スベキヤ或ハ迂回シテ退路ニ迫ルベキヤハ狀況ニ依ル
我が第一線部隊敵ニ尾シ突進セントスルニ方リテハ砲兵ハ通常最前線ニ近ク梯次ニ躍進シ進路兩側高地ノ敵ヲ制壓シ歩々ノ抵抗ヲ打破スルコト緊要ナリ
第三百三十七 山地ノ防禦ニ在リテハ特ニ敵方ニ通ズル諸道路ヲ堅固ニ守備スルヲ要ス而シテ交通便利ナルトキハ豫備隊ヲ數地ニ分置スルヲ可トス又最初ヨリ各地區ノ兵力増シ地區毎ニ獨立シテ戰鬪セシムルヲ可トス又最初ヨリ各地區ノ兵力ハ兵力分離ノ不利ヲ免ズト雖モ斯クノ如キ山地ニ於テハ局所ノ勝敗全般ニ波及スルコト比較的少キヲ以テ各地區毎ニ奮闘セバ終ニ全局ノ目的ヲ達成スルコトヲ得ベシ

防禦編成

攻撃シ來
ラバ逆襲

河川ノ特

何レノ場合ニ於テモ各級指揮官ハ特ニ敵ノ迂回ニ注意シ又通過容易ナラザル地區ト雖モ警戒ヲ怠ラズ且一部ヲ以テ敵ノ側背ヲ衝クノ著意必要ナリ
騎兵ハ特ニ敵ノ迂回ニ對シ主力ノ側背ヲ安全ナラシメ又飛行機ハ速力ニ敵ノ縱隊區分ヲ確メ特ニ迂回部隊ヲ發見スルヲ緊要トス
第三百三十八 山地ノ防禦ニ在リテハ緊要ナル鞍部及山頂ヲ占領シテ谷及斜面ヲ瞰射シ得ル如ク配備シテ死角ヲ側防スル設備ヲ爲スベシ此ノ際砲兵ヲシテ前方高地ノ敵方斜面、敵後方ノ交通路等ヲ制壓セシムルヲ有利トスルコトアリ而シテ氣象、夜暗等ヲ利用シ山脚ニ近接スル敵ニ對シ警戒ノ處置ヲ忽セニスベカラズ又一部ヲ以テ谷底ヲ占領シ敵方ノ斜面又ハ谷底ヲ射撃セシムルヲ有利トスルコトアリ
山頂及敵方ニ面スル山腹ニ設ケル工事ハ敵ノ彈巢トナリ易キヲ以テ諸種ノ手段ヲ盡クシテ之ヲ堅固ニシ且之ガ遮蔽ニ勉メザルベカラズ
第三百三十九 敵兵攻撃シ來ラバ防者ハ射撃ノ威力ヲ發揚シ損害ト攀登トニ依リテ敵ノ混亂疲勞セルニ乘ジ至近距離ニ於テ猛烈果敢ニ逆襲シ之ヲ擊滅スベシ
攻撃ヲ受ケザル地區若クハ敵ヲ擊退シタル地區ノ守兵ハ比隣地區ヲ攻撃中ナル敵ノ側面若クハ背後ニ出テ之ヲ攻撃スベシ但シ若干ノ守兵ヲ陣地特ニ其ノ要點ニ殘シ置クヲ要ス

第二章 河川ノ戰鬪

河川ハ其ノ景況特ニ障得ノ程度、兩岸ノ地形、交通ノ狀態、氣

渡河計畫
 渡河準備
 敵前渡河ノ要訣
 性

象ノ交感等ニ依リ戰術上ノ價值ヲ異ニスト雖モ攻者ノ爲ニハ障得ヲ呈シ防者ノ爲ニハ其ノ陣地ヲ自然ニ強固ナラシメ又攻防共ニ搜索困難ニシテ其ノ掩護下ニ兵力ヲ移動シ敵ノ意表ニ出ヅルコトヲ得ベシ

第三百四十一 敵前渡河ヲ行フニ方リテハ敵ノ意表ニ出ヅルコト最モ緊要ナリ之ガ爲諸種ノ手段ヲ盡クシテ敵情及地形ヲ明カニスルト共ニ我が企圖ヲ秘匿シ且渡河ノ準備ヲ周到ニシ一度渡河ヲ開始スルヤ迅速果敢ニ之ヲ遂行シ以テ其ノ成功ヲ確實ナラシメザルベカラズ

第三百四十二 渡河準備ノ爲ニハ速カニ我が岸ニ在ル敵ヲ驅逐シ廣正面ニ互リ小部隊ヲ以テ河岸ヲ占領シ敵ノ搜索ヲ妨害シ且我が行動ヲ掩護セシム又夜間ニ於ケル行動、軍隊ノ遮蔽、敵ノ空中搜索及諜報手段ノ妨害、地方住民ノ秘密漏洩防止、各種欺騙的行動等ノ處置ヲ必要トス

騎兵ハ敵ヲ驅逐シテ速カニ敵情、地形ヲ搜索シ我が軍ノ利用セントスル橋梁等ノ破壊ヲ妨ゲ且渡河材料ノ押收ニ勉ムルヲ要ス

高射部隊ハ重要地區ヲ掩護シ我が企圖ノ秘匿ニ勉ムルモノトス

師團工兵指揮官ハ師團長ノ企圖ニ基キ河川ノ景況、兩岸ノ地形、應用材料ノ有無等ニ關シ諸般ノ偵察ヲ行ヒ渡河計畫策定ニ必要ナル資料ヲ提出スルト共ニ渡河材料ノ收集整備ニ勉ムルヲ要ス而シテ大河ノ渡河ノ爲ニハ各種多數ノ材料ヲ整備スルコト特ニ必要ナリ

飛行機ハ搜索ノ爲特ニ重要ナル任務ヲ負擔スルモノトス

第三百四十三 師團長ハ任務ニ基キ當面ノ敵情、河川ノ景況、兩岸ノ地形、渡河材料ノ種類及多寡等ニ應ジ渡河ノ方針ヲ定メ渡河計畫ヲ策定ス

渡河計畫ニ於テハ通常戰術指導ノ要領、渡河ノ爲ノ諸準備、軍隊ノ部署、渡河材料ノ配當、渡河掩護ニ關スル處置、渡河ノ實施、連絡、補給等ニ關シ所要ノ事項ヲ決定スルモノトス

渡河計畫ノ策定ニ方リテハ氣象ノ影響ヲ考慮スルコト緊要ナリ大河ノ渡河ニ在リテ特ニ然リ

第三百四十四 渡河點ハ適當ナル渡河正面ヲ有シ渡河動作及渡河後ノ戰鬪容易ナル地域ニ選定スルヲ要ス河川ノ我が方ニ彎曲セル地域ハ我が火力ヲ集中シ得ルノミナラズ第一ニ渡河セル部隊ニ翼ノ依托ヲ與フルノ利アルモノトス

第三百四十五 渡河ニ方リテハ主渡河ヲ容易ナラシムル爲通常一部ヲ以テ助渡河ヲ行ヒ又要スレバ陽渡河ニ依リ敵ヲ欺騙シ眞渡河ヲ容易ナラシムルヲ要ス而シテ主渡河點ニハ十分ナル兵力及渡河材料ヲ配當スルコト緊要ナリ

陽渡河點ハ成ルベク眞渡河點ト誤認セシメ得ル地域ニ選定シ且其ノ諸動作モ亦眞渡河點ニ於ケルモノト判別スルコト能ハザル如ク實施スルヲ可トス

第三百四十六 渡河ノ爲軍隊ヲ部署スルニ方リテハ渡河方針ニ基キ主トシテ渡河後ノ戰鬪指導ニ便ナル如ク之ヲ定ムベシト雖モ敵ノ抵抗ヲ排除シテ渡河ヲ強行スルヲ要スル場合ニ於テハ渡河即チ戰鬪ナルヲ以テ之ニ應ズル部署ヲ必要トス

狀況ニ依リ先ヅ速カニ掩護隊ヲ渡河セシメ其ノ掩護ノ下ニ渡河ヲ實施スルヲ可トスルコトアリ

渡河計畫
 渡河準備
 敵前渡河ノ要訣
 性

象ノ交感等ニ依リ戰術上ノ價值ヲ異ニスト雖モ攻者ノ爲ニハ障得ヲ呈シ防者ノ爲ニハ其ノ陣地ヲ自然ニ強固ナラシメ又攻防共ニ搜索困難ニシテ其ノ掩護下ニ兵力ヲ移動シ敵ノ意表ニ出ヅルコトヲ得ベシ

第三百四十一 敵前渡河ヲ行フニ方リテハ敵ノ意表ニ出ヅルコト最モ緊要ナリ之ガ爲諸種ノ手段ヲ盡クシテ敵情及地形ヲ明カニスルト共ニ我が企圖ヲ秘匿シ且渡河ノ準備ヲ周到ニシ一度渡河ヲ開始スルヤ迅速果敢ニ之ヲ遂行シ以テ其ノ成功ヲ確實ナラシメザルベカラズ

第三百四十二 渡河準備ノ爲ニハ速カニ我が岸ニ在ル敵ヲ驅逐シ廣正面ニ互リ小部隊ヲ以テ河岸ヲ占領シ敵ノ搜索ヲ妨害シ且我が行動ヲ掩護セシム又夜間ニ於ケル行動、軍隊ノ遮蔽、敵ノ空中搜索及諜報手段ノ妨害、地方住民ノ秘密漏洩防止、各種欺騙的行動等ノ處置ヲ必要トス

騎兵ハ敵ヲ驅逐シテ速カニ敵情、地形ヲ搜索シ我が軍ノ利用セントスル橋梁等ノ破壊ヲ妨ゲ且渡河材料ノ押收ニ勉ムルヲ要ス

高射部隊ハ重要地區ヲ掩護シ我が企圖ノ秘匿ニ勉ムルモノトス

師團工兵指揮官ハ師團長ノ企圖ニ基キ河川ノ景況、兩岸ノ地形、應用材料ノ有無等ニ關シ諸般ノ偵察ヲ行ヒ渡河計畫策定ニ必要ナル資料ヲ提出スルト共ニ渡河材料ノ收集整備ニ勉ムルヲ要ス而シテ大河ノ渡河ノ爲ニハ各種多數ノ材料ヲ整備スルコト特ニ必要ナリ

飛行機ハ搜索ノ爲特ニ重要ナル任務ヲ負擔スルモノトス

第三百四十三 師團長ハ任務ニ基キ當面ノ敵情、河川ノ景況、兩岸ノ地形、渡河材料ノ種類及多寡等ニ應ジ渡河ノ方針ヲ定メ渡河計畫ヲ策定ス

渡河計畫ニ於テハ通常戰術指導ノ要領、渡河ノ爲ノ諸準備、軍隊ノ部署、渡河材料ノ配當、渡河掩護ニ關スル處置、渡河ノ實施、連絡、補給等ニ關シ所要ノ事項ヲ決定スルモノトス

渡河計畫ノ策定ニ方リテハ氣象ノ影響ヲ考慮スルコト緊要ナリ大河ノ渡河ニ在リテ特ニ然リ

第三百四十四 渡河點ハ適當ナル渡河正面ヲ有シ渡河動作及渡河後ノ戰鬪容易ナル地域ニ選定スルヲ要ス河川ノ我が方ニ彎曲セル地域ハ我が火力ヲ集中シ得ルノミナラズ第一ニ渡河セル部隊ニ翼ノ依托ヲ與フルノ利アルモノトス

第三百四十五 渡河ニ方リテハ主渡河ヲ容易ナラシムル爲通常一部ヲ以テ助渡河ヲ行ヒ又要スレバ陽渡河ニ依リ敵ヲ欺騙シ眞渡河ヲ容易ナラシムルヲ要ス而シテ主渡河點ニハ十分ナル兵力及渡河材料ヲ配當スルコト緊要ナリ

陽渡河點ハ成ルベク眞渡河點ト誤認セシメ得ル地域ニ選定シ且其ノ諸動作モ亦眞渡河點ニ於ケルモノト判別スルコト能ハザル如ク實施スルヲ可トス

第三百四十六 渡河ノ爲軍隊ヲ部署スルニ方リテハ渡河方針ニ基キ主トシテ渡河後ノ戰鬪指導ニ便ナル如ク之ヲ定ムベシト雖モ敵ノ抵抗ヲ排除シテ渡河ヲ強行スルヲ要スル場合ニ於テハ渡河即チ戰鬪ナルヲ以テ之ニ應ズル部署ヲ必要トス

狀況ニ依リ先ヅ速カニ掩護隊ヲ渡河セシメ其ノ掩護ノ下ニ渡河ヲ實施スルヲ可トスルコトアリ

渡河作業

敵前渡河

渡河兵力ノ区分

渡河實施

第三百四十七 師團長ハ工兵ノ主力及所要ノ渡河材料等ヲ以テ渡河作業隊ヲ編成シ各部隊ノ渡河ニ任セシムルヲ通常トスルモ各渡河點ニ於ケル渡河ノ目的、渡河部隊ノ兵力、渡河準備及實施ノ難易等ヲ考慮シ必要ナル工兵及渡河材料ヲ第一線部隊ノ指揮官ニ配屬スルヲ有利トスルコトアリ

第三百四十八 敵前渡河ニ在リテハ通常漕渡又ハ機航ニ依ルモノトシ狀況之ヲ許スニ至リ架橋ヲ開始スルモノトス然レドモ大河ニ在リテハ主トシテ機航ニ依リ渡河ヲ終始セザルベカラザルヲ通常トス

第三百四十九 渡河ノ爲ニハ渡河ノ正面、上陸後ノ戰鬪正面、渡河能力等ヲ考慮シ軍隊ノ使用ニ便ナル如ク適宜建制部隊ヲ併列若クハ重疊スルモノトス而シテ速カニ前岸ニ確乎タル地步ヲ占ムル爲最初ノ渡河部隊ヲ爲シ得ル限り有力ナラシムルヲ要ス

最初ノ渡河部隊ハ步兵ヲ主トスルモ水際障礙物ヲ排除スルヲ要ハルトキ等ニ於テハ之ニ所要ノ工兵等ヲ配屬スルモノトス又爾後ノ戰鬪ヲ考慮シ一部ノ戰車、砲兵等ヲ速カニ渡河セシムルヲ要スルコトアリ

第三百五十 渡河ノ實施ハ敵ノ抵抗ヲ排除シテ渡河ヲ強行スル場合ニ於テモ極力敵ノ意表ニ出ヅルコト緊要ナリ之カ爲夜暗、濃霧等ヲ利用スルヲ可トス然レドモ敵兵堅固ニ河岸ヲ占領セル場合ニ於テハ優勢ナル歩、砲兵ヲ我が岸

架橋授護

ニ配置シ適時敵ノ抵抗ヲ制壓スルヲ要ス
大河ニ在リテハ敵ノ艦艇ヲ阻止スルノ處置ヲ講ズルト共ニ渡河部隊ヲ水上ヨリ掩護スル爲武装セル艦艇等ヲ同行セシムルヲ有利トス
最初渡河スル部隊ハ勉メテ同時ニ前岸ニ到着シ爾後到着スル部隊ノ爲速カニ據點ヲ占メ逐次其ノ兵力ノ増加スルニ伴ヒ地步ヲ擴張シ且比隣部隊ト連繫シテ爾後ノ企圖ニ應ズルノ姿勢ニ移ルヲ要ス又砲兵ハ機ヲ失セズ其ノ觀測者ヲ渡河セシメ前岸ニ於ケル戰鬪ニ緊密ニ協同スルコト緊要ナリ此ノ際飛行機ノ適切ナル協同ハ其ノ價値極メテ大ナルモノトス
渡河實施ニ方リ高射部隊ハ成ルベク河岸ニ近ク陣地ヲ占領シ渡河部隊ヲ掩護スルコト緊要ナリ拂曉以後渡河スル場合ニ於テ特ニ然リ
渡河實施ニ方リテハ煙ヲ利用スルヲ有利トスルコトアリ而シテ煙ハ成ルベク之ヲ統一シテ廣正面ニ使用スルヲ可トス
渡河部隊ト渡河作業隊トハ緊密ナル協同動作ニ依リ渡河ノ實施ヲ圓滑ナラシメザルベカラズ而シテ渡河作業隊ノ各指揮官ハ當時ノ狀況ニ基ク渡河部隊各指揮官ノ要求ニ應ジク戰機ヲ逸セザルコト極メテ緊要ナリ大河ノ強行渡河ニ於テ特ニ然リ

第三百五十一 河幅大ナラズ且敵情之ヲ許セバ最初ヨリ架橋スルヲ有利トス此ノ場合ニ於テハ通常歩兵ノ一部隊ヲシテ先ヅ舟筏ヲ利用シテ渡河シ前岸ノ要地ヲ占メ架橋掩護ニ任セシムベシ要スレバ之ニ若干ノ騎兵、砲兵等ヲ加フルコトアリ而シテ架橋中ト雖モ歩兵部隊ヲシテ掩護隊ニ續キテ舟筏ヲ利用シ

索

渡河實施ニ對スル動作
河川ノ防禦ノ要訣
森林及住民地ノ特性

ベカラズ之が爲廣大ナル地域ニ互リ騎兵、飛行機等ヲシテ敵情ヲ搜索セシムルコト緊要ナリ此ノ際氣球ヲシテ不斷ノ監視ヲ爲サシムルヲ得バ有利ナリ時トシテ一部隊ヲ對岸ニ進メ敵情ヲ搜索セシムルヲ可トスルコトアリ

河川ノ防禦ニ在リテハ敵ノ陽動ニ欺カレザルコト特ニ緊要ナリ

第三百五十四 敵ノ渡河實施ニ方リ警戒部隊ハ敵ノ渡河ヲ妨害シ我が主力ノ行動ヲ容易ナラシメ且敵ノ眞渡河ヲ看破スル爲通常眞面目ノ抵抗ヲ爲スヲ要ス而シテ我が主力ハ最モ敏活ナル行動ニ依リ敵ノ未タ確乎タル地步ヲ占メ得ザルニ乘シ決然逆襲ヲ實行シ敵ヲ河川ノ障礙ニ壓迫シテ之ヲ撃滅スベシ

第三百五十五 決戦ヲ企圖スル場合ノ河川ノ防禦ニ在リテハ通常豫想スル各渡河點ニ所要ノ警戒部隊ヲ配置シ主力ハ直チニ攻勢ヲ取り得ル態勢ニ在ラシメ前諸條ニ準ジ敵ノ半渡ニ乘ジテ攻勢ニ轉ジ之ヲ撃滅スルモノトス

第三章 森林及住民地ノ戰闘

第三百五十六 森林及住民地ハ其ノ大小、位置、形狀、樹木ノ疎密、家屋ノ構造、圍壁ノ狀態等ニ依リ戰術上ノ價值ヲ異ニスルモ一般ニ運動及通視不便ニシテ指揮困難ナリ

戰場ニ在ル森林及住民地ハ防者ノ爲堅固ナル支撐點ヲ成形シ攻者ノ爲攻撃ノ據點トナルモノトス時トシテ森林及住民地ハ障礙トシテ利用セラレルコトアリ

森林及住民地ハ敵眼特ニ上空ニ對シ軍隊ヲ遮蔽シ得ルノ利アルモ瓦斯攻撃及爆撃ノ目標トナルコト多シ而シテ森林ニ在リテハ通常戰車ノ使用ニ著シク制

河川直接防禦後退配備
警戒部隊
敵ガ渡河ニ利用スベキ物件ノ處置ノ捜索

前岸ニ移ラシムルコトニ勉ムベシ

架橋點ハ適當ナル掩護陣地ヲ有シ地上及上空ニ對スル掩護容易且兩岸ノ地域交通自由ニシテ軍隊ノ集合及架橋材料ノ準備ニ適當ナル場所ヲ有シ河川ノ景況亦作業ニ便利ナル地點ニ之ヲ選定シ得バ有利ナリ

掩護隊ノ渡河點ハ成ルベク架橋點ニ近ク且架橋作業ヲ妨害セザル地域ニ選定スルヲ要ス

第三百五十二 河川ノ防禦ニ在リテハ狀況之ヲ許セバ直接河川ニ沿ヒテ兵力ヲ配置シ極力敵ノ渡河ヲ妨害スルヲ有利トス

正面大ナル等ノ爲直接河川ニ沿ヒ兵力ヲ配置スルコト不利ナル場合ニ於テハ通常豫想スル各渡河點ニ所要ノ警戒部隊ヲ配置シ主力ハ敵ノ渡河ニ乘ジ速クハ出撃シ得ル態勢ニ在ラシメ且所要ノ施設ヲ行フト共ニ諸種ノ手段ヲ盡クシテ敵情ヲ搜索シ機ヲ失セズ其ノ企圖ヲ偵知スルヲ要ス

警戒部隊ハ歩兵及所要ノ工兵ヲ以テ編成シ狀況ニ依リ一部ノ砲兵ヲ配屬スルコトアリ而シテ警戒部隊ハ通常要點ヲ堅固ニ占領シ嚴ニ河岸ヲ警戒スルモノトス

敵ノ利用スベキ橋梁ハ豫メ之ヲ破壊スルカ若クハ破壊ノ準備ヲ爲シ又渡河材料ハ敵ニ之ヲ利用セシメザルコト緊要ナリ其ノ他徒涉場ヲ偵察シ要スレバ敵ノ渡河ヲ困難ナラシムル爲所要ノ工事ヲ施シ且交通、連絡及照明ノ設備ヲ完全ナラシムル如ク勉ムルヲ要ス

第三百五十三 河川ノ防禦ニ在リテハ敵ノ企圖ヲ看破シ速ク之ニ應ゼザル

攻防兵力ノ配置

限チ受ケルモ住民地ニ在リテハ攻者ハ戰車、爆藥、火焰發射器、燒夷彈等ヲ有效ニ利用スベキ機會多キモノトス
第三百五十七 森林及住民地ノ戰闘ニ在リテハ直接之ガ攻防ニ任ズル兵力ハ成ルベク之ヲ小ニシ且其ノ外部ノ戰闘ト連繫シテ其ノ目的ノ達成ヲ圖ルコト緊要ナリ
森林及住民地内ノ戰闘ニ在リテハ攻防共ニ第一線部隊ニ適時支授ヲ與フルコト困難ナルヲ以テ豫メ之ニ獨立性ヲ附與スルヲ要ス之ガ爲砲兵、工兵等ヲ配屬スルヲ必要トスルコト多シ
森林及住民地ノ戰闘ニ在リテハ指揮官ハ部下ヲ確實ニ掌握スルコト特ニ緊要ナリ

森林攻撃

第三百五十八 森林ニ據レル敵ヲ攻撃スル爲ノ部署ハ狀況就中森林ノ大小ニ依リ差異アルモ必要ノ兵力ヲ以テ直接森林ニ向ヒ攻撃セシムルト共ニ勉メテ森林ノ外側地區ヨリ之ヲ包圍シ決戦ヲ森林外ニ求ムルコト緊要ナリ
第三百五十九 森林ニ向ヒ直接攻撃スル部隊ハ森林内ニ在ル敵ノ側防機能及森林突角部等特ニ我が攻撃ヲ妨害スルベキ諸要點ヲ火制シテ敵線ヲ突破シ直チニ隊勢ヲ整へ且敵ト接觸ヲ失フコトナク途中適宜林空又ハ林道等ヲ利用シ能ク連繫ト行進方向トヲ維持シ森林ノ前線ニ到達スルヲ要ス
森林通過ニ方リテハ特ニ敵小部隊ノ爲誘致セラレザルニ注意シ且常ニ接戰ヲ準備スルヲ要ス之ガ爲第一線ノ各部隊ハ成ルベク集結シ其ノ正面前線ヲ維持シ側方ニ小部隊若クハ斥候ヲ配置シ且磁針等ヲ使用シ前進方向ノ維持ヲ確實ナラシムベシ

森林内ノ通過

ラシムベシ
森林内ノ攻撃前進ニ方リテハ豫期セザル敵ノ防禦線ニ遭遇シ或ハ反撃ヲ受ケルコトアリ林空若クハ林道附近ニ於テ特ニ然リ此ノ際砲兵適時ノ協力ハ通常困難ナルヲ以テ步兵ハ自ら進路ヲ拓クヲ要ス森林大ナルトキ或ハ其ノ他ノ狀況ニ依リ逐次某地域ヲ劃シテ攻略シツツ前進ヲ圖ルヲ要スルコトアリ
森林ノ前線ニ到達セル部隊ハ森林進出ニ際シ敵ノ逆襲特ニ敵歩、砲火ノ急襲ニ對シ注意スルコト緊要ナリ

森林内ノ攻撃前進

防禦配備

第三百六十 防禦ニ方リ森林ヲ抵抗地帯ト爲ス場合ニ於テハ樹木ノ爲射撃ヲ妨害セラレザルヲ度トシ林線ノ後方ニ其ノ前線ヲ選ブ可トス然レドモ密林ニ在リテハ之ヲ林線ノ前方ニ設ケ森林ハ唯後方部隊ヲ隱蔽スルニ用フルヲ通常トス時トシテ森林ノ内部ニ抵抗地帯ヲ選ブ可トスルコトアリ
森林ノ防禦ニ在リテハ單ニ抵抗地帯ヲ堅固ニスルノミナラズ其ノ他ノ部分ニ於テモ亦適宜林空、林道ノ交叉點若クハ敵ノ必ズ通過セザルベカラザル障壁線等ヲ利用シテ敵ノ近迫ヲ妨害シ或ハ之ヲ欺騙シ或ハ不利ナル方向ニ誘致スル等之ヲ混亂ニ陥ラシムル爲各種ノ手段ヲ盡クスヲ要ス
第三百六十一 森林ノ防禦ニ於テ林線ヲ占領セル場合敵兵林線ニ侵入セバ其ノ混亂ニ乘ジ逆襲ヲ行ヒ之ヲ撃滅スベシ
森林内部ニ抵抗地帯ヲ設ケタル場合ニ於テハ其ノ前方ニ於ケル各種ノ設備ヲ利用シ敵ノ行動ヲ妨害シ敵兵抵抗地帯ニ近接スルヤ其ノ混亂ニ乘ジ果敢ナル逆襲ヲ行ヒ敵ノ攻撃ヲ破摧スルヲ要ス

森林ノ防禦

森林ノ防禦
森林ノ防禦ニ在リテハ單ニ抵抗地帯ヲ堅固ニスルノミナラズ其ノ他ノ部分ニ於テモ亦適宜林空、林道ノ交叉點若クハ敵ノ必ズ通過セザルベカラザル障壁線等ヲ利用シテ敵ノ近迫ヲ妨害シ或ハ之ヲ欺騙シ或ハ不利ナル方向ニ誘致スル等之ヲ混亂ニ陥ラシムル爲各種ノ手段ヲ盡クスヲ要ス
第三百六十一 森林ノ防禦ニ於テ林線ヲ占領セル場合敵兵林線ニ侵入セバ其ノ混亂ニ乘ジ逆襲ヲ行ヒ之ヲ撃滅スベシ
森林内部ニ抵抗地帯ヲ設ケタル場合ニ於テハ其ノ前方ニ於ケル各種ノ設備ヲ利用シ敵ノ行動ヲ妨害シ敵兵抵抗地帯ニ近接スルヤ其ノ混亂ニ乘ジ果敢ナル逆襲ヲ行ヒ敵ノ攻撃ヲ破摧スルヲ要ス

住民地防	夜間住民地攻撃	住民地内ノ攻撃	住民地直撃攻撃部隊	住民地攻撃
------	---------	---------	-----------	-------

第三百六十二 住民地ノ攻撃ノ要領ハ森林ノ攻撃ノ要領ニ準ズルモ砲兵特ニ威力大ナル火砲ヲ以テ所要ノ破壊ヲ行ヒ又ハ火災ヲ起サシムルコトニ勉メ工兵ヲシテ所要ニ應ジ爆薬ニ依リ破壊ヲ行ハシムルコト必要ナリ此ノ際住民地ノ側縁ニ在ル敵ノ側防機能等ヲ適時制壓スルヲ要ス

住民地ニ向ヒ直接攻撃スル部隊ハ其ノ側縁ヲ突破セル後敵ニ尾シテ前端ニ至ル迄突進ヲ繼續スルニ勉ムベシ此ノ際尙堅固ナル家屋特ニ地下室等ヲ利用シテ抵抗スル敵アルトキハ一部隊ヲ殘シテ之ニ向ハシメ要スレバ爆薬等ヲ以テ破壊ヲ行ヒ又ハ戦車、手榴彈、火焰發射器等ヲ利用シテ敵ヲ掃蕩スルヲ要ス

狀況ニ依リ先ヅ側縁ヲ占領シタル後速カニ隊伍ヲ整ヘ次テ内部ニ於ケル逐次ノ抵抗ヲ擊破シツツ地區ヨリ地區ニ向ヒ攻略ヲ進ムルヲ要スルコトアリ此ノ際街路ニ沿フ家屋、庭園等ヲ利用シテ近迫スルヲ有利トスルコト少カラズ

攻撃前進シ又ハ屋上ヲ利用シテ近迫スルヲ有利トスルコト少カラズ

第三百六十三 夜間住民地ニ對シ攻撃ヲ行フ場合ニ於テハ通常奇襲ニ依リ圍壁若クハ側縁ヲ奪取スルヲ要ス而シテ夜間住民地ノ攻略ヲ完ウセザルベカラザル場合ニ於テハ圍壁若クハ側縁ヲ奪取スルヲ要ス而シテ夜間住民地ノ攻略ヲ進展セシムルヲ有利トス

速力ニ其ノ内部ノ要點ヲ奪取セシメタル後夜間住民地ノ要領ニ準ズベキモ守備地第三百六十四 住民地ノ防禦ハ森林ノ防禦ノ要領ニ準ズベキモ守備地區ヲ區分スルニ方リテハ特ニ各地區ノ防禦ニ獨立性ヲ附與シ敵兵縱ヒ一區域ニ侵入スルモ其ノ影響ヲ他ニ波及セシメザルヲ要ス而シテ砲兵ハ此ノ際地區

廣漠地ノ特性	廣漠地侵入及之ヲ越エテ行フ戦闘	廣漠地ニ
--------	-----------------	------

廣漠地ニ在リテハ地上ノ視察ニ對シ小起伏ト雖モ幾多ノ死界ヲ生ジ又波狀地ハ其ノ底部ニ大ナル死界ヲ爲スコトアリ此ノ際縦ヒ小ナル隆起地點ト雖モ展望其ノ他ニ大ナル價值ヲ有スルコト多シ

廣漠地ニ存在スル河川、濕地、湖沼、森林、住民地、沙漠等ハ各々其ノ特質ト季節、氣象トニ應ジ廣漠地ノ價值ニ影響スルコト大ナリ

第三百六十六 人口稀薄ニシテ交通、通信等發達セザル廣漠タル地方ニ作戰スル軍隊ハ交通、補給等ノ制限ヲ受クルコト大ナルヲ以テ軍隊遠ク廣漠地内ニ進入シ或ハ更ニ之ヲ越エテ前進セントスルニ方リテハ特ニ此等ノ施設及其ノ掩護等ニ關シ豫メ十分ノ準備ヲ整フルコト緊要ナリ

遠ク廣漠地ヲ越エテ前進セル敵ニ對シテハ其ノ補給施設特ニ水源ヲ偵知シ之ヲ破壊スルヲ有利トスルコト少カラズ

第三百六十七 廣漠地ニ於ケル大部隊ノ行動ハ自ラ交通幹線若クハ河川其ノ相互ニ側射及斜射ヲ爲シ得ル如ク配置スルコト緊要ナリ

住民地ノ防禦ニ在リテハ家屋、圍壁等ヲ利用シテ堅固ニ防禦編成ヲ爲シ特ニ交通及連絡ノ施設竝ニ消火、瓦斯防護及燈火管制ノ準備ヲ爲スヲ要ス

第四節 廣漠地ノ戦闘

第三百六十五 廣大ナル平坦地、極メテ緩徐ナル大波狀地等ノ連互ニ依リ廣漠タル大平原ヲ爲ス地域ハ遮蔽物ニ乏シク地點ノ指示及方向ノ維持困難ニシテ未開不毛ノ地方ニ在リテハ特ニ補給ヲ困難ナラシメ大部隊ノ作戰容易ナラズ

ノ方地點
手向維指
段維持示

作戰要務令 第二部 終

重點ヲ構成スルコト緊要ナリ
第三百七十二 廣漠地ニ於テハ地點ノ指示、方向ノ維持等ニ支障ナカラシム
ル爲速カニ明瞭ナル基點ヲ定メ要スレバ特ニ之ヲ設置シテ其ノ數ヲ增加シ所
要ニ應ジ地點、目標等ニ符(番)號等ヲ附シテ一般ニ徹底セシメ又巧ニ磁針其
ノ他必要ノ器材ヲ使用シ要スレバ基線ヲ設置シテ方向ヲ維持スル等特ニ周到
ナル注意ヲ必要トス此ノ際空中寫眞、寫景圖等ヲ有利ニ使用シ得ルコトアリ

於ケル部
隊ノ行動
機隊及飛行
機隊及飛行
敵ノ意表
ニ出デシ
トスルニ
ハスルニ
包圍迂回
側面攻撃
ノ利用
廣漠地防
禦利害及
一般要領

他水源多キ方面ニ於テ實施セラレコト多ク爾餘ノ方面ニ在リテハ使用兵力
及機動力ニ制限ヲ受クルヲ通常トス何レノ場合ニ於テモ軍隊ハ極力資材及水
ヲ節用シ困苦缺乏ニ堪ヘザルベカラズ
第三百六十八 機械化部隊ハ廣漠地ニ於テハ其ノ特色ヲ發揮シ敵ヲ攻撃スル
ニ適シ又飛行機ハ搜索、連絡等ノ爲特ニ大ナル效果ヲ發揚シ得ルモノトス
敵ノ機甲部隊及飛行機ニ對シ各部隊ハ特ニ警戒ヲ嚴ニシ適時之ニ對應スルノ
處置ニ遺憾ナカラシムルヲ要ス
第三百六十九 廣漠地ニ於テ企圖ヲ秘匿シ敵ノ意表ニ出デシガ爲ニハ攻防共
ニ極力敵ノ搜索機關ヲ擊攘シ適切ナル偽裝及欺騙行動ヲ行ヒ緊要ナル時期ニ
於テ巧ニ夜暗、氣象等ヲ利用シテ機動及軍隊配置ノ變更ヲ斷行シ速カニ有利
ナル態勢ヲ取リ敵ヲシテ對應ノ處置ヲ講ズルノ違ナカラシムルコト緊要ナリ
第三百七十 廣漠地ニ於テハ通常敵ノ翼側ニ堅固ナル依托物ヲキナ以テ攻者
ハ各種ノ手段ヲ盡クシ包圍、迂回、側面攻撃等ニ依リ敵ノ準備セザル正面ニ
對シ迅速ニ決戰ヲ指揮スルノ著意特ニ緊要ナリ
第三百七十一 廣漠地ニ於テハ多クノ場合火力ヲ發揚スルニ便ナルヲ以テ防
者ハ其ノ擔任正面ヲ比較的大ナラシムルコトヲ得ベシ然レドモ防禦ノ爲適當
ナル支撐點ヲ得難キコト多ク又敵ノ主攻方面ヲ豫メ判斷シ得ザルコト多シ
斯クノ如キ場合ニ於テハ臨機必要ノ正面ニ十分ナル火力ヲ指向シ得ル如ク第
一線各據點及砲兵ノ配置ヲ定ムルト共ニ特ニ據點ノ獨立性ヲ增加シ又勉メテ
後方部隊ヲ大ニシ敵ノ攻撃ヲ受クルニ方リテハ速カニ必要ナル方面ニ防禦ノ

朕野戰築城教範ヲ改定シ之カ施行ヲ命ス

御名御璽

昭和二年五月九日

陸軍大臣 白川 義則

軍令陸第三號

野戰築城教範

四

築城

野戰築城教範 目次

總則	一
第一部 築城ノ素質及基本ノ作業	二
第一篇 素質及其作業法	二
第一章 掩體	二
要則	三
散兵壕	三
輕機關銃ノ掩體	四
機關銃ノ掩體	五
步兵砲ノ掩體	六
砲兵ノ掩體	七
交通壕、掩壕	八
第二章 掩蔽部	三
要則	三
掩蔽部一般ノ構造	三
用途ニ應スル掩蔽部ノ構造	三〇
兵員用	三〇

機關銃用	三一
第三章 監視所、觀測所	三三
第四章 障礙物	三四
要則	三四
鐵條網	三四
折疊鐵條網	三七
鹿砦	四〇
拒馬	四一
地雷	四一
壕、氾濫、陷穽、軌條砦、係蹄	四二
第五章 偽裝	四二
要則	四二
假裝、遮蔽	四三
偽工事	四四
第六章 排水、給水、標識、廁	四九
第二篇 障礙物及側防機能ノ破壞	五一
第一章 障礙物ノ破壞	五一
要則	五一

鐵條網ノ破壞	五三
鹿砦、拒馬、地雷等ノ破壞	五四
第二章 側防機能等ノ破壞及抑	五五
第一節 築城ノ應用	五五
第一篇 防禦ニ於ケル築城	五七
第一章 防禦陣地ノ編成、設備	五七
要則	五七
射擊	六一
視察	六四
交通	六五
障礙	六七
掩蔽	七一
偽裝	七二
第二章 山地、森林及住民地ニ於ケル防禦陣地ノ編成、設備	七四
山地	七四
森林	七五
住民地	七六

第二篇 攻撃ニ於ケル築城	七八
第一章 近迫作業	七八
要則	七八
攻撃陣地ノ編成、設備	八一
攻撃陣地ノ推進	八一
第二章 突擊陣地ノ編成、設備	八四
突擊陣地ノ編成、設備	八四
第二章 突擊作業及陣地内部ノ	八五
要則	八五
突擊路ノ開設、側防機能ノ破壞	八六
突擊路ノ開設、側防機能ノ破壞	八六
掃蕩作業	八八
第三章 占領地區ノ工事	八九
第一篇 作業ノ指揮及器具、材料	九〇
第一章 作業ノ指揮	九〇
要則	九〇
準備	九一
實施	九二

附 第二章 器具、材料	九四
附 第一節 被覆	九六
附 第二節 編束物	九六
第一節 各種彈丸ノ效力	一〇二
其一 侵徹量	一〇二
其二 炸藥ノ毀壞(震盪)半徑	一〇三
其三 散飛界(榴彈ノ曳火射擊)	一〇四
第二節 掩蔽部所要材料表	一〇五
其一 第五十九圖掩蔽部	一〇五
其二 第六十圖掩蔽部	一〇六
其三 第六十一圖掩蔽部	一〇七
其四 第六十三圖掩蔽部	一〇九
其五 第六十四圖掩蔽部	一一一
其六 第六十七圖掩蔽部	一二二
各種障礙物所要材料表	一二四
附 第三圖 各種障礙物所要材料表	一二四
附 第一圖 立射用掘擴散兵壕	一三四
附 第二圖 立射用散兵壕	一三四

第三圖 膝射用散兵壕	一三四
第四圖 伏射用散兵壕	一三四
第五圖 無胸牆斷面ノ散兵壕	一三四
第六圖 土地掘開困難ナル爲高キ胸牆ヲ用ヒタル散兵壕	一三四
第七圖 樹根ノ爲掘開困難ナル場合ノ散兵壕	一三四
第八圖 彈痕ニ射擊設備ヲ施セル例	一三四
第九圖 壁ヲ利用シ射擊設備ヲ施セル例	一三四
第十圖 生籬ヲ利用セル散兵壕	一三四
第十一圖 橫牆	一三四
第十二圖 敵方ニ降下セル土地ニ於ケル橫牆	一三四
第十三圖 散兵壕完成後構築セル橫牆	一三四
第十四圖 散兵壕ニ於ケル小銃標定ノ設備	一三四
第十五圖 帽堡	一三四

第十六圖 携帶防楯ヲ併用セル銃眼板又ハ小割材ニテ作レル銃眼匡

第十七圖 梯子ニ依ル進出設備

第十八圖 壕ノ斜面ニ設ケタル階段

第十九圖 東柴ニテ作レル階段

第二十圖 敵火ノ下ニ於ケル散兵壕ノ構築

第二十一圖 敵火ノ下ニ於テ作業スル際應急ノ掩護ヲ得ル爲ニ用フル箱ノ例

第二十二圖 敵前ニ於ケル散兵壕ノ掘擴

第二十三圖 端末作業法ニ依ル散兵壕ノ掘進

第二十四圖 土囊ノ「手送り」

第二十五圖 土囊ノ「臥送り」

第二十六圖 土囊堆積班ノ動作及堆積セラレタル土囊

第二十九圖 獨立シテ設ケタル輕機關銃ノ立射用掩體

第三十圖 輕機關銃ノ立射用掩體

第三十一圖 輕機關銃ノ伏射用掩體

第三十二圖 第三十二圖ニ示ス機關銃掩體ノ經始法

第三十三圖 廣キ射界ヲ有スル機關銃ノ立射用掩體

第三十四圖 機關銃ノ膝射用掩體

第三十五圖 機關銃ノ伏射用掩體

第三十六圖 平射步兵砲ノ立射用掩體

第三十七圖 第三十七圖ニ示ス平射步兵砲掩體ノ經始法

第三十八圖 曲射步兵砲ノ掩體

第三十九圖 曲射步兵砲ノ掩體

第四十圖 十五種榴彈砲ノ架尾位置ノ設備

第四十二圖 十五種榴彈砲車輪下ノ設備

第四十三圖 野(騎)砲ノ掩體

第四十四圖 山砲ノ掩體

第四十五圖 十五種榴彈砲ノ掩體

第四十六圖 三八式十種加農ノ掩體

第四十七圖 野戰高射砲ノ掩體

第四十八圖 四五式二十四種榴彈砲、同十五種加農ノ掩體

第四十九圖 一列用交通壕

第五十圖 二列用交通壕

第五十一圖 無積土斷面ノ交通壕

第五十二圖 穹窿斷面ノ交通壕

第五十三圖 交通壕ノ經始

第五十四圖 蛇行形交通壕ノ經始法

第五十五圖 板ニ依ル壕ノ遮蔽

第五十六圖 掩蔽部構築ニ於ケル木材ノ使用法

第五十七圖 斜坑道ニ依ル掩蔽部ノ入口

第五十八圖 掩蔽部ノ入口ニ設ケル遮

第五十九圖 彈層

第六十圖 彈子及破片ニ抗スル輕掩蔽部

第六十一圖 瞬發信管ヲ有スル榴彈ニ抗スル輕掩蔽部

第六十二圖 瞬發信管ヲ有スル榴彈ニ抗スル三人用輕掩蔽部

第六十三圖 地形ヲ利用シテ構築セル輕掩蔽部

第六十四圖 木材及礫石ヨリ成ル遮斷層ヲ有スル中掩蔽部

第六十五圖 軌條ヨリ成ル遮斷層ヲ有スル中掩蔽部

第六十六圖 掩蔽部ニ於ケル防毒幕

第六十七圖 掩蔽部ニ於ケル防毒幕

第六十八圖 「コンクリート」製中掩蔽部

第六十九圖 坑道式重掩蔽部ノ棲息設備

第七十圖 坑道式重掩蔽部ノ棲息設備

第七十圖	指揮官用掩蔽部
第七十一圖	機關銃座ノ掩蓋内部ノ幅員
第七十二圖	中掩蔽部程度ノ掩蓋ヲ有スル機關銃座
第七十三圖	「コンクリート」製掩蓋機關銃座
第七十四圖	「コンクリート」塊製機關銃用掩蔽部
第七十五圖	垂坑道ニ於ケル機關銃ノ吊上装置
第七十六圖	垂坑道上部ニ設ケタル中掩蔽部程度ノ掩蓋
第七十七圖	「コンクリート」製掩蓋ト露天機關銃座
第七十八圖	通信所用掩蔽部
第七十九圖	綑帶所用掩蔽部
第八十圖	輕掩蓋ヲ冠スル監視所
第八十一圖	「コンクリート」製指揮用監視所

第八十二圖	組立式鐵製監視所
第八十三圖	立樹ヲ利用シ樹上ニ設ケタル監視所
第八十四圖	鐵條網
第八十五圖	鐵製螺旋杭
第八十六圖	急造手用築頭
第八十七圖	屋根形鐵條網ノ經始法
第八十八圖	屋根形鐵條網ノ張線法
第八十九圖	屋根形鐵條網ノ張線法
第九十圖	網形鐵條網ノ張線法
第九十一圖	鐵線錠ニ依リ鐵線ヲ杭ニ固定スル法
第九十二圖	鐵製螺旋杭ニ鐵線ノ固定法
第九十三圖	障礙物ニ設ケタル通路
第九十四圖	圓筒形折疊鐵條網
第九十五圖	蛇腹形折疊鐵條網
第九十六圖	刺形折疊鐵條網
第九十七圖	圓筒形折疊鐵條網製作架
第九十八圖	蛇腹形折疊鐵條網製作架

第九十九圖	樹枝鹿砦
第一百圖	地形ヲ利用シテ設ケタル樹枝鹿砦
第一百一圖	拒馬
第一百二圖	雷管ニ依ル觸發地雷
第一百三圖	雷管ニ依ル觸發地雷
第一百四圖	門管ニ依ル觸發地雷
第一百五圖	信管ニ依ル觸發地雷
第一百六圖	視發地雷
第一百七圖	自發地雷
第一百八圖	擲石地雷
第一百九圖	堰堤
第一百十圖	陷穿
第一百十一圖	軌條砦
第一百十二圖	係障
第一百十三圖	遮障
第一百十四圖	壕ノ偽裝
第一百十五圖	堡底ニテ作レル水拔井
第一百十六圖	壕底ノ泥濘トナルヲ防ク設備

第一百十七圖	急造破壞筒
第一百十八圖	器具ニ依ル鐵條網ノ隱密破壞
第一百十九圖	器具ニ依ル鐵條網ノ強行破壞
第一百二十圖	滑車ヲ使用シテ障礙物破壞筒ノ挿入
第一百二十一圖	電流鐵條網偵察具
第一百二十二圖	鐵柵ノ爆破
附錄附圖	板被覆
第一圖	板被覆
第二圖	板被覆
第三圖	斜柱
第四圖	橫材
第五圖	矢板ニ依ル被覆
第六圖	樹枝被覆
第七圖	樹枝被覆及「控へ」
第八圖	編條被覆
第九圖	束柴ニ依ル階段被覆

野戰築城ノ目的
 築城下戰術
 地形地物
 築城偽裝
 築城器材
 築城教育

第一 野戰築城ノ目的ハ軍隊ノ戰鬪力ヲ保持増進シ以テ軍隊ヲシテ常ニ有利ナル形勢ニ在ラシムルニ在リ而シテ築城ノ利用適切ナルトキハ縱ヒ優勢ナル敵ニ對シテモ尙能ク戰勝ノ途ヲ開キ得ルモノナリ

第二 築城ハ戰術上ノ要求ニ適合シ始メテ能ク其眞價ヲ發揮シ得ルモノナリ故ニ之カ實施ヲシテ能ク狀況ニ適應シ且其目的ニ合致セシムルヲ要ス

第三 地形、地物ノ利用ハ築城ノ實施ニ於テ極メテ緊要ナリ然レトモ之カ利用ニ偏シ爲ニ全般ノ不利ヲ來スカ如キハ之ヲ戒メサルヘカラス

第四 地形、地物ハ到ル所望ノ價值ト性質トチ有スルモノニアラス故ニ工事ヲ以テ之ヲ改修、補足スルニ躊躇スヘカラス

第五 築城ハ勉メテ之ヲ敵ニ秘匿セサルヘカラス之カ爲諸般ノ設備ヲシテ土地ノ状態ニ適合セシメ且所要ノ偽裝ヲ行フコト緊要ナリ

第六 築城ノ作業指揮ノ良否及器材使用ノ適否ハ作業ノ成果ニ影響スル所極メテ大ナリ故ニ築城ノ實施ニ方リテハ特ニ此點ニ注意スルヲ要ス

第七 築城ノ作業ハ其種類多岐ナルヲ以テ之カ教育ニ方リテハ用途ヲ顧慮シ基礎トナルヘキ主要ナル作業ヲ演練スルニ止メ其他ハ幹部ノ指導ニ依リテ之ヲ實施シ得ル如クスルヲ可トス

第八 築城器材ヲ尊重スルノ習慣ヲ養成スルコト緊要ナリ

野戰築城教範

總則

第十一圖	東柴ニ依ル階段被覆
第十二圖	東柴被覆
第十三圖	東柴被覆
第十四圖	東柴被覆
第十五圖	東柴被覆
第十六圖	東柴被覆
第十七圖	東柴被覆
第十八圖	東柴被覆
第十九圖	東柴被覆
第二十圖	東柴被覆
第二十一圖	東柴被覆

野戰築城教範

目次終

夜間築城 第七 築城ハ夜間之ヲ實施セサルヘカラサル場合多シ故ニ屢、夜間ニ於テ練習シ軍隊ヲシテ秩序正シク且靜肅、確實ニ其企圖スル作業ヲ遂行シ得ルコトニ習熟セシムヘシ特ニ敵前ノ作業ニ於テ然リトス

築城ト平 第八 築城ノ教育ニ方リ平時ノ願慮上作業ヲ實施シ得サル場合ニ在リテモ作業手ノ作業著手マテノ動作ハ之ヲ實行スルヲ要ス

築城ノ活 第九 本教範ニ掲クル範例及作業法ハ單ニ一般ノ標準ヲ示スニ過キス故ニ築城ノ實施ニ方リテハ宜シク諸般ノ狀況ヲ願慮シテ之ヲ活用スヘシ徒ラニ形式ニ拘泥シ其實效ヲ失フカ如キコトアルヘカラス

築城ノ爲 第十 築城ハ之ヲ使用スル軍隊自ラ其作業ヲ實施スルヲ通常トシ特種ノ技術ヲ要スルモノハ工兵之ヲ擔任スルモノトス

使用軍隊 各兵種ハ各、其性能ニ鑑ミ本教範ニ示ス所ヲ適宜取捨シテ築城ニ關スル教育ヲ實施スルモノトス

具備スヘキ性能 第十一 築城ノ素質ハ各、其目的ニ依リ我カ火力ノ發揚ヲ容易ニシ或ハ敵火ノ效力ヲ減殺シ或ハ我カ行動ヲ便ナラシメ或ハ敵ノ行動ヲ妨害スル等ノ性能ヲ具備スヘキモノトス故ニ作業ヲ實施スルニ方リテハ各、其性能ニ應ジ要部ニ注意シ目的ニ合セシムルヲ要ス

第一部 築城ノ素質及基本ノ作業

第一篇 素質及其作業法

規則

作業教官 第十二 作業ヲ行ヒタルトキハ教官ハ構築物ノ適否ヲ檢シ作業ノ良否ヲ了解セシムルト共ニ其用法ヲ知得セシムルコト緊要ナリ

第一章 掩體

要則

火器掩體 第十三 火器ノ掩體ハ火器ノ威力ヲ發揚スルニ便ナラシムルヲ主トシ尙爲シ得ル限リ掩護ヲ良好ナラシムル如ク構築スルモノトス

掩體構築ノ要領 第十四 掩體ヲ構築スルニ方リテハ火器ノ爲ニハ先ツ射擊方向或ハ區域等ヲ決定シ又交通壕、掩壕等ノ爲ニハ重要ナル敵火ノ方向ヲ考定シ共ニ其實施ヲシテ之ニ適應セシムルコト緊要ナリ

火器標定 第十五 火器ノ掩體ニハ夜間ノ爲又ハ晝間ニ於テモ濃霧或ハ煙幕等ニ蔽ハレテ前進スル敵ニ對スル爲有效ナル射擊ヲ實施シ得ル如ク火器標定ノ設備ヲ行フヲ要ス

構築方法 第十六 掩體ハ狀況ニ依リ最初ヨリ之ヲ所望ノ斷面ニ構築シ或ハ輕易ナル斷面ヨリ逐次之ヲ所望ノ斷面ニ増築スルモノトス

散兵壕 第十七 散兵壕ハ小銃ノ射擊設備ヲ主眼トシ併セテ掩護及交通ヲ便ナラシムル如ク設備スルモノニシテ立射用ニ構築スルヲ通則トス而シテ通常之ニ背墻ヲ添加スルモノトス

射擊設備 第十八 射擊設備ノ要部ハ照準高、臂座、內斜面、頂斜面及踏塚ナリ(第一

ノ要部

胸塔

附表一
背塔

圖乃至第四圖參照)
 照準高ハ立射ノ爲一米三〇、膝射ノ爲八〇、伏射ノ爲二五、種トス
 臂座ハ照準ノ際臂ヲ托シ且彈藥ヲ置クノ用ニ供スルモノニシテ内頂ノ下方二
 五種ニ設ケ其幅ヲ三〇種トス
 内斜面ハ射撃ノ動作ヲ容易ニシ且射手ノ掩護ヲ良好ナラシムル爲勉メテ之ヲ
 急峻ナラシムヘシ然レトモ地形前方ニ降下シ頂斜面ニ急傾斜ヲ附スヘキモノ
 ニ在リテハ適宜内斜面ヲ緩ニシ且照準高ヲ減スル等適宜ノ處置ヲ講セサルヘ
 カラス
 頂斜面ハ所要ノ地域ヲ射撃シ得ル如ク其傾度ヲ適當ナラシムルヲ要ス
 踏塚ニハ射撃ヲ行フニ必要ナル幅員ヲ與フルモノニシテ通常之ヲ四〇乃至五
 〇種トス而シテ踏塚斜面ハ爲シ得レハ之ヲ被覆スルヲ可トス
 第十九 胸塔ノ高サハ敵ノ認識ヲ困難ナラシムル爲前地ヲ射撃スルニ妨ナキ
 限リ勉メテ之ヲ低下スヘシ從テ狀況之ヲ許ストキハ全ク胸塔ヲ省略スルヲ可
 トスルコトアリ(第五圖參照)然レトモ此種ノ散兵壕ハ地形恰適ナルニアラサ
 レハ過剩ノ除土ヲ他方ニ運搬シ或ハ附近ニ撒布スル等ノ爲通常時間ヲ要スル
 コト大ナルニ注意スヘシ
 土地堅硬ナルカ若ハ湧水等ノ爲掘開困難ナルトキハ已ムヲ得ス高キ胸塔ヲ設
 クルコトアリ(第六圖、第七圖參照)
 胸塔ノ厚サハ尋常土ニ在リテハ少クモ之ヲ一米トス(附表第一參照)
 第二十 背塔ハ散兵壕ノ後方ニテ爆發スル彈丸ノ危害ニ對シ射手ヲ掩護スル

散兵ノ交
通設備
突一七

散兵壕斷
面

チ主眼トシ要スレハ後方ヨリスル射撃ニ對シ掩護シ得ル如ク設備スルモノト
 ス
 背塔ハ後崖上ニ沿ヒテ構築ス但若干ノ崖徑ヲ存シ積土ノ壕内ニ崩落スルヲ防
 背塔ノ高サハ敵ノ認識ヲ避クル爲胸塔ヨリ高起セシメサルヲ可トス然レトモ
 後方ヨリスル射撃ヲ顧慮スル場合ニ在リテハ必要ニ應シ其高サヲ増加セサル
 ヘカラス
 背塔ノ厚サハ目的ニ依リ差異アルモ尋常土ニ在リテハ砲彈ノ彈子、破片ニ對
 シテ四〇種、小銃彈ニ對シテ少クモ一米トス
 第二十一 散兵壕ニ於ケル交通設備ニ關シテハ交通壕ニ就キテ示ス要領ニ依
 ルモノトス
 射撃設備ト交通設備トハ必要ニ應シ階段ヲ設ケテ之ヲ連接ス階段ハ通常其幅
 及高サヲ共ニ四〇種トス但之ニ被覆ヲ施ストキハ 層其幅ヲ減少スルコトヲ
 得ヘシ
 第二十二 散兵壕ノ斷面ハ狀況特ニ地形及作業時間ノ多寡等ニ依リ決定スル
 モノトス
 第一圖ハ射手ノ後方ニ遮蔽高一米七〇ノ交通設備ヲ有スル立射用掘擴散兵壕
 ニシテ狀況之ヲ許ストキハ最初ヨリ之ヲ構築シ或ハ既設ノ散兵壕ヲ之ニ改築
 ス
 第二圖ハ掩護稍、十分ナラサルモ作業容易ニシテ速ニ竣工シ得ヘキ立射用散

兵壕ナリ
應急ニ際シテハ膝射(第三圖)又ハ伏射(第四圖)ニ應スル散兵壕ヲ構築ス此種ノ散兵壕ハ時間ノ餘裕ヲ得ルニ從ヒ速ニ之ヲ立射用ニ改築スヘキモノトス長時日守備スヘキ陣地ニ在リテハ第一圖ニ示ス散兵壕ニ比シ一層交通容易且安全ナルモノヲ構築スルコトアリ
在來ノ地物ヲ利用シ之ニ射擊設備ヲ施スニハ地物ノ狀態ニ應シ概ネ第五圖乃至第十圖ニ示ス要領ニ依ルモノトス
第二十三 散兵壕ノ方向ハ成ルヘク主要ナル射擊方向ニ對シ直交セシムヘキモノトス蓋シ必要ニ際シテハ斜方向ニ對シテモ射擊スルヲ得ヘシト雖戰闘酣ナルニ至レハ射擊方向ハ自然ニ内頂ニ直交スルニ至ルヲ常トスレハナリ
散兵壕ハ壕ノ附近ニ於テ破裂スル彈丸ノ威力ヲ制限シ且敵ノ側射、斜射ノ效力ヲ防止スル爲成ルヘク八米以上ノ直線ト爲スコトヲ避ケ地形ヲ利用シテ屈折セシメ或ハ梯次ニ區分シテ經始ス而シテ長キ直線部ニ在リテハ之ニ横塔ヲ設クルモノトス
狀況特ニ地形之ヲ要スル場合ニ在リテハ一層直線部ノ長サ又ハ横塔ノ間隔ヲ短縮シ尙特ニ此部ノ内頂ヲ低下スル等ノ處置ヲ必要トス
第二十四 横塔ハ敵ノ認識ヲ避クル爲通常胸塔ヨリ高起セシムルコトナク其長サヲシテ壕ノ全幅ヲ掩ハシムル如クシ且之ニ少クモ三米(小銃彈、砲彈ノ彈子、破片ノミニ對スルモノニ在リテハ一米)ノ厚サヲ與ヘ其後方ニ所要ノ交通設備ヲ施スモノトス(第十一圖)

散兵壕ノ方向
直線部ノ長サ
横塔

敵ノ瞰制ヲ受クル散兵壕ニ設クル横塔ハ敵ノ識別ヲ避クル爲其頂ヲ適宜後方ニ向ヒ傾斜セシムルヲ可トス又敵方ニ降下セル斜面内ニ在ル散兵壕ニ横塔ヲ設クルトキハ其後方通路ノ除土量著大トナリ且敵ニ目標ヲ呈ス故ニ此場合ニ在リテハ横塔下ニ暗路(第六十七參照)ヲ設クルヲ可トス(第十二圖)
既設ノ散兵壕ニ横塔ヲ設クルニハ堡籃、土囊等ヲ用ヒテ之ヲ構築スルヲ便トス(第十三圖)
第二十五 散兵壕ニ於ケル小銃標定ノ設備ハ銃ノ射線ヲ規正シ且銃口ノ扛起ヲ豫防スル如ク行フモノトス之カ爲第十四圖ニ示ス如クシ又ハ二箇ノ鈎杭ヲ胸塔上ニ植立スル等ノ設備ヲ施スモノトス
十六 散兵壕ニハ射手ノ頭部ヲ掩護シ且射手ニ精神上ノ效果ヲ與フル爲帽堡(第十五圖)又ハ銃眼(第十六圖)ヲ設クルコトアリ但此等ノ設備ハ遠距離ヨリ敵ニ認識セラレ易ク近距離ニ在リテハ敵ニ照準ノ好目標ヲ與フルヲ以テ主トシテ林縁又ハ側防火ヲ施スヘキ散兵壕等敵ニ發見セラレ難キ位置ニ用ヒラルモノトス
帽堡及銃眼ハ必要ノ時機ニ至リ之ヲ急設スルコトアリ此場合ニ在リテハ通常土囊ヲ用ヒ且銃眼ノ爲ニハ銃眼匡(第十七圖)ヲ準備スルヲ便トス
第二十七 散兵壕ニハ壕外ヘノ進出ヲ便ナラシムル爲所要ニ應シ之ニ「足掛」(第十八圖)梯子(第十九圖)或ハ階段(第二十圖、第二十一圖)等ヲ設ケ又壕上ノ超過ヲ容易ナラシムル爲之ニ短橋ヲ架設スルモノトス
第二十八 散兵壕ニ據ル兵卒ハ其體格ニ應シ適宜照準高ヲ増減シ且臂座ヲ修

小銃標定
五、五〇
帽堡、銃眼
進出設備
散兵壕各

自ノ修正
散兵壕ノ
經始線
三
經始線標
示法七

正スル等射撃ヲ便ナラシムル如クシ又要スレハ「足掛リ」ヲ設クヘシ
第二十九 散兵壕ノ構築ニ方リ其位置ヲ經始スルニハ通常壕ノ前線ヲ標示ス
ルモノトス
横壕ハ周縁ヲ標示シ時トシテ其軸心ノミヲ標示ス
端末作業法(第三十一參照)ニ依ル場合ニ在リテハ壕ノ前線又ハ中心線ヲ地上
ニ標示シ或ハ壕底ニ打入スル杭ニ依リ方向ヲ維持ス
第三十 經始線ノ標示法ハ敵情、地形、天候及明暗ノ度等ニ應シ適宜之ヲ定
ムヘシト雖端末及屈折部等ノ要點ハ常ニ確實ニ之ヲ標示スルモノトス若干ノ
例ヲ示セハ次ノ如シ
一 狀況急ヲ要スル場合ニ在リテハ標兵ニ依ルチ便トス
標兵ハ比隣標兵ノ位置ヲ承知シ命令アルニアラサレハ其位置ヲ轉スルコ
トナシ
二 時間ニ餘裕アル場合ニ在リテハ小杭、土囊、東蘘等ヲ以テ目標ヲ設置
シ尙敵ニ發見セラルル虞ナキトキハ標旗ヲ併用スルチ便トス而シテ此等
目標間ニ繩ヲ張り或ハ地上ニ標線ヲ劃スルトキハ一層經始線ヲ明瞭ナラ
シメ得ヘシ
三 夜間ニ於テハ目標ノ認識ヲ容易ナラシムル爲其位置ニ石灰等ヲ撒布ス
ルチ可トス時トシテ敵ヨリ發見セラレサル如ク準備セル燈火、火繩等ヲ

一齊作業
端末作業
元
一齊作業
法ノ同時
完成
使用器具

用フルコトアリ又經始ニ用フル繩ニハ白布ヲ附シ或ハ白色塗料ヲ施スチ
可トス
四 内頂ノ高サヲ標示スル爲所望ノ高サニ樹枝又ハ小杭等ヲ植立スルチ得
ハ有利ナリ
第三十一 散兵壕ヲ構築スルニハ經始線上ニ作業手ヲ配置シテ同時ニ之ヲ掘
開シ(一齊作業法)或ハ散兵壕ノ端末ヨリ逐次ニ之ヲ掘進ス(端末作業法)
一齊作業法ハ作業ノ進捗迅速ナルヲ以テ狀況之ヲ許セハ常ニ此方法ヲ用ヒ端
末作業法ハ作業ノ進捗緩慢ナルヲ以テ敵ニ掩蔽シテ作業スルノ已ムチ得サル
場合等ニ之ヲ用フルモノトス
第三十二 一齊作業法ニ依リ散兵壕ヲ構築スルニハ各部ノ作業ヲシテ成ルヘ
ク同時ニ完成セシムルコトヲ勉ムヘシ之カ爲終始器材ノ配當、作業手ノ配置
及作業ノ方法ヲ適當ナラシムルコトニ留意スルチ要ス
第三十三 作業ニハ小圓匙(圓匙)ヲ使用シ土質ニ應シ之ニ小十字鉄(十字鉄
又ハ鶴嘴)ヲ加フ
小十字鉄ハ小圓匙ヲ使用スル作業手(匙手)ヲシテ併セ之ヲ使用セシム或ハ小
十字鉄ノミヲ使用スル作業手(鉄手)ヲシテ專ラ之ヲ使用セシム
又土地ノ景況ニ依リ斧、鉞、鋸、或ハ石工器具等ヲ使用ス
凍結地ニ在リテハ掘開チ容易ナラシムル爲之ニ先タチ地上ヲ煙蒸シ或ハ時ト
シテ爆破チ行フコトアリ又掘開ニ代フルニ附近ヨリ不凍土ヲ搬送シ胸塔ヲ構

築スルヲ利トスルコトアリ
 第三十四 作業手ヲ作業ノ位置ニ誘導スルニハ敵情、地形及明暗ノ度等ニ依リ側面縦隊 通常一列若ハ二列(每伍逐次ノ配列ニ依リ或ハ散開ノ要領ニ依ルモノトス)

第三十五 作業手ヲ配置スルニハ掘開スヘキ線ニ概ネ兩手間隔(約一米五〇)又ハ片手間隔(約一米)若ハ若干歩ノ間隔ニ匙手ヲ一列ニ配置シ各作業手ノ左足ヨリ右隣兵ノ左足ニ至ルマテテ其工區トス

第三十六 作業手ノ配置終レハ要スレハ之ニ指示ヲ與ヘタル後作業ニ著手セシメ作業手(銃ヲ携行スルトキハ之ヲ指示セラレタル所ニ置ク又二箇以上ノ器具ヲ有スルトキハ最初使用セサルモノハ銃ニ準ス)ハ自己ノ工區ニ於テ先ツ壕ノ前縁ニ、次テ後縁ニ小溝ヲ劃シタル後前縁ヨリ掘開ニ著手シ銃手ハ適時之ニ協力スルモノトス

第三十七 掘開ヨリ得タル糾草等ハ被覆又ハ偽裝ニ應用シ其他ノ除土ハ先ツ胸墻部ニ、次テ背墻部ニ成ルヘク等齊ニ積土スヘシ積土ハ相應ノ高サニ達スル毎ニ踏ミ固メテ之ヲ堅實ナラシムヘシ

積雪地ニ於テ雪ヲ以テ胸墻ヲ構築スルニハ之ヲ踏固シ爲シ得レハ水ヲ注キテ全體ヲ氷結セシメ以テ其抗力ヲ増加スルヲ可トス

横墻ノ位置ハ自然地ニ所要ノ廣サヲ殘シ其周圍ヲ掘開スルモノトス

第三十七 作業ノ進歩中土質其他ノ關係ニ依リ最初選定シタル断面ノ變更ヲ要スルトキハ作業ヲ指揮スル將校又ハ下士之ヲ決定ス

第三十八 作業間敵ノ攻撃ヲ受クル虞アル場合ニ在リテハ作業手ハ銃、手榴彈等ヲ手近ノ所ニ置キ先ツ各個ニ自己ノ掩體ヲ作り之ヲ左右ニ延伸シテ一連ノ散兵壕ト爲シ或ハ交通壕ニ依リテ之ヲ連接ス

第三十九 敵ノ攻撃ニ際シテハ作業手ハ通常其位置ニ於テ戰鬪スルモノトス

第四十 敵ノ警戒ニ任シ其他ノ兵卒ハ作業ニ任スルモノトス即チ作業ニ任スル兵卒ハ銃ヲ身邊ニ置キ伏臥ノ儘先ツ箇々ニ伏射ニ適スル掩體ヲ設ケテ(第二十二圖)之ニ據リ次ニ他ノ兵卒モ亦同法ニ依リ作業シ逐次此ノ如ク交互ニ作業シテ膝射或ハ立射ニ適スル掩體ヲ作り爾後之ヲ交通壕ニ依リテ連接シ或ハ之ヲ一連ノ散兵壕ト爲ス若此ノ如キ場合ニ在リテ土囊或ハ第二十圖ノ如キ携帶ニ便ニシテ且迅速ニ組ミ立テ得ル箱等ヲ使用スルヲ得ハ有利ナリ

第四十一 敵前至近ノ距離ニ於テ隱密ニ作業ヲ行ハントスルトキハ概ネ第三十圖ノ如キ要領ニ依リ作業シ特ニ音響ヲ發セサル如ク注意スヘシ此際土囊ヲ有スルトキハ肩又ハ背ニ負ヒ或ハ地上ヲ轉カス等適宜ノ方法ニ依リ隱密ニ前進シ所定ノ位置ニ達セハ之ヲ應急ノ掩體トシ其内側ニ壕ヲ掘開スルモノトス

第四十二 敵前ニ於テ散兵壕ヲ掘擴スルニハ作業手ハ敵眼ニ暴露スルコトナク且掘擴作業中ト雖隨時ノ射撃ヲ妨ケサルニハ作業手ハ敵眼ニ暴露スルコトナク第二十四圖ノ第二圖ニ示ス立射用散兵壕ヲ第一圖ニ示ス立射用掘擴散兵壕ニ掘擴スル作業

敵前散兵壕掘擴 七二七六

隱密作業 三八七三

端末作業 要領 七三

端末作業 ノ断面 七三、六

端末作業 法ノ一例 七三、六

一作業班

チ示ス
 第四十二 端末作業法ハ其進捗ヲ迅速ナラシムル爲寸時ト雖作業ヲ中絶セシムヘカラス之カ爲一作業頭ヲ擔任スル作業班ハ通常作業手ヲ二組ニ分チ互ニ交代シテ作業セシムヘシ又同一ノ作業ヲ晝夜連續實施スル場合ニ在リテハ一作業頭ニ二又ハ三作業班ヲ配當シ順次交代セシムヘシ
 作業手ノ交代ハ作業ヲ中絶セシムル爲全員同時ニ行フコトナク各作業手毎ニ逐次作業位置ニ於テ交代セシムルモトス
 第四十三 端末作業法ニ依リ散兵壕ヲ掘進スルニハ通常先ツ必要ナル最小限ノ断面ヲ構築スルモノニシテ其幅員ハ狀況特ニ地形ニ應シ作業ノ便否、交通ノ難易及掩護ノ程度竝爾後掘擴セントスル断面等ヲ顧慮シテ之ヲ決定スルモノトス
 前項ニ依リ構築セル断面ハ爾後必要ニ應シ所要ノ断面ニ之ヲ掘擴スルモノトス而シテ其掘擴ニハ狀況ニ依リ一齊作業法又ハ端末作業法ヲ用フルモノトス
 第四十四 端末作業法ニ在リテハ作業手ハ勉メテ敵眼及敵火ニ掩蔽セラルル如ク作業スルモノトス而シテ之ニ要スル人員及器材ノ配當ハ構築スヘキ断面及土質等ヲ顧慮シテ之ヲ定ムヘシト雖第二圖ニ示ス断面ニ就キ作業法ヲ示セハ左ノ如シ(第二十五圖)
 一作業班ハ長一、作業手四ヲ以テシ之ヲ二名ノ二組ニ分チ一番ニ小圓匙及小十字鍬各一及壕ノ幅員ヲ測定スルニ必要ナル測尺ヲ、二番ニ小圓匙一ヲ配當ス

掩蓋材

土囊 遞送 七三

手送り

作業手ハ番號ノ順序ニ作業頭ニ位置シ一番ハ跪キ或ハ跌坐シ小十字鍬ヲ以テ通常先ツ作業頭ニ於テ兩側斜面ニ沿ヒ幅、深サ共ニ一五乃至二〇糎ノ縱溝ヲ穿チ次テ下方ヨリ順次ニ土ヲ掘リ落シ小圓匙ヲ以テ之ヲ兩脚ノ間ヨリ後方ニ搔キ送り爾後此動作ヲ反復ス二番ハ一番ノ後方ニ在リテ除土ヲ前方及側方ニ投シ積土ヲ構成ス
 狀況ニ依リ前方ニ積土スルコトナク土囊、土ヲ填實セル樽、鐵板等ヲ推進シ或ハ側方ノ積土ヲ突出セシメテ前方ノ積土ヲ省略スルコトアリ
 以上ノ作業中掘開ノ爲小圓匙及小十字鍬ニ代フルニ短柄圓匙及短柄十字鍬ヲ、土ヲ搔キ送ル爲土搔ヲ、又積土ヲ推進スル爲土押等ヲ使用スルトキハ作業一層容易ナリ此場合ニ在リテハ組ノ人員ヲ通常三名トシ一番ヲシテ土搔ヲ、又二番、三番ヲシテ協力シテ土押ヲ使用セシムルヲ可トス
 各組ハ通常作業ノ進捗一米毎ニ又組内ノ作業手ハ五〇糎毎ニ班長ノ命令ニ依リ交代ス
 第四十五 端末作業法ニ依リ散兵壕ヲ掘進スルニ方リ土囊ヲ使用スルトキハ敵ニ音響ヲ秘スルコトヲ得且作業迅速ナルヲ以テ敵前ニ於テ作業スルトキ又ハ土地ノ掘開困難ナルトキ等ニ用ヒテ利アリ而シテ此場合ニ在リテハ通常一作業頭ヲ擔任スル作業部隊ヲ遞送班ト堆積班トニ分チ遞送班ヲシテ土囊ヲ前方ニ遞送セシメ又堆積班ヲシテ逐次之ヲ作業線ニ堆積セシメ次テ之ヲ掩體トシ其内側ニ壕ヲ掘開シ所要ノ断面ヲ構築スルモノトス
 遞送班ノ行フ土囊ノ遞送ハ通常「手送り」(第二十六圖)又ハ「臥送り」(第二十

臥送り

敵ニ秘匿
作業

輕機掩體
各種

七圖)ノ方法ニ依ルモノニシテ之ニ要スル人員ハ主トシテ遞送距離ト遞送ノ方法トニ依リ之ヲ定ムルモノトス

「手送り」ハ人員ヲ要スルコト少キノ利アルモ目標大ニシテ且動モスレハ隱密ヲ破ル虞アルヲ以テ主トシテ遮蔽物ヲ利用シ得ル場合ニ應用セラル

「臥送り」ハ多クノ人員ヲ要スルモ目標小ニシテ且隱密ヲ保ツニ便ナルヲ以テ敵ニ近ク暴露シテ作業セサルヘカラサル場合ニ應用セラレ但此場合ニ在リテハ作業手ノ眼ニ砂塵ノ侵入スルコトヲ防ク爲布片又ハ眼簾等ヲ著用セシムルヲ可トス

堆積班ハ通常長一、作業手四ヲ以テシ其配置及作業法ハ第二十八圖ニ示スカ如シ

第四十六 端末作業法ニ依リ散兵壕ヲ構築スル場合ニ在リテ其作業ヲ全ク敵ニ秘匿スルヲ要スルトキハ第七十三乃至第七十七ノ要領ニ依リ先ツ積土ナキ断面ヲ掘進シ後之ヲ散兵壕ニ改築スルモノトス

輕機關銃ノ掩體

第四十七 輕機關銃ノ掩體ハ銃ノ低姿勢ニ應シ立射用ニ構築スルヲ通則トス

第四十八 第二十九圖ハ獨立シテ設クル輕機關銃ノ立射用掩體ニシテ中徑一米二〇ノ銃座ヲ設ケ其後方ニ底幅五〇糎ノ銃手壕ヲ構築ス

散兵壕ニ設クル場合ニ在リテハ第三十圖ノ如ク臂座部ヲ掘擴シテ銃座ヲ設備スルヲ適當トス然レトモ急速ニ既設ノ散兵壕ヲ利用スル場合ニ在リテハ單ニ瓦斯排出孔ヲ閉塞セサル如ク胸壁上ニ土囊等ヲ置キテ依托射撃ヲ行ヒ得シメ

敵歩兵火
作業

輕機標定
三五、五五

機關銃掩
各種掩體

或ハ簡單ニ脚桿ノ位置及要スレハ瓦斯排出孔ニ相當スル部分ヲ掘リ取ルヲ以テ足レリトス

第三十一圖ハ應急ニ際シテ構築スル伏射用ノ掩體ナリ

何レノ掩體ニ在リテモ脚桿ノ位置ハ常ニ堅固ニ之ヲ設備スヘシ

第四十九 敵ノ歩兵火ノ下ニ於テ掩體ヲ構築スル場合ニ在リテハ射撃ヲ妨ケサル如ク其位置ニ工事ヲ行ヒ或ハ其附近ニ掩體ヲ作り適宜ノ時機ニ此處ニ射撃位置ヲ變換ス

第五十 輕機關銃標定ノ設備ハ小銃及機關銃ノ爲ニ示ス要領(第二十五及第五十五參照)ニ準ス

機關銃ノ掩體

第五十一 機關銃ノ掩體ハ立射用ニ構築スルヲ通則トス

第五十二 第三十二圖ハ廣キ射界ヲ要セサル場合ニ設クル立射用掩體ニシテ長サ一米二〇、幅六〇糎ノ銃座ヲ設ケ其後端ヲ弧形トシ通常此部ニ被覆ヲ施スモノトス銃座ノ兩側ニハ銃手ヲ掩護スル爲底幅四〇糎ノ壕ヲ掘開ス銃座ノ前方ニハ銃ノ前脚ヲ依托シ且彈藥箱ヲ置ク爲幅三〇糎ノ自然地ヲ存置ス其經始及構築法ハ第三十三圖ニ示スカ如シ

第三十四圖ハ廣キ射界ヲ要スル場合ニ設クル立射用掩體ナリ

第三十五圖ハ膝射用掩體ニシテ銃座ノ長サ一米五〇トシ前脚ノ位置ノ後方ニ射手ノ脚ヲ托スル爲幅六〇糎、深サ三〇糎ノ三角壕ヲ設ク

第三十六圖ハ應急ニ際シテ構築スル伏射用掩體ナリ

土砂飛揚
防止
敵步兵火
下作業
標定設備
各種掩體
步兵砲掩體
平射砲、
各種掩體

何レノ掩體ニ在リテモ銃ノ前後脚ノ位置ハ常ニ注意シテ特ニ堅固ニ設備スルヲ要ス
第五十三 機關銃掩體ノ銃口部ニハ發射ニ際シ土砂ノ飛揚スルヲ防ク爲濕リタル布、蓆又ハ糾草等ヲ敷置シ或ハ此部ニ於ケル積土ノ高サヲ減スヘシ
第五十四 敵ノ步兵火ノ下ニ於テ掩體ヲ構築スル場合ニ在リテハ第四十九ノ要領ニ準ス而シテ直接射撃位置ニ工事ヲ行フ場合ニ在リテハ先ツ速ニ步兵ニ在リテハ銃手ノ一番、騎兵ニ在リテハ同シク二番及彈藥ノ掩護ヲ得ルコトニ努ムルモノトス
第五十五 機關銃標定ノ設備ヲ行フニハ脚ノ位置ヲ確實ニ標示シ且胸壁上ニ植杭シ以テ銃ノ傾度及雜射界又ハ點射方向ヲ規正シ或ハ銃ノ前方近距離ニ假標ヲ設置スル等ノ設備ヲ施スモノトス
第五十六 平射步兵砲ノ掩體ハ砲ノ最低姿勢ニ應シ立射用ニ構築スルヲ通則トス
第五十七 第三十七圖ハ平射步兵砲ノ掩體ニシテ所要ノ射界ヲ得ル如ク上幅一米二〇ノ弧形壕ヲ掘開シ砲門狹窄部ニ幅三〇厘、後岸上ニ幅二〇厘ノ水平部一設ケテ砲床トシ此處ニ砲ヲ架ス其經始法ハ第三十八圖ニ示スカ如シ
廣キ射界ヲ要スル掩體ニ在リテハ砲門ヲ設ケルコトナク積土ノ高サハ全部砲口前ト同一ナラシムルモノトス
既設ノ壕ヲ利用シ之ニ掩體ヲ設備スルニハ砲ヲ壕上ニ架シ要スレハ壕ノ前岸

五三
曲射砲掩體
則射砲各
種掩體
敵步兵火
下作業
砲兵掩體
砲架順序
砲床ノ位

又ハ後岸ニ土囊等ヲ用ヒ砲床ヲ設備スヘシ此際前後兩脚ノ位置ハ成ルヘク之ヲ同高ニシ且十分堅固ナラシムルヲ要ス
平射步兵砲ノ掩體ニモ亦砲口前ニハ土砂ノ飛揚ヲ防クヘキ設備(第五十三參照)ヲ施スヘシ
第五十八 曲射步兵砲ノ掩體ハ實用最低射角(約四十五度)ヲ以テスル射撃ニ支障ナキ如ク構築スルヲ通則トス
第五十九 第三十九圖ハ交通設備ノ前方ニ、第四十圖ハ其後方ニ設ケタル曲射步兵砲ノ掩體ナリ前者ハ上空ニ對スル偽裝困難ナルモ射撃間ト雖交通ヲ妨ケサルノ利ヲ有シ後者ハ射撃間交通ヲ妨ケルノ不利アルモ作業量少ク且偽裝容易ニシテ砲床ノ上方ニ掩蓋ヲ設ケルモ射撃ヲ妨ケサルノ利アリ
既設ノ壕ヲ利用シ之ニ掩體ヲ設備スル場合ニ在リテモ亦前項ニ示ス要領ニ準シテ行ヒ急ヲ要スルトキハ壕底ヲ砲床トシ射撃ヲ妨ケサル如ク要スレハ前岸ヲ掘擴スヘシ
第六十 敵ノ步兵火ノ下ニ於テ掩體ヲ構築スル方法ハ第四十九ノ要領ヲ適用ス
砲兵ノ掩體
第六十一 砲兵ノ掩體ハ通常先ツ射撃ニ關スル設備ヲ行ヒ次テ人員、彈藥及火砲ノ順序ニ之カ掩護ノ設備ヲ施スモノトス
第六十二 砲床ハ通常地面ヲ掘下シテ之ヲ設ケルモノトス然レトモ時間ニ餘裕ナキカ或ハ土地ノ景況却テ掘下セサルヲ利トスルトキハ之ヲ自然地上ニ設

備輪架
下尾、
ノ車設

掩體增強
ノ順序
迫擊砲
交通壕ノ
幅員

第六十三 砲床ニハ野(騎)山砲及野戰重砲ニ在リテハ架尾ノ位置及車輪下ニ射擊ノ爲所要ノ設備ヲ施スモノトス

架尾ノ位置ニハ火砲ノ結構ト射擊ヲ準備スヘキ區域トニ應シテ駐鋤溝ヲ穿チ尙爲シ得レハ之ニ後坐衝力ヲ緩和シ且連續射擊ヲ容易ナラシムヘキ設備ヲ行フモノトス(第四十一圖)

車輪下ニハ野戰重砲ニ在リテハ爲シ得ル限り厚板、角材等ノ應用材料ヲ敷置スヘシ(第四十二圖)野(騎)山砲ニ在リテモ亦狀況之ヲ許セハ以上ノ設備ヲ施スチ可トス精密射擊ヲ必要トスルトキ及土地軟弱ナルトキニ於テ特ニ然リトス

重砲ノ爲行フ砲床ノ設備ハ重砲兵力作教範ニ據ルモノトス

第六十四 砲兵ノ掩體ハ先ツ砲彈ノ彈子、破片ニ抗シ得ルチ度トシ爲シ得レハ更ニ其強度ヲ增加スルモノトス(第十三圖乃至第四十八圖)

砲口前ニハ土砂ノ飛揚ヲ防クヘキ設備ヲ施スヘシ(第五十三參照)

第六十五 迫擊砲ノ掩體ハ概ネ曲射砲ノ掩體ニ準シ構築スルモノトス

第六十六 交通壕ハ敵眼ニ遮蔽シ且爲シ得ル限り敵彈ニ掩護セラレテ交通シ得シムル如ク設クルモノニシテ其要部ハ遮蔽高及底幅ナリ

遮蔽高ハ地上視察ニ對シ交通者ノ全身ヲ遮蔽スル爲少クモ一米七〇トス

交通壕ノ底幅ハ通常一列行進ノ爲ニハ五〇厘、二列行進ノ爲ニハ一米、山砲

交通壕ノ
積土

断面

經始

ノ爲ニハ一米五〇、野砲及野戰重砲ノ爲ニハ二米ヲ標準トス而シテ其屈折部ハ必要ニ應シ適宜之ヲ増大スヘシ

壕ノ兩側斜面ハ適宜其傾度ヲ定ムヘシト雖之ヲ緩ナラシムルトキハ掩護ノ度ヲ減スルモ交通ヲ容易ナラシムルノ利アリ

交通壕ニハ必要ニ應シ射擊設備ヲ行フコトアリ

第六十七 交通壕ノ積土ハ敵ノ地上視察及敵火ノ方向ニ從ヒ壕ノ兩側又ハ一側ニ之ヲ設ク而シテ一側ニ設クル場合ニ在リテモ爲シ得レハ散兵壕ノ背墻ト同一ノ目的ヲ以テ他側ニモ亦積土ヲ設クルモノトス

積土ハ敵ノ認識ヲ避ケ且附近ノ射擊ヲ妨ケサル爲成ルヘク其高サヲ減スルチ可トス狀況ニ依リテハ全ク積土ヲ廢スルコトアリ又特ニ壕内ヲ掩蔽スルチ要スルトキハ暗路ノ壕ニ掩蓋ヲ冠セルモノ及地下ノ通路トスルモノトス

積土ノ厚サハ小銃火ニ對シ掩護セントスルトキ尋常土ニ在リテハ少クモ一米トス

第六十八 交通壕ノ断面ハ狀況ニ依リテ定ム第四十九圖ハ一米七〇ノ遮蔽高ヲ有スル一列用交通壕、第五十圖ハ一層高キ遮蔽高ヲ有スル二列用交通壕、第五十一圖ハ無積土断面ノ交通壕、第五十二圖ハ穹窿断面ノ交通壕(暗路)ナリ

時トシテ坑道ノ要領ニ從ヒ地下深クニ一層安全ナル暗路ヲ設クルコトアリ

暗路ニ於ケル防毒設備ハ第三百三ニ示ス要領ニ準スルモノトス

第六十九 交通壕ハ主トシテ經始ニ依リ斜射、縱射ヲ避クヘシト雖要スレハ之ニ横墻ヲ設ク

進出設備
 形狀 二九、三〇
 作業要領
 三—四

第七十 横塔ニハ壕内ヲ縱射スル爲之ニ射擊設備ヲ施スコトアリ
 第七十一 ノトス又狭キ交通壕ニ在リテハ所々ニ待避所ヲ設クヘシ
 第七十二 第七十一等ニ經始シ其標示法ハ散兵壕ニ就キテ示セル要領(第二十九及第三十參照)ニ準ス但蛇行形經始ハ第五十四圖ニ示ス如ク行フヲ便トス
 第七十三 第七十二交通壕ノ構築ハ散兵壕構築ノ要領ヲ適用ス但端末作業法ニ依リ掘進スル場合ニ在リテハ除土ヲ地上ニ積土シツツ掘進シ或ハ積土スルコトナク無積土斷面又ハ穹窿斷面ノ壕ヲ掘進スルモトス
 第七十四 除土ヲ地上ニ積土シツツ行フ方法ハ敵ノ認識ヲ避クルコト困難ナルモ作業比較的容易ナルヲ以テ狀況ノ許ス限リ此方法ヲ用ヒ其作業法ハ概ネ第三十八乃至四十五ニ示ス要領ニ同シ
 第七十五 無積土斷面又ハ穹窿斷面ノ壕ヲ掘進スル方法ハ除土ノ處分煩雜ナルモ作業ノ位置ト實施トヲ秘匿シ得ルノ利アルヲ以テ主トシテ敵ノ認識ヲ避ケントスル場合ニ用フ就中穹窿斷面ノ壕ハ土質ニ依リ適用シ難キコトアルモ全ク作業ヲ秘匿シ得ルノ利アリ
 第七十六 第七十三無積土斷面又ハ穹窿斷面ノ壕ヲ掘進スル場合ニハ通常作業手ヲ掘進班ト運搬班トニ分ツ掘進班ノ人員、器材及作業ノ方法ハ概ネ第四十四ニ示ス要領ニ準ス
 第七十七 土捨場ニ到ル距離及運搬法等ヲ顧慮シ所要ノ人員ヲ以テ編成

穹窿斷面
 作業進捗
 土捨場ノ
 注意
 空中高所
 二秘匿作
 業被覆
 掘進要領
 掩壕ノ目
 的設備

第七十六 第七十五穹窿斷面ノ交通壕ヲ掘進スル場合ニ在リテハ先頭ノ作業手ハ時々伸シ又ハ板(第五十五圖)ヲ用ヒ壕ノ上部ヲ掩ヒツツ作業スルヲ可トス
 第七十七 鐵針ヲ穹窿頂ニ挿入シ其厚サヲ測定スヘシ又壕ノ掘進ニ從ヒ換氣ヲ必要トスルニ至レハ穹窿頂ニ小孔ヲ設クヘシ然レトモ此孔ハ往々火光ノ漏洩又ハ冬季蒸氣ノ發生等ニ依リ敵ニ發覺ノ徵候ヲ與フルコトアルニ注意セサルヘカラ
 第七十八 第七十六無積土斷面又ハ穹窿斷面ノ壕ヲ掘進スル場合ニ在リテハ畜ニ作業頭ノ作業ノミナラス土捨場ノ位置ノ選定及之カ秘匿並土ノ運搬法ニ關シテモ亦注意セサルヘカラス特ニ土捨場及土ノ運搬ヲ空中及高所ヨリノ偵察ニ對シ秘匿スルコト困難ナルトキハ除土ハ之ヲ土囊ニ填實シテ他ノ用ニ充テ又ハ夜間ニ之ヲ放棄スルヲ可トス
 第七十九 第七十七無積土斷面及穹窿斷面ノ壕ヲ掘進スル作業ニ於テ土地軟弱ニシテ斜面ノ維持堅固ナラサル部分アルトキハ之ヲ被覆スルモトス
 第八十 第七十八交通壕ヲ掘進スルニハ第四十一及第四十三ニ示ス要領ニ準シテ行フモノトス
 第八十一 第七十九掩壕ハ待機中ノ守兵ヲ掩護センカ爲テ設クル壕ニシテ成ルヘク地形ヲ利用シテ設備ス時トシテ之ニ射擊設備ヲ施スコトアリ

掩壕ノ高
サ秘匿
交通、進
出設備

第八十 掩壕ニハ少クモ一米七〇ノ遮蔽高ヲ與ヘ又其掩護ヲ良好ナラシムル
爲成ルヘク幅ヲ小ニシ且之ニ秘匿ノ處置ヲ講スルモノトス
第八十一 掩壕ハ成ルヘク交通壕ニ依リ散兵壕ト連絡セシメ尙進出ノ設備ヲ
施スヘシ

第二章 掩蔽部

要則

掩蔽部ノ
目的

第八十二 掩蔽部ノ目的ハ主トシテ敵砲彈ニ對シ人員、兵器及彈藥ヲ掩護ス
ルニ在リ

第八十三 掩蔽部ハ其抗力ノ大小ニ依リ輕掩蔽部〔砲彈ノ彈子、破片竝十五
種榴彈砲ノ瞬發信管ヲ有スル爆裂榴彈或ハ野砲ノ全彈ニ抗シ得ルモノ〕中掩
蔽部 主トシテ十五種榴彈砲ノ延期信管ヲ有スル爆裂榴彈ニ抗シ得ルモノ〕及
重掩蔽部〔十五種(含マス)以上ノ口徑部ノ砲彈ニ抗シ得ルモノ〕ノ三種ニ分

掩蔽部ノ
種類

掩蔽部ハ又其構築法ニ依リ掘開式〔地上ヲ掘開シテ構築スル方法〕ト坑道式
〔坑道ノ要領ニ依リ地下ヲ掘進シテ構築スル方法〕ト二分ツ前者ハ通常守兵ノ
進出ニ便ニシテ作業モ亦容易且迅速ナルモ比較的多クノ材料ヲ要シ又作業ヲ
秘匿スルコト困難ナリ後者ハ其利害概ネ之ニ相反ス

構築材料

第八十四 掩蔽部ヲ構築スルニハ木材、鐵材、礫石、「コンクリート」等ヲ用
築スルモノトス

掩蓋及側
壁ノ厚サ

第八十五 掩蔽部ノ掩蓋及側壁等ニ與フヘキ厚サハ材料ノ種類及性質ニ依リ
差異アリト雖尋常土及「コンクリート」ニ在リテハ概ネ左表ヲ標準トス

フ「コンクリート」ヲ用フルトキハ抗力大ナルヲ以テ構築物ノ深サヲ減シ出入
ヲ便ナラシメ得ルノ利アリ

掩蔽部一般ノ構造

重 掩 蔽 部	中 掩 蔽 部	輕 掩 蔽 部			抗力ニ 依ル種別	材 料
		彈子、破片ニ抗スルモノ	十五種榴彈砲ノ瞬發信管ヲ有 スル爆裂榴彈ニ抗スルモノ	野砲全彈ニ抗スルモノ		
二十八種以下ノ砲 彈ニ抗スルモノ	※一〇・〇〇	※二・五〇	〇・九〇	〇・四〇	尋常土 (米)	「コンクリート」(米)
	※六・〇〇				掩蓋及敵 方ノ側壁	其他ノ 側壁
	一・〇〇					基礎
	〇・七〇					
	〇・六〇					

遮斷層

掩蓋材

第八十六 掩蓋ニ遮彈層(第六十三圖及第六十四圖參照)ヲ設クルトキハ敵彈ノ侵徹ヲ防止シ且之ヲ過早ニ破裂セシメ以テ掩蓋ノ效力ヲ増加スルコトヲ得ヘシ

遮彈層ニハ礫石、木材、鐵材又ハ「コンクリート」塊等ヲ密接シテ配置シ薄キ土層ヲ以テ之ヲ掩覆スルモノトス又二層以上ノ遮彈層ヲ設クル場合ニ在リテハ其間ニ若干ノ土層ヲ置クヲ通常トス

總テ遮彈層ハ敵彈ヲ受クル方側ニ於テ之ヲ延長シ掩蓋部ノ側壁ノ掩護ヲ十分ナラシムヘキモノトス

第八十七 掩蓋材ニ丸太、軌條等ヲ用フルトキハ之ヲ枕材上ニ配置シ鐵線等ヲ以テ彼此相連結シ其結合ヲ堅固ナラシムヘシ又掩蓋材ノ接合部ハ良ク其間隙ヲ塞キ土砂ノ侵入ヲ防クヲ要ス

軌條ハ通常其頭部及底部ヲ交互ニ密接シテ配置ス若之ヲ數層ニ設クルトキハ各層ノ軌條ヲ互ニ直交シテ配置スヘシ

掩蓋材ニ板又ハ丸太ヲ用フルトキ厚サ約四〇糎ノ土製掩蓋下ニ在リテハ厚サ約五、六糎ノ板ハ約一米五〇、中徑約一〇乃至一五糎ノ丸太ハ約二米中間ニ支點ナクシテ架設シ得ヘク材料之ヨリ弱キトキハ適宜重疊シテ使用スヘシ

備 一 鐵筋「コンクリート」ニ在リテハ「コンクリート」ノ厚サヨリ約一割ヲ減シ得ヘシ

考 二 ※ハ未墾土トス

附表一 漏水防止

側壁ノ被覆

淺キ掩蔽部入口

大掩蔽部入口

坑道式掩蔽部入口

(第五十六圖參照)

其他掩蓋用各種材料ノ抗力算定ニ關シテハ附表第一ヲ參照スヘシ

第八十八 掩蔽部ノ掩蓋ヨリ漏水ヲ防クニハ掩蓋ノ下部ニ鐵板「アスハルト」フエルト」等ヲ裝置シ(第六十三圖及第六十四圖參照)尙要スレハ掩蓋ノ下面頂材間ニ鐵板等ヲ張り且之ヲ一側又ハ中央ニ傾斜セシメ樋ニ依リテ雨水ヲ水拔井等ニ導クヘシ(第九十四圖參照)

第八十九 掩蔽部ノ側壁ハ附近ニ破裂スル砲彈ノ震盪ニ抗セシムル爲勉メテ之ニ被覆ヲ施スヘシ特ニ遮彈層ノ設備十分ナラサルトキハ敵方ニ面スル側壁ニハ木材、軌條等ヲ配置シ其抗力ヲ大ナラシムルモノトス(第六十三圖參照)

第九十 淺キ掩蔽部ノ入口ニハ砲彈ノ彈子、破片ニ對シ内部ニ在ル人員ヲ掩護スル爲厚サ少クモ五糎ノ厚板ヲ以テ之ヲ閉鎖シ(第五十九圖參照)又爆裂彈ノ風靡力ヲ緩和スル爲ニハ更ニ其外側ニ土囊ヲ堆積スルヲ可トス

第九十一 大ナル掩蔽部若ハ深キ掩蔽部ニ在リテハ少クモ二箇ノ入口ヲ設ク兩者ノ間隔ハ一砲彈ノ爲同時ニ破壊セラレサル如ク中間ニ約六米以上ノ土體ヲ存セシムルヲ要ス又入口ハ通常敵ニ發見セラレ易ク且抗力薄弱ナルヲ以テ十分之ヲ秘匿シ且勉メテ其結構ヲ堅固ナラシムルヲ要ス

入口附近ニ横牆ヲ設クル場合ニ在リテハ其脚ヲ入口ヨリ少クモ一米五〇離隔セシメ以テ横牆ノ破壞ニ依リ直ニ入口ヲ閉塞スルコトナカラシムルモノトス

第九十二 坑道式掩蔽部ノ入口ニハ垂坑道若ハ平坑道(水平坑道斜坑道)ヲ用フル垂坑道ニ依ル入口ハ出入不便ナルモ敵彈ニ對スル薄弱部少ク且比較的材料ヲ

垂坑道
斜坑道

入口ノ遮
彈層
掩蔽部内

節約シ得ルノ利アリ平坑道ニ依ルモノハ其利害概ネ之ニ反スルモ急斜面ニ開口シ得ル場合ニ在リテハ其害ヲ醫スルコトヲ得ヘシ

第九十三 坑道式掩蔽部ノ入口ニ垂坑道ヲ用フル場合ニ在リテハ之ニ梯子ヲ設備スルモノトス(第七十五圖参照)

梯子ハ幅約四〇糎、横材ノ間隔約三五糎ヲ適度トシ其上部ハ通常之ヲ垂坑道ノ上面ト齊頭ナラシメ人員ノ出入ヲ容易ナラシムルカ爲ニハ別ニ坑道上部ノ縁端ヨリ約五〇糎ノ位置ニ握把用坑ヲ打入スルヲ可トス

垂坑道ノ上部ハ單ニ之ヲ秘匿スルニ止メ或ハ掩蓋ヲ設ケテ之ヲ掩護スルモノトス(第七十五圖及第七十六圖参照)

斜坑道ヲ用フル場合ニ在リテハ其傾斜ハ交通ノ爲ニハ成ルヘク緩ナルヲ便トスルモ速ニ所要ノ深度ニ達シ且材料ヲ節約スル爲通常三分ノ二乃至一分ノ一トス而シテ成ルヘク地下深キ位置(少ナクモ坑道ノ頂ハ地表面下一米)ヨリ開口シ地下三乃至四米ニ達スルマテハ縦匡ノ間隔ヲ短縮シ又ハ之ヲ密接シテ配置スヘシ(第五十七圖)時トシテ先ツ垂坑道ヲ以テ開口シ若干ノ深サニ達シタル後斜坑道ニ移ルヲ利トスルコトアリ

第九十四 坑道式掩蔽部ノ入口ニハ爲シ得レハ「コンクリート」塊又ハ礫石等ヲ以テ地上ニ遮彈層ヲ設クヘシ而シテ其廣サハ遮彈層ノ存セサル所ニ砲彈著達シ得徹ノ後爆發スルモノ入口ノ坑道ニ危害ヲ及ササル範圍マテ擴張シ又其厚サハ砲彈ノ威力ニ應セシムルヲ可トス(第五十八圖)

第九十五 掩蔽部ノ内部ハ其結構ヲ堅固ナラシメ木材ハ釘、鋸、螺桿、横材

部
材料使用
ノ適否

構築法

構築法

等ヲ以テ堅固ニ之ヲ結合スヘシ

第九十六 總テ材料使用ノ適否ハ掩蔽部ノ抗力ニ影響スルコト大ナルモノトス

木材ノ使用ニ關シ注意スヘキ事項ヲ圖示スレハ第五十六圖ノ如シ

第九十七 第五十九圖及第六十圖ニ示ス掩蔽部ニ構築スルニハ通常壕ノ掘開ト同時ニ掩蔽部ノ位置ヲ掘開シ此處ニ掩蓋ヲ設ケルモノトス然レトモ既ニ掩蓋材ヲ有スルモ速ニ壕ヲ完成スルヲ要スルトキハ掩蓋材ヲ配置シタル後先ツ壕ヲ完成シ次テ端末作業法ノ要領ニ依リ掩蓋下ヲ掘開シテ之ヲ構築ス

第六十一圖ニ示ス如キ掩蔽部ハ壕ヲ完成シタル後先ツ第一匡ヲ配置スヘキ深サノ横坑ヲ掘開シ此處ニ底板(一端ニノミ豫メ棧ヲ釘著ス)ヲ置キ次テ一側ノ側板ト頂板(豫メ兩端ニ棧ヲ釘著ス)トヲ接合シテ底板上(棧ヲ釘著セル端末)ニ立テ次テ他側ノ側板ヲ頂板ニ接合セシメテ立テ後底板ニ棧ヲ釘著セルテ匡ヲ構成シ土、糾草等ヲ其外側ニ填實ス逐次此ノ如クシテ約十分ノ一ノ傾度ヲ與ヘテ匡ヲ配置シ其奥壁ニ板ヲ挿入シテ被覆シ且斜繫材ヲ以テ兩側ノ側板ヲ連結ス

狀況特ニ土質之ヲ許ストキハ先ツ全部ノ横坑ヲ掘開シタル後前方ヨリ匡ヲ配置スルヲ可トス

第九十八 第六十三圖及第六十四圖ニ示ス掩蔽部ヲ構築スルニハ先ツ所要ノ幅員ヲ有スル壕ヲ掘開シ壕内ニ約一米ノ間隔ヲ以テ直柱及頂材ヲ礎材上ニ組立テ良ク接合セル厚板ヲ以テ側壁ヲ被覆ス(敵火ヲ受クル方側ニハ要スレ

「コンク
リート」
掩蔽部

既製コン
クリート

坑道式

ハ中徑二〇乃至二五種ノ丸太又ハ軌條ヲ密接シテ配置ス。次テ相對向スル巖
徑上ニ枕材ヲ固定シ其上ニ木材又ハ軌條ヲ密接シテ橫架シ且之ニ所要ノ厚サ
ヲ有スル土層ト遮彈層トヲ設ケルモノトス
此種ノ掩蔽部ハ先ツ枕材上ニ掩蓋材ヲ配置シタル後上部ヲ構築スルト同時ニ
内部ノ結構ヲ行フコトヲ得ヘシ

第九十九 「コンクリート」製掩蔽部ヲ構築スルニハ先ツ其位置ニ壕ヲ掘開シ
掩蔽部ノ形狀ニ應スル型枠ヲ配置シタル後其内部ニ「コンクリート」ヲ打チテ
凝固セシメ次テ型枠ヲ除去シ「コンクリート」ノ周圍ヲ埋填シ且其上部ヲ薄キ
土層ニテ掩覆ス

時間ニ餘裕ナキトキハ型枠ヲ除去スルコトナシ特ニ掩蔽部内側ノ枠ノ上方及
側方ノ板ハ内部ノ施設ヲ容易ナラシムル爲寧口之ヲ存置スルヲ便トス
時トシテ土質之ヲ許ストキハ型枠ヲ設ケルコトナク直接土體ニ托シテ「コン
クリート」ヲ打ツコトアリ

第百 時宜ニ依リ現地ニ於テ「コンクリート」ヲ打ツニ代ヘ豫メ製作セル「コ
ンクリート」塊(鐵筋「コンクリート」塊)ヲ用フルコトアリ

此場合ニ在リテハ先ツ掩蔽部ノ大サニ應シ壕ヲ掘開シ其底ニ「コンクリート」
塊ヲ積ミ之ニ鐵桿ヲ垂直ニ貫通シテ基礎ヲ完成シタル後同法ニ依リ周壁ヲ設
ケ其上ニ軌條ヲ架シ再ヒ「コンクリート」塊ヲ積ミテ掩蓋ヲ構成ス、第七十四
圖參照)

第百一 坑道式掩蔽部ノ構築法ニ關シテハ坑道教範ニ據ルモノトス

毒瓦斯防
止要領

同右

垂坑道毒
瓦斯防止
通路ノ瓦

第百二 掩蔽部特ニ地下深キ掩蔽部ニハ毒瓦斯防止ノ設備ヲ施スヲ要ス而シ
テ此設備ハ通常掩蔽部ノ入口附近ニ之ヲ設ケヘキモ長ク且廣キ掩蔽部ニ在リ
テハ尙其内部ニ於テモ之ヲ行フヲ要ス又所要ニ應シ毒瓦斯ノ濾過設備ヲ設ケ
且侵入瓦斯ヲ中和セシムル爲勉メテ中和劑、噴霧器等ヲ準備スルモノトス

第百三 毒瓦斯防止ノ爲ニハ二箇ノ幕布又ハ扉ニ依リ隔障ヲ少クモ一米間隔
ニ配置シテ通路ヲ遮斷スルモノトス
幕布ニ依リ隔障ハ第六十五圖ノ如ク枠ヲ傾斜セシメテ其上端及兩外側縁ヲ通
路ノ内側ニ緊密ニ接著スル如ク固定シ之ニ地質密實ナル防水幕布ヲ裝著ス此
幕布ハ其長サヲ枠ヨリ若干長カラシメ表裏ヨリ貫板ヲ以テ之ヲ挟ムモノトス
又第六十六圖ノ如ク入口附近ノ縱匡ニ接シ垂直ニ布幕ヲ設備スルコトアリ此
場合ニ在リテハ幕布ハ中央ニ於テ少クモ一五種重ナラシメ其内側縁ハ之ヲ放
置シ下縁ニハ鐵線片又ハ礫石ヲ包裝シテ適度ノ錘ト爲シ之ヲ潜リテ出入スル
トキハ幕布自ラ落下シテ交又スル如ク設備スルモノトス

扉ニ依リ隔障ハ二箇ノ扉板ヲ以テ構造シ各扉ノ一端ヲ蝶番ニ依リ縦匡ニ取付
ケ目板()ヲ附シ或ハ相扶()ノ方法等ニ依リ中央
ニ於テ相吻合セシメ以テ兩側ニ開キ得ル如クス扉ノ外面及材ノ接合部竝吻合
部ニハ防水布等ヲ張り付ケ其膚接密閉ヲ確實ナラシムルモノトス

第百四 垂坑道ニ於ケル毒瓦斯防止ノ設備ハ第百三ニ準シ先ツ扉ヲ以テ上部
ニ隔障ヲ設ケ次ニ第六十五圖示ス要領ニ準シ幕布ノ隔障ヲ施スヲ可トス

第百五 總テ通路ハ豫メ十分ニ之ヲ點檢シ瓦斯ノ侵透シ得ル空隙特ニ縦匡及

通路ノ瓦

斯防止
換氣設備
照明設備
煖房設備
築營
兵員用掩蔽部

板ノ接合部並之土地トノ連接部等ヲ密閉スルコトニ注意スヘシ
第百六 地下深キ掩蔽部ニハ換氣ノ設備ヲ行フヲ要ス之カ爲ニハ換氣孔ヲ設
ク或ハ通風機ヲ備ヘテ人工換氣ヲ行フモノトス又酸素、壓搾空氣、石灰等ヲ
準備スルコトアリ
第百七 掩蔽部内ニハ照明ノ設備ヲ行ハサルヘカラス之カ爲電燈ヲ用フルヲ
得ハ有利ナリ深キ掩蔽部ニ在リテハ晝間ニ於テモ此設備ヲ必要トス
第百八 冬季特ニ寒地ニ在リテハ掩蔽部内ニ煖房ノ設備(築營教範參照)ヲ
施スヲ要スルコトアリ此際特ニ換氣ニ注意シ又煙ノ漏出ニ依リ掩蔽部ノ位置
ヲ敵ニ察知セラレサル如クスルヲ要ス
用途ニ應スル掩蔽部ノ構造
兵員用
第百九 兵員用掩蔽部ニハ必要ニ應シ腰掛ヲ設ケ或ハ之ニ寢棚ヲ設備ス
掩蔽部内ニ於テ兵員跌坐スルトキハ一人ノ爲ニハ其幅ヲ六〇糎(座幅)其高サ
ヲ約九〇糎(座高)トシ數人前後シテ跌座スルトキハ後方ニ在ル者ノ股間ニ前
方ニ在ル者ノ臀部ヲ入レル如クシ與行一米二〇ニ付三人ヲ收容スルコトヲ得
シム(第六十圖及第六十一圖參照)又腰掛ニ依ルトキハ其座幅ヲ五〇糎トシ腰
掛ハ其高サ及幅ヲ共二三〇糎トス(第五十九圖參照)
寢棚ハ一人ノ爲長サ一米五〇、幅六〇糎トシ上方空間ニ約五〇糎ノ高サヲ與
フ(第六十八圖及第六十九圖參照)
通路ハ掩蔽部ノ一側又ハ中央ニ設ケ其幅ヲ五〇糎以上、其高サヲ一米七〇ト

附表二
指揮官用
掩蔽部
機關銃用
掩蔽部
掩蓋機關
銃坐

爲ストキハ交通容易ナリ然レトモ高サハ之ヲ一米二〇ニ減スルモ若干身體ヲ
屈シテ通行スルコトヲ得ヘシ
兵員用各種掩蔽部ノ構造ハ第五十九圖乃至第六十九圖及附表第二ヲ參照スヘ
シ
第百十 指揮官用掩蔽部ニハ執務ト棲息トニ必要ナル設備ヲ施スモノニシテ
狀況ニ依リ一掩蔽部内(第七十圖)ニ設備シ又ハ數箇ノ小ナル掩蔽部内ニ分設
ス
機關銃用
第百十一 機關銃用掩蔽部ハ銃座ノ位置ニ掩蓋ヲ構築シ或ハ銃座ノ傍ニ掩蔽
部ヲ設ケ此處ニ銃及銃手ヲ收容シ機ヲ失セス銃座ニ就キ得ル如ク設備スルモ
ノトス
第百十二 機關銃座ニ掩蓋ヲ冠スル場合ニ在リテハ其内部ノ幅員ハ第七十一
圖ニ準據スルモノトス而シテ此種掩蔽部ハ其所在ヲ秘匿シ特ニ對銃眼射撃ヲ
避クル如ク構築スルハ勿論銃眼前ニ砲彈ノ爲ニ生スル積土等ニ依リ射撃ヲ防
害セラレサル如ク適宜銃眼ヲ高メ且容易ニ銃眼部ヲ閉塞セラレサル爲銃眼前
ニ小溝ヲ掘開ス尙木材製ノ銃眼部ハ鐵板等ヲ用ヒテ之ヲ保護シ燒夷ヲ免ル
如ク設備スヘシ
掩蔽部内ニハ射撃ニ際シ發生スル瓦斯ヲ蓄積セシメサル爲掩蓋ニ換氣孔ヲ開
設シ或ハ内部ニ通風機ヲ配置シテ空氣ノ流通ヲ容易ナラシムヘシ
第七十二圖ハ中掩蔽部程度ノ木材製掩蓋ヲ有スル銃座、第七十三圖ハ重掩蔽

機關銃座ノ傍ノ掩蔽部
 第七十四圖ハ「コンクリート」塊ヲ以テ構築セル一銃入掩蔽部ナリ
 第七十五圖ハ坑道式掩蔽部内ニ收容セル機關銃ヲ警報ニ際シ銃座ニ搬出スルニ
 ハ通常垂坑道ヨリ吊リ上ケルモノトス
 垂坑道ニハ成ルヘク大垂坑道ヲ用ヒ銃ノ吊上ト人員ノ昇降口トハ之ヲ區別
 シテ設備スルヲ可トス又機關銃脚ノ踵鐵ノ接スル方側ノ横匡ニハ垂坑道ノ全
 長ニ互リ板ヲ張リ以テ銃ノ滑走ヲ容易ナラシムヘシ(第七十五圖)
 機關銃ヲ吊ルニハ通常兩脚及昇降軸部ニ於テ射擊ノ際銃ノ塊作ヲ妨ケサル如
 ク綱ヲ結束シ輪ト爲シ滑車鋼ノ一端ニ在ル鉤ヲ鉤スルニ便ナラシムヘシ第七
 十六圖及第七十七圖ハ共ニ垂坑道ヨリ搬出スル坑道式機關銃用掩蔽部ナリ
 通信所ハ其屬スル觀測所又ハ指揮官用掩蔽部等ノ内部ニ設ケ又ハ
 其附近ニ獨立シテ設備ス
 第一百十五圖 通信所ハ附近ニ於ケル喧噪ノ影響ヲ受ケサラシムル爲他ノ掩蔽部
 内ニ設ケルトキハ成ルヘク之ヲ區別シ又獨立シテ設ケルトキハ成ルヘク開口
 狭キモノヲ構築スナル可トス
 第一百十七圖 通信所用掩蔽部ハ人員用掩蔽部ニ準シテ構築シ其内部ニ通信器材

構造
 第一百十八圖 置場及筆記等ニ要スル設備ヲ施シ且採光ヲ一分ナラシムヘシ(第七十八圖)
 療器械ノ置場等ヲ設備スルモノトス(第七十九圖)
 第一百十九圖 陣地内ニ設ケル彈藥置場ハ容易ニ埋没セラレ且濕氣ノ交感ヲ受
 ケサル位置ニ設備シ爲シ得レハ箱ノ儘格納シ得ル幅員ヲ與フヘシ小銃彈藥箱
 二箇ヲ併置シテ格納スル爲ニハ幅五五厘、奥行一米、高サ五〇厘ヲ要ス
 彈藥置場ハ成ルヘク小ナルモノヲ分散シテ配置シ又手榴彈置場ハ彈藥置場ト
 離隔シテ之ヲ設ケヘシ
 第三章 監視所、觀測所
 第一百二十圖 監視所ハ狀況視察及敵情監視ノ爲設ケルモノニシテ指揮用ト哨兵
 用トニ分ツ
 觀測所ハ射擊指揮用トシテ設ケルモノトス
 監視所及觀測所ノ幅員ハ目的ニ應ジ之ヲ定ムヘシト雖哨兵用監視所ハ通常
 一、二名ヲ收容スルヲ以テ足レリトシ指揮用監視所及觀測所ニハ尙大ナル幅
 員ヲ與ヘ且視察及通信ニ要スル諸器械ヲ收容スルニ便ナル如ク設備スルモノ
 トス
 第一百二十一圖 監視所及觀測所ニハ潛望鏡ヲ裝置スルヲ可トス此場合ニ在リテ
 モ直接目視ノ爲ノ設備ハ併セ之ヲ施スヘキモノトス
 第一百二十二圖 第八十圖ハ野砲彈ノ彈子、破片ニ抗シ得ル掩蓋ヲ冠スル哨兵用
 監視所、第八十一圖ハ「コンクリート」ヲ以テ構築セル指揮用監視所、第八十

鐵條網ノ高サ

第百二十七 鐵條網ノ高サハ平均概ネ一米二〇トス然レトモ我カ射撃ヲ妨害スル部分及十分ニ其所在ヲ敵ニ秘匿スルヲ要スルモノニ在リテハ適宜之ヲ低減セサルヘカラス此場合ニ在リテモ地形ヲ利用シ又ハ淺キ壕内ニ設置シ成ルヘク平均八〇糎以上タラシメ已ムヲ得サルモ平均五〇糎以下ト爲ササルヲ可トス

第百二十八 鐵條網ノ構築ニ使用スル材料ハ杭及鐵線トシ其標準概ネ左ノ如シ

杭ハ太サ約一〇糎、長サ一米八〇乃至二米五〇ヲ適度トス但屋根形鐵條網ニ用フル短キ杭ハ長サ約一米トシ尙細キモノヲ用フルコトヲ得ヘシ

低キ鐵條網ニ在リテハ更ニ小ナル杭ヲ使用スルモノトス

木杭ニ代フルニ鐵製螺旋杭(第八十五圖)ヲ以テスルトキハ抗力ヲ增加シ且作業ヲ迅速ナラシメ得ルノミナラス構築ニ際シ其音響ヲ秘匿スルニ便ナリ

鐵線ハ通常幹線ニ八番又ハ六番鐵線或ハ有刺鐵線ヲ用ヒ細線ニ十四番又ハ十番鐵線ヲ用フ而シテ幹線ニハ有刺鐵線ヲ用フルヲ有利トス

鐵條網ノ構築ニ要スル器具ハ手用築頭又ハ大槌、鐵條鉋及鐵鎚トシ手用築頭ハ必要ニ應シ之ヲ急造スルコトヲ得ヘシ(第八十六圖)

第百二十九 鐵條網ヲ構築スルニハ通常經始、植杭及張線ノ作業班ヲ設ケ鐵條網ノ前緣ヨリ後緣ニ向ヒ逐次ニ作業スルモノトス

各作業班ノ人員及器材ハ各班ノ作業ヲシテ互ニ妨害スルコトナク整正ニ進捗セシメ得ルコトヲ願慮シテ之ヲ定ムヘシ班内ノ編成モ亦此要旨ニ依ルモノト

設備

二圖ハ組立式鐵製監視所ニシテ其構築法ハ掩蔽部ノ爲ニ示セル要領ヲ適用スルモノトス

簡易ナル監視所ハ銃眼ノ要領(第十六圖及第十七圖參照)ニ準シ之ヲ設備シ得ヘシ

時トシテ立樹又ハ家屋等ヲ利用シテ監視所及觀測所ヲ設クルコトアリ(第八十三圖)此場合ニ在リテハ勉メテ目立タサル如ク構築シ且要スレハ砲彈ノ彈子、破片ニ對スル防護ノ處置ヲ施スモノトス

第四章 障礙物

要則

第百二十三 障礙物ハ敵ノ前進ヲ阻止シ火力ト相俟ツテ敵ヲ殲滅ニ陥ラシメ又時トシテ敵ノ奇襲ヲ防遏スル爲ニ設クルモノトス

第百二十四 障礙物ニハ主トシテ鐵條網及鹿砦ヲ用ヒ其他拒馬、地雷、氾濫、壕、陷穽等ヲ構築ス

障礙物ノ構築ニ要スル主要材料ノ數量ハ附表第三ヲ參照スヘシ

鐵條網

第百二十五 鐵條網ハ構築容易ニシテ且障得力比較的大ナルヲ以テ使用セラ

ルルコト多シ

第百二十六 鐵條網ハ其形式ニ依リ屋根形及網形ノ二種トシ前者ハ後者ニ比シ障得力稍、劣ルモ構築容易ニシテ且材料ヲ節約シ得ルノ利アリ(第八十四圖)

經始法ノ
植杭班ノ
作業

張線班ノ
作業

障碍増加
法

第三百三十一 鐵條網ノ經始法ハ第八十七圖ニ示ス要領ニ依ルモノトス
 第三百三十二 鐵條網ノ經始法ハ人員及器具ノ數ニ應シ若干組ニ分チ先ツ杭ヲ植立スヘ
 キ位置ニ運搬シ次テ杭ノ大小ニ應シ手用築頭又ハ大槌ヲ用ヒテ垂直且堅固ニ
 之ヲ打入スヘシ又鐵製螺旋杭ヲ使用スル場合ニ在リテハ杭ノ鑽ニ鐵桿又ハ木
 桿ヲ通シ之ヲ握把トシテ螺入スルモノトス
 土地凍結シ植杭困難ナルカ或ハ敵前ニ於テ隱密ニ植杭スルヲ要スルトキハ其
 位置ニ坑ヲ穿チ之ニ杭ヲ植エタル後埋填スヘシ特ニ凍結地ニ在リテハ水ヲ注
 キテ凝結セシメ以テ杭ノ維持ヲ堅固ナラシムルコトヲ得ヘシ
 杭ノ配置ニ方リテハ成ルヘク其大小、長短ヲ相交錯セシメ又打入ニ方リテハ
 其高サヲ不同ナラシムルコトニ注意スヘシ
 第三百三十三 張線班ノ作業手ヲ三又ハ四名ヨリ成ル組ニ分チ通常第八十八圖
 乃至第九十圖ニ示ス如ク張線ス
 鐵條網ノ杭ニ固定スルニハ鐵線錠(第九十一圖)ヲ用ヒ多數ノ鐵線輻輳スル箇
 所ニ於テハ適宜固定點ヲ離隔セシムルモノトス又鐵製螺旋杭ニ在リテハ第九
 十二圖ニ示ス要領ニ依ルヘシ
 幹線相互ヲ連結スルニハ十六番又ハ十四番鐵線ヲ用ヒ二線ノ交叉部ヲ纏結ス
 ルモノトス此細線ハ約二〇程ノ長サニ切斷シ豫メ準備シ置クヲ可トス
 第三百三十四 鐵條網特ニ低キ鐵條網ハ其障碍力ヲ増加スル爲幹線間ニ細線ヲ
 張リテ網狀ヲ密ニシ或ハ之ニ「亂線」(亂雜不規則ニ屈曲セル鐵線)ヲ添加

鐵線準備
作業

森林内

鐵條網ノ
通路

折疊鐵條
網ノ用途

種類ト大

スルモノトス
 第三百三十四 鐵線ノ張線ニ先ダチ作業ニ便ナル如ク豫メ之ヲ準備スヘシ之カ
 爲太キ鐵線ハ中徑四〇乃至六〇程ノ環狀ト爲シ五〇乃至六〇卷(片手ニテ握
 リ得ル程度)ニ束ネ又細キ鐵線ハ木片ニ纏卷シ置クヲ便トス
 有刺鐵線ハ細線ノ如ク之ヲ木片ニ纏卷シ或ハ棒ニ纏絡ス又此鐵線ノ取扱ヲ容
 易ナラシムル爲ニハ鐵線製ノ鈎ヲ準備シ其他爲シ得レハ革製手套ヲ用フルヲ
 可トス
 第三百三十五 森林ニ在リテハ樹間ニ鐵線ヲ張り容易ニ鐵條網ヲ構築スルコト
 ヲ得ヘシ
 第三百三十六 鐵條網ニ通路ヲ設クルヲ要スルトキハ第九十三圖ノ要領ニ依ル
 ヘシ而シテ幅廣キ通路ヲ設クル場合ニ在リテモ杭ハ通常之ヲ打入シ置クモノ
 トス然レトモ通過ヲ妨クル虞アルトキハ容易ニ除去シ得ル如ク之ヲ假設スヘ
 シ
 折疊鐵條網
 第三百三十七 折疊鐵條網ハ障碍力小ナリト雖運搬及設置共ニ容易ナリ故ニ障
 碍物ノ通路又ハ破壞孔ヲ迅速ニ閉塞シ或ハ岩石地又ハ凍結地等ニシテ杭ノ打
 入困難ナルトキ及敵ノ不意ニ出テテ障碍物ヲ急設セントスル場合等ニ使用ス
 第三百三十八 折疊鐵條網ハ其形式ニ依リ圓筒形(第九十四圖)、蛇腹形(第九
 十五圖)及刺形(第九十六圖)ノ三種トシ其長サハ用所ニ依リ異ナルモ運搬及

使用材料

圓筒形鐵條ノ製作法
圓筒形鐵條ノ製作法

設置ノ便ヲ願慮シ通常圓筒形ニ在リテハ約三米、蛇腹形ニ在リテハ約二〇米、
刺形ニ在リテハ約一五米トス
第三百三十九 折疊鐵條網ニ使用スル材料ハ通常左ノ如シ
圓筒形及蛇腹形折疊鐵條網ニ在リテハ幹線ニ八番又ハ六番鐵線ヲ、其他ノ部
分ニハ十四番又ハ十二番鐵線ヲ用フ若圓筒形ノ母線及蛇腹形ノ幹線ニ有刺鐵
線ヲ用フルトキハ一層障力ヲ增加スルコトヲ得ヘシ
刺形折疊鐵條網ニ在リテハ之ニ用フル鐵串ハ通常中徑五乃至七耗、長サ約一
米二〇ハ六番鐵線ヲ以テ代用スルコトヲ得トシ鐵線ニハ有刺鐵線又ハ十二
番鐵線ヲ用フ
折疊鐵條網ヲ固定スルニ用フル杭ハ太サ約五種、長サ一米五〇乃至二米ヲ適
度トシ爲シ得レハ鐵製螺旋杭ヲ用フルヲ可トス
第四百十 圓筒形折疊鐵條網ヲ製作スルニハ第九十七圖ニ示スカ如キ架ヲ使
用シ幹線ヲ以テ中徑一米ノ鐵線ヲ作リ之ニ三箇ノ直徑線ヲ張り鐵ノ中心ニ於テ
細線ヲ以テ之ヲ結束ス次テ各箇間ニ三箇ノ對角線ヲ張り最後ニ六條ノ母線ヲ
張リ細線ヲ以テ之ヲ結束ス各箇間ニ三箇ノ對角線ヲ張り最後ニ六條ノ母線ヲ
保持シ同時ニ反對方向ニ強ク旋迴捻轉シ疊ミ終レハ弛マサル如ク細線ニテ數
箇所ヲ結束ス之ヲ運搬スルニハ腋ニ抱キ或ハ棒ヲ通シテ肩ニ擔フ又之ヲ設置
スルニハ折疊ミタルトキト反對ニ操作シテ地上ニ展伸シ鐵線「ピン」ヲ用ヒテ
適宜之ヲ地上ニ固定ス若兩端ヲ既設障碍物ニ連結シ又ハ杭ニテ固定セハ一層

蛇腹鐵條網ノ製作法

蛇腹鐵條網ノ製作法
蛇腹鐵條網ノ製作法

堅固ナリ
第四百十二 蛇腹形折疊鐵條網ヲ製作スルニハ第九十五圖甲ニ在リテハ先ツ
幹線ヲ以テ中徑一米ノ螺旋ヲ作リ次テ母線ニ沿ヒ細線ヲ纏結シテ網狀ト爲シ
其兩端ニ杭ヲ結著ス
第九十五圖乙ニ在リテハ前項ト同一ノ要領ニ依リ先ツ幹線ヲ以テ中徑一米ニ
〇乃至一米三〇ノ螺旋ヲ作リ細線ヲ以テ比隣鐵線ヲ交互ニ結束シテ網狀ト爲
ス杭ヲ結著スルコト前者ニ同シ
以上ノ製作ノ爲ニハ通常第九十八圖ニ示スカ如キ棒ヲ急造シテ操作スルモノ
トス
第四百十三 蛇腹形折疊鐵條網ヲ折疊ムニハ兩端ヨリ壓縮シ數箇所ヲ結束ス
運搬法ハ圓筒形折疊鐵條網ニ同シ又之ヲ設置スルニハ兩端ヲ持チテ展伸 第
九十五圖乙ニ在リテハ設置ノ際所望ノ長サト中徑トヲ保チ得ル如ク一旦稍々
長ク展伸スシタル後杭ヲ打入又ハ螺入シ且爲シ得レハ鐵線「ピン」ヲ用ヒ適
宜之ヲ地上ニ固定ス
第四百十四 刺形折疊鐵條網ヲ製作スルニハ先ツ二箇ノ鐵串ヲ有スル鐵串ヲ約
八〇程ノ間隔ニテ地上ニ併置シ各箇ノ所ニ於テ之ニ平行及十字ノ鐵線ヲ張り
次テ一箇ノ鐵串ヲ有スル鐵串ヲ各箇間隔内ニ配置シ其鐵串十字形鐵線ノ交叉部ニ
結著ス
第四百十五 刺形折疊鐵條網ハ一端ヨリ卷キ通常二名ニテ運搬ス又之ヲ設置
スルニハ先ツ鐵條網ヲ地上ニ展伸シタル後其兩端ヲ保持シ互ニ反對方向ニ數

鹿岩ノ特徴用處
 第四百四十六 鹿岩ハ鐵條網ニ比シ敵ノ認識ヲ避クルコト困難ニシテ且破壊セ
 ラレ易キモ森林ノ近傍等材料ヲ得易キ場所ニ於テハ應用セラレルコト多シ
 第四百四十七 鹿岩ハ其形式ニ依リ樹枝鹿岩(第九十九圖及第百圖)及樹幹鹿
 岩ノ二トシ樹枝鹿岩ハ主トシテ其上方ヲ超過シテ射撃スルヲ要スル位置ニ、
 樹幹鹿岩ハ火線前ノ死角、凹窪ノ阻絶等射撃ニ妨ナキ位置ニ使用ス
 第四百四十八 樹枝鹿岩ヲ構築スルニハ枝條繁茂シテ開張シタル濃葉樹ノ腕大
 ノ太サヲ有スル樹枝鹿岩又ハ樹枝ヲ用ヒ其細枝ヲ截除シ稍々大ナル枝ヲ尖ラシ梢
 ナ敵方ニ向ケ後列ノ樹枝ヲ以テ一部前方ノ樹枝ヲ掩フ如ク其數列ヲ地中ニ植
 立スヘシ之カ爲第九十九圖ニ示スカ如ク先ツ鹿岩ノ列ニ應スル三角斷面ノ壕
 ナ掘開シテ此處ニ樹枝ヲ配列シ強キ又杭又ハ鈎杭ヲ以テ之ヲ土地ニ固定シ次
 ナ壕ヲ埋填ス若鐵線ヲ以テ所々樹枝ノ交叉部ヲ纏結シ尙枝條中ニ不規則ニ之
 ナ張ルトキハ一層其障力ヲ增加スルモノトス
 第四百四十九 樹枝鹿岩ハ樹枝鹿岩ニ使用スルモノヨリ通常大ナル樹幹ヲ用ヒ
 之ヲ數列ニ配置シ又杭又ハ鈎杭ヲ以テ之ヲ地上ニ固定シ爲シ得レハ鐵線ヲ以
 テ樹幹及樹枝ヲ彼此纏結ス又立樹ヲ地上五〇釐乃至一米ノ高サニ於テ截リ放
 所ノ構築用

鹿岩ノ特徴用處
 第四百四十六 鹿岩ハ鐵條網ニ比シ敵ノ認識ヲ避クルコト困難ニシテ且破壊セ
 ラレ易キモ森林ノ近傍等材料ヲ得易キ場所ニ於テハ應用セラレルコト多シ
 第四百四十七 鹿岩ハ其形式ニ依リ樹枝鹿岩(第九十九圖及第百圖)及樹幹鹿
 岩ノ二トシ樹枝鹿岩ハ主トシテ其上方ヲ超過シテ射撃スルヲ要スル位置ニ、
 樹幹鹿岩ハ火線前ノ死角、凹窪ノ阻絶等射撃ニ妨ナキ位置ニ使用ス
 第四百四十八 樹枝鹿岩ヲ構築スルニハ枝條繁茂シテ開張シタル濃葉樹ノ腕大
 ノ太サヲ有スル樹枝鹿岩又ハ樹枝ヲ用ヒ其細枝ヲ截除シ稍々大ナル枝ヲ尖ラシ梢
 ナ敵方ニ向ケ後列ノ樹枝ヲ以テ一部前方ノ樹枝ヲ掩フ如ク其數列ヲ地中ニ植
 立スヘシ之カ爲第九十九圖ニ示スカ如ク先ツ鹿岩ノ列ニ應スル三角斷面ノ壕
 ナ掘開シテ此處ニ樹枝ヲ配列シ強キ又杭又ハ鈎杭ヲ以テ之ヲ土地ニ固定シ次
 ナ壕ヲ埋填ス若鐵線ヲ以テ所々樹枝ノ交叉部ヲ纏結シ尙枝條中ニ不規則ニ之
 ナ張ルトキハ一層其障力ヲ增加スルモノトス
 第四百四十九 樹枝鹿岩ハ樹枝鹿岩ニ使用スルモノヨリ通常大ナル樹幹ヲ用ヒ
 之ヲ數列ニ配置シ又杭又ハ鈎杭ヲ以テ之ヲ地上ニ固定シ爲シ得レハ鐵線ヲ以
 テ樹幹及樹枝ヲ彼此纏結ス又立樹ヲ地上五〇釐乃至一米ノ高サニ於テ截リ放
 所ノ構築用

拒馬ノ用途
 拒馬ハ移動性ヲ有スル障物ニシテ其用途ハ概ネ折疊鐵條網ニ同
 シ(第百一圖)
 拒馬ハ運搬ヲ容易ナラシムル爲折疊ミ得ル如ク結構スルコトヲ得ヘシ
 第四百五十一 拒馬ノ運搬及設置ハ通常二名ニテ行ヒ成ルヘク既設ノ障物ト
 彼此纏結シテ設置シ且杭ヲ以テ之ヲ地上ニ固定スヘシ
 折疊ミ得ル拒馬ハ通常設置ノ位置ニ於テ之ヲ展開スルモノトス

地雷ノ目
 第四百五十二 地雷ハ其爆發ニ依リ人馬ヲ殺傷シ材料ヲ破壊スル爲設クルモノ
 ニシテ其猛烈ナル爆音ト土砂ノ飛散トハ敵ニ精神上ノ不安ヲ與フルコト大ナ
 ルモノトス
 第四百五十三 地雷ハ敵ノ認識ヲ避ケ易ク巧ニ之ヲ設置スルトキハ殆 敵ニ其
 所在ヲ秘匿スルヲ得ヘシ然レトモ敵ノ砲撃ノ爲住々機ニ先ダチ過早ニ破壊セ
 ラレル虞アリ

地雷ノ目
 第四百五十四 地雷ハ目的ニ依リ之カ種類ト藥量トヲ決定ス(爆破教範參照)戰
 車ニ對シテハ直接其軌道部ニ通常一乃至二疋以上ノ爆藥ヲ使用セハ之ヲ破壊
 スルコトヲ得ヘシ

異的地の上ノ差
 車ニ對シテハ直接其軌道部ニ通常一乃至二疋以上ノ爆藥ヲ使用セハ之ヲ破壊
 スルコトヲ得ヘシ

地雷點火
種別ニ依ル

擲石地雷

壕ノ利害

壕ノ断面

第五百五十五 地雷ハ其點火法ニ依リ觸發地雷、視發地雷及自發地雷ニ分ツ
觸發地雷ハ敵ノ觸接ニ依リ點火スル如ク裝置シ（第二百二圖乃至第四百四圖）又
之ヲ携行シ得ル如ク結構シ迅速ニ配置スルコトアリ
視發地雷ハ視察ニ依リ敵兵我カ地雷敷設地域ヲ通過スルヲ確認シ適時點火シ
得ル如ク設備スルモノニシテ通常電氣的點火法ヲ用フ（第二百五圖）此地雷ハ
特別ノ監視設備ヲ必要トシ又此等ノ設備及導電線ハ敵火ノ損害ヲ被リ易ク其
維持困難ナルヲ以テ特ニ之カ防護ニ注意セサルヘカラス
自發地雷ハ敷設後所望ノ時間ヲ經過セハ自然ニ爆發スル如ク設備ス（第百六
圖）

第五百五十六 爆發ニ依リ土石ヲ敵方ニ擲出シ之ニ依リ敵ニ損害ヲ與フル如ク
設備スル地雷ヲ特ニ擲石地雷ト稱ス（第七圖）

壕、氾濫、陷穽、軌條、堡、係蹄

第五百五十七 壕ハ秘匿困難ニシテ敵砲彈ノ爲破壞埋没セラレ易ク又其構築ニ
ハ多大ノ作業力ヲ要スルノ不利アルモ他ニ材料ヲ得ルコト困難ナル場合ニ在
リテハ之ヲ用フルコトアリ又戰車ニ對シテハ有效ナル障碍物ナリ

壕内ニハ障碍力ヲ增加スル爲他ノ障碍物ヲ添加スルコトアリ

第五百五十八 壕ノ断面ハ敵ヲシテ容易ニ超越シ得サラシムル爲上幅四米、深
サ二米五〇以上トシ其兩側斜面ハ砲撃ニ依ル破壞ト障碍力トヲ顧慮シ一分ノ
一乃至一分ノ二トス

戰車ノ通過ヲ困難ナラシムル爲ニハ戰車ノ構造ニ依リ差異アルモ其上幅ヲ概

水壕

用氾濫ノ利

深幅員

置氾濫ノ設

堰堤

ネ二米五〇乃至五米以上、其深サチ一米五〇乃至二米五〇以上トシ兩側斜面
ハ成ルヘク之ヲ急峻ナラシムヘシ

總テ壕ハ常ニ内部ヲ火制シ得ルニアラサレハ價值少ク否サレハ却テ敵ニ掩蔽
物トシテ利用セラルルコトアルニ注意スヘシ

第五百五十九 壕ニ水ヲ湛ヘ水深一米八〇、幅四米以上ニ達スルトキハ徒涉ト
超越トヲ許ササル障碍ヲ得ヘシ

第六十 氾濫ハ恰好ナル水流ヲ有シ且地形之ニ適スルトキハ有利ナル障碍
ニシテ特ニ戰車ニ對シテハ水深機關部ヲ浸スニ足ルカ或ハ土地泥濘ナルトキ
極メテ有效ナリ

第六十一 氾濫ハ全幅ノ水深十分ナラサルモ其一溝線ニ於テ深サ一米八
〇、幅二米以上ナルトキハ障碍力十分ナリ但戰車ニ對スルモノニ在リテハ幅
約五米、深サ一米以上ナルヲ要ス又水深十分ナラサル場合ニ在リテモ土質軟
弱ニシテ且地域廣キトキハ障害ノ用ヲ爲シ得ヘシ

第六十二 氾濫ヲ設クルニハ通常溝渠又ハ河谷ニ堰堤ヲ設ケテ流水ヲ阻止
シ又ハ之ニ水ヲ導入スルモノトス

土地ノ傾斜緩ナラサルトキハ數個ノ堰堤ヲ以テ數段ノ氾濫ヲ設クルコトアリ

堰堤ニハ敵ノ接近ヲ妨クル爲他ノ障碍物ヲ併置スルコトアリ

第六十三 堰堤ハ水ノ漏出ヲ阻止スル外能ク水壓ニ抵抗シ且水蝕ニ對シ安
全ナルヲ要ス若橋柱等ヲ利用スルヲ得ハ工事比較的簡單ナリ（第八圖及第

百九圖) 堰堤ノ頂ハ所望ノ増水面ヨリ約五〇糎高カラシメ水流漲溢シ堰堤ヲ越エテ洗ヒ去ルノ虞アルトキハ之ニ排水口又ハ排水管ヲ設クヘシ而シテ其位置ハ流線部ヲ避ケ且排水部ノ諸縁ヲ密ニシ水蝕ニ對シテ十分ニ之ヲ保護セサルヘカラ

土製堰堤ノ頂幅ハ一乃至二米ヲ以テ足レリトス但其斜面ハ勉メテ之ヲ緩ナラシムヘシ

第百六十四 陷穿ハ戰車ヲシテ不意ニ之ニ遭遇シ其軌道部ヲ壕内ニ墜落シ腹部ヲ地ニ接セシメ以テ其運動ヲ不能ナラシムル爲設クモトス

陷穿ハ戰車ノ行進方向ヲ判斷シ之ニ對スル如ク數條ノ矩形壕ヲ設ケ其間隔ハ兩側ノ軌道部ヲ同時ニ陥入セシムル如クシ壕ノ幅員ハ上幅約一米二〇、深サ約一米トシ其長サハ戰車ノ全長ヲ基準トシテ之ヲ定ム壕内ニハ藁、草等ヲ輕ク埋填シ且之ヲ偽裝スルモノトス(第百十圖)

第百六十五 軌條若(第百十一圖)ハ重量及馬力大ナラサル戰車ニ對テハ其前進ヲ阻止シ得ルモノトス

軌條若ヲ構築スルニハ軌條ヲ敵方ニ傾斜セシメ且戰車ノ爲壓下セラレサル如ク堅固ニ植立ス而シテ軌條ノ間隔ハ戰車ヲシテ其間隙ヲ通過シ得サラシムル如ク之ヲ定ム

第百六十六 係蹄(第百十二圖)ハ障得力十分ナラサルモ之ヲ秘匿スルコト容易ナルヲ以テ小地域ノ障得トシテ用ヒラレルコトアリ

高粱、稚桑ノ障得 **第百六十七** 高粱、稚桑ノ類ハ適宜ノ高サヨリ折リ曲ケ彼此纏結セハ有利ナル障得ヲラシムルコトヲ得ヘシ

第五章 偽裝

要則

第百六十八 偽裝ノ目的ハ上空及地上ヨリスル敵ノ偵察ニ對シ我方設備、材料及行動ヲ秘匿シ若ハ之ヲ誤認セシムルニ在リ

偽裝ハ其手段多シト雖本章ニ於テハ特ニ築城ニ適用スヘキ偽裝、遮蔽及偽工事ニ關シ記述スルモノトス

第百六十九 偽裝ハ敵彈、天候又ハ季節等ニ依リ變態衰損シテ其效力ヲ失ヒ易シ故ニ絶エス之ヲ補修シ常ニ良好ナル状態ニ在ラシムルコト緊要ナリ

偽裝ハ極メテ微細ナル點ヨリ其價值ヲ失フコト多キニ注意スルヲ要ス

假裝、遮蔽

第百七十 假裝ハ物體ヲシテ他ノモノト區別シ得サラシムル如ク裝ヒ遮蔽ハ敵ニ對シ運動又ハ所在ヲ障蔽スル方法ニシテ彼此併用スルコト多シ

第百七十一 假裝及遮蔽ノ要訣ハ其施設ヲシテ附近ニ於ケル土地ノ自然状態ト調和セシムルニ在リ之力爲特ニ其蔭影及色彩ニ注意スルコト緊要ナリ

既ニ敵ノ撮影セシ虞アル土地ニ於テ假裝及遮蔽ヲ行フ場合ニ在リテハ特ニ在來ノ状態ヲ變更セシメサル如クスルヲ要ス

第百七十二 總テ構築物ハ其配置規正ニシテ形狀確然タルトキハ發見容易ナルヲ以テ爲シ得ル限リ距離、間隔ヲ不規則ニシ又工事ノ稜角ハ之ヲ圓削シ緩

假裝、遮蔽材料
 第百七十三 假裝及遮蔽ニ用フル材料ハ其目的、使用時間ノ長短及附近ノ状態等ヲ顧慮シ勉メテ天然物ヲ利用シ要スレハ人工物料ヲ以テ之ヲ補足スルモノトス

樹枝、雜草、根付
 第百七十四 樹枝、雜草等ハ之ヲ得ルコト容易ナルモ刈リ取リタルモノヲ使スルトキハ蔭影ヲシテ自然ノ状態ト同一ナラシムルコト困難ナルノミナラス天候及季節ニ依リテハ枯凋シ易キヲ以テ成ルヘク根付ノモノヲ用フルヲ可トス

人工偽裝
 第百七十五 人工材料ニハ主トシテ偽裝網、迷彩(各種ノ色彩ヲ以テ雲狀等ニ染色シ色彩、形態ヲ曖昧ナラシムルモノ)ヲ施セル幕布又ハ迷彩塗料等ヲ用フ

天然地物
 第百七十六 天然ノ地物ヲ利用シテ遮蔽スル場合ニ在リテモ必要ニ應シ樹枝、草、藁又ハ偽裝網等ヲ以テ之ヲ補足ス

播種
 季節及時日之ヲ許ストキハ播種ニ依ルヲ可トスルコトアリ

遮障
 第百七十七 工事ハ縱ヒ敵ノ認識ヲ避ケ得ル如ク設備シタル場合ニ在リテモ之ニ通スル足跡又ハ形跡ニ依リ發覺セラルルコト屢々ニシテ而モ此等ノ秘匿ハ其實施極メテ困難ナルモノトス故ニ作業間及爾後ノ交通ハ爲シ得ル限リ然ノ遮蔽物ノ下方又ハ地類界等秘匿容易ナル位置ニ選定シ且其數及幅員ハ之ヲ最小限ニ限定スヘシ

壕ノ假裝
 第百七十八 壕ヲ假裝スルニハ偽裝網ヲ以テ之ヲ掩ヒ要スレハ其下方ニ幕布ヲ張り壕内ノ蔭影ヲ消去スヘシ

除積土假裝
 第百七十九 除積土部ヲ假裝スルニハ樹枝、草等ヲ植立シ或ハ偽裝網、幕布等ヲ以テ掩覆ス雜草類ヲ撒布スルトキハ其色彩ヲ附近ノ土地ト近似セシメ得ルモ蔭影ヲ同様ナラシムルコト困難ナルヲ以テ空中寫眞ニ對シテハ效果少キモノトス

露天機關
 第百八十 散兵壕、交通壕等ニ沿ヒテ設ケタル露天ノ機關銃及歩兵砲掩體ハ其位置ヲ假裝シ單一ナル壕ノ如ク裝フヘシ

銃眼、孔、銃鏡假裝
 第百八十一 展望孔及銃眼ハ敵ノ透視ヲ避ケル爲内部開口部ニ細目金網、紗布等ヲ張り又其外部開口部ニハ雜草類ヲ植エテ之ヲ掩フヲ可トス機關銃座ノ銃眼ハ必要ニ應シ之ヲ閉閉シ得ル如ク設備スルコトアリ

交通等ノ注意
 之ヲ撤去シ置クヲ可トス

第百七十七 工事ハ縱ヒ敵ノ認識ヲ避ケ得ル如ク設備シタル場合ニ在リテモ之ニ通スル足跡又ハ形跡ニ依リ發覺セラルルコト屢々ニシテ而モ此等ノ秘匿ハ其實施極メテ困難ナルモノトス故ニ作業間及爾後ノ交通ハ爲シ得ル限リ然ノ遮蔽物ノ下方又ハ地類界等秘匿容易ナル位置ニ選定シ且其數及幅員ハ之ヲ最小限ニ限定スヘシ

壕ノ假裝
 第百七十八 壕ヲ假裝スルニハ偽裝網ヲ以テ之ヲ掩ヒ要スレハ其下方ニ幕布ヲ張り壕内ノ蔭影ヲ消去スヘシ

除積土假裝
 第百七十九 除積土部ヲ假裝スルニハ樹枝、草等ヲ植立シ或ハ偽裝網、幕布等ヲ以テ掩覆ス雜草類ヲ撒布スルトキハ其色彩ヲ附近ノ土地ト近似セシメ得ルモ蔭影ヲ同様ナラシムルコト困難ナルヲ以テ空中寫眞ニ對シテハ效果少キモノトス

露天機關
 第百八十 散兵壕、交通壕等ニ沿ヒテ設ケタル露天ノ機關銃及歩兵砲掩體ハ其位置ヲ假裝シ單一ナル壕ノ如ク裝フヘシ

銃眼、孔、銃鏡假裝
 第百八十一 展望孔及銃眼ハ敵ノ透視ヲ避ケル爲内部開口部ニ細目金網、紗布等ヲ張り又其外部開口部ニハ雜草類ヲ植エテ之ヲ掩フヲ可トス機關銃座ノ銃眼ハ必要ニ應シ之ヲ閉閉シ得ル如ク設備スルコトアリ

砲兵陣地 假裝 潛望鏡ハ立樹又ハ草ノ如キ附近ノ地物ヲ模倣シテ之ヲ假裝スルヲ可トス
 砲兵陣地ハ規正ナル配置ヲ避ケ前諸條ノ要領ニ準シテ砲車及掩
 體ヲ秘匿シテ形跡ニ注意スヘシ
 砲口前ニハ樹枝、編條、蓆、土囊等ヲ敷置シテ發射ノ際ノ風靡力ニ依リテ生
 スル形跡及砂塵飛揚ヲ豫防スヘシ又偽裝網ヲ以テ其上方ヲ掩ヒ砲煙及火光ヲ
 遮蔽スルヲ可トス
 第百八十三 掩蔽部ハ主トシテ出入口、換氣孔、潛望鏡孔及積土ニ依リ發覺
 ノ徵候ヲ現スモノトス
 斜面ニ開口セル出入口ハ斜面ト同色ノ物料ヲ以テ閉鎖シ垂坑道ニ依ル出入口
 ハ壕ト同一ノ要領ニ依リテ假裝スルモノトス
 第百八十四 鐵條網ハ鐵線ノ光澤ヲ除去シ又杭頭及新シキ截面ヲ汚塗スヘ
 シ鐵線ノ光澤ヲ除クニハ使用ニ先タチ藁火ヲ以テ之ヲ燻燒スルヲ可トス然ル
 トキハ併セテ鐵線ヲ柔軟ナラシメ其使用ヲ容易ナラシムルコトヲ得ヘシ又杭
 ノ附近ニ草ヲ植エ鐵線ニ雜草ヲ懸ケ叢藪ノ如ク裝フヲ可トスルコトアリ
 第百八十五 積雪地ニ於テハ人工ヲ施セル部分ハ自然ニ積雪セル部分ニ比シ
 異ナル蔭影ヲ呈スルヲ常トス故ニ常ニ新シキ雪ヲ撒布スヘシ融解セル部分、
 足跡及火砲發射ノ際生スル風靡力ニ依ル形跡等ニハ特ニ注意スルヲ要ス
 偽工事 第百八十六 偽工事ハ真ノ工事ト同一ノ外觀ヲ呈スル如ク構設スルモノトス
 之カ爲要スレハ之ニ假裝、遮蔽ヲ施シ且擬兵、擬砲等ヲ配置ス

壕ノ偽工 第百八十七 狭キ壕ヲ偽設スル爲其深サヲ概ネ五〇糎ト爲ストキハ通常空中
 寫眞ニ對シ眞ノ工事ト判別ヲ困難ナラシメ得ルモノトス
 鐵條網偽 第百八十八 掩蓋ヲ有スル機關銃掩體及掩蔽部ヲ偽設スルニハ銃眼及入口等
 ヲ眞ノ工事ノ如ク構築スルヲ可トス
 工砲兵陣地 第百八十九 鐵條網ヲ偽設スルニハ單ニ杭ヲ植立スルノミニテ目的ヲ達スル
 コトアリ
 砲兵陣地ハ放列ヲ偽設シ進入路ヲ設ケ尙爲シ得レハ適時偽砲火ヲ
 揚クルヲ可トス
 第百九十 砲兵陣地ハ放列ヲ偽設シ進入路ヲ設ケ尙爲シ得レハ實際ニ軍隊又ハ車輛ヲ通
 過セシムルヲ可トス
 足跡、形 第六節 排水、給水、標識、廁
 散兵壕、交通壕掩 第百九十二 散兵壕、交通壕等ノ壕内特ニ地下深ク設ケタル掩蔽部ニハ雨水
 ノ浸入ヲ防止シ且壕内ノ排水ヲ良好ナラシムルノ處置ヲ必要トス長時日守備
 蔽部排水 第百九十三 壕外ノ土地ヨリ壕内ニ雨水ノ流入スルヲ防クニハ壕外ニ小溝ヲ
 スヘキ陣地及雨量多キ季節等ニ於テ特ニ然リトス
 壕外雨水 穿チ水ヲ低所ニ導クヘシ胸墻及背墻ハ一時雨水ノ流入ヲ防キ得ヘキモ水量多
 キトキハ滲水ノ爲ニ崩壞スルコトアリ
 壕内ノ水 第百九十四 壕内ノ水ハ散兵壕ニ在リテハ後方ニ、交通壕ニ在リテハ便宜ノ
 一側ニ壕底ヲ傾斜セシメ且後崖脚或ハ壕ノ一側ニ適宜ノ傾斜ヲ附シタル排水
 溝ヲ穿チ之ヲ壕外ニ導クヘシ若壕外ニ導クコト困難ナルトキハ所々ニ水拔井

ヲ設ケテ之ニ導水シ以テ自然ニ排水スルカ又ハ唧筒等ニ依リ之ヲ壕外ニ排出スルモノトス

水拔井ハ水ノ滲透スル層ニ達スルマテ掘開スヘシ而シテ其底部ニハ水ノ滲透ヲ妨ケサル爲粗石、樹枝等ヲ入レ又上部ニハ蓋ヲ設ケ土砂ノ侵入ヲ豫防スルヲ可トス(第百十五圖)

第百九十五 雨水ノ爲壕内ノ泥濘トナルヲ防ク爲壕底ニ砂礫、樹杭等ヲ敷置スルトキハ一時ノ用ニ供シ得ヘシト雖尙之ヲ完全ナラシメンニハ格子板ノ類ヲ用ヒ第百十六圖ノ如ク設備スルヲ可トス

第百九十六 陣地内ニハ給水ノ爲飲用水ヲ準備シ要スレハ井ヲ穿ツヘシ(築營教範參照)

第百九十七 陣地内ニ於テハ指揮官ノ位置、通信所等ヲ標示シ且必要ナル地點ニ道標ヲ設ケヘシ而シテ此等ノ設備ハ陣地ヲ交代守備スル場合ニ於テ特ニ必要アリ

標識ノ設備ハ交通教範ニ據ルヘシト雖敵ニ發覺セラレサル如ク設置スルコトニ注意スヘシ

第百九十八 稍、長時ニ互リ使用スル陣地ニハ常ニ厠ヲ設ケルヲ要ス厠ハ散兵壕、掩壕、交通壕又ハ掩蔽部ヨリ小距離ヲ隔テテ設ケ壕ヲ以テ連絡スルモノトス

厠ノ設備法ハ築營教範ニ據ルヘシ

障礙物及側防機能ノ破壞

第百九十九 歩、工兵ヲ以テスル障礙物及側防機能ノ破壞ハ敵前咫尺ニ迫リテ實施スヘキ重要ナル突擊作業ナルヲ以テ其動作ハ剛膽ニシテ且機敏ナラサルヘカラス

第一章 障礙物ノ破壞

要則

第百 障礙物ハ之ヲ破壞シテ通過スルヲ通常トスト雖其輕易ナルモノハ掩覆シテ通過スルコトアリ

第百一 障礙物ハ位置、種類、幅員、構造及強度等ヲ偵察シテ之カ破壞又ハ通過ノ方法ヲ定ムルモノトス

偵察ノ爲ノ斥候ハ其目的ニ應シ所要ノ準備ヲ整ヘ敵ノ注意ヲ惹カサル如ク細心隱密ニ行動シ障礙物ノ狀態ヲ實視スルモノトス時トシテ敏捷果敢ノ動作ヲ以テ偵察ヲ強行スルコトアリ

第百二 障礙物ノ破壞及通過ニ關スル作業ハ隱密ヲ要スル場合ニ在リテハ敵ノ視聽ヲ避ケ靜肅ニ之ヲ行ヒ又強行スル場合ニ在リテハ敵火ノ損害ヲ顧ミルコトナク迅速ニ之ヲ行フモノトス

第百三 障礙物ヲ破壞スルニハ器具若ハ爆藥ヲ用フ器具及爆藥ハ通常豫備ヲ備ヘ又爆藥ヲ使用スル場合ニ在リテモ豫備トシテ破

鐵條鉄、
破壊筒、
急造破壊
筒製作

破壊一般
要領

器具ニ依
ル隠密破
壊

壊用器具ヲ併セ準備スルモノトス
第二百四 鐵條網ノ破壊ニハ主トシテ鐵條鉄及障碍物破壊筒ヲ用フ障碍物破
 壊筒ハ之ヲ急造スルコトヲ得ヘシ
 急造破壊筒(第十七圖)ハ竹又ハ貫板等ヲ以テ展列セル黃色藥(毎米ニ付約
 五盞)ヲ襖包シ其兩端ニ各一箇ノ木栓(頭部ノ木栓ハ前端ヲ尖削シ後部ノ
 木栓ハ中央ニ孔ヲ穿チ火具ヲ貫通スルニ供ス)ヲ嵌装シ鐵條網ヲ用ヒテ中間數
 點ヲ堅固ニ結束シタルモノニシテ其長サハ通常破壊スヘキ鐵條網ノ深サヨリ
 約一米長カラシムヘシト雖長サ一〇米ヲ超ユルトキハ携行及裝置ヲ困難ナラ
 シムルヲ以テ深キ鐵條網ヲ破壊スル場合ニハ二箇ニ分割シテ準備スルヲ可ト
 ス又之カ點火裝置ニハ通常導火索點火ヲ用フ
第二百五 鐵條網ヲ破壊スルニハ破壊孔ヲシテ成ルヘク鐵條網帶ニ直交セシ
 メ杭及鐵條ヲ除去スルヲ可トス然レトモ器具ヲ使用スル場合ニ在リテハ杭ノ
 一側又ハ兩側ニ於テ鐵條ノミヲ截斷スルヲ通常トス
第二百六 器具ニ依リ隠密ニ鐵條網ヲ破壊スルニハ通常一突撃路ノ爲長一、
 作業手四(内一名ハ豫備)ノ班ヲ以テシ各作業手ニ鐵條鉄各二(内一ハ豫備)
 ヲ携ヘシム又ハ有刺鐵條網ヨリ成ル鐵條網ヲ破壊スル場合ニハ各作業手ニ革製手
 套ヲ穿用セシムルヲ可トス
 班長ハ作業手ヲ率キ地形、地物ヲ利用シ要スレハ匍匐シテ靜肅ニ前進シ鐵條
 網ノ前縁ニ達セハ破壊スヘキ杭列ヲ指示シ作業手ヲ其位置ニ就カシメ作業ヲ

器具ニ依
ル強行破
壊
破壊筒ニ
依ル破壊
法

實施セシム
 作業手ハ先ツ鐵條網ヲ杭又ハ鐵條相互ノ固定點ヨリ約三〇厘隔リタル所ニテ靜
 ニ鐵條鉄ニテ鉄ミ之ニ切缺ヲ設ケ次テ兩手ヲ以テ切缺部ニ於ケル鐵條ノ兩側
 ヲ握リ靜ニ折リ取り其長キ方ノ線ノ一端ヲ成ルヘク固定點ヨリ遠キ位置ニ於
 テ地中ニ挿入シ又杭ニ固定セル短キ方ノ端ヲ敵方ニ向ヒ折リ曲ク此ノ如ク
 シテ逐次鐵條ヲ切斷シ鐵條網帶ノ後縁ニ到ル(第十八圖)
 鐵條ノ截斷ニ方リ細キ鐵條ハ先ツ太キ鐵條ト同一ノ方法ニ依リ之ヲ截斷シ其
 各端末ハ遊動セサル如ク太キ鐵條又ハ杭ニ纏絡スルモノトス
第二百七 器具ニ依ル鐵條網ノ強行破壊ハ鐵條ニ切缺ヲ設ケルコトナク迅速
 ニ之ヲ截斷スルモノトス而シテ此場合ニ在リテハ第九圖ノ如ク作業手ヲ
 配置シ杭間ノ鐵條ヲ截リ落スヲ可トス有刺鐵條ニ於テ特ニ然リ
 植杭堅固ナラサル鐵條網ハ太キ網ヲ數杭ニ纏絡シ之ヲ牽キ倒シ得ルコトアリ
第二百八 破壊筒ニ依リ鐵條網ヲ破壊スルニハ通常長一、作業手若干(破壊
 筒ノ長サ毎二米ニ付一名ノ割合)ノ班ヲ以テシ班長ハ作業手ニ任務、配置及
 點火後後退スヘキ位置等ヲ指示シ破壊筒ヲ携行セシメテ前進シ鐵條網ノ前縁
 ニ達セハ破壊筒ヲ挿入スヘキ位置ヲ示シ作業手ハ協力シテ鐵條網ノ下部ニ於
 テ勉メテ杭脚ニ近ク且鐵條網帶ニ直交スル如ク破壊筒ヲ其全深ニ互リ挿入シ
 次テ點火ニ任スル作業手ハ班長ノ指示ニ依リ之ニ點火シタル後各作業手ハ所
 定ノ位置ニ後退スルモノトス深キ鐵條網ニ對シ二箇ノ破壊筒ヲ使用スルトキ
 ハ其一箇ニハ竹、木幹等ノ補助材料ヲ結著シテ鐵條網ノ敵方半深ニ裝置シ他

破壊筒チ
滑車ニテ
挿入

破壊筒上
部装置

電流鐵條
網底ノ鐵
條

ノ一箇ハ之ト端々相接スル如ク残り半深ニ装置シテ齊發ス
 第二十九 障碍物破壊筒ハ時トシテ滑車チ用ヒテ挿入スルコトアリ此場合ニ
 在リテハ通常長一、作業手若干(破壊筒チ保持スル爲三名鋼索チ牽引スル爲
 破壊筒ノ長サ一米五〇乃至二米ニ付約一名ノ割合トス但土地ノ状態ニ依リ牽
 引困難ナルトキハ適宜作業手チ増加スルモノトス)ノ班チ以テシ先ツ一名ノ
 作業手ハ綱索ニ貫通セル前方滑車ト別ニ麻綱及點火器材チ携ヘテ前進シ麻綱
 ナニ杭脚ニ結著シ其中央部ニ滑車チ鉤シ他ノ作業手ノ一部ハ破壊筒チ保持シ
 其他ハ先ツ後方滑車チ經テ綱索ノ繰出シチ容易ナラシメ次テ綱索ノ後端チ牽
 キ徐々ニ破壊筒チ鐵條網下ニ進入セシム(第百二十圖)

第二十九 鐵條網ノ下部ニ破壊筒チ挿入スルコト困難ナル場合ニ在リテハ之
 ナ上部ニ装置スルモノトス之カ爲鐵條網ノ前縁ニ轉子チ有スル架チ設置シ滑
 走セシムルチ得ハ有利ナリ

電流鐵條網ノ爆破ニ在リテハ電流鐵條網偵察具(第百二十一圖)ニ依リ電流ノ
 通否チ確メタル後通常破壊筒チ鐵條網ノ上部ニ投擲シテ裝置スルモノトス
 第二十一 深キ壕底ニ在ル鐵條網チ破壊筒ニ依リ破壊スルニハ通常之チ其
 上部ニ裝置スルカ爲綱、鐵線及木桿等ノ補助材料チ用フルチ便トス又此ノ如
 キ鐵條網ニ對シ集團裝藥チ用フルトキハ約五〇斤ノ藥量チ以テ約一〇平方米
 ノ鐵條網チ破壊シ得ヘシ此場合ニ在リテハ裝藥ハ其取扱チ容易ナラシムル爲
 數箇ノ集團裝藥ニ分チ且數回ニ之チ滑下シテ同一場所ニ裝置スルチ可トス

鹿砦、拒馬、地雷等ノ破壊

鹿砦破壊
法
樹枝鹿砦
強行及隱
密破壊

樹枝鹿砦
破壊

樹枝鹿砦
破壊

樹枝鹿砦
破壊

破壊筒挿
入法

拒馬、折
疊鐵條網

地雷破壊

氾濫破壊

第二十二 鹿砦ノ破壊ニハ鐵條鉄、銳、鎌、鋸、手斧又ハ障碍物破壊筒チ
 用ヒ以下示スモノノ外鐵條網ノ破壊ニ準シテ之チ行フモノトス

第二十三 器具ニ依リ樹枝鹿砦ノ強行破壊チ行フニハ作業手ハ先ツ鐵線チ
 截斷シ次テ樹枝チ截リ取リ之チ側方ニ排除シ互ニ協同シテ通路チ開設ス
 隱密ニ破壊スル場合ニ在リテハ爲シ得ル限り地面ニ近ク且徐々ニ樹枝チ截斷
 スルモノトス

第二十四 樹枝鹿砦ハ時トシテ其基脚チ掘開シテ樹枝チ除去シ又其固定點
 固ナラサルモノハ綱チ結著シテ之チ牽キ樹枝チ除去シ得ルコトアリ

第二十五 樹枝鹿砦ハ其構造ニ依リ樹枝チ伐除シ或ハ又杭及鉤杭チ除去シ
 タル後樹幹チ排除スルモノトス

第二十六 破壊筒ニ依リ鹿砦チ爆破スルニハ轉子チ使用シ或ハ其前縁ニ在
 ル樹枝ノ交叉部ニ托シテ之チ推進スルチ可トス

第二十七 拒馬及折疊鐵條網ハ之チ爆破シ又ハ器具ニ依リ其固定部チ破壊
 シテ除去スヘシ

第二十八 地雷ハ土地ノ色、小起伏、小龜裂等ニ注意シ要スレハ十字狀等
 ナ用ヒテ搜索シ之チ發見セハ導火線チ切斷シテ點火裝置チ無効ナラシメ裝藥
 ハ爲シ得レハ之チ發掘シ若ハ之チ誘發スルチ可トス

第二十九 氾濫チ無効ナラシムルニハ爆藥又ハ器具チ用ヒ堰堤チ破壊スヘ
 シ

第二十二 軌條砦ハ通常軌條ニ集團裝藥チ裝置シテ之チ爆破スルモノトス

鐵柵 第二百二十一 鐵柵ハ通常破壊筒ヲ使用シ第百二十二圖ノ如ク裝置シテ之ヲ破スヘシ但横支柱ヲ有スルモノハ別ニ其部分ニモ裝藥ヲ裝置スルモノトス

水中障碍 第二百二十二 水中ニ設置セル障碍物ハ其種類ト構造トニ應シ前諸條ニ準シテ之ヲ破壊スルモノトス

掩覆通過 第二百二十三 障碍物ニ掩覆通過ノ設備ヲ行フニハ板、編條、梯子及藁等ノ材料ヲ用ヒ通常障碍物ノ前緣ヨリ後緣ニ向ヒ逐次之ヲ連接シテ通路ヲ設クルモノトス

壕ノ通過 壕ニハ輕量ナル材料ヲ以テ橋梁ヲ架設スルコトアリ此橋梁ハ通常使用ニ適スル如ク豫メ之ヲ結構シ置クモノトス

側防機能ノ破壊及制歴 第二章 側防機能等ノ破壊及制歴

側防機能ノ破壊 第二百二十四 側防機能ハ之ヲ破壊スルヲ最モ有利トス然レトモ構造堅固ニシテ其破壊困難ナルトキハ煙、火焰等ニ依リ内部ノ守兵ヲ制歴シ之カ機能ヲ無効ナラシムルモノトス

側防機能ノ破壊 第二百二十五 側防機能ヲ破壊スルニハ薄弱部タル銃眼(砲門)、入口等ニ裝藥ヲ裝置シテ破壊スヘシ若シ内部ニ設置スルヲ得ハ最モ有效ナリ

側防機能ノ破壊 第二百二十六 側防機能ヲ制歴スルニハ銃眼(砲門)又ハ入口ヨリ火焰ヲ拋射シ或ハ煙藥筒ヲ挿入スル等ノ方法ニ依リ守兵ヲ困惑セシムルモノトス

側防機能ノ破壊 第二百二十七 側防機能ニシテ其設備堅固ナルノミナラス自衛ノ處置亦完全ナル爲地上ヨリ近接スルコト能ハサル場合ニハ已ムヲ得ス坑道ニ依リ之ニ接近シ破壊スルヲ要スルコトアリ

監視所及觀測所 第二百二十八 監視所及觀測所ヲ破壊若ハ制歴シ或ハ堅固ナル掩蔽部内ノ守兵ヲ掃蕩スル作業モ亦概ネ以上ノ要領ニ準スルモノトス

防禦築城ノ效用 第二百二十九 防禦ニ於ケル築城ハ地區ノ守兵ヲ節約シ以テ控置シ得ル兵力ヲ大ナラシメ又優勢ナル敵ニ對シ柔軟ナル抵抗ヲ遂行シ得シムル爲極メテ緊要ナルモノトス

防禦築城ノ尊重 第二百三十 防禦ニ於ケル築城ハ縱ヒ之カ必要ノ程度少キ場合ニ在リテモ全ク之ヲ忽セニスヘカラス然レトモ狀況ノ變化ニ際シテハ既設工事ノ爲指揮及行動ヲ掣肘セラレサルヲ要ス

第一章 防禦陣地ノ編成、設備

要則

第二百三十一 防禦陣地ノ編成、設備ハ狀況ニ依リ差異アリト雖防禦ノ方針ヲ基礎トシ軍隊ノ配備ニ適應セシムル 要ス又彼我ノ編制、裝備ハ此施設ニ影響スルコト少カラサルモノトス

第二百三十二 陣地ノ各部ハ到ル所同一ノ強度ナルヲ要セス陣地ノ要部又ハ敵ノ優勢ナル砲撃ヲ被ル虞アル部分若ハ敵ノ竊ニ近迫シ得ヘキ地點等ハ特ニ

防禦築城ノ編成、設備

第二百三十一 防禦陣地ノ編成、設備ハ狀況ニ依リ差異アリト雖防禦ノ方針ヲ基礎トシ軍隊ノ配備ニ適應セシムル 要ス又彼我ノ編制、裝備ハ此施設ニ影響スルコト少カラサルモノトス

第二百三十二 陣地ノ各部ハ到ル所同一ノ強度ナルヲ要セス陣地ノ要部又ハ敵ノ優勢ナル砲撃ヲ被ル虞アル部分若ハ敵ノ竊ニ近迫シ得ヘキ地點等ハ特ニ

其施設ニ注意スルヲ要ス然レトモ之カ爲特異ノ外觀ヲ呈シ敵ヲシテ我方配備
 及企圖ヲ察知セシメサルコト緊要ナリ
 第二百三十三 陣地ノ編成ニ方リテハ歩、砲兵相協力シテ各種火器ノ效力ヲ
 毒瓦斯ノ停滯シ易キ位置ヲ避クヘシ
 第二百三十四 陣地ノ編成ニ方リテハ歩、砲兵相協力シテ各種火器ノ效力ヲ
 遺憾ナク發揮セシムルヲ主眼トシ步兵ノ火網ト砲兵ノ火制地帯トハ長短相補
 ヒ緊密ナル連繫ヲ保持セシムルコト緊要ナリ
 第二百三十五 步兵ノ主ナル抵抗線ヲ敵方ニ反對ナル斜面ニ設クル場合ニ在
 リテハ其前方ノ死角ハ側方又ハ後方ノ高所ヨリ十分視察シ得ル如ク設備シ且
 陣地ノ他部ヨリ之ヲ側防スルト共ニ砲兵ニ依リ十分火制シ得ル如ク編成スル
 ヲ要ス
 第二百三十六 步兵ノ陣地ハ主トシテ火網ノ構成ニ任スル部隊及後方部隊ノ
 爲ノ設備ト此等間ノ交通、連絡ノ設備トヨリ成ル
 火網ノ構成ニ任スル部隊ノ爲ニハ各種火器ニ應スル射撃設備及之ニ伴フ障礙
 設備ヲ主トシ其他掩蔽及交通等ノ設備ヲ行ヒ又後方部隊ノ爲ニハ掩蔽及逆襲
 又ハ火戰ニ參與シ得ル爲ノ諸設備ヲ施スモノトス
 第二百三十七 步兵ノ陣地ハ火網ノ構成及指揮ヲ阻害セサルヲ度トシ敵砲火
 ノ損害ヲ減少スル爲メテ縱深、横廣ニ疎開セシメ且占領スル部隊ノ能力ニ
 應ジ成ルヘク獨立シテ防禦シ得ル如ク編成スルモノトス之カ爲單ニ正面ノミ
 ナラス側面及背面ニモ火力ヲ及シ得ル如ク射撃設備ヲ行ヒ爲シ得レハ障礙物

ヲ以テ之ヲ圍繞スヘシ特ニ陣地ノ支撐タルヘキ要部ニ於テ然リトス
 第二百三十八 步兵ノ火網ハ其有スル各種火器ヲ使用シ側射、斜射及正面射
 ヲ適當ニ配合シ陣地ノ前方ニ於テ敵ヲ殲滅シ得ル如ク構成ス而シテ障礙ノ設
 備ハ常ニ此火網ノ構成ニ適應セシムルヲ要ス
 步兵ノ射界短小ナルトキハ特ニ側射ヲ賞用シ且障礙物ヲ以テ之ヲ補フモノト
 ス
 第二百三十九 機關銃ノ陣地ハ射撃位置、待機位置及此等間ノ交通設備ヨリ
 成ル若地形恰適ニシテ射撃位置ト待機位置トヲ合一セシムルヲ得ハ有利ナ
 リ
 機關銃ノ陣地ハ同一任務ノ爲ニモ豫備トシテ成ルヘク多クノ射撃位置ヲ設ク
 ルコト緊要ナリ特ニ其位置ニ十分ナル掩蔽ノ設備ヲ施シ難キ場合ニ於テ然リ
 トス
 第二百四十 陣地前ニ於テ地形特ニ有利ナルトキハ此處ニ自動火器ヲ配置シ
 陣地前ノ側射ニ任セシムルコトアリ此場合ニ在リテハ特ニ其位置ノ秘匿ニ注
 意シ自衛ヲ完全ニシ後方陣地ヨリ確實ニ之ヲ支援シ且成ルヘク後方ノ陣地下
 安全ニ交通シ得シムルヲ要ス
 第二百四十一 步兵砲ノ陣地ハ射撃位置、待機位置及此等間ノ交通設備ヨリ
 成ル而シテ平射步兵砲ノ射撃位置ハ敵砲兵ノ目標トナリ易キヲ以テ多數ノ豫
 備位置ヲ準備スルモノトス又曲射步兵砲ノ陣地ニ在リテハ其性能ニ鑑ミ地形
 ヲ利用シテ掩蔽ヲ得ル如クシ要スレハ觀測所ヲ設備スルモノトス

砲兵陣地 此等相互間竝之ト後方トノ交通、連絡設備等ヨリ成リ要スレハ之ニ自衛ノ設
 備ヲ施スモノトス
 第二百四十三 觀測所ハ觀察位置ト交通、連絡等ノ設備トヨリナリ觀察位置
 ハ特ニ敵ノ認識ヲ避クル如ク之ヲ選定シ且一地ニ集團セシメサルヲ要ス
 第二百四十四 放列ハ射擊位置、人員及兵器ノ掩蔽竝交通ノ設備ヨリ成リ任
 務ニ支障ナキ限リ縱横方向ニ分置シ損害ノ減少ヲ圖ルモノトス
 陣地前ヲ側射シ若ハ戰車ヲ射擊スル目的ヲ以テ一部ノ砲兵ヲ步兵ノ抵抗地帯
 内ニ配備スル場合ニ在リテハ特ニ之カ秘匿ニ注意シ且掩蔽ヲ十分ナラシメサ
 ルヘカラス又砲側ニハ特ニ安全ナル彈藥置場ヲ設備スルコト必要ナリ若地形
 其他ノ關係ニ依リ射擊位置ト待機位置トチ分離シテ設備セサルヘカラサル場
 合ニ在リテハ成ルヘク迅速ニ位置ニ就キ得ル如ク設備スルヲ要ス
 第二百四十五 砲兵陣地特ニ觀測所ハ敵火ノ損害ヲ避ケ又ハ狀況ノ變化ニ應
 スル爲所要ノ豫備位置ヲ準備スルヲ要ス而シテ其間ニハ特ニ注意シテ交通設
 備ヲ完備シ之カ移動ヲ容易ナラシムルモノトス
 第二百四十六 迫撃砲ハ火砲ノ性能上地形ヲ利用シテ掩蔽シ且陣地ノ近傍ニ
 ハ成ルヘク多クノ彈藥ヲ準備シ得ル如ク設備スルヲ要ス
 第二百四十七 防禦陣地ハ時間及材料ノ許ス限リ堅固ニ工事ヲ施スモノトス
 從テ時機切迫セル場合ニ構築スル陣地ニ在リテモ狀況之ヲ許スニ至レハ逐次
 之ヲ増築スルモノトス

所在物料 第二百四十八 陣地ノ設備ニ方リテハ成ルヘク所在ノ物料ヲ使用シ且簡易ニ
 シテ效力大ナルモノヲ構築スルコトニ勉ムヘキモノトス
 陣地設備ノ順序ハ狀況特ニ地形及工事ニ使用シ得ヘキ時間ニ
 依リ差異アリ狀況切迫セル場合ニ在リテハ戰鬪準備ヲ整フルヲ主トシ先ツ射
 撃、觀察、連絡及障礙ノ設備ヲ施シ次テ其他ノ設備ニ及フモノトス然レトモ
 時日ニ餘裕ヲ有スルトキハ作業ノ便否ヲ顧慮シテ之ヲ定ムルコトヲ得ヘシ
 陣地ノ偽裝ハ作業著手前ヨリ作業中ニ互リ常ニ意ヲ用ヒテ行フヲ要ス
 第二百四十九 長時日使用スヘキ陣地ハ特ニ排水ヲ顧慮シテ編成シ且其保存ヲ
 良好ナラシムル如ク設備シ又天候及敵火ノ爲受クル損害ヲ顧慮シテ所要ノ補
 習材料ヲ準備シ置クコトニ注意スヘシ
 第二百五十 陣地ヲ守備スル部隊ハ常ニ狀況ニ適應スル如ク所要ノ改築補
 修ヲ行フコト必要ナリ既設ノ陣地ニ據ル場合ニ在リテモ亦然リトス
 第二百五十一 極メテ重要ナル防禦設備ニ在リテハ縱ヒ敵ノ地中ヨリスル攻
 撃ヲ受クルモ之ヲ維持シ得ル爲防者ニ於テモ亦坑道ヲ設備スルコトアリ
 射擊設備 第二百五十三 射擊ノ設備ハ射擊位置ノ整備及前地ノ設備（前地ノ清掃、距
 離、方向、高低差ノ測定竝其標示等）トス
 側射設備 第二百五十四 側射ハ火器ノ威力ヲ發揚スルニ適當ナル方法ニシテ火線ノ經
 始ニ依リ又ハ特ニ設備セル位置等ヨリ之ヲ行フ而シテ何レノ場合ニ在リテモ
 敵方ニ面スル側面ハ地形ノ利用、經始及斷面ノ選擇竝所要ノ設備等ニ依リ確

機關銃配 實ニ之ヲ掩護スルヲ要ス
 第二百五十五 機關銃ハ火網構成ノ爲重要ナル任務ヲ擔任スルモノナルヲ以テ其陣地ハ火力ヲ十分ニ發揚シ勉メテ敵眼及敵彈ニ掩蔽スル如ク設備シ且散兵壕等ヨリ分離シ敵砲彈ノ損害ヲ避ケル如クスヘシ同一任務ノ爲ニ使用セラ
 第二百五十六 輕機關銃ノ爲射擊位置ヲ整備スルニハ散兵壕又ハ交通壕ニ所
 要ノ射擊設備ヲ施シ或ハ壕外ニ獨立シテ掩護ヲ設ケルモノトス
 重要ナル側防ニ任スル輕機關銃ノ陣地ハ第二百五十五ニ示ス要領ニ準シ設備
 第二百五十七 小銃ノ爲ニハ通常散兵壕ヲ設ケ要スレハ交通壕ニ所要ノ射擊
 設備ヲ施スモノトス
 擲彈筒ノ爲ニハ通常散兵壕、交通壕又ハ掩壕内ニ、時トシテ獨立シテ所要ノ
 設備ヲ施スモノトス
 第二百五十八 歩兵ノ射擊位置ハ地形ヲ利用シテ之ヲ鱗次形ニ配置シ後方ニ
 在ル者ハ成ルヘク前方ニ在ル者ノ間隔ヨリ射擊シ得ル如ク設備スルヲ一級ト
 ス然レトモ後方位置ヨリ前方位置ヲ超エテ射擊セサルヘカラサル場合ニ在リ
 テハ前方位置ノ背脊ヲ高上シ或ハ掩蓋ヲ構築スル等ノ方法ニ依リ友軍ニ危害
 ナササル如ク設備スルヲ要ス
 第二百五十九 陣地附近ノ土地ハ彈痕又ハ敵ノ工事等ノ爲射擊ヲ妨害スルニ
 至ルコトアリ之カ爲射擊設備ハ位置ノ選定ニ注意シ尙豫備位置ヲ設ケ適時此

陣地ヲ破 壞セラレ 塔トキレ 火網ノ清 掃地ノ清 掃前地ノ 掃除及小 前地ノ及 屋地ノ家 前地ノ及 要領ノ清 掃前地ノ 注意ヲ掃 掃地ノ清 掃料ヲ掃 敵ノ觀測 敵ノ觀測
 處ニ變換シ得ル如ク設備スルヲ可トス
 第二百六十 戰間敵火ノ爲我カ陣地ヲ破壞セラレタルトキハ彈痕及殘存セ
 ル工事等ヲ利用シ巧ニ火網ヲ構成スル如ク射擊位置ヲ設備スヘシ此際勉メテ
 後退シテ設備スルコトヲ避ケヘシ
 第二百六十一 前地ヲ掃除スルニハ我カ射擊及視察ノ妨害スルモノ及敵ノ利
 用シ得ヘキモノヲ除去シ遠ク且良好ナル射界ヲ得ルコトニ勉ムヘシ然レトモ
 之カ爲我カ陣地ヲ敵ニ暴露スルコトナキヲ要ス
 開潤地ニ點在スル小森林及家屋等ハ攻者ノ部隊ヲ吸收シ易キヲ以テ之ニ向ヒ
 集中火ヲ施ス如ク設備スルトキハ寧ろ之ヲ除去セサルヲ利アリトス
 第二百六十二 前地ヲ掃除スルニハ通常陣地ニ近キ部分ヨリ著手シ逐次敵方
 ニ及スモノトス而シテ掃除セサル部分ノ縁端ヲ屈折セシムルトキハ敵ヲ其凸
 角ニ蝟集セシメ或ハ自ラ我カ側射ニ暴露セシメテ不利ナル状態ニ陥ラシムル
 コトヲ得ヘシ而シテ此位置ニ障礙物ヲ設ケルトキハ效果更ニ大ナリ
 第二百六十三 前地ノ掃除ニ方リ其方法適當ナラサルトキハ敵ノ爲有利ナル
 掩蔽物トシテ利用セラレコトアルニ注意スヘシ而シテ前地ノ掃除ヨリ得
 ル物料ハ勉メテ偽裝、障礙物及掩蔽部等ノ構築若ハ窪地、溝渠、凹道ノ埋填
 等ニ使用スルヲ可トス
 地物ノ燒却ハ稀ニ實施スルコトヲ得ヘキモ煙又ハ燼骸ノ爲我カ射擊及視察等
 ナ妨ケル虞ナキヲ要ス
 第二百六十四 陣地附近ノ地物ニシテ敵ニ觀測ノ便ヲ與フルモノハ成ルヘク

所々ル地
之ヲ除去スルヲ可トス時トシテ其位置ヲ變換シ敵ヲ欺騙スルヲ利トスルコト
アリ
陣地前ニ在ル列樹ニシテ其位置及高サ適當ナルトキハ敵砲彈ノ過早破裂ヲ惹
起セシムルコトアルヲ以テ之ヲ存置スルヲ可トスルコトアリ
第二百六十五 前地ニハ適時ニ有效ナル射撃ヲ實施シ得シムル爲成ルヘク正
確ナル方法ニ依リ必要ナル地點ニ至ル距離、方向及高低差ヲ測定シ要スレハ
其位置ニ目標ヲ設置スヘシ又爲シ得レハ所要ノ記入ヲ爲セル要圖又ハ寫景圖
ヲ調製シ之ヲ射撃位置ニ備付クルヲ可トス

地上視察
第二百六十六 地上視察ノ設備ハ空中搜索手段ノ有無ニ拘ラス敵情ノ候察、
射撃效力ノ觀察及警戒ノ爲常ニ缺クヘカラサルモノトス故ニ陣地占領ノ當初
ヨリ監視所及觀測所ヲ適當ニ配置スルコト緊要ナリ

監視所、
第二百六十七 監視所及觀測所ヲ配置スルニハ前地ハ勿論陣地内部ニ於テモ
視察ヲ免ルル地區ヲ絶無ナラシメ且戰況ノ變化ニ際シテモ之ヲ維持シ得ル如
ク豫備位置ヲ設備スルヲ要ス又重要ナル地點ニ對シテハ數方向ヨリ視察シ得
ル如ク設備スヘシ

夜間ハ特ニ照明機關ト連繫シ得ル如クスルヲ要ス

視察設備
第二百六十八 視察設備ハ敵ニ發覺セラレルトキハ其破壊又ハ制壓ヲ免レサ
ルヲ以テ勉メテ敵ノ注意ヲ惹キ易キ位置ヲ避ケ且敵ニ認識セラレルコトナク

視察設備
シテ而モ十分ニ所望ノ地域ヲ視察シ得ル如クスルヲ要ス

ノ強度
第二百六十九 視察設備ノ強度ハ狀況ニ依リ差異アリト雖其重要ナルモノハ
縱七敵火ヲ被ルモ視察ヲ中絶セサル爲成ルヘク之ヲ強固ナラシムヘシ

監視所及
第二百七十 監視所及觀測所ハ敵砲彈等ニ依ル危害ヲ制限スル爲直接必要ナ
ラサル人員及器材ハ適宜分置スルヲ可トス

設備
第二百七十一 陣地ノ内部及後方ニハ軍隊ノ移動及指揮ヲ容易ナラシムル爲
交通、連絡等ノ設備ヲ行フコト緊要ナリ

陣地後方
第二百七十二 陣地ノ後方ニ於ケル交通設備ニ關シテハ交通教範ノ示ス所ニ
據ルヘシ但此設備ハ戰闘ノ爲ニハ勿論陣地構成ノ爲ニモ亦必要ナルヲ以テ成
ルヘク速ニ之ヲ整備スルヲ要ス

縱方向通
第二百七十三 陣地内ニ於テ縱方向ニ設クル交通壕ノ數ハ狀況特ニ地形ニ依
リ差異アリト雖歩兵大隊ノ陣地ニ於テハ通常第一線各中隊ノ爲少クモ往復シ
得ルモノ一條ヲ設備シ中隊ノ陣地内ニ於テハ尙其數ヲ增加スルモノトス又交
通壕ハ成ルヘク往路及歸路ニ區分シ且之ニ名稱ヲ附シ所要ノ道標ヲ設ケ以テ
交通ヲ規正スルヲ可トス

横方向交
第二百七十四 交通壕ハ主トシテ各戰闘機關ノ位置ヲ左右ニ連絡スルモノニ
シテ其經始及斷面ハ附近ノ散兵壕ト酷似セシメ敵ヲシテ我方戰闘機關ノ位置
ヲ判別シ難カラシムルヲ要ス

交通壕決
交通壕ハ先ツ戰術上ノ要求ニ基キ交通ノ便否ヲ主トシ次テ散

定ノ要旨
兵據下相俟ツテ陣地各部ノ獨立性ヲ維持スルニ便ナラシムルコトヲ願慮シテ
一般ノ方向ヲ決定シテ細部ノ開始ニ及スモノトス
第一百七十五 交通壕ノ開始ヲ行フニハ先ツ第二十四ニ依リ選定シタル
徑路ニ就キ通過スル要點ヲ定メタル後後文ニ掲クル各種開始法ノ利害ヲ考ヘ
且勉メテ地形、地物ヲ利用シテ工事ヲ輕減シ得ル如ク各要點間ヲ連絡ス時トシ
テ交通壕ヲ利用シテ前進スル敵ヲ壕内又ハ他ノ部分ヨリ縱射シ得ル如ク開始
スルヲ要スルコトアリ
電光形交通壕ハ其各線ノ長サ及交角大ナルトキハ開始、構築及交通共ニ容易
ナルノ利アリ然レトモ過度ニ之ヲ大ナラシメ壕内ノ掩蔽ヲ害スルカ如キコト
ナキヲ要ス而シテ各線ノ後端ハ必要ニ應ジ若干延長シ其ノ位置ニ射擊設備又
ハ掩蔽部等ヲ設ケ或ハ進出ノ設備ヲ施スコトアリ
蛇行形交通壕ハ地形ニ適合セシメ易ク且交通ヲ圓滑ナラシムルノ利アリ然レ
トモ開始適當ナラサルトキハ壕内ノ掩蔽ヲ失ヒ易ク之ヲ掘擴スル場合ニ於テ
特ニ然リトス
鋸齒形、横塔形及旋回横塔形交通壕ハ稍、交通ノ圓滑ヲ害シ且工事量ヲ増加
スルノ不利アルモ開始、構築共ニ比較的容易ナルノ利アリ直行スル壕ノ長サ
ハ掩蔽ノ許ス限リ成ルヘク之ヲ長クシ横方向ノ壕ノ長サハ特ニ要スル場合ノ
外直行スル壕ヲ掩蔽シ得ルヲ度トシ成ルヘク短小ナラシムルコトハ努メテ之ヲ避
クヘシ是敵ニ陣地ノ要部ヲ判知セシメ又砲撃ニ依リ同時ニ多數ノ交通ヲ杜絶

交通壕ノ採用標準
セラルル虞アレハナリ
第二十七 交通壕ハ通常之ヲ露天トスルモ敵眼ニ對スル遮蔽困難ナルカ
又ハ特ニ重要ナル場合ニ在リテモ單獨兵ノ匍匐シテ交通シ得ル交通壕ヲ構築シ
狀況急ヲ要スル場合ニ在リテモ單獨兵ノ匍匐シテ交通シ得ル交通壕ヲ構築シ
已ムヲ得サルモ遮蔽セル交通設備ヲ設クルコトヲ勉ムヘシ
第二十八 獨立セル重要ナル設備ニ通スル交通壕ハ特ニ其所在ヲ敵ニ認
識セラレサル爲シ得ルヘク之ヲ暗路トシ或ハ之ニ偽裝ヲ施スヲ要ス然レトモ
此ノ如キ設備ヲ行フコト能ハサルトキハ專口全ク交通壕ヲ設クルコトヲ夜
間ニ於テノミ交通セシムル如クスルコトヲ可トス但此場合ニ在リテハ特ニ足跡及
形跡ヲ消滅スルコトニ注意スルヲ要ス
第二十九 交通壕ニハ壕内ヲ前進スル敵ヲ拒止スルニ便ナラシムル爲シ
シ得ルヘク移動性障礙物ヲ準備スルコトヲ要ス
障礙物
第二十八 障礙物ノ爲ニハ勉メテ天然ノ地形ヲ利用スヘシト雖多クノ場合
在リテハ人工ノ障礙物ヲ設クルヲ要スルモノトス
第二十八 人工ノ障礙物ヲ設クルヲ要スルモノトス
第二十九 天然ノ障礙物ノ爲ニハ勉メテ天然ノ地形ヲ利用スヘシト雖多クノ場合
在リテハ人工ノ障礙物ヲ設クルヲ要スルモノトス
天然障礙
ノ増強
ヘク要スレハ之ニ人工ヲ加ヘテ其障礙力ヲ增加スヘシト雖多クノ場合
地ハ特ニ有効ナルヲ以テ之ヲ利用スルニ勉ムヘシト雖多クノ場合
フコトアルニ注意セサルヘカラス
海岸其他水邊ニ在リテハ人工障礙物ヲ水中ニ設クルコトアリ

固定障礙 第二百八十二 固定セル障礙物ハ通常障得力大ナルヲ以テ勉メテ之ヲ構築スルヲ可トス然レトモ土質又ハ敵情ニ依リ之ヲ構築シ得サルトキ或ハ隨時隨所ニ障礙物ヲ設置シ敵ノ意表ニ出テントスル場合等ニハ移動性障礙物ヲ用フ

電流鐵條 第二百八十三 鐵條網及地雷ハ物質上ノ價値ヨリモ精神上ニ及ス效果大ナリ

網、地雷 第二百八十四 障礙物ハ勉メテ敵ノ認識ヲ避クル如ク設置スヘシ是敵ノ破壞ヲ困難ナラシメ得ルノミナラス敵ヲシテ不意ニ障礙物ニ遭遇セシメ以テ障礙ノ效果ヲ大ナラシメ得ルヘク又之ニ依リ敵ニ軍隊ノ配備ヲ判斷シ得サラシムルノ利アレハナリ故ニ敵方ニ反對ナル斜面、凹地、草叢、生籬及土地ノ小起伏等ヲ利用シ或ハ時トシテ淺キ壕内ニ設置シ且其高低、粗密ヲ適當ニシ之ニ偽裝ノ處置ヲ施スモノトス

障、要領 第二百八十五 障礙物ハ之ヲ火網ニ適應スル如ク設備シ且敵ノ破壞射撃ヲ困難ナラシムル爲後方ノ陣地トハ通常相平行スルコトナク獨立シテ折線狀ニ設置スルモノトス然レトモ單一ナル折線狀ノ障礙物ハ其經始ニ依リ側防設備ノ位置ヲ發見セラルル虞アルヲ以テ成ルヘク不規則ニ交錯セル數帶ニ設備スルヲ可トス若狀況上一帶ノ障礙物ヲ構築スルニ止ムル場合ニ在リテモ之ニ所要ノ偽工事ヲ添加スルヲ有利トス

障、サト帶 第二百八十六 障礙物ハ敵ノ破壞及超越ヲ困難ナラシムル爲深キ一帯ヨリモ寧ろ淺キ數帶ニ設置スルヲ利アリトス而シテ之ヲ數帶ニ設クルトキハ各帶ノ

數 距離ハ通常一〇乃至二〇米トス

障、射撃 第二百八十七 障礙物ノ後縁ト其直後ニ在ル陣地トノ距離ハ敵砲火ニ依ル損害及監視ノ便否ヲ顧慮シテ通常二〇乃至一〇〇米トス

障、距離 第二百八十八 障礙物ハ夜間、濃霧又ハ煙幕下等ニ在リテモ敵ノ破壞企圖ニ對シ十分監視シ得サルヘカラス之カ爲陣地ヨリ直接監視シ得サルトキハ障礙物ノ後縁又ハ前縁等必要ノ場所ニ適當ナル間隔ヲ以テ監視壕ヲ設クヘシ而シテ監視壕ト後方トノ通路ハ勉メテ之ヲ遮蔽スルヲ要ス

障、障、物 第二百八十九 障礙物ニハ逆襲ヲ願慮シ通路ヲ開設シ置クヘシ而シテ其位置、數及幅ハ逆襲ノ部署ニ適應セシムヘキモノトス但此通路ハ敵ニ察知セラレサル如ク設置シ必要ニ際シ直ニ之ヲ閉塞シ且之ヲ射撃シ得ル如ク準備スヘシ

障、障、物 第二百九十 障礙物ニハ逆襲ヲ願慮シ通路ヲ開設シ置クヘシ而シテ其位置、數及幅ハ逆襲ノ部署ニ適應セシムヘキモノトス但此通路ハ敵ニ察知セラレサル如ク設置シ必要ニ際シ直ニ之ヲ閉塞シ且之ヲ射撃シ得ル如ク準備スヘシ

障、障、物 第二百九十一 障礙物ニハ逆襲ヲ願慮シ通路ヲ開設シ置クヘシ而シテ其位置、數及幅ハ逆襲ノ部署ニ適應セシムヘキモノトス但此通路ハ敵ニ察知セラレサル如ク設置シ必要ニ際シ直ニ之ヲ閉塞シ且之ヲ射撃シ得ル如ク準備スヘシ

障、障、物 第二百九十二 障礙物ニハ逆襲ヲ願慮シ通路ヲ開設シ置クヘシ而シテ其位置、數及幅ハ逆襲ノ部署ニ適應セシムヘキモノトス但此通路ハ敵ニ察知セラレサル如ク設置シ必要ニ際シ直ニ之ヲ閉塞シ且之ヲ射撃シ得ル如ク準備スヘシ